

仙台市 女性の暮らしと 困難に関する実態調査

〈仙台市女性の暮らしと気持ちのアンケート〉

18歳－39歳対象

報告書

2023年3月

仙台市・(公財)せんだい男女共同参画財団

目次

第Ⅰ部 調査概要	1
第1章 調査の背景と目的	1
第2章 調査の全体像	2
第Ⅱ部 アンケート単純集計結果の分析	5
第1章 回答者の属性	5
第2章 現在の暮らしについて	10
第3章 心の状態や人間関係について	12
第4章 新型コロナウイルス感染症や東日本大震災の影響について	18
第5章 女性特有の制約やSNSでの嫌な思い、15歳当時の状況について	23
第6章 過去の傷つき体験などについて	29
第7章 女性に対するサポートなどについて	43
第Ⅲ部 アンケート詳細分析	51
第1章 現在、困難を抱えている人について	51
第2章 困難の背景にある15歳当時の暮らし向き	58
第3章 過去の傷つき体験から未回復の人の傾向	67
第4章 15歳当時の暮らし向きと現在の困難の関係	75
第Ⅳ部 アンケート自由記述の分析	82
第Ⅴ部 当事者ヒアリング結果	90
第1章 ヒアリング対象者の概要	90
第2章 対象者の困難な状況	91
第3章 当事者が求める支援とその効果	94
第Ⅵ部 まとめ・支援に求められるもの	97
第1章 調査結果のまとめ	97
第2章 困難を抱えた若年女性への支援に求められるもの	100
第Ⅶ部 有識者からのコメント	102
若年女性の困難についての4つのポイント	
調査結果をより深く考えるために（神林 博史）	102
若年女性の困難に対する取り組み	
鍵は、経済・社会に根強く残るジェンダー不平等の解消（大崎 麻子）	104
第Ⅷ部 資料編	106
支援者ヒアリングの内容	106
アンケート単純集計結果	109
アンケート調査書類一式（調査票、依頼チラシなど）	123

第Ⅰ部 調査概要

第1章 調査の背景と目的

1 調査の背景

世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数において、日本の順位は依然として低く、女性は男性に比べ、性差に起因して社会的に様々な困難な問題に直面することが多いとされる。とりわけ若年女性は「性別」と「年齢」という二重の差別により、暴力の被害者や搾取の対象になりやすいことは、国際社会で既に共有されている認識である。

仙台市と（公財）せんだい男女共同参画財団では、東日本大震災において、大人と子どもの狭間で支援が届きにくく、より一層困難な状況に陥る若年女性の課題やエンパワーメントの必要性について、「日本女性会議2012仙台」（2012年10月）や「第3回国連防災世界会議」（2015年3月）などの機会をとらえ、発信してきた。一方で、仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台の相談事業は10代・20代の利用者が少なく、若年女性は支援が必要な状況にあってもそれを自認しにくく、支援につながりにくい現状があることを目の当たりにしてきた。

さらに新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、女性の就業状況の悪化や、家事・育児・介護などの負担の増幅、DVの増加・深刻化、女性の自殺者数の増加など、平常時から存在した女性の困難を顕在化させた。「生理的貧困」が社会問題として広く取り上げられるなど、長期化するコロナ禍において、若年女性がおかれている困難な状況も深刻化していることが懸念されている。

2 調査の目的

以上の背景を踏まえ、仙台市内の若年女性が抱える問題やニーズを明らかにし、支援施策の方向性を探るため、「アンケート調査」及び「ヒアリング調査」を実施した。対象年齢を青年期とポスト青年期（東日本大震災時に青年期だった層）である18歳から39歳までとすることで、東日本大震災が若年女性の生活や心身に影響を与えたか否かについても考察することを目的とした。

3 調査の設計にあたって

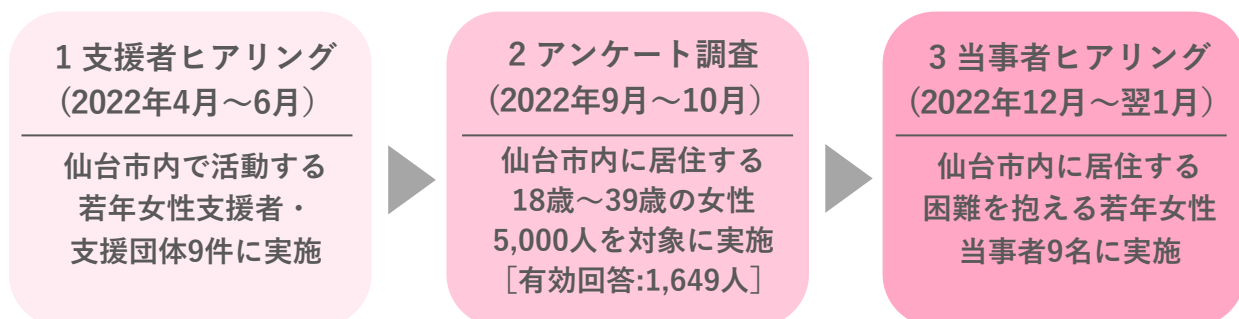
本調査の設計にあたり、困難な状況にある若年女性を次のように定義した。

- ・経済基盤が脆弱である（経済的な貧困、不安定な雇用形態、教育やスキルの不足など）
- ・暴力・ハラスメントの被害を受けている（虐待、いじめ、DV、セクハラ、性暴力など）
- ・人間関係の問題を抱えている（家族との不和、孤立、居場所がない、味方がいないなど）
- ・メンタルヘルスの問題を抱えている（うつ、自傷行為、依存症、発達障害など）
- ・ジェンダーバイアスの影響を受けている（家庭内でのケア役割の負担、進学や仕事での制約など）
- ・これらの結果、自己決定力、自分の人生を主体的に生きる力、受援力、困難から立ち直る力が弱い状態にある（自分で決められない、選択肢がない、助けてと言えない、困難な状況に気づいていない／慣れてしまっている、困難な状況からの回復に必要な資源を有していないなど）

本調査では、「若年女性の困難な状況の背景や原因には、過去の傷つき体験の影響があるのではないか」という問題意識のもと、子ども時代を過ごした家庭や学校、DV等での傷つき体験が及ぼす悪影響について調べ、困難の未然防止や支援の手立てを考える材料とした。また、格差研究などでよく用いられている「15歳当時の暮らし向き」を問う設問を設け、子ども期の貧困とその後の困難の関係にも注目した。「15歳当時」とするのは、回答者が答えやすい（15歳より早い時期だと暮らし向きを思い出しにくい）、親の経済状況による格差を把握しやすい（40代・50代で賃金格差が拡大するため）、義務教育の終了時点で人生の最初の分岐点となる時期だからという3つの理由からである。

第2章 調査の全体像

- ✓ アンケート調査に先立ち、「若年女性支援者へのヒアリング調査」を実施し、若年女性をめぐる問題に関する示唆を得るとともに、設問項目の設定など調査票作成の参考にした。
- ✓ アンケート調査は、「仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート」と題して実施した。
- ✓ アンケート調査後、量的調査の結果を補完し、より具体的な実情やニーズ等を把握するため、「困難を抱える若年女性当事者へのヒアリング調査」を実施した。



1 支援者ヒアリングの概要

(1) 調査対象

仙台市内で活動する、若年女性支援者・支援団体 9件

協力者・協力団体 (50音順)		主な活動内容
伊藤 ミカ 氏	一般社団法人社会的包摂サポートセンター仙台拠点	よりそいホットライン等で若年女性支援
大沼 洋子 氏	独立型社会福祉士事務所ウェルビーイングあさひ／あそびのうつわをひろげる会 代表	不登校・発達・いじめ・虐待等の相談援助
小川 真美 氏	女性のためのとまり木・リカバリートレーニングセンター「しおり」施設長 (他、利用者2名)	生きづらさを抱える女性の回復支援
齋藤 純子 氏	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場 代表理事／仙台市榴岡児童館 館長	子どもの健やかな成長や親・家族を含めた子育て支援
中川 明子 氏	特定非営利活動法人ほっぷすてっぷ	親の支援を受けられない子ども・若者の自立支援
名古 美和 氏	青葉女子学園 首席専門官 (他、法務教官2名)	東北地方の女子を収容し矯正教育等を行う女子少年院
東田 美香 氏	特定非営利活動法人キミノトナリ 代表理事	思いがけない妊娠をした女性の支援
門間 尚子 氏	特定非営利活動法人mia forza 代表理事	困難な状況にある女性や子どもの支援
八幡 悦子 氏	特定非営利活動法人ハーティ仙台 代表理事	DV・デートDV・性暴力被害女性の支援

(2) 調査方法

対面での聞き取り調査

(3) 調査期間

2022年4月～2022年6月

(4) 調査項目

- ・ 現場で見える若年女性の困難な状況（背景・特徴・よく使う言葉など）
- ・ 困難な状況の引き出し方
- ・ 困難な状況に陥る人とそうならない人の違い
- ・ 望ましい支援のあり方 など

※ヒアリング内容は、「第VIII部 資料編」を参照

2 アンケート調査「仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート」の概要

(1) 調査対象

仙台市内に居住する、18歳から39歳までの女性5,000人

(2022年8月1日現在の住民基本台帳から居住区及び年代により抽出数を調整の上、無作為抽出)

(2) 調査方法

郵送配付・郵送回収（ウェブ回答併用）、無記名・自記式

※相談先のリーフレット（「第VIII部 資料編」を参照）を同封し、相談窓口の周知等を図った

(3) 調査期間

2022年9月16日（金）～2022年10月7日（金）

(4) 調査項目（33問）

- ・ 現在の暮らしについて
（生活満足度／困りごとなど）
- ・ 心の状態や人間関係について
（自己肯定感／生きづらさ／心の健康状態／味方になってくれる人など）
- ・ これまでの出来事や体験などについて
（新型コロナウイルス感染症の影響／東日本大震災の影響／過去の傷つき体験の影響など）
- ・ 女性に対するサポートなどについて
（相談窓口の認知度／必要な支援など）

※調査票は、「第VIII部 資料編」を参照

▼調査協力依頼チラシ



(5) 有効回答

1,649人（有効回答率33.0%）

郵送回答 629人 ウェブ回答 1,020人

年齢	計画標本	有効回答数	有効回答率
18-19歳	365	74	20.3%
20-24歳	1,075	238	22.1%
25-29歳	1,108	328	29.6%
30-34歳	1,165	452	38.8%
35-39歳	1,287	557	43.3%
合計	5,000	1,649	33.0%

3 当事者ヒアリングの概要

(1) 調査対象

仙台市内に居住する、困難を抱える若年女性当事者 9名
※調査対象者は、支援者ヒアリングの協力者（P2参照）からの紹介により決定

(2) 調査方法

対面での聞き取り調査

(3) 調査期間

2022年12月～2023年1月

(4) 調査項目

- ・ 支援機関につながるまでの経緯（困難な状況になったきっかけや相談経路など）
- ・ 支援につながったことでの変化
- ・ 15歳当時の状況
- ・ 望ましい支援のあり方 など

4 実施体制

(1) 監修・助言

本調査の設計及び分析については、2名の有識者による助言・協力を得て実施した。

大崎 麻子 氏	特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事／ 関西学院大学 総合政策学部 客員教授
神林 博史 氏	東北学院大学 教養学部 教授 (2023年4月～同 人間科学部 教授)

(2) 実施主体

仙台市・（公財）せんだい男女共同参画財団

5 報告書の見方

- ・ 「第Ⅱ部 アンケート単純集計結果の分析」は、調査票の各設問の単純集計を示すものだが、一部年代別のクロス集計結果も示した。
- ・ 「第Ⅲ部 アンケート詳細分析」は、困難を抱えている若年女性の状況や背景をクロス集計により分析した結果を示すものである。
- ・ 図表中の N（N=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・ 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の設問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・ 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。
- ・ クロス集計による分析では、カイ二乗検定（有意水準5%）で有意な関連が認められ、かつデータ解釈上有用であると判断した項目を中心に掲載している（複数回答の項目で有意な関連が認められるものは図表中にアスタリスク（*）を表示）。
- ・ 回答者総数あるいは分類別の回答者数（N値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。
- ・ アンケートの自由記述及びヒアリング内容は、個人が特定されないように一部加工している。

第Ⅱ部 アンケート単純集計結果の分析

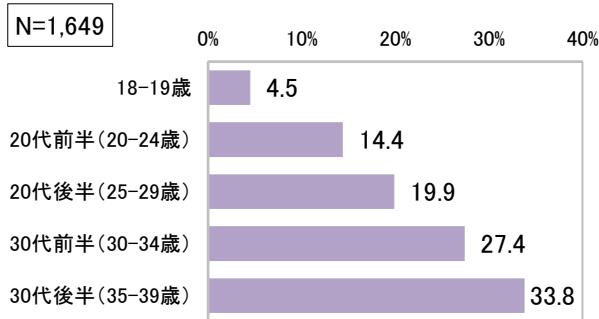
仙台市内に居住する18歳から39歳までの女性5,000人を対象に実施した「仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート」では、1,649人から有効回答があった。第Ⅱ部では、アンケート調査の回答の単純集計結果と結果の考察を紹介する。一部の設問については、年代別のクロス集計結果も掲載する。

第1章 回答者の属性

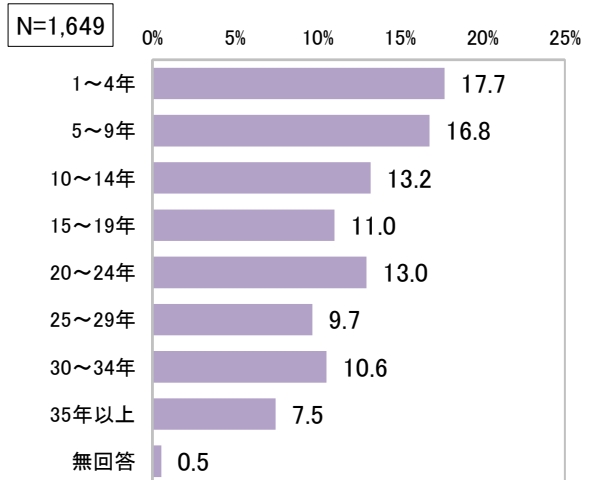
1 年齢（問1）・居住年数（問6）

- ✓ 回答者の年齢は、30代後半が最も多く、約6割（61.2%）が30代。回答者の平均年齢は、30.8歳。
- ✓ 仙台市内での居住年数は、「1～4年」（17.7%）、「5～9年」（16.8%）、「10～14年」（13.2%）の順で多い。回答者の6割半（65.0%）が10年以上仙台市内に居住している。

図表Ⅱ-1-1-① 年齢



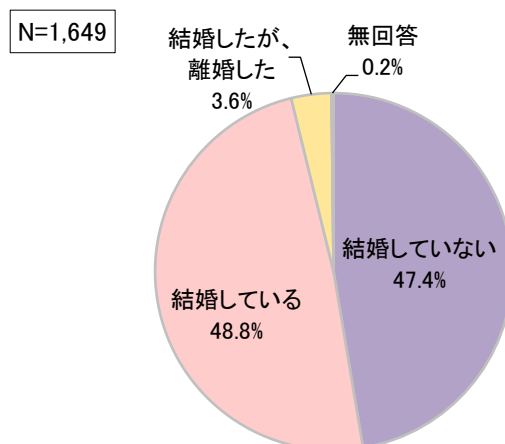
図表Ⅱ-1-1-② 仙台市内での居住年数



2 結婚（問3）・同居家族（問2）

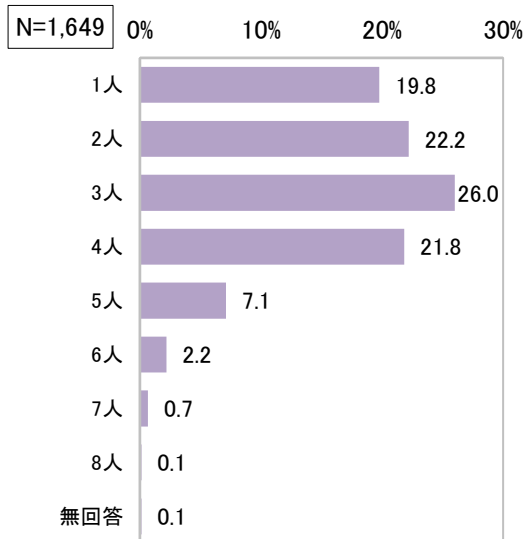
- ✓ 「結婚している」が48.8%、「結婚していない」が47.4%で、ほぼ同じ割合。

図表Ⅱ-1-2-① 結婚状況

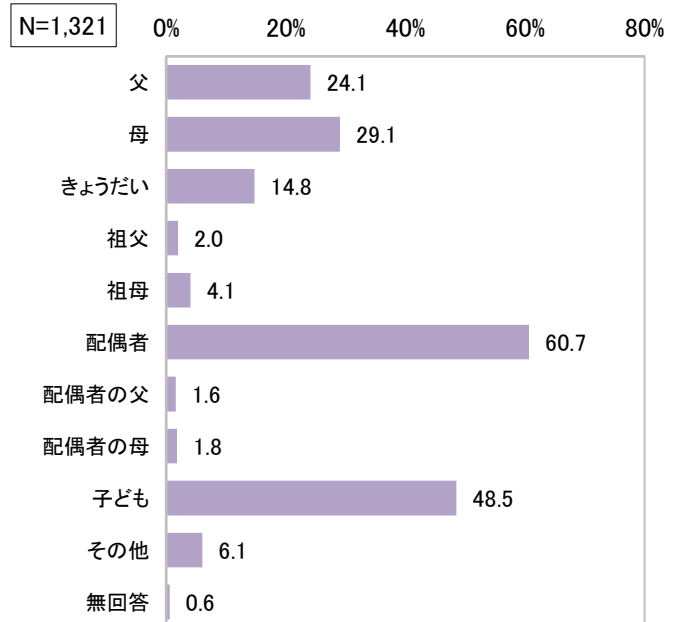


- ✓ 同居家族の人数は、「3人」(26.0%)、「2人」(22.2%)、「4人」(21.8%)、「1人(一人暮らし)」(19.8%)の順が多い。
- ✓ 一緒に住んでいる人は「配偶者」(60.7%)、「子ども」(48.5%)、「母」(29.1%)、「父」(24.1%)の順が多い。

図表Ⅱ-1-2-② 同居家族の人数



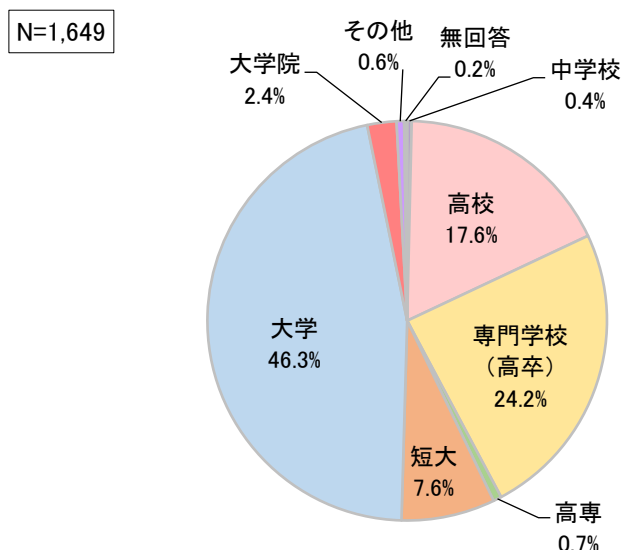
図表Ⅱ-1-2-③ 一緒に住んでいる人



3 最後に通った(通っている)学校(問5)

- ✓ 最後に通った学校(通っている)は「大学・大学院」の割合が48.7%(大学46.3%、大学院2.4%)と最も高く、「高校」までの割合が42.2%(中学校0.4%、高校17.6%、専門学校(高卒)24.2%)、「高専・短大」の割合が8.3%(高専0.7%、短大7.6%)。

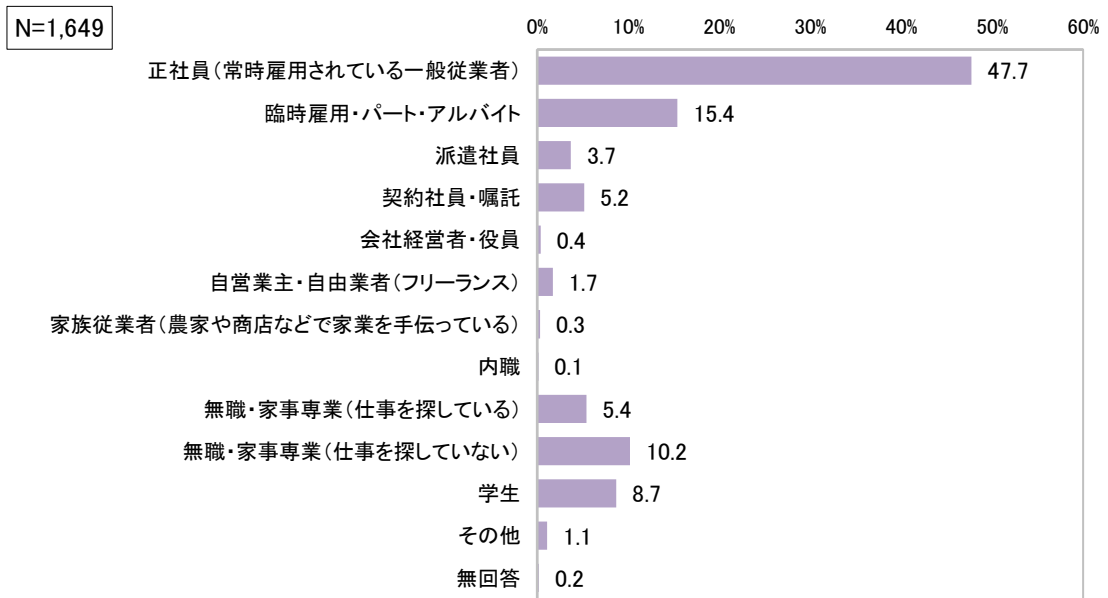
図表Ⅱ-1-3 最後に通った(通っている)学校



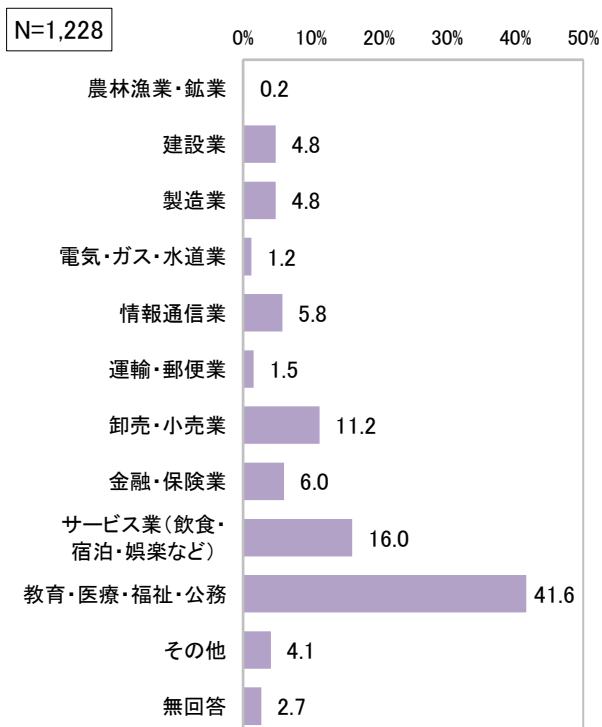
4 仕事（問4）

- ✓ 現在の働き方は、「正社員」が5割弱（47.7%）で最も多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」（15.4%）、「無職・家事専業（仕事を探していない）」（10.2%）の順となっている。
- ✓ 勤務先の業種は、「教育・医療・福祉・公務」（41.6%）、「サービス業」（16.0%）、「卸売・小売業」（11.2%）の順が多い。
- ✓ 仕事の内容は、「事務職」（32.2%）、「専門職」（31.7%）、「販売・営業・サービス系の仕事」（23.0%）の順が多い。

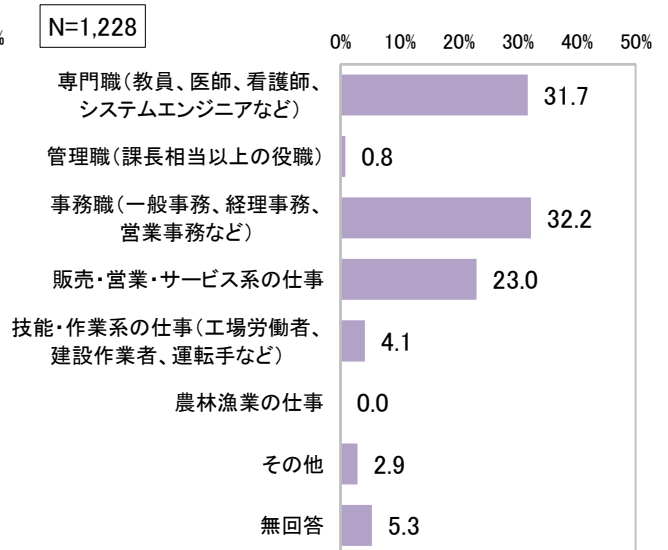
図表Ⅱ-1-4-① 現在の働き方



図表Ⅱ-1-4-② 勤務先の業種



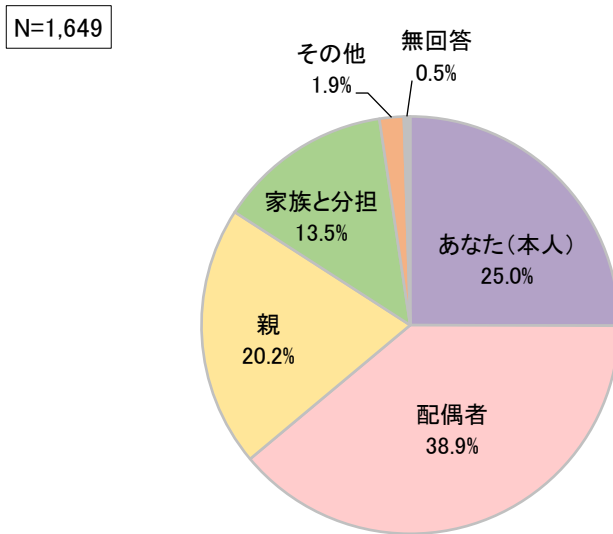
図表Ⅱ-1-4-③ 仕事の内容



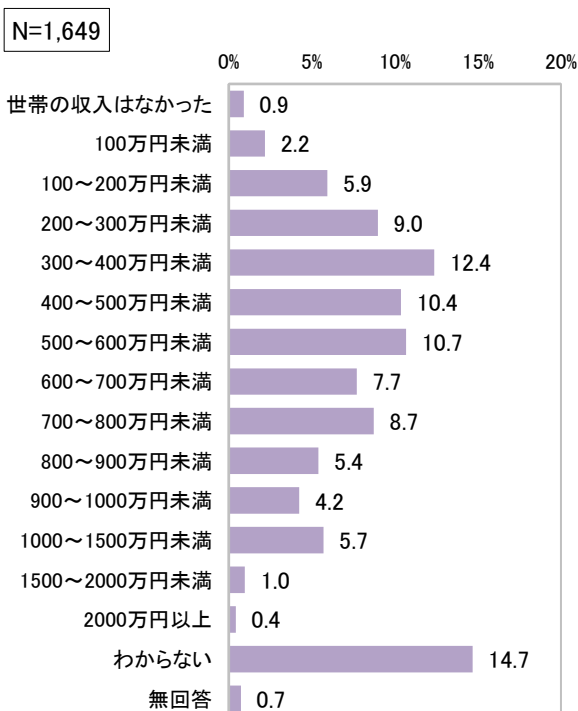
5 経済状況（問9・問10・問11）

- ✓ 回答者の世帯で主に家計を支えている人をたずねたところ、「配偶者」が約4割（38.9%）で最も多く、次いで「あなた（本人）」（25.0%）、「親」（20.2%）の順となっている。
- ✓ 昨年（2021年）1年間の世帯年収（年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどを含む）をたずねたところ、「300～400万円未満」（12.4%）、「500～600万円未満」（10.7%）、「400～500万円未満」（10.4%）の順が多い。
- ✓ 昨年1年間に回答者本人が仕事で得た収入をたずねたところ、「300～500万円未満」（21.3%）、「仕事で得た収入はなかった」（18.0%）、「200～300万円未満」（16.8%）の順が多い。

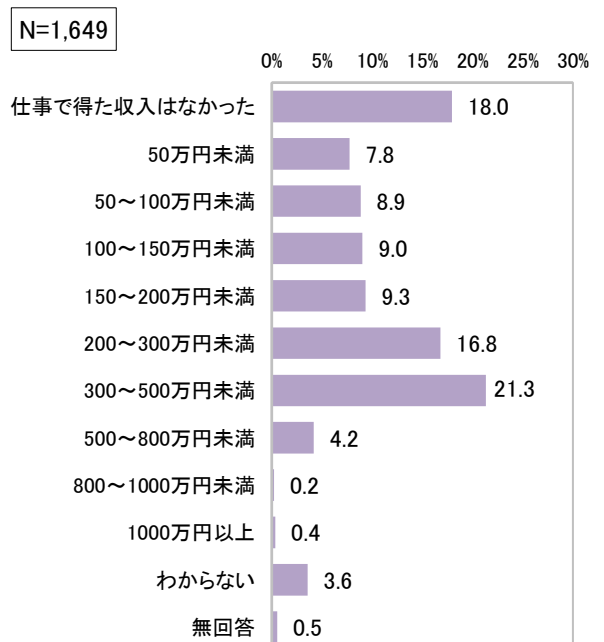
図表Ⅱ-1-5-① 家計を主に支えている人



図表Ⅱ-1-5-② 昨年(2021年)1年間の世帯年収



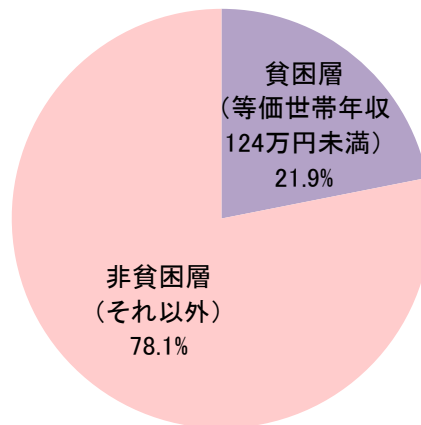
図表Ⅱ-1-5-③ 昨年(2021年)1年間に仕事で得た収入



- ✓ 貧困研究で広く使用されている相対的貧困率の算出方法に基づき、等価世帯年収（昨年1年間の世帯年収を世帯人数の平方根で割ったもの）を計算した。その上で、2019年の「国民生活基礎調査」（厚生労働省）で得られた貧困線（新基準）をあてはめ、等価世帯年収が124万円未満の回答者の割合（相対的貧困率）を算出した（世帯年収の設問に「わからない」と回答した人、無回答の人を除く）。
- ✓ 本調査の回答者における相対的貧困率は21.9%。2019年の「国民生活基礎調査」（厚生労働省）で公表されている2018年の相対的貧困率（15.7%／全国のあらゆる世代の男女の結果）と比べると若干高めであり、対象が若年女性であることが影響していると推察される。

図表Ⅱ-1-5-④ 貧困層

N=1,393



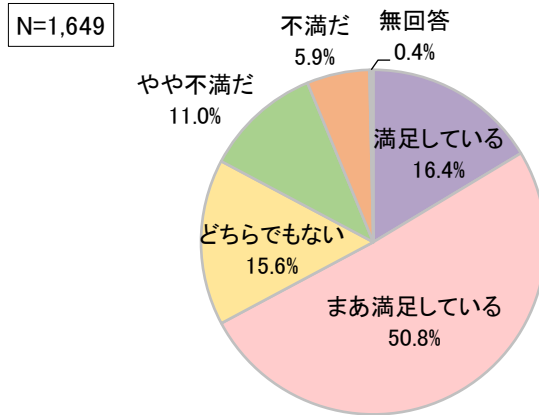
第2章 現在の暮らしについて

1 現在の生活への満足度

問7 あなたは現在の生活に満足していますか。（○は1つ）

- ✓ 現在の生活に「満足」の割合が67.2%（「満足している」と「まあ満足している」の合計割合）、「不満」の割合が16.9%（「やや不満だ」と「不満だ」の合計割合）となっている。

図表 II-2-1 現在の生活に対する満足度

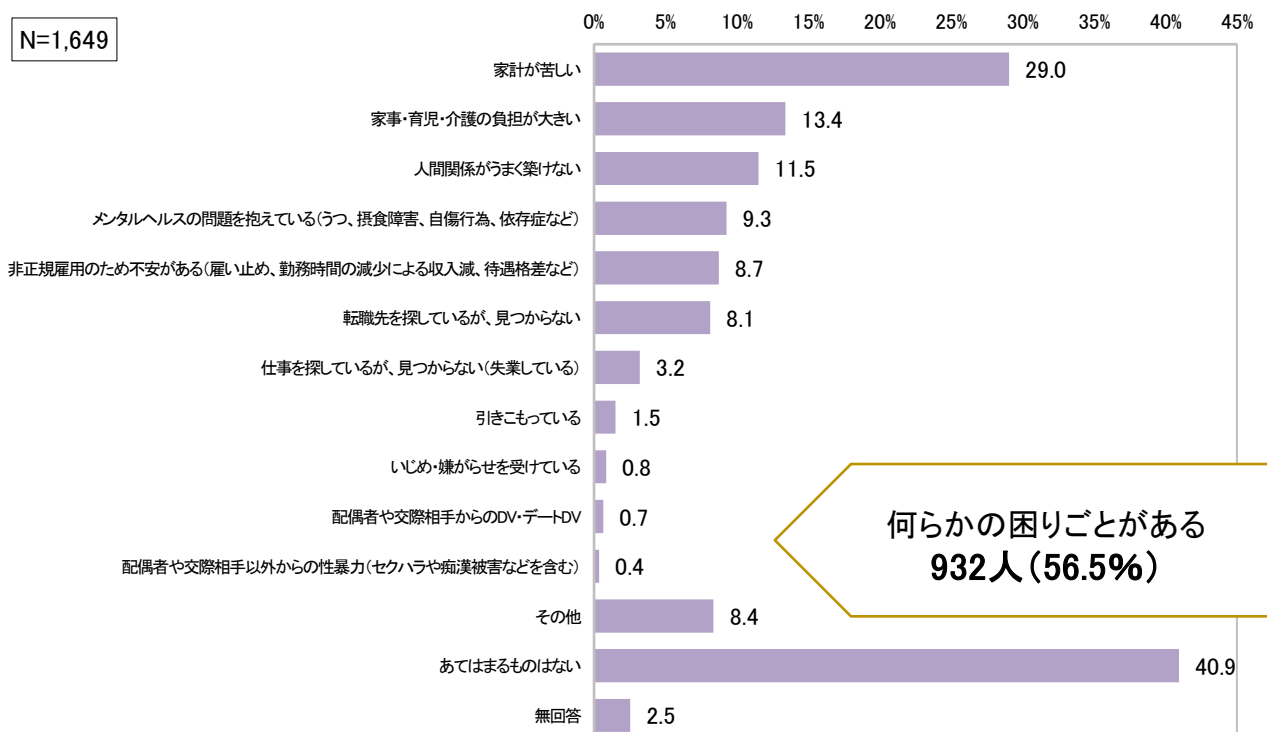


2 現在の困りごと

問8 あなたは現在、次のようなことで困っていますか。（○はいくつでも）

- ✓ 932人（56.5%）が、何らかの困りごとがあると回答（有効回答数1,649人のうち、1つでも何らかの困りごとがあると回答した人）。
- ✓ 困りごとの内容は「家計が苦しい」が約3割（29.0%）と最も多く、次いで「家事・育児・介護の負担が大きい」（13.4%）、「人間関係がうまく築けない」（11.5%）の順となっている。

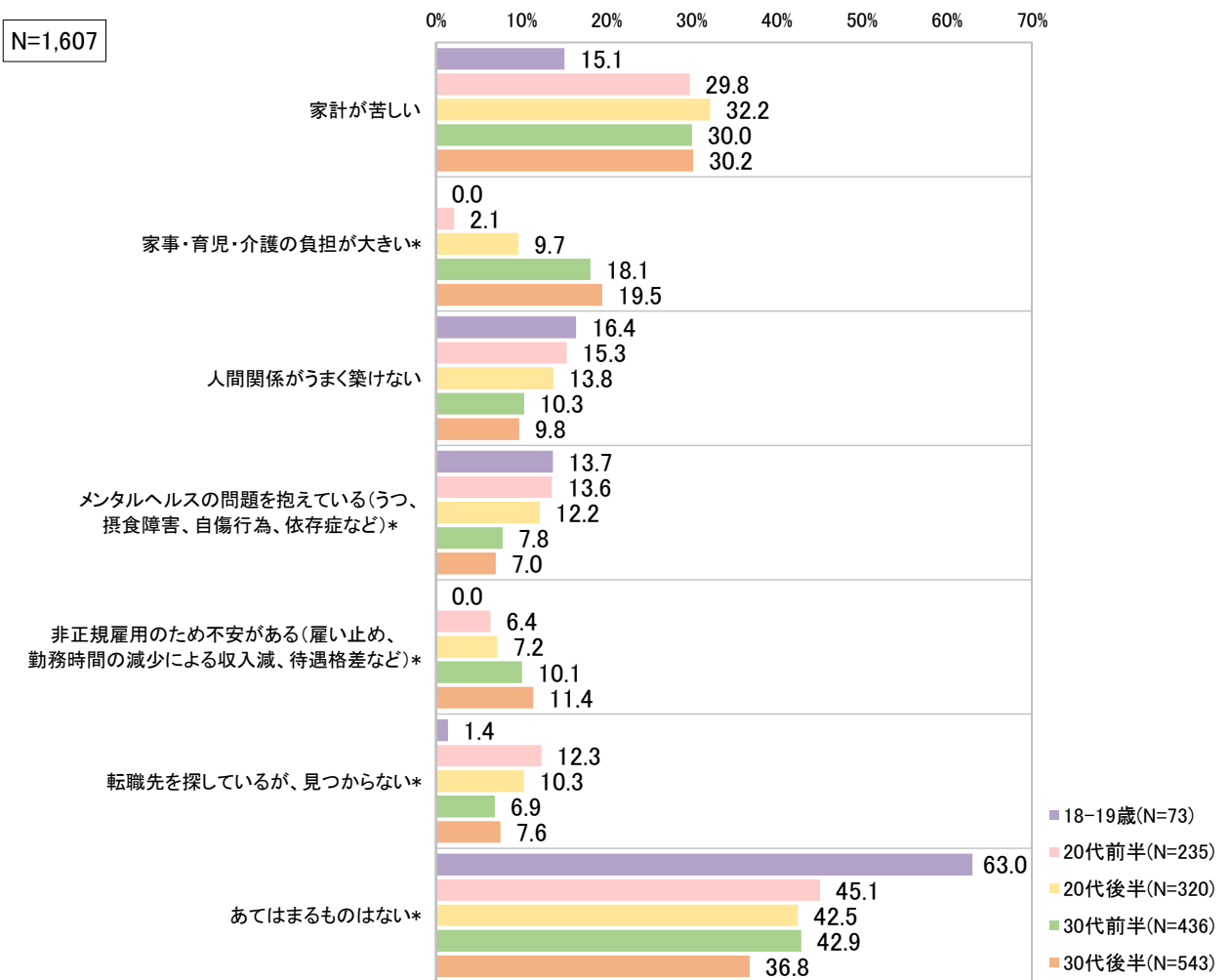
図表 II-2-2-① 現在の困りごと【複数回答】



【現在の困りごと／年代別】

- ✓ 現在の困りごととして挙げられた上位6項目のうち「家事・育児・介護の負担が大きい」、「メンタルヘルスの問題を抱えている」、「非正規雇用のため不安がある」、「転職先を探しているが、見つからない」の4項目と、「あてはまるものはない」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 30代は「家事・育児・介護の負担が大きい」と回答する割合が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 若年層ほど「メンタルヘルスの問題を抱えている」と回答する割合が高い。
- ✓ 「非正規雇用のため不安がある」と回答する割合は年代が上がるにつれて高くなっている。
- ✓ 20代は「転職先を探しているが、見つからない」と回答する割合が他の年代より高い。
- ✓ 18-19歳は「あてはまるものはない」と回答する割合が他の年代より突出して高い。

図表Ⅱ-2-2-② 現在の困りごと(上位6項目+あてはまるものはない)一年代別【複数回答】



第3章 心の状態や人間関係について

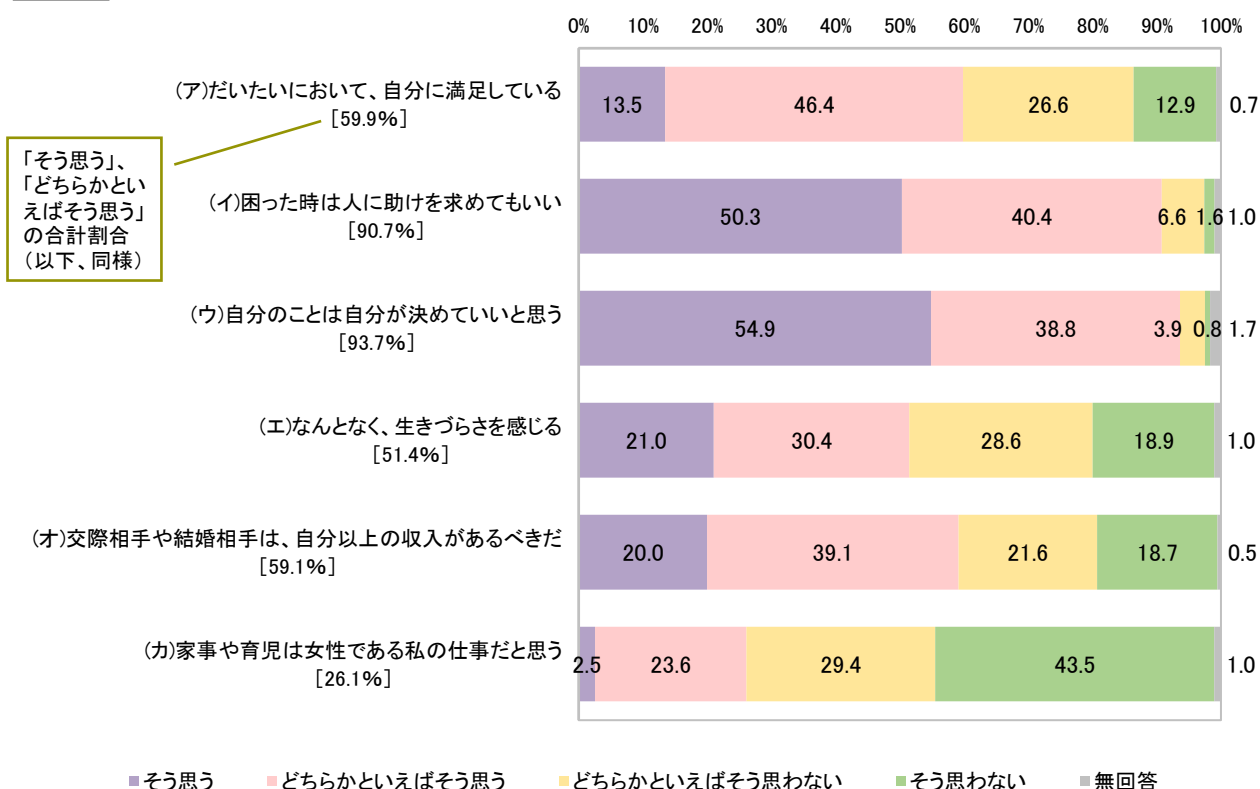
1 自己肯定感・生きづらさ・ジェンダー観

問12 次のようなことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。
 (ア)～(カ)のそれぞれについて、お答えください。(○はそれぞれ1つ)

- ✓ 「自分のことは自分が決めていいと思う」、「困った時は人に助けを求めてもいい」の項目について、9割以上が[そう思う]と回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。
- ✓ 約5割（51.4%）が生きづらさを感じている（「なんとなく、生きづらさを感じる」の項目について、21.0%が「そう思う」、30.4%が「どちらかといえばそう思う」と回答）。
- ✓ 「交際相手や結婚相手は、自分以上の収入があるべきだ」の項目について、約6割（59.1%）が[そう思う]と回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。
- ✓ 「家事や育児は女性である私の仕事だと思う」の項目について、26.1%が[そう思う]と回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。
- ✓ 家事や育児は女性の仕事といった性別役割分担意識に肯定的な考え方を持つ人は3割に満たないが、交際相手や結婚相手に自分以上の経済力を求める割合は約6割にのぼっている。

図表 II-3-1 自己肯定感・生きづらさ・ジェンダー観

N=1,649

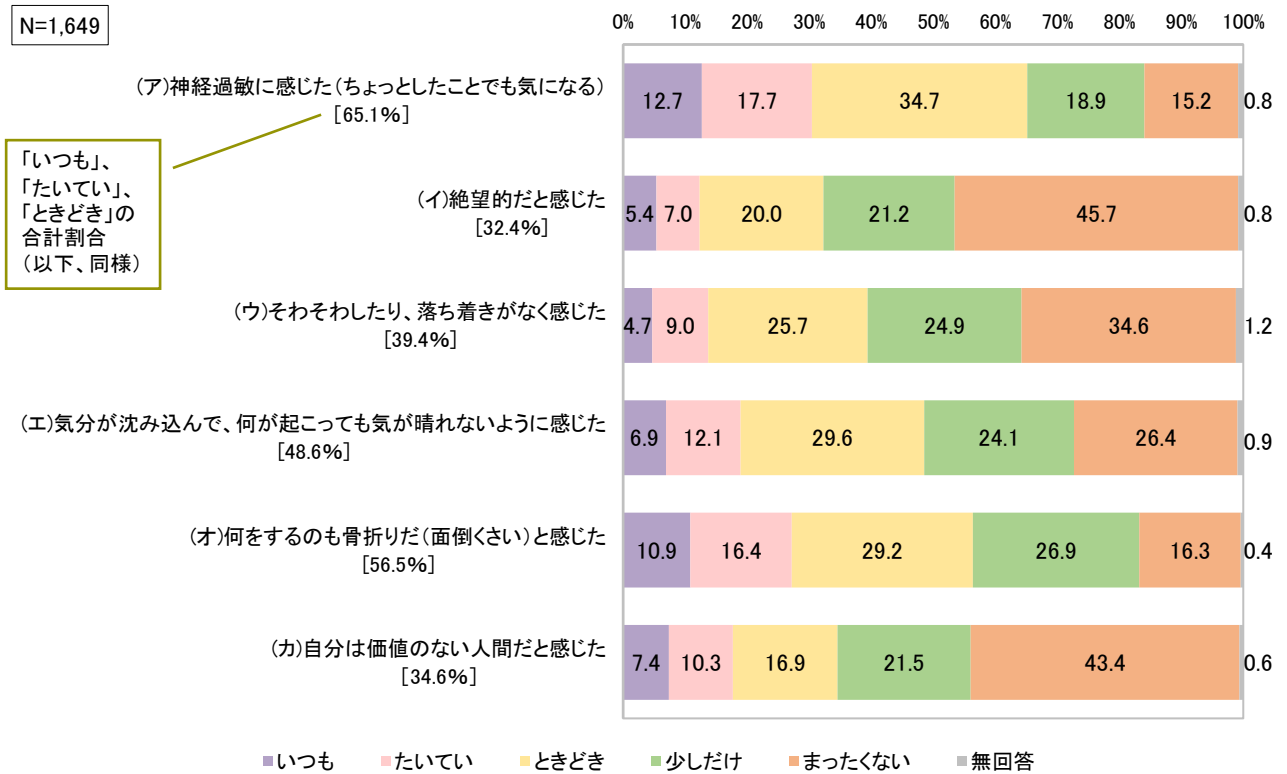


2 心の健康状態

問13 過去1か月の間、次のようなことがどれくらいの頻度でありましたか。
 (ア)～(カ)のそれぞれについて、お答えください。(○はそれぞれ1つ)

- ✓ 過去1か月間の心の状態を6つの項目でたずねたところ、「神経過敏に感じた(ちょっとしたことでも気になる)」が65.1%、「何をするにも骨折りだ(面倒くさい)と感じた」が56.5%と、他の調査に比べて高い結果となっている(「いつも」と「たいてい」と「ときどき」の合計割合)。
- ✓ 上記の2項目については、若年女性に分かりやすい表現とするため、言葉を一部補足したことが結果に影響していると思われる(“ちょっとしたことでも気になる”、“面倒くさい”の部分)を補足)。

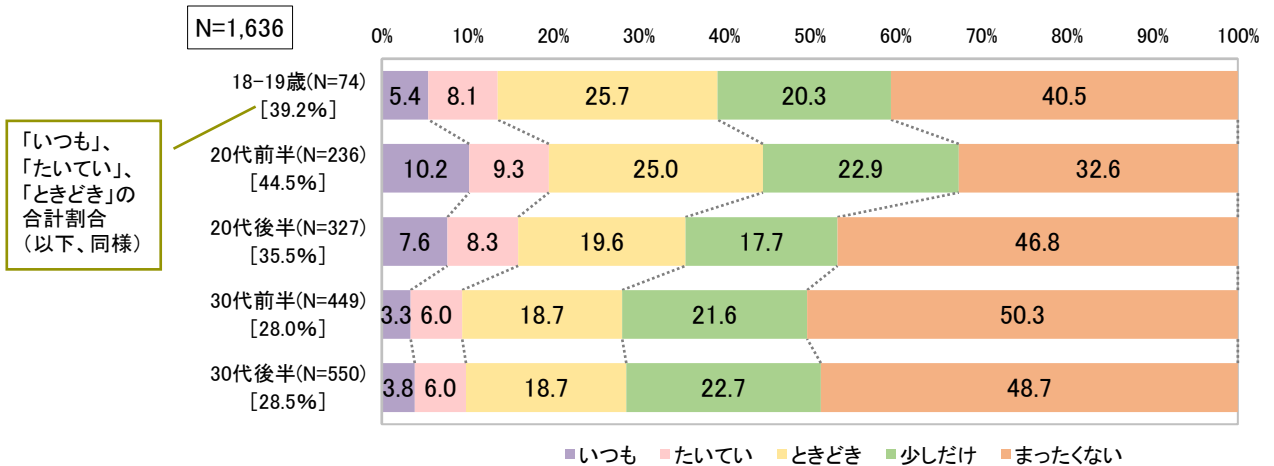
図表Ⅱ-3-2-① 過去1か月の心の状態



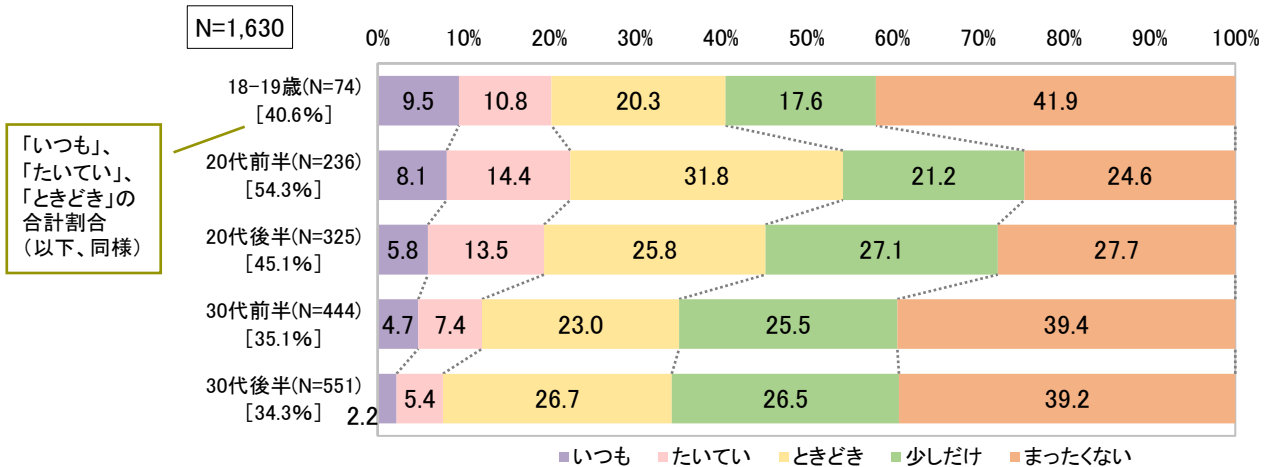
【過去1か月の心の状態／年代別】

- ✓ 「絶望的だと感じた」、「そわそわしたり、落ち着きがなくな感じた」の2項目について、年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 20代前半は「絶望的だと感じた」が4割強（44.5%）、「そわそわしたり、落ち着きがなくな感じた」が5割強（54.3%）と、他の年代より高い（「いつも」と「たいてい」と「ときどき」の合計割合）。
- ✓ 上記の2項目では、「まったくない」と答えた人の割合も20代前半が最も低い。

図表Ⅱ-3-2-② 過去1か月の心の状態／絶望的だと感じた一年代別



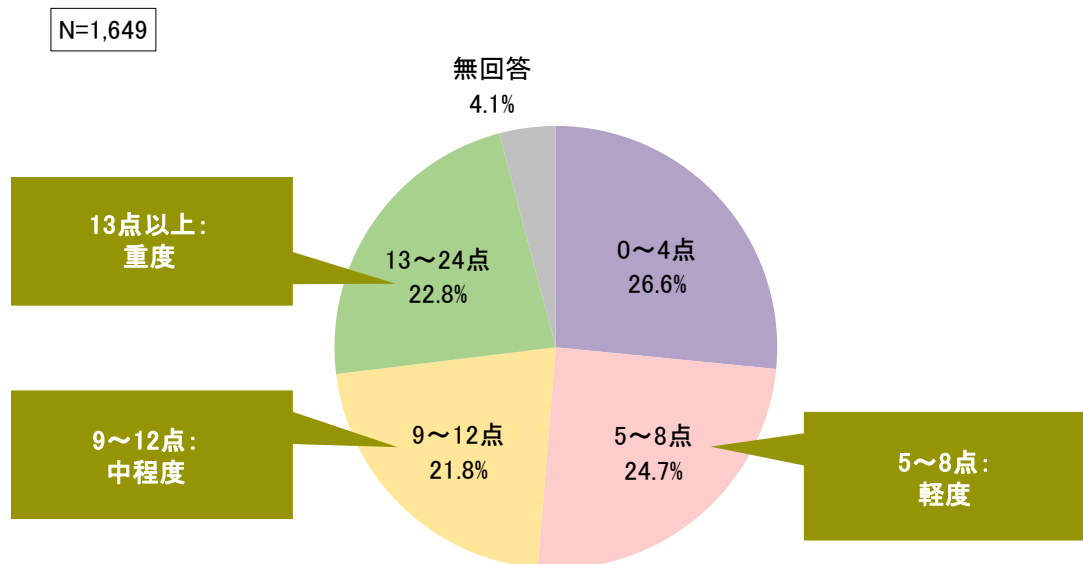
図表Ⅱ-3-2-③ 過去1か月の心の状態／そわそわしたり、落ち着きがなくな感じた一年代別



【心の健康状態（メンタルヘルス）の尺度（K6）】

- ✓ 前述の6項目のそれぞれについて、「まったくない」を0点、「少しだけ」を1点、「ときどき」を2点、「たいてい」を3点、「いつも」を4点とし、6つの得点を足し合わせた数値はK6（ケイ・シックス）と呼ばれ、心の健康状態（メンタルヘルス）を測定する尺度として標準的に使用されている。
- ✓ 最小値は0点（6項目すべてに「まったくない」と回答）、最大値は24点（6項目すべてに「いつも」と回答）で、値が大きいほど、心の健康状態が悪い（精神的な不調を感じている度合いが強い）ことを表している。
- ✓ K6得点が5～8点は精神的不調の度合いが「軽度」（24.7%）、9～12点は「中程度」（21.8%）、13点以上は「重度」（22.8%）とされている。
- ✓ 2019年の「国民生活基礎調査」（厚生労働省）では、得点10点以上の割合は10.3%なのに対し（20歳以上の男女の結果）、本調査は9点以上が44.6%と4倍強の値となっている。得点の区分や調査方法、調査対象が違うため、単純に比較はできないが、全国調査と比べて本調査による若年女性のメンタルヘルスの状態は悪い傾向が出た。

図表Ⅱ-3-2-④ 過去1か月の心の状態／K6得点の分布

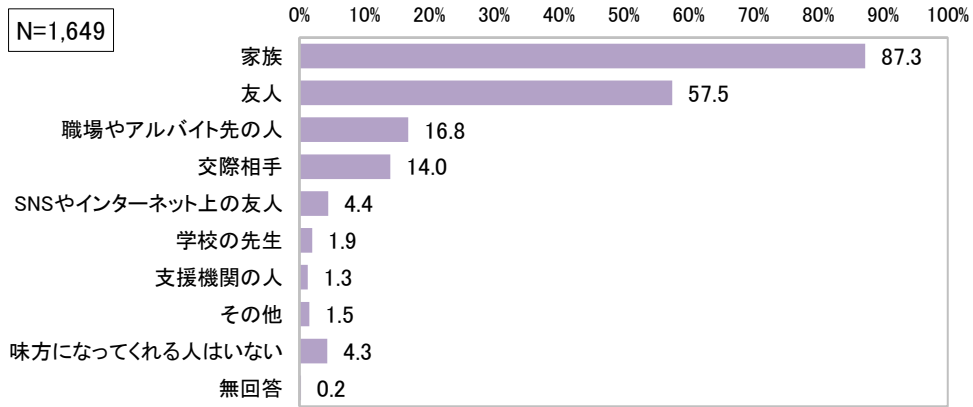


3 味方になってくれる人

問14 あなたが大変な時や重大な決断をする時に、味方になってくれる人はいますか。
(○はいくつでも)

- ✓ 「家族」(87.3%)が最も多く、次いで「友人」(57.5%)、「職場やアルバイト先の人」(16.8%)の順となっている。

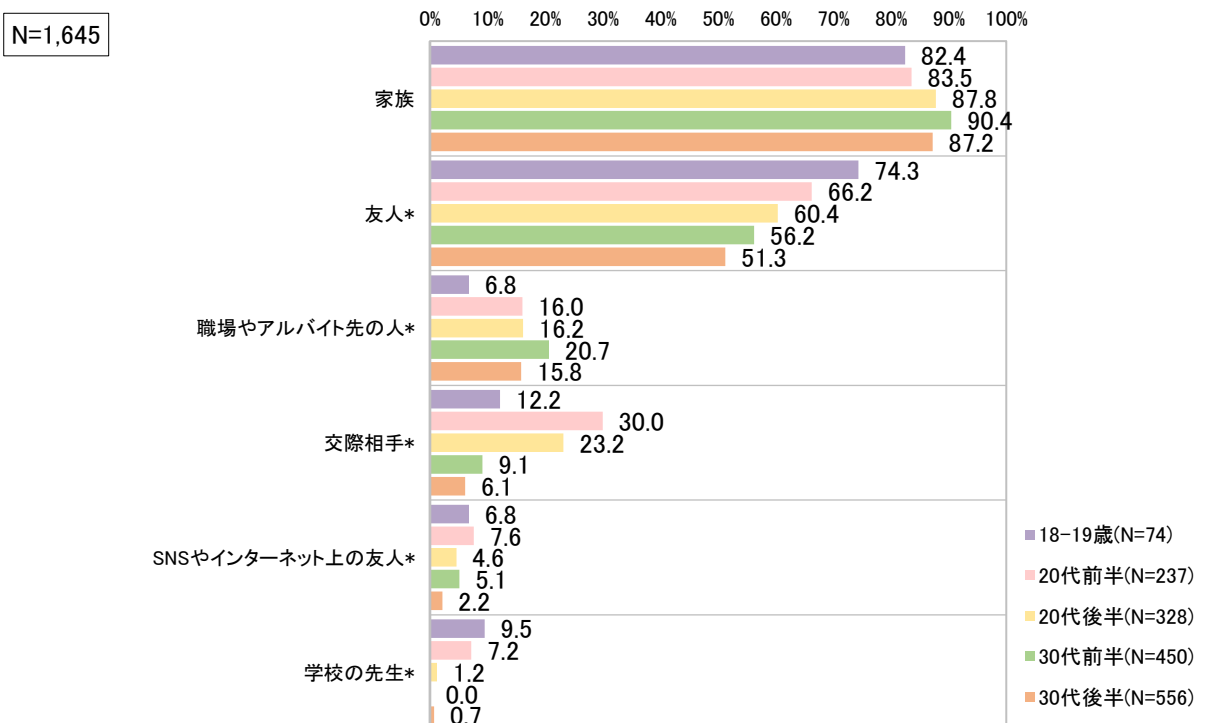
図表Ⅱ-3-3-① 味方になってくれる人【複数回答】



【味方になってくれる人／年代別】

- ✓ 味方になってくれる人として挙げられた上位6項目のうち「友人」、「職場やアルバイト先の人」、「交際相手」、「SNSやインターネット上の友人」、「学校の先生」の5項目で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 若年層ほど「友人」と回答する割合が高く、年代が上がるにつれて低くなっている。
- ✓ 「職場やアルバイト先の人」は30代前半で他の年代より高い。
- ✓ 「交際相手」は20代で他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 「SNSやインターネット上の友人」、「学校の先生」は18-19歳、20代前半で他の年代より高い。

図表Ⅱ-3-3-② 味方になってくれる人(上位6項目)一年代別【複数回答】

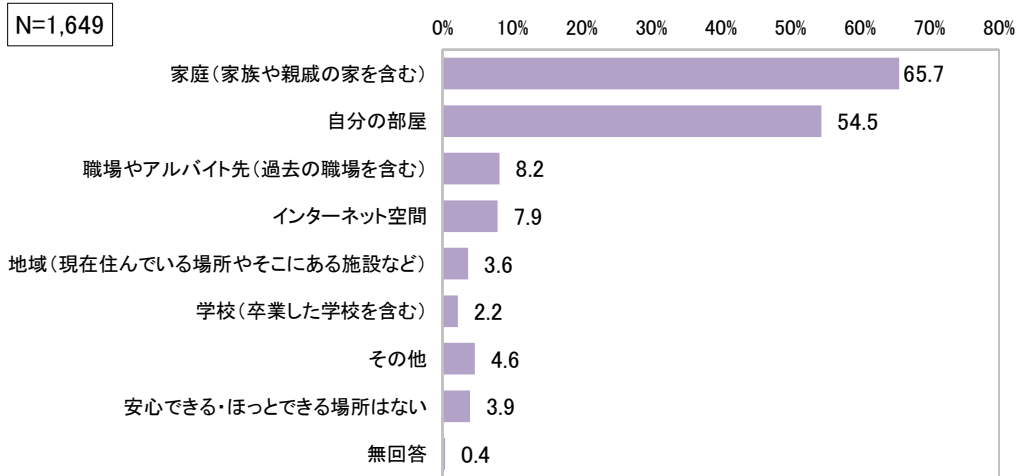


4 安心できる場所

問15 あなたが安心できる場所、ほっとできる場所はありますか。(〇はいくつでも)

- ✓ 「家庭」(65.7%)が最も多く、次いで「自分の部屋」(54.5%)が多い。
- ✓ 「家庭」が安心できる場所ではない人が3割強(34.3%)いるとも読み取れる。

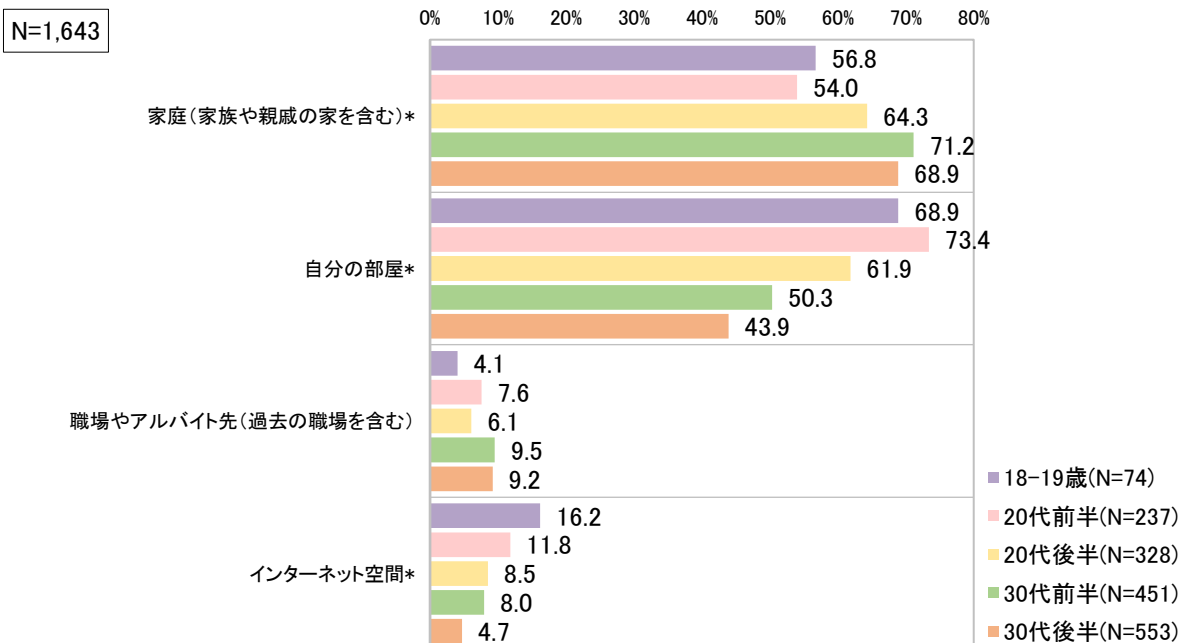
図表Ⅱ-3-4-① 安心できる・ほっとできる場所【複数回答】



【安心できる場所／年代別】

- ✓ 安心できる場所として挙げられた上位4項目のうち「家庭」、「自分の部屋」、「インターネット空間」の3項目で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 18-19歳、20代前半は「自分の部屋」が最も高く、次いで「家庭」の順となっている。
- ✓ 18-19歳、20代前半は「家庭」と回答する割合が他の年代より低い。
- ✓ 若年層ほど「インターネット空間」と回答する割合が高く、年代が上がるにつれて低くなっている。

図表Ⅱ-3-4-② 安心できる・ほっとできる場所(上位4項目)－年代別【複数回答】



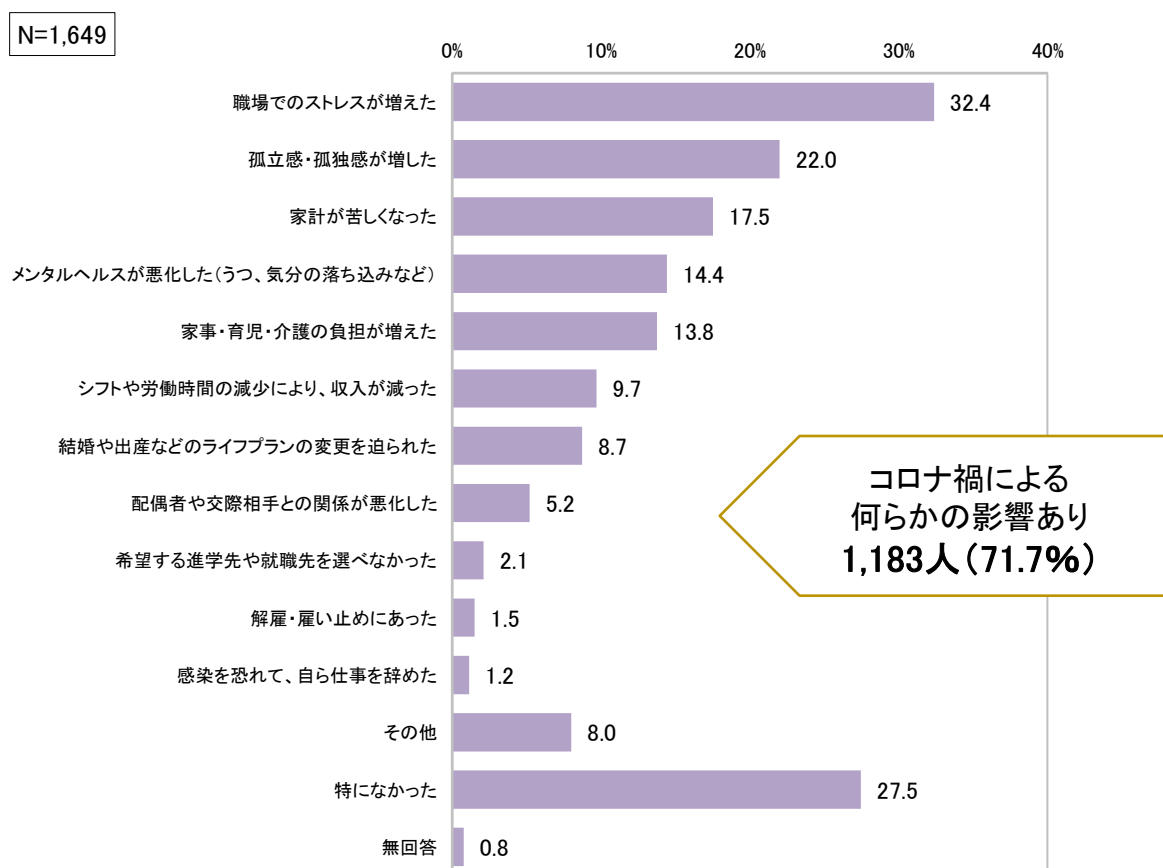
第4章 新型コロナウイルス感染症や東日本大震災の影響について

1 新型コロナウイルス感染症の影響

問16 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、次のようなことはありましたか。
(○はいくつでも)

- ✓ 1,183人 (71.7%) が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により何らかの影響があったと回答 (有効回答数1,649人のうち、1つでも何らかの影響があったと回答した人)。
- ✓ 影響の内容は「職場でのストレスが増えた」(32.4%) が最も多く、次いで「孤立感・孤独感が増した」(22.0%)、「家計が苦しくなった」(17.5%) の順となっている。

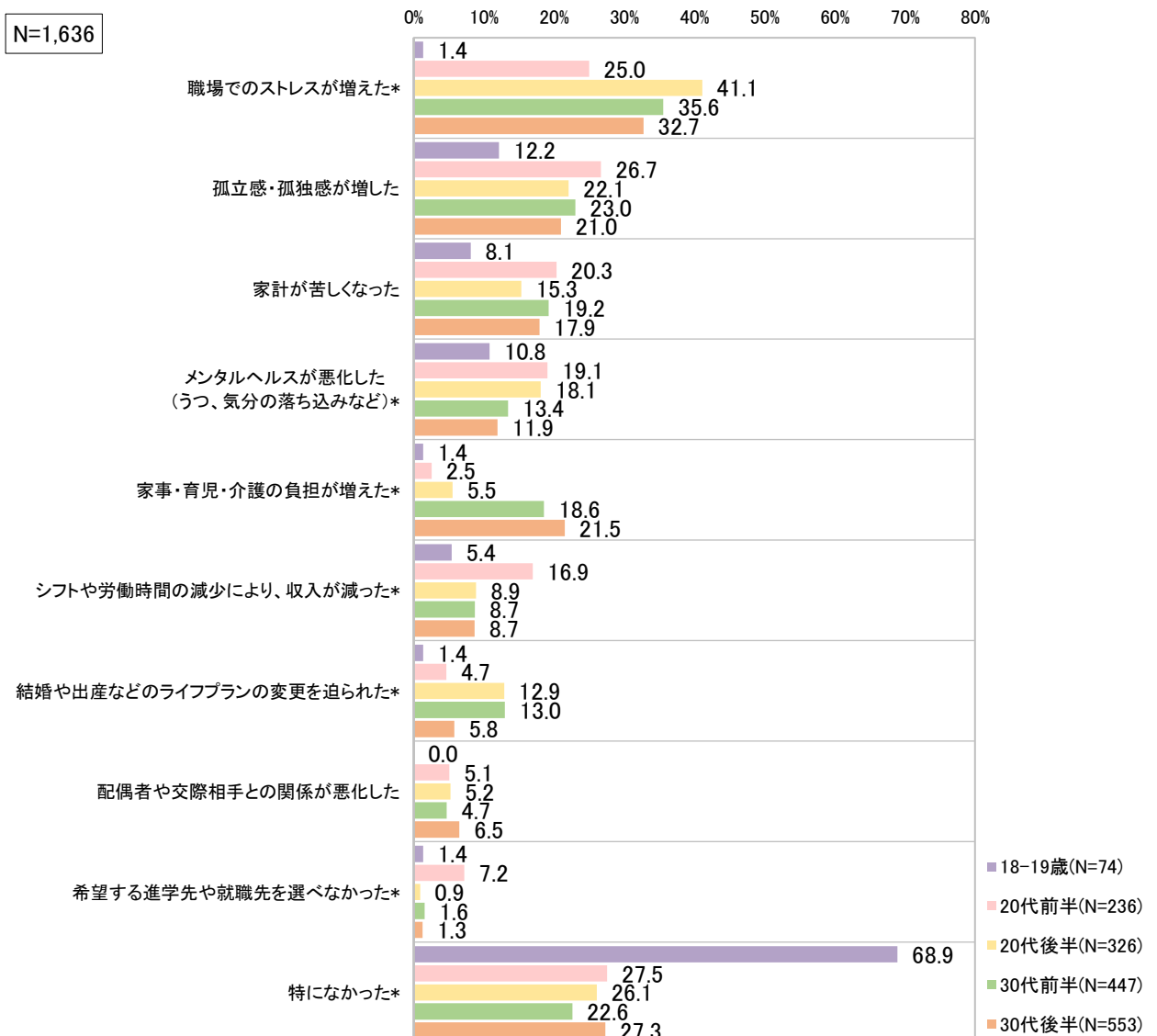
図表 II-4-1-① 新型コロナウイルス感染症の影響【複数回答】



【新型コロナウイルス感染症の影響／年代別】

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響として挙げられた上位9項目のうち「職場でのストレスが増えた」、「メンタルヘルスが悪化した」、「家事・育児・介護の負担が増えた」、「シフトや労働時間の減少により、収入が減った」、「結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた」、「希望する進学先や就職先を選べなかった」の6項目と、「特になかった」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 「職場でのストレスが増えた」と回答する割合は、20代後半、30代が他の年代より高い。
- ✓ 20代は「メンタルヘルスが悪化した」と回答する割合が他の年代より高い。
- ✓ 30代は「家事・育児・介護の負担が増えた」と回答する割合が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 「シフトや労働時間の減少により、収入が減った」、「希望する進学先や就職先を選べなかった」と回答する割合は、20代前半が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 「結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた」と回答する割合は、20代後半、30代前半が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 18-19歳は「特になかった」と回答する割合が他の年代より突出して高い。

図表Ⅱ-4-1-② 新型コロナウイルス感染症の影響(上位9項目+特になかった)一年代別【複数回答】

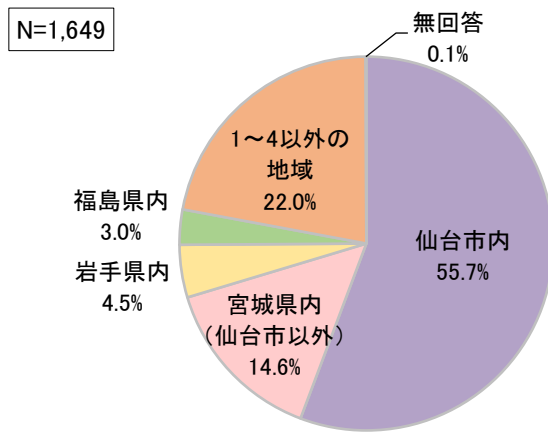


2 東日本大震災の影響

問17 東日本大震災の発災当時（2011年3月11日）、どこに住んでいましたか。（○は1つ）

- ✓ 回答者の半数以上（55.7%）が東日本大震災時、仙台市内に居住。宮城県・岩手県・福島県の被災3県に住んでいた人が約8割（77.8%）を占める。

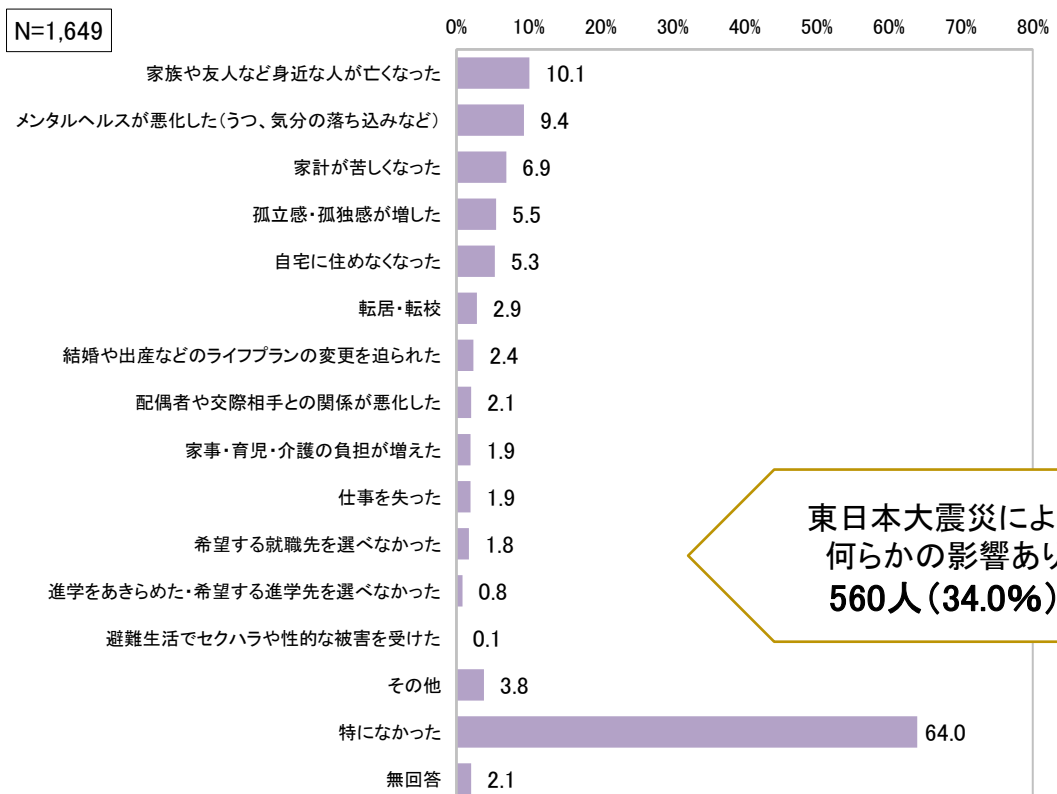
図表Ⅱ-4-2-① 東日本大震災発生当時の居住場所



問18 東日本大震災の影響により、次のようなことはありましたか。（○はいくつでも）

- ✓ 560人（34.0%）が、東日本大震災で何らかの影響があったと回答（有効回答数1,649人のうち、1つでも何らかの影響があったと回答した人）。6割強（64.0%）が「特になかった」と回答。
- ✓ 影響の内容は「家族や友人など身近な人が亡くなった」（10.1%）が最も多く、次いで「メンタルヘルスが悪化した」（9.4%）、「家計が苦しくなった」（6.9%）の順となっている。

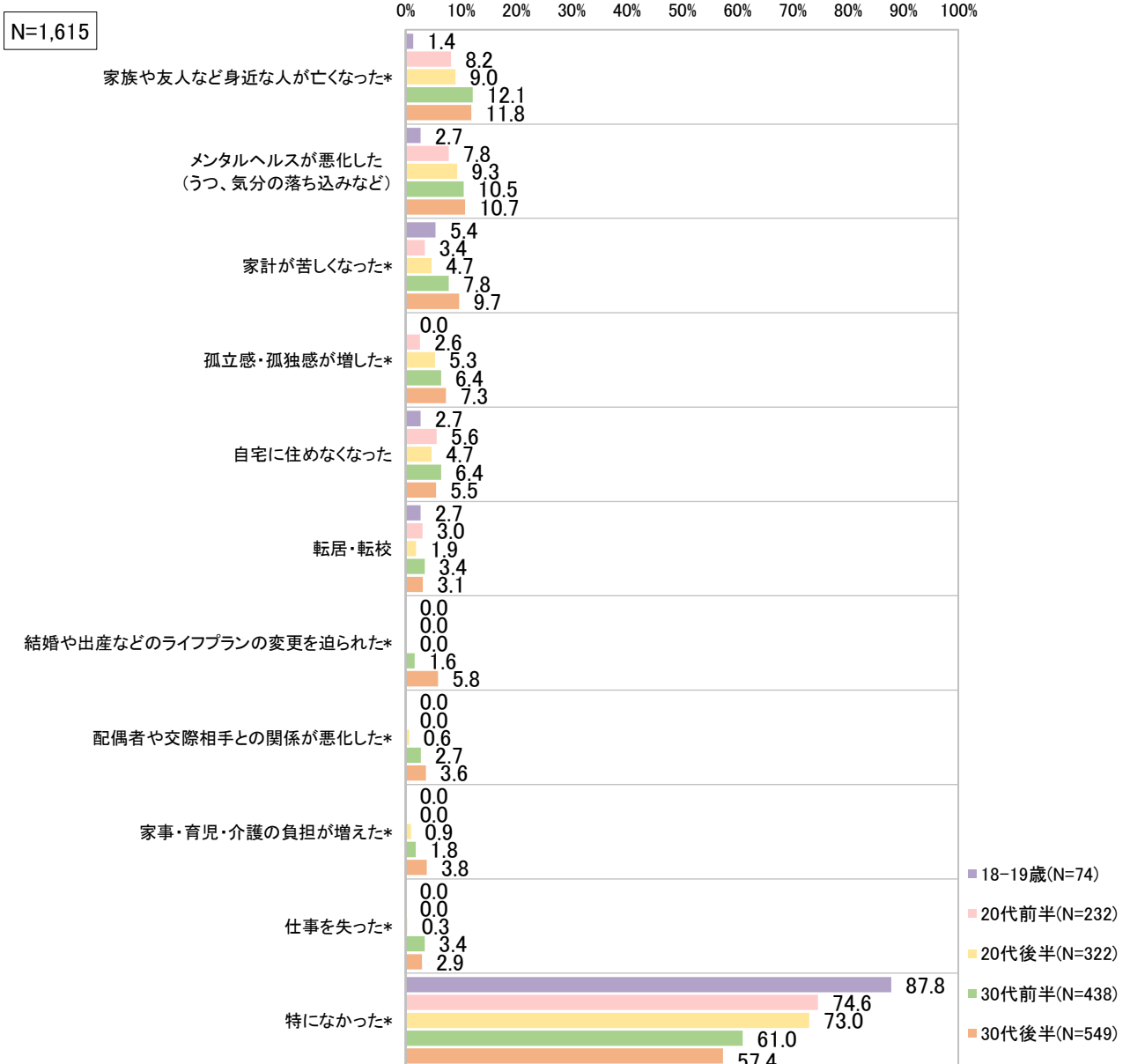
図表Ⅱ-4-2-② 東日本大震災の影響【複数回答】



【東日本大震災の影響／年代別】

- ✓ 東日本大震災の影響として挙げられた上位10項目のうち「家族や友人など身近な人が亡くなった」、「家計が苦しくなった」、「孤立感・孤独感が増した」、「結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた」、「配偶者や交際相手との関係が悪化した」、「家事・育児・介護の負担が増えた」、「仕事を失った」の7項目と、「特になかった」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 「家族や友人など身近な人が亡くなった」、「家計が苦しくなった」、「孤立感・孤独感が増した」、「配偶者や交際相手との関係が悪化した」、「仕事を失った」と回答する割合は、いずれも30代（震災当時19歳～28歳）が他の年代より高い。
- ✓ 「結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた」、「家事・育児・介護の負担が増えた」と回答する割合は30代後半（震災当時24歳～28歳）が他の年代より高い。
- ✓ 「特になかった」と回答する割合は年代が上がるにつれて低くなっている。何らかの影響があった人の割合は30代が他の年代より高く、進学・就職・結婚などライフステージが変わる時期に震災を経験したことが関係している可能性がある。

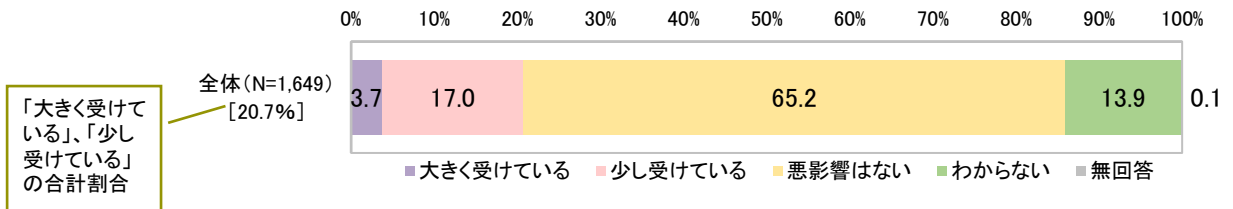
図表Ⅱ-4-2-③ 東日本大震災の影響(上位10項目+特になかった)一年代別【複数回答】



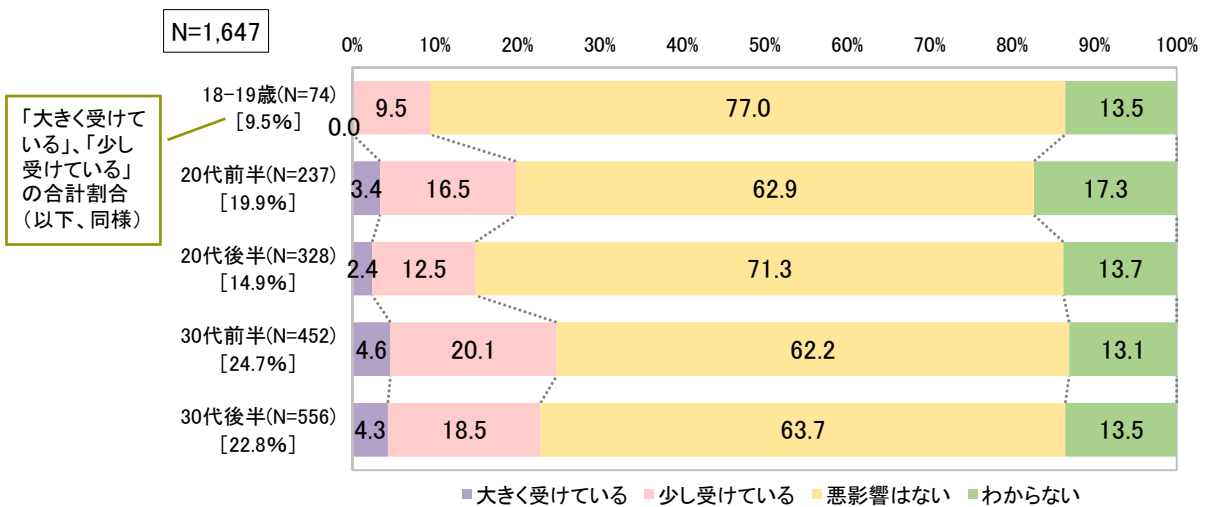
問19 あなたの暮らしや心身は、東日本大震災による悪影響を受けていると思いますか。
(○は1つ)

- ✓ 約5人に1人（20.7％）が、今の暮らしや心身は東日本大震災による悪影響を「受けている」と回答（「大きく受けている」と「少し受けている」の合計割合）。
- ✓ 年代別にみると、「受けている」の割合は、30代（震災当時19歳～28歳）が他の年代より高い。前述（P21）のとおり、進学・就職・結婚などライフステージが変わる時期に震災を経験したことが関係している可能性がある。

図表Ⅱ-4-2-④ 東日本大震災が暮らしや心身に与えた影響



図表Ⅱ-4-2-⑤ 東日本大震災が暮らしや心身に与えた影響一年代別



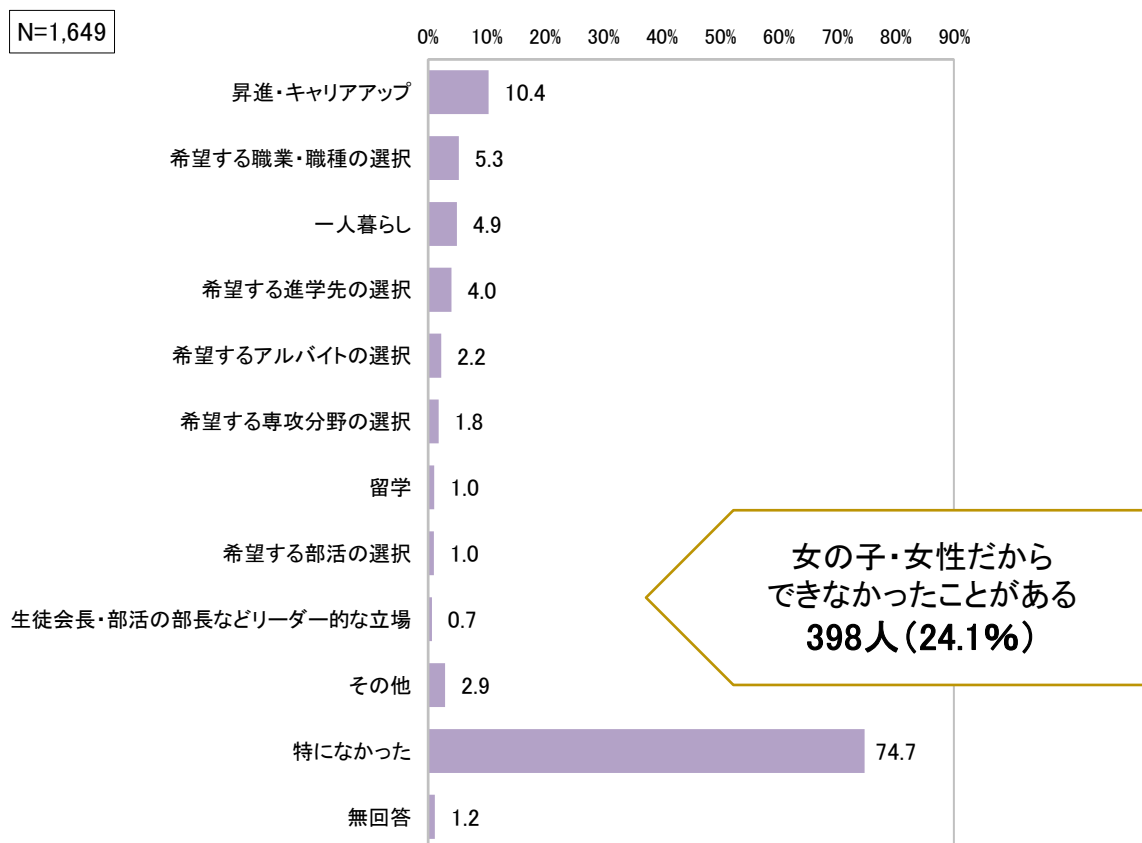
第5章 女性特有の制約やSNSでの嫌な思い、15歳当時の状況について

1 女の子・女性だからという理由でできなかったこと

問20 女の子・女性だからという理由でできなかったことはありますか。(〇はいくつでも)

- ✓ 398人(24.1%)が、女の子・女性だからという理由でできなかったことがあると回答(有効回答数1,649人のうち、1つでもできなかったことがあると回答した人)。74.7%が「特になかった」と回答。
- ✓ でできなかったことの内容は「昇進・キャリアアップ」(10.4%)が最も多く、次いで「希望する職業・職種の選択」(5.3%)、「一人暮らし」(4.9%)の順となっている。

図表Ⅱ-5-1-① 女の子・女性だからという理由でできなかったこと【複数回答】

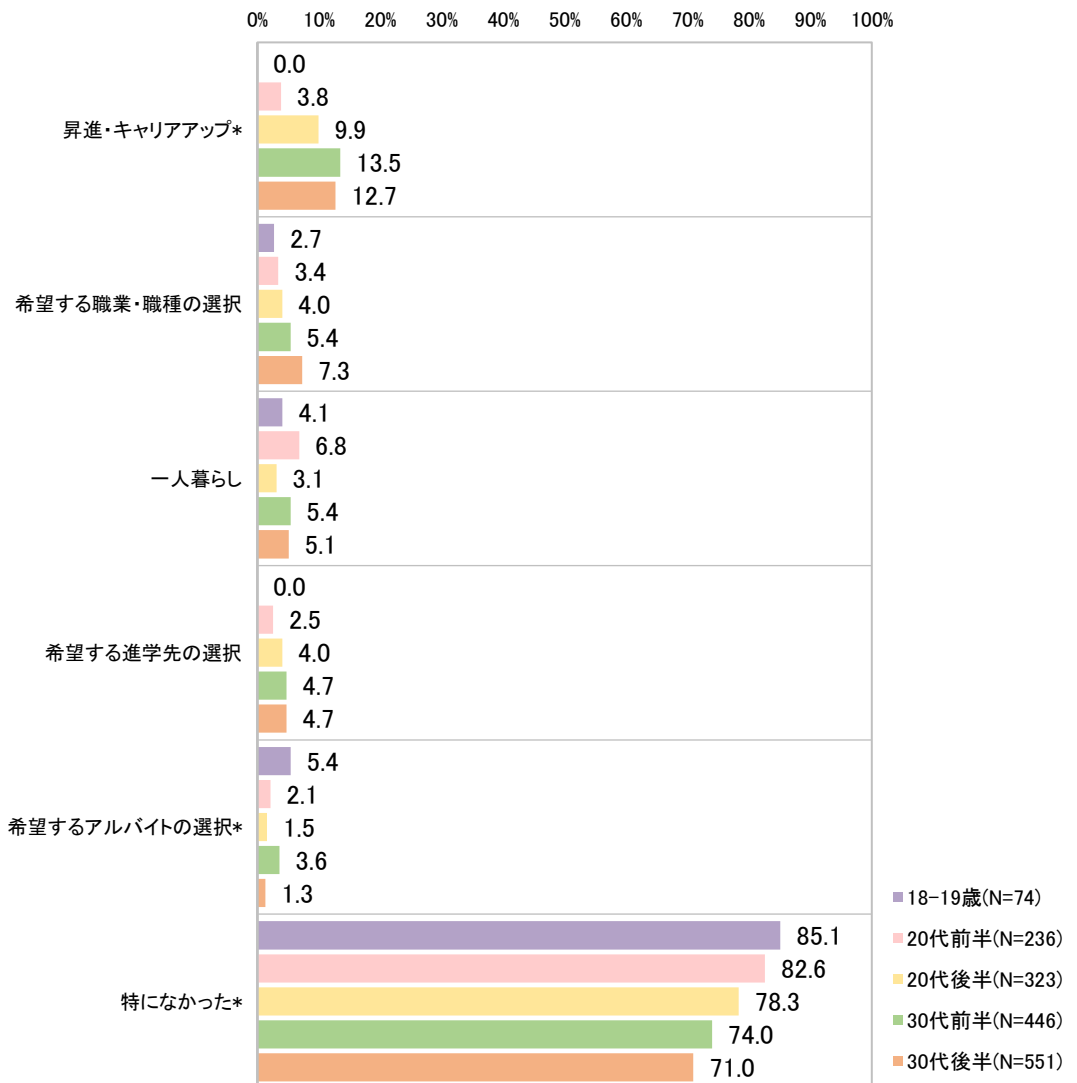


【女の子・女性だからという理由でできなかったこと／年代別】

- ✓ 女の子・女性だからという理由でできなかったこととして挙げられた上位5項目のうち「昇進・キャリアアップ」、「希望するアルバイトの選択」の2項目と、「特になかった」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 30代は「昇進・キャリアアップ」と回答する割合が他の年代より高い。学生時代よりも仕事に就いてからのほうが男女の格差を感じる場面が多いことが推察される。
- ✓ 18-19歳は「希望するアルバイトの選択」と回答する割合が他の年代より高い。
- ✓ 「特になかった」と回答する割合は年代が上がるにつれて低くなっている。

図表Ⅱ-5-1-② 女の子・女性だからという理由でできなかったこと(上位5項目+特になかった)
—年代別【複数回答】

N=1,630

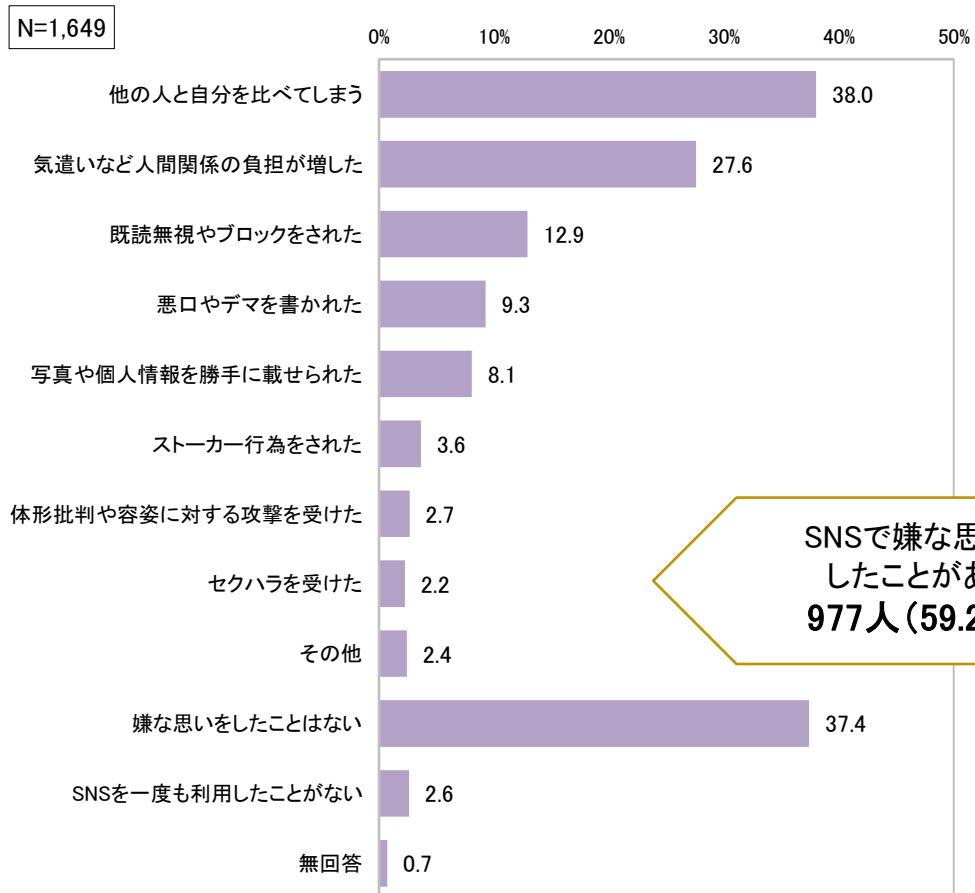


2 SNSでの嫌な思い

問21 SNS（LINE、Twitter、Instagram、TikTokなど）を利用して、嫌な思いをしたことはありますか。（〇はいくつでも）

- ✓ 977人（59.2%）が、SNSを利用して嫌な思いをしたことがあると回答（有効回答数1,649人のうち、1つでも嫌な思いをしたことがあると回答した人）。
- ✓ 嫌な思いをした内容は「他の人と自分を比べてしまう」（38.0%）が最も多く、次いで「気遣いなど人間関係の負担が増した」（27.6%）となっており、その他の記述内容では「誹謗中傷や不快なやり取りの目撃等」に関する記述が目立った（40件中15件）。他人との比較や気遣い、不快な情報を目にすることで嫌な思いをしている人が多い。

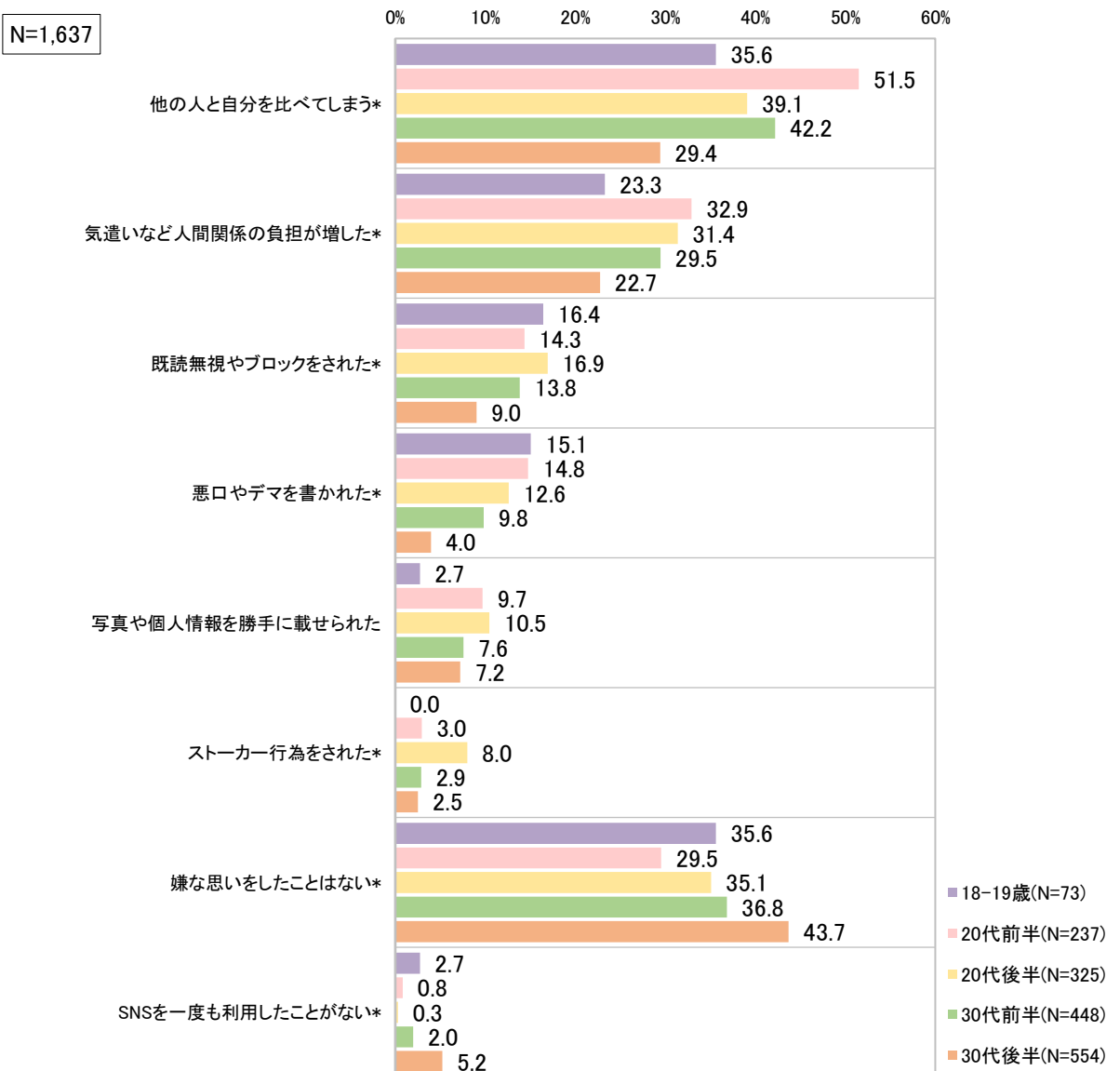
図表Ⅱ-5-2-① SNSでの嫌な思い【複数回答】



【SNSでの嫌な思い／年代別】

- ✓ SNSでの嫌な思いとして挙げられた上位6項目のうち、「他の人と自分を比べてしまう」、「気遣いなど人間関係の負担が増した」、「既読無視やブロックをされた」、「悪口やデマを書かれた」、「ストーカー行為をされた」の5項目と、「嫌な思いをしたことはない」、「SNSを一度も利用したことがない」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 「他の人と自分を比べてしまう」と回答する割合は、20代前半が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 「気遣いなど人間関係の負担が増した」と回答する割合は、20代、30代前半で他の年代より高い。
- ✓ 「既読無視やブロックをされた」と回答する割合は、30代後半が他の年代に比べて低い。
- ✓ 「悪口やデマを書かれた」と回答する割合は、若年層ほど高い。
- ✓ 「ストーカー行為をされた」と回答する割合は、20代後半が他の年代に比べて特に高い。
- ✓ 「嫌な思いをしたことはない」と回答する割合は、他の年代に比べて30代後半が高く、20代前半が低い。

図表 II -5-2-② SNSでの嫌な思い(上位6項目+嫌な思いをしたことはない、SNSを一度も利用したことがない)一年代別【複数回答】

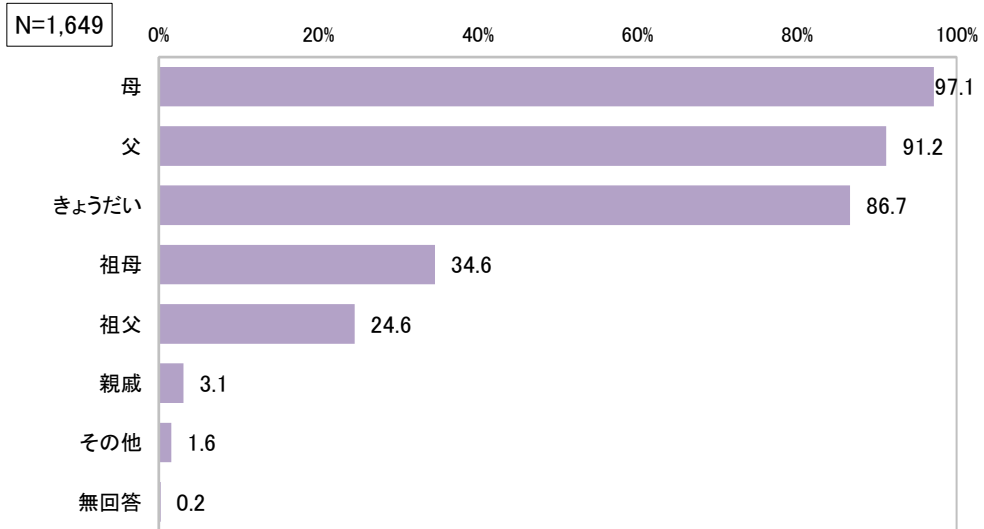


3 15歳当時の状況

問22 あなたが15歳（中学3年生）の時の家族構成（生活費を共にする家族で、同居・別居を問わない）をお答えください。（○はいくつでも）

✓ 15歳当時の家族構成は、母（97.1%）、父（91.2%）、きょうだい（86.7%）が上位に挙げられた。

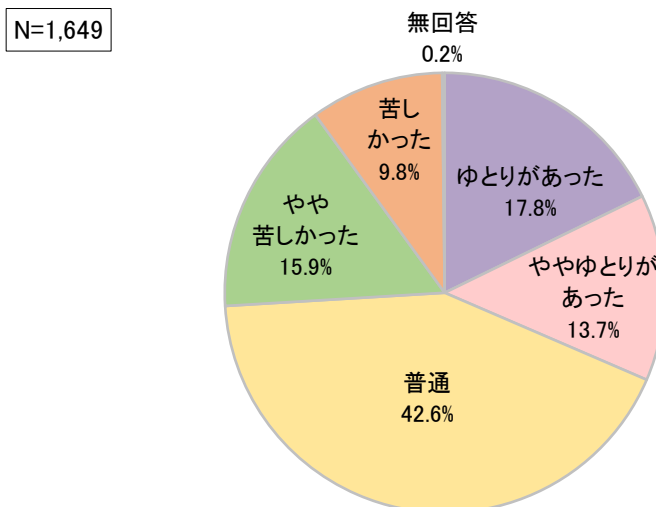
図表Ⅱ-5-3-① 15歳当時の家族構成【複数回答】



問23 経済的に、あなたが15歳（中学3年生）の時の家庭の暮らしはどれにあてはまりますか。（○は1つ）

✓ 15歳当時の暮らし向きは「普通」が42.6%、「ゆとりがあった」が31.5%（「ゆとりがあった」と「ややゆとりがあった」の合計割合）、「苦しかった」が25.7%（「苦しかった」と「やや苦しかった」の合計割合）。

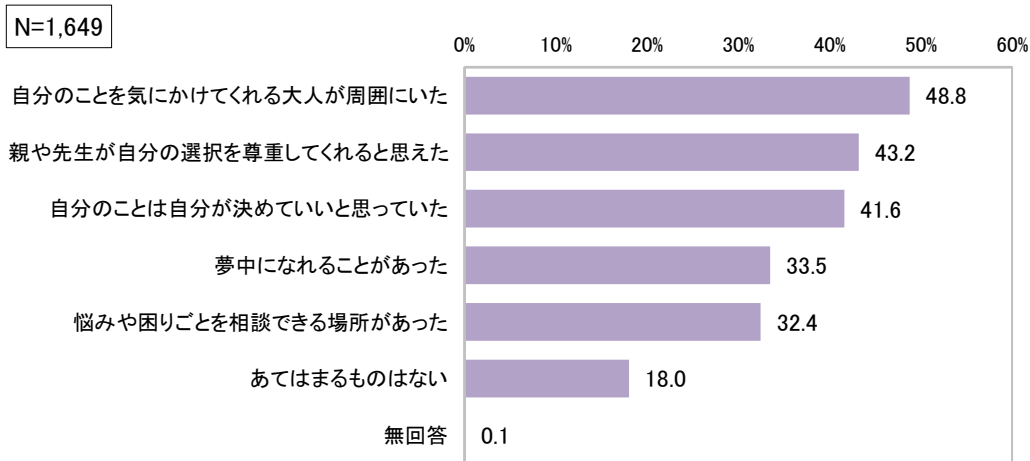
図表Ⅱ-5-3-② 15歳当時の暮らし向き



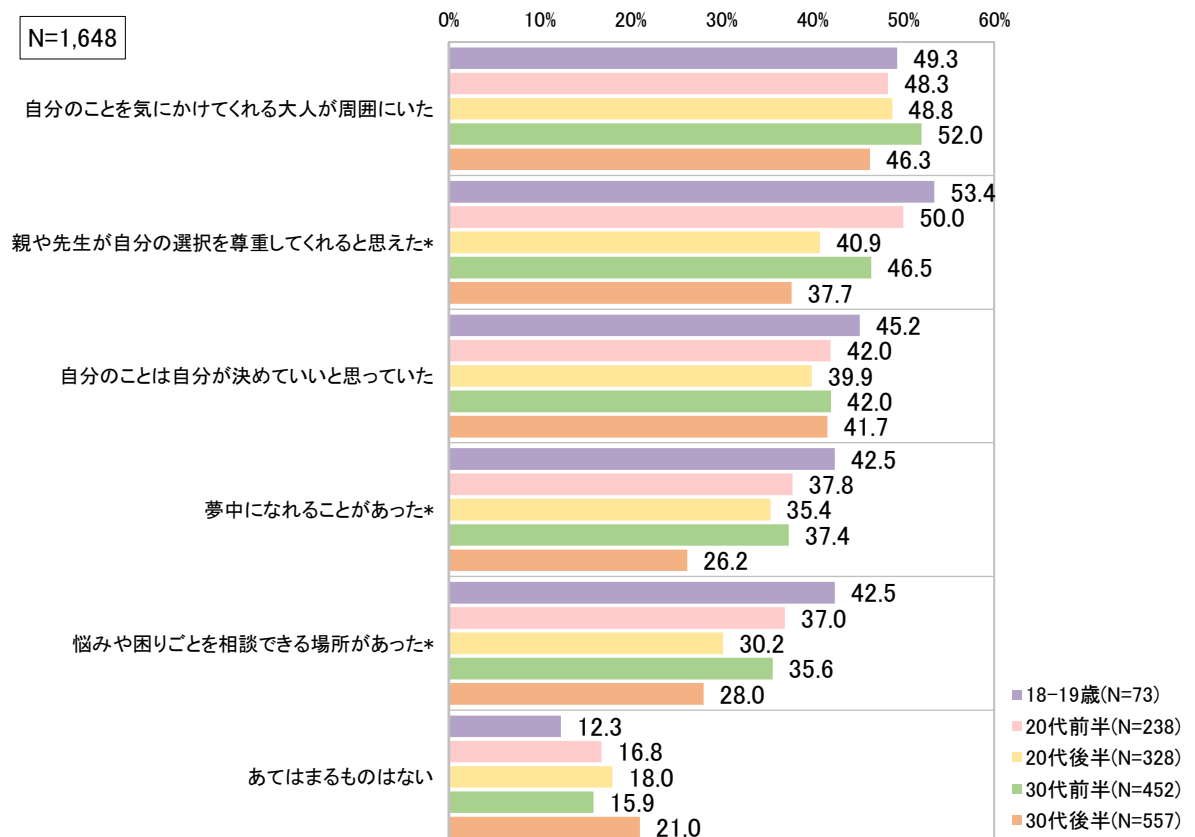
問24 あなたが15歳（中学3年生）の時のことで、あてはまるものはありますか。
 (○はいくつでも)

- ✓ 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況についてたずねたところ、「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」（48.8%）が最も多く、次いで「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」（43.2%）、「自分のことは自分が決めていいと思っていた」（41.6%）の順となっている。
- ✓ 年代別にみると、「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」、「夢中になれることがあった」、「悩みや困りごとを相談できる場所があった」で有意な関連が認められ、いずれの項目も18-19歳で他の年代より高く、20代後半、30代後半で低い。

図表Ⅱ-5-3-③ 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況【複数回答】



図表Ⅱ-5-3-④ 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況一年代別【複数回答】



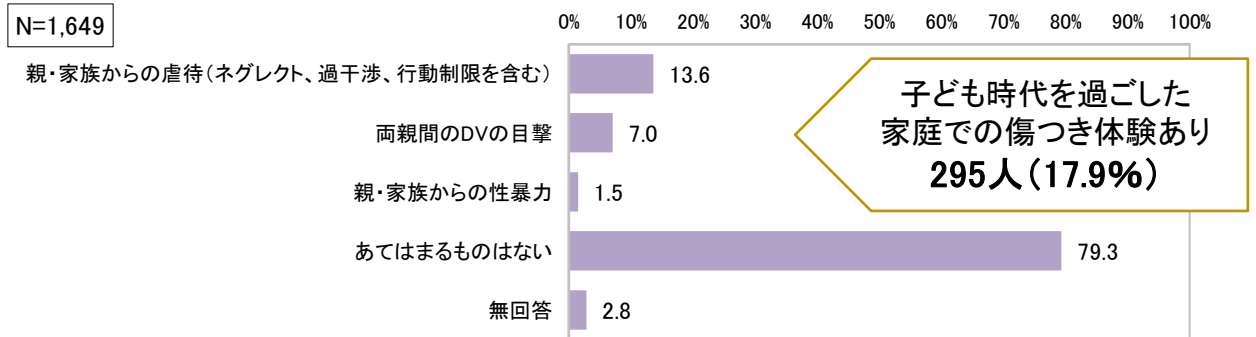
第6章 過去の傷つき体験などについて

1 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験

問25 あなたが子ども時代（概ね17歳まで）を過ごした家庭で、次のような体験をしたことがありますか。（○はいくつでも）

- ✓ 295人（17.9%）が、子ども時代を過ごした家庭で「親・家族からの虐待」、「両親間のDVの目撃」、「親・家族からの性暴力」のいずれか1つでも体験したことがあると回答（有効回答数1,649人のうち、いずれか1つでも体験したことがあると回答した人）。
- ✓ 被害の内容は「親・家族からの虐待」（13.6%）が最も多く、次いで「両親間のDVの目撃」（7.0%）、「親・家族からの性暴力」（1.5%）の順となっている。

図表Ⅱ-6-1-① 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験【複数回答】



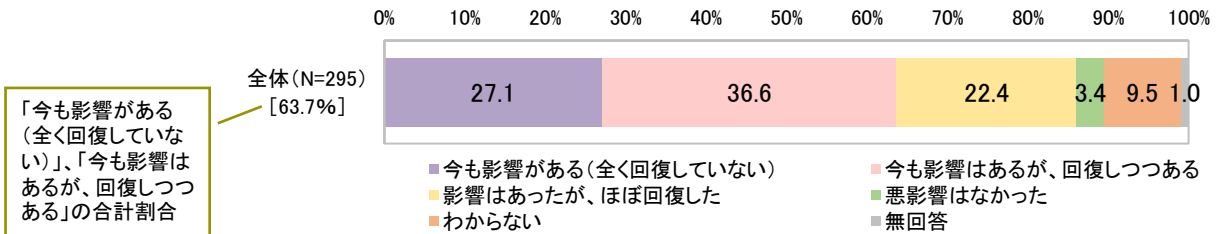
▶【問25で「1」～「3」を選んだ方だけお答えください】

問25-1 そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）がありますか。（○は1つ）

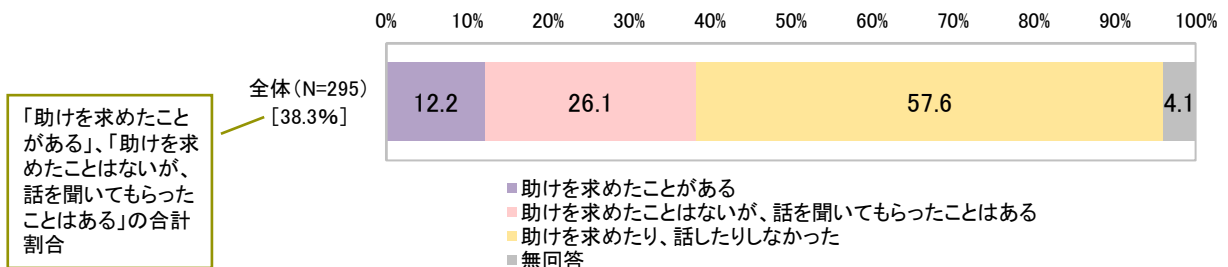
問25-2 その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。（○は1つ）

- ✓ 子ども時代を過ごした家庭において傷つき体験がある人の6割強（63.7%）が「今も影響がある」と回答（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。約3割（27.1%）が「全く回復していない」。
- ✓ 状況を変えるための行動として、「助けを求めたり、話したりしなかった」人の割合は6割弱（57.6%）にのぼる。

図表Ⅱ-6-1-② 家庭での傷つき体験からの回復度



図表Ⅱ-6-1-③ 家庭での傷つき体験の相談行動



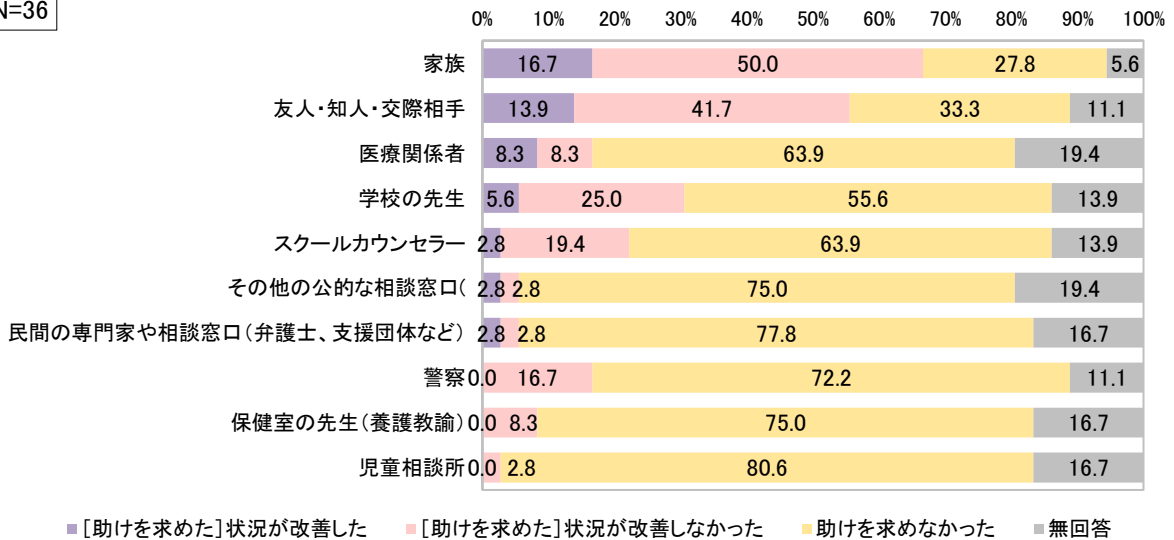
▶【問25-2で「1 助けを求めたことがある」を選んだ方だけお答えください】

問25-3 助けを求めた相手は誰ですか。また助けを求めたことで状況は改善しましたか。
(ア)～(サ)のそれぞれについて、お答えください。(○はそれぞれ1つ)

- ✓ 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験について、「助けを求めたことがある」と回答した36人に、助けを求めた相手と、その相手に助けを求めたことで状況が改善したかどうかたずねた。
- ✓ 「助けを求め、状況が改善した」相手は、「家族」が16.7%、「友人・知人・交際相手」が13.9%。医療関係者や学校関係者、支援機関は1割に満たない。

図表 II-6-1-④ 家庭での傷つき体験の相談相手と改善状況

N=36



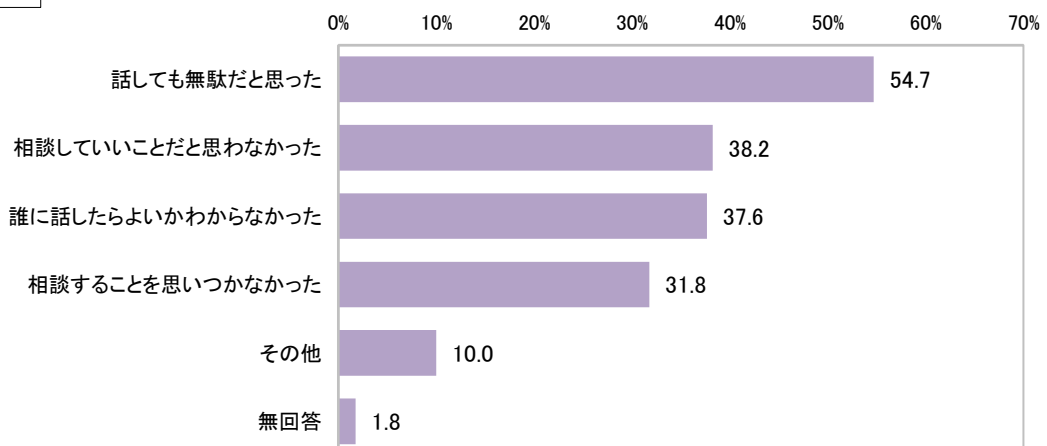
▶【問25-2で「3 助けを求めたり、話したりしなかった」を選んだ方だけお答えください】

問25-4 誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- ✓ 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験について、「助けを求めたり、話したりしなかった」と回答した170人に、助けを求めなかった理由をたずねた。
- ✓ 「話しても無駄だと思った」(54.7%)が最も多く、次いで「相談していいことだと思わなかった」(38.2%)、「誰に話したらよいかわからなかった」(37.6%)、「相談することを思いつかなかった」(31.8%)の順となっている。
- ✓ 家庭での傷つき体験は相談しづらく、被害を認識しにくい状況が推察される。

図表 II-6-1-⑤ 家庭での傷つき体験を相談しなかった理由【複数回答】

N=170

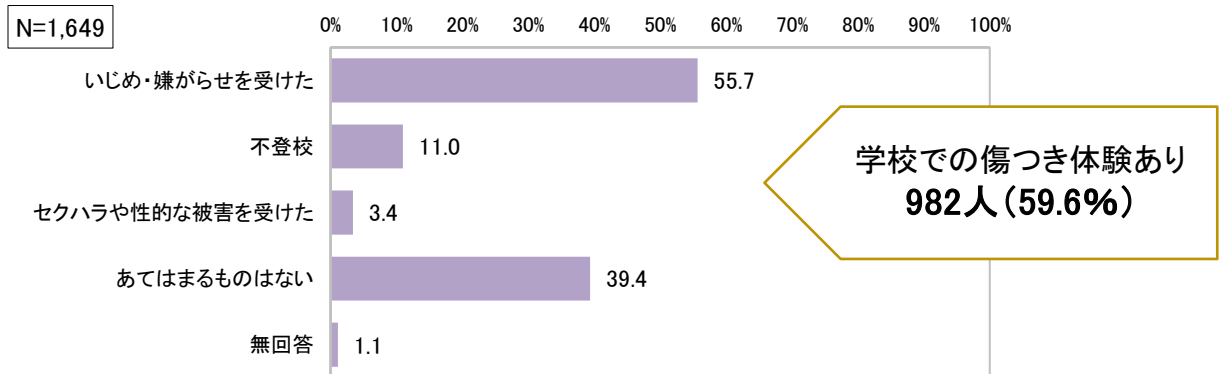


2 学校での傷つき体験

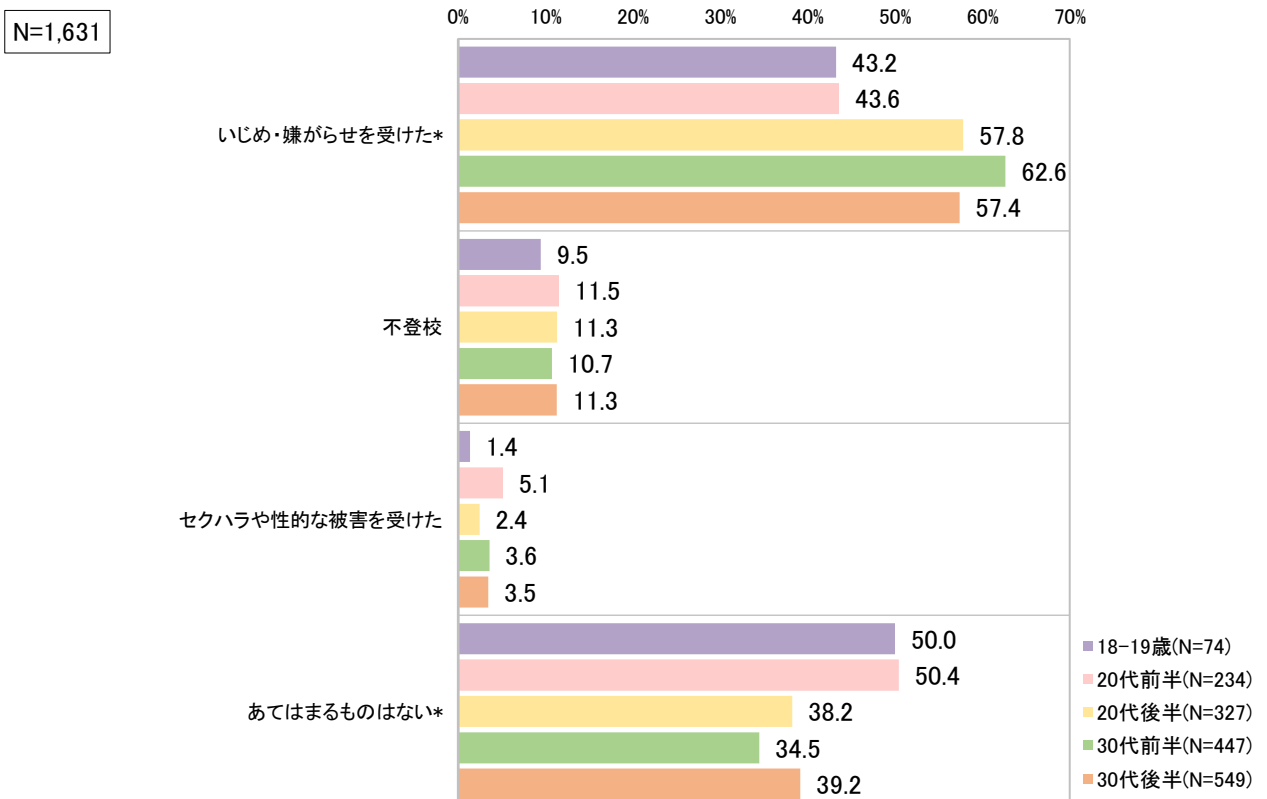
問26 学校で、次のような体験をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

- ✓ 982人(59.6%)が、学校で「いじめ・嫌がらせを受けた」、「不登校」、「セクハラや性的な被害を受けた」のいずれか1つでも体験したことがあると回答(有効回答数1,649人のうち、いずれか1つでも体験したことがあると回答した人)。
- ✓ 被害の内容は「いじめ・嫌がらせを受けた」が半数を超え(55.7%)、突出して多い。次いで「不登校」(11.0%)、「セクハラや性的な被害を受けた」(3.4%)の順となっている。
- ✓ 年代別にみると、「いじめ・嫌がらせを受けた」、「あてはまるものはない」で有意な関連が認められた。
- ✓ 「いじめ・嫌がらせを受けた」は20代後半、30代で6割前後と他の年代より高い。
- ✓ 「あてはまるものはない」は18-19歳、20代前半で約半数と他の年代より高い。

図表Ⅱ-6-2-① 学校での傷つき体験【複数回答】



図表Ⅱ-6-2-② 学校での傷つき体験—年代別【複数回答】

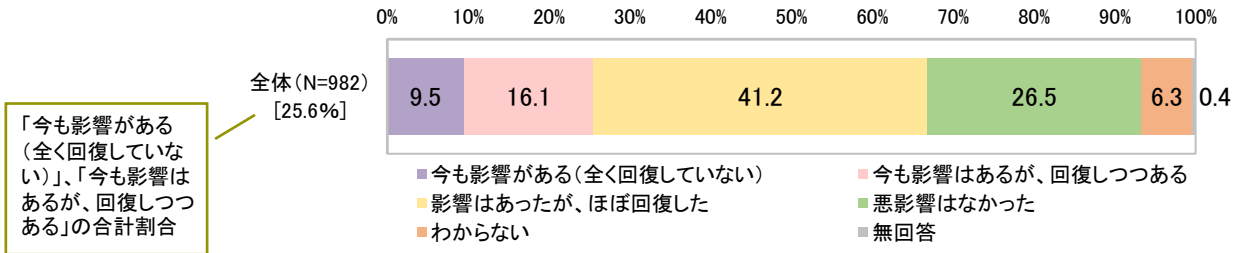


▶【問26で「1」～「3」を選んだ方だけお答えください】

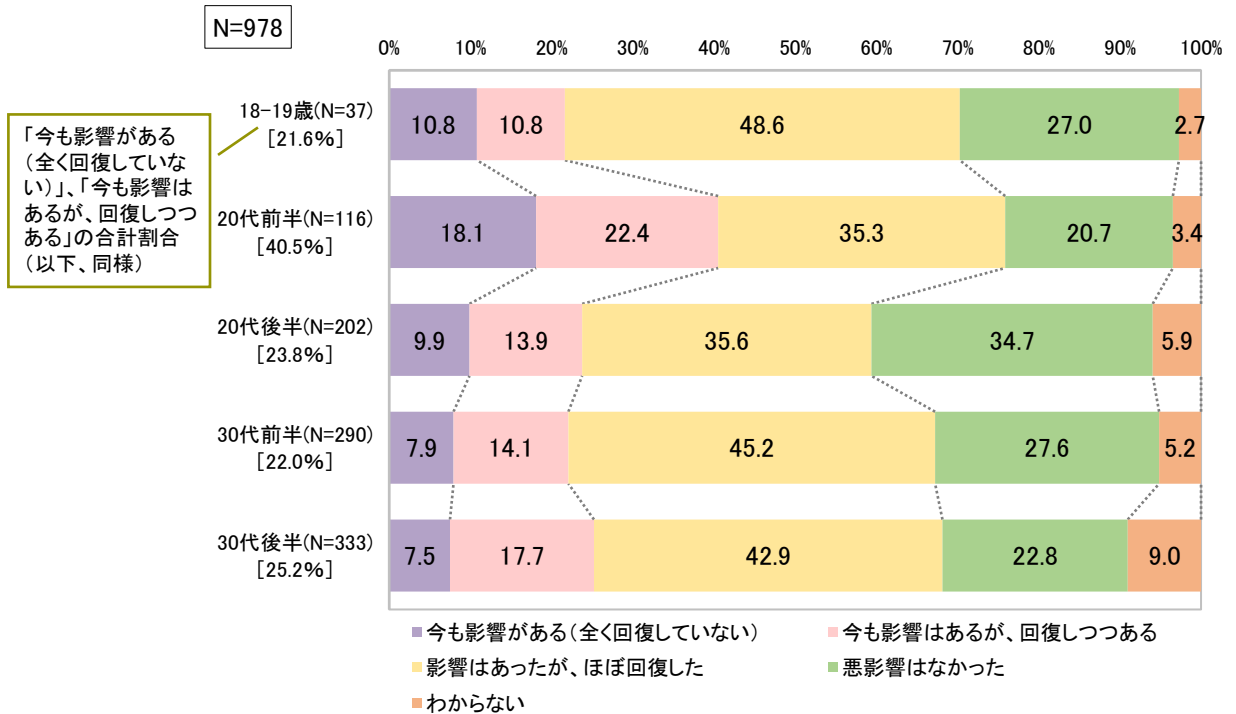
問26-1 そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）がありますか。（○は1つ）

- ✓ 学校での傷つき体験がある人の25.6%が「今も影響がある」と回答（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。約4割（41.2%）は「影響はあったが、ほぼ回復した」と回答。
- ✓ 年代別にみると、20代前半で「今も影響がある」の割合が40.5%と他の年代より高い。

図表Ⅱ-6-2-③ 学校での傷つき体験からの回復度



図表Ⅱ-6-2-④ 学校での傷つき体験からの回復度—年代別

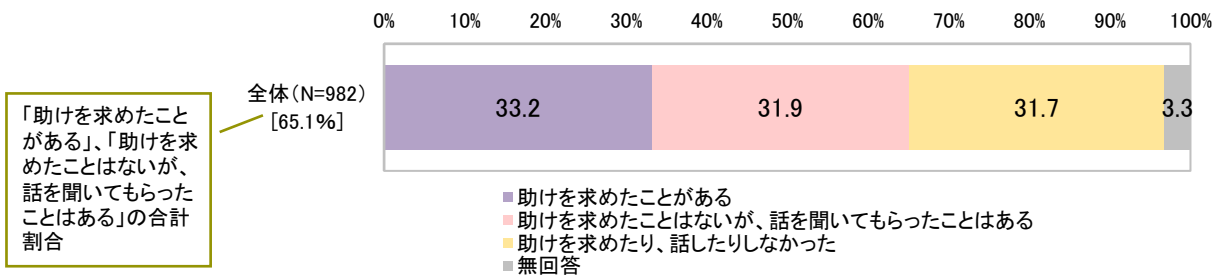


▶【問26で「1」～「3」を選んだ方だけお答えください】

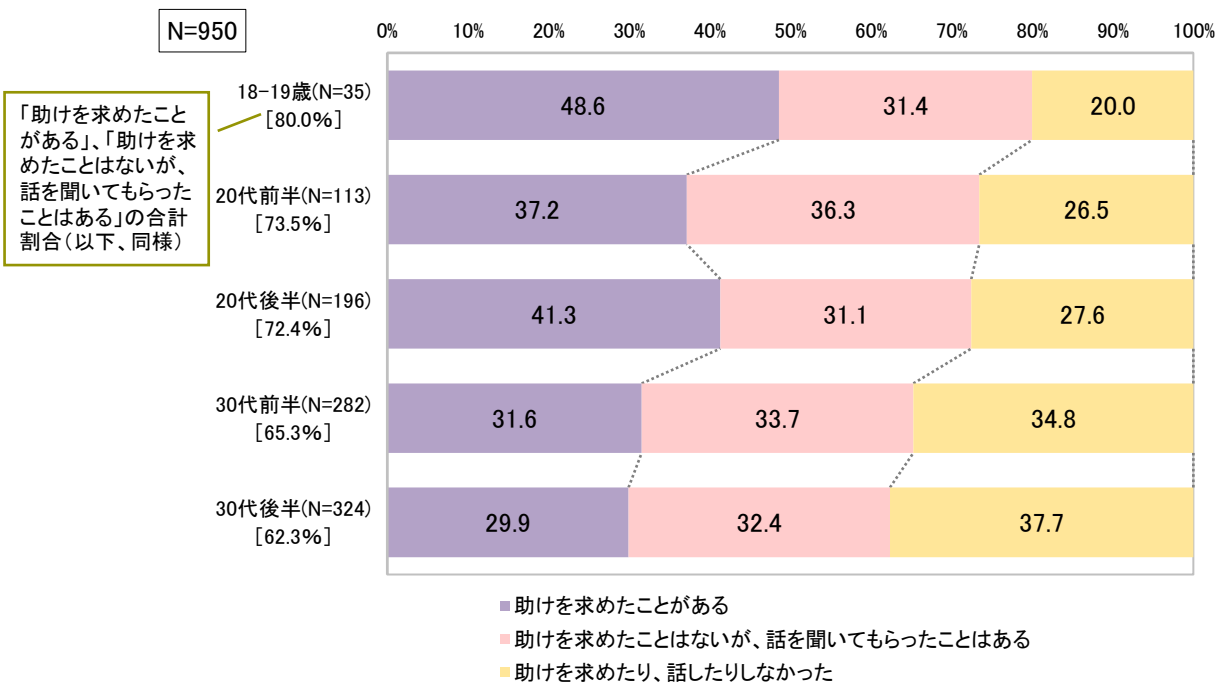
問26-2 その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。(○は1つ)

- ✓ 学校での嫌な状況を変えるための行動として、65.1%は助けを求めたり、話を聞いてもらったりと回答。「助けを求めたり、話したりしなかった」人の割合は約3割(31.7%)。
- ✓ 年代別にみると、「助けを求めたことがある」の割合は18-19歳で他の年代より高く、年代が上がるほど「助けを求めたり、話したりしなかった」の割合が高い。

図表Ⅱ-6-2-⑤ 学校での傷つき体験の相談行動



図表Ⅱ-6-2-⑥ 学校での傷つき体験の相談行動一年代別

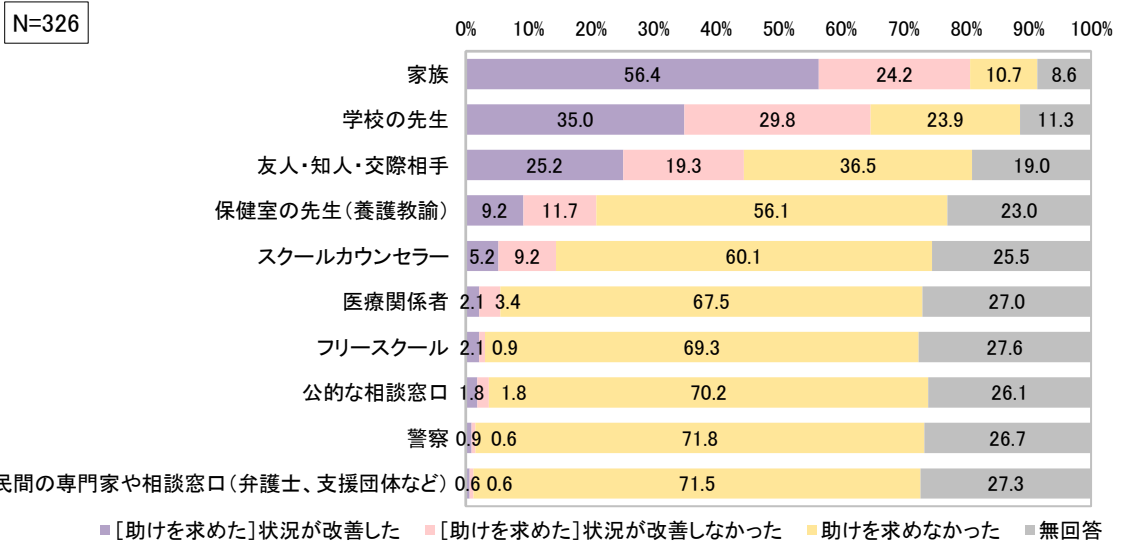


▶【問26-2で「1 助けを求めたことがある」を選んだ方だけお答えください】

問26-3 助けを求めた相手は誰ですか。また助けを求めたことで状況は改善しましたか。
 (ア)～(サ)のそれぞれについて、お答えください。(○はそれぞれ1つ)

- ✓ 学校での傷つき体験について、「助けを求めたことがある」と回答した326人に、助けを求めた相手と、その相手に助けを求めたことで状況が改善したかどうかたずねた。
- ✓ 「助けを求め、状況が改善した」相手は、「家族」(56.4%)が最も多い。
- ✓ 「学校の先生」に「助けを求め、状況が改善した」割合は35.0%である一方、「助けを求めたが、状況が改善しなかった」が29.8%、「助けを求めなかった」も23.9%。

図表Ⅱ-6-2-⑦ 学校での傷つき体験の相談相手と改善状況

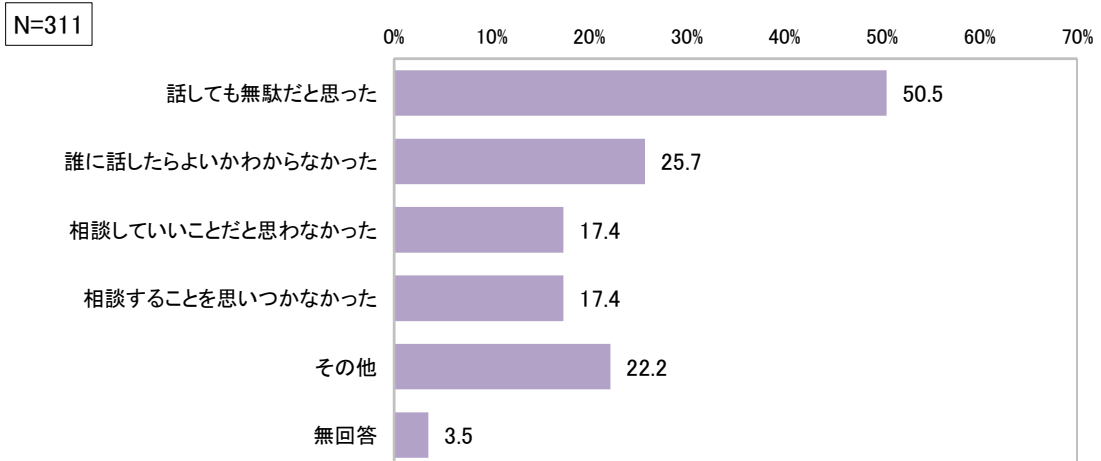


▶【問26-2で「3 助けを求めたり、話したりしなかった」を選んだ方だけお答えください】

問26-4 誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- ✓ 学校での傷つき体験について、「助けを求めたり、話したりしなかった」と回答した311人に、助けを求めなかった理由をたずねた。
- ✓ 「話しても無駄だと思った」が50.5%と突出して多く、次いで「誰に話したらよいかわからなかった」(25.7%)、「相談していいことだと思わなかった」(17.4%)、「相談することを思いつかなかった」(17.4%)の順となっている。

図表Ⅱ-6-2-⑧ 学校での傷つき体験を相談しなかった理由【複数回答】

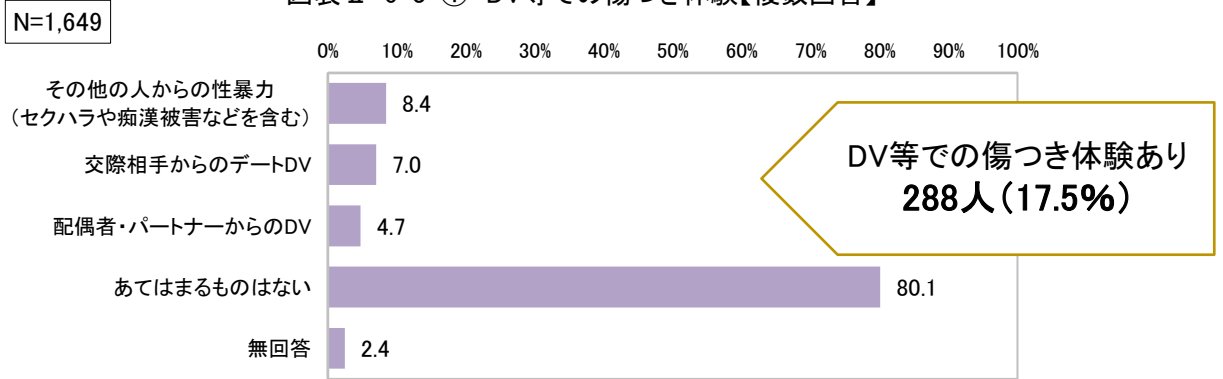


3 DV等での傷つき体験

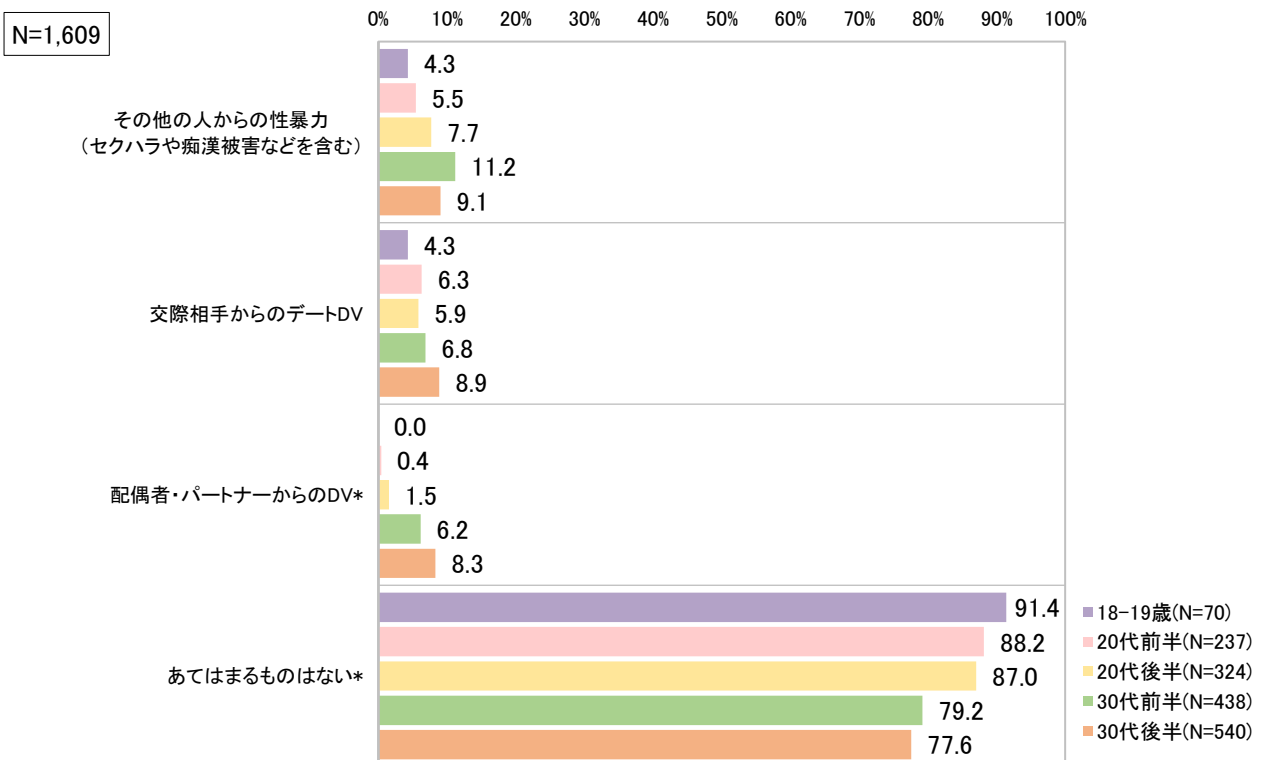
問27 配偶者や交際相手、それ以外の人との間で、次のような体験をしたことがありますか。
(○はいくつでも)

- ✓ 288人(17.5%)が、「配偶者・パートナーからのDV」、「交際相手からのデートDV」、「その他の人からの性暴力」のいずれか1つでも体験したことがあると回答(有効回答数1,649人のうち、1つでも体験したことがあると回答した人)。
- ✓ 被害の内容は「その他の人からの性暴力」(8.4%)が最も多く、次いで「交際相手からのデートDV」(7.0%)、「配偶者・パートナーからのDV」(4.7%)の順となっている。
- ✓ 年代別にみると、「配偶者・パートナーからのDV」、「あてはまるものはない」で有意な関連が認められた。
- ✓ 「配偶者・パートナーからのDV」と回答する割合は30代で他の年代より高い。
- ✓ 「あてはまるものはない」と回答する割合は年代が上がるにつれて低くなっており、30代では約5人に1人(30代前半の20.8%、30代後半の22.4%)がDV、デートDV、性暴力のいずれかまたは複数を体験している。

図表Ⅱ-6-3-① DV等での傷つき体験【複数回答】



図表Ⅱ-6-3-② DV等での傷つき体験一年代別【複数回答】



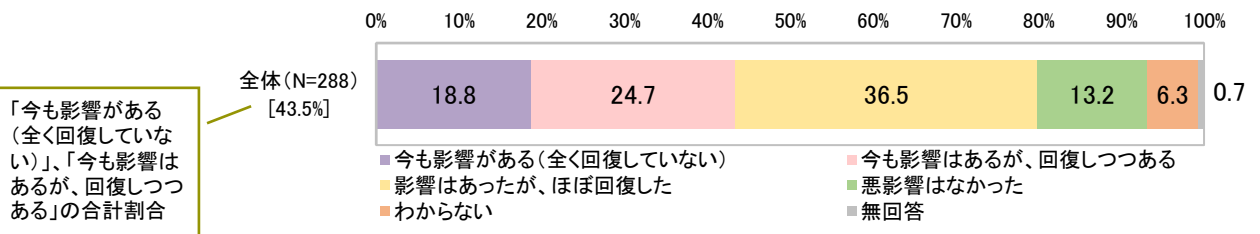
▶【問27で「1」～「3」を選んだ方だけお答えください】

問27-1 そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）がありますか。（○は1つ）

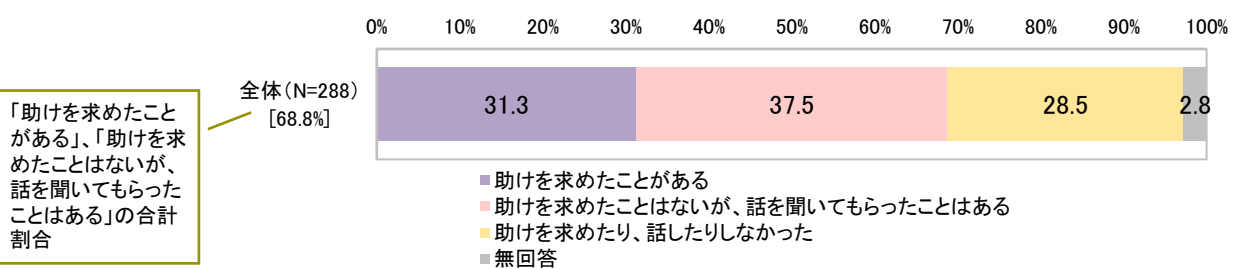
問27-2 その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。（○は1つ）

- ✓ DV等の傷つき体験がある人の43.5%が「今も影響がある」と回答（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。18.8%が「全く回復していない」。
- ✓ 状況を変えるための行動として、68.8%は助けを求めたり、話を聞いてもらったりしたと回答。「助けを求めたり、話したりしなかった」人の割合は28.5%。

図表Ⅱ-6-3-③ DV等での傷つき体験からの回復度



図表Ⅱ-6-3-④ DV等での傷つき体験の相談行動



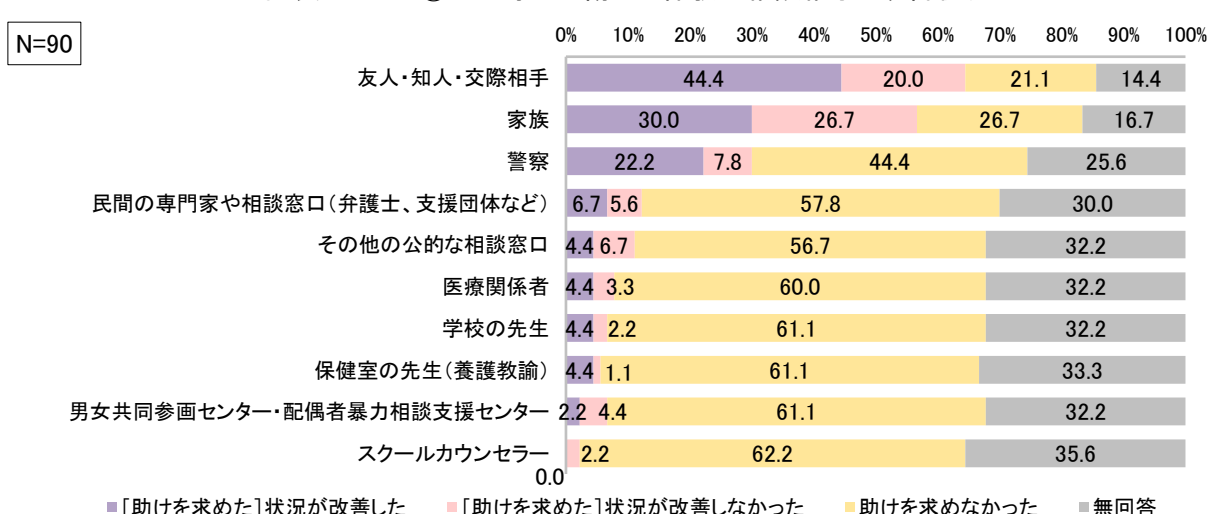
▶【問27-2で「1 助けを求めたことがある」を選んだ方だけお答えください】

問27-3 助けを求めた相手は誰ですか。また助けを求めたことで状況は改善しましたか。

(ア)～(サ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

- ✓ DV等での傷つき体験について、「助けを求めたことがある」と回答した90人に、助けを求めた相手と、その相手に助けを求めたことで状況が改善したかどうかをたずねた。
- ✓ 「助けを求め、状況が改善した」相手の上位は、「友人・知人・交際相手」（44.4%）、家族（30.0%）、「警察」（22.2%）。相談機関や支援機関に助けを求めて状況が改善した人の割合は1割に満たない。

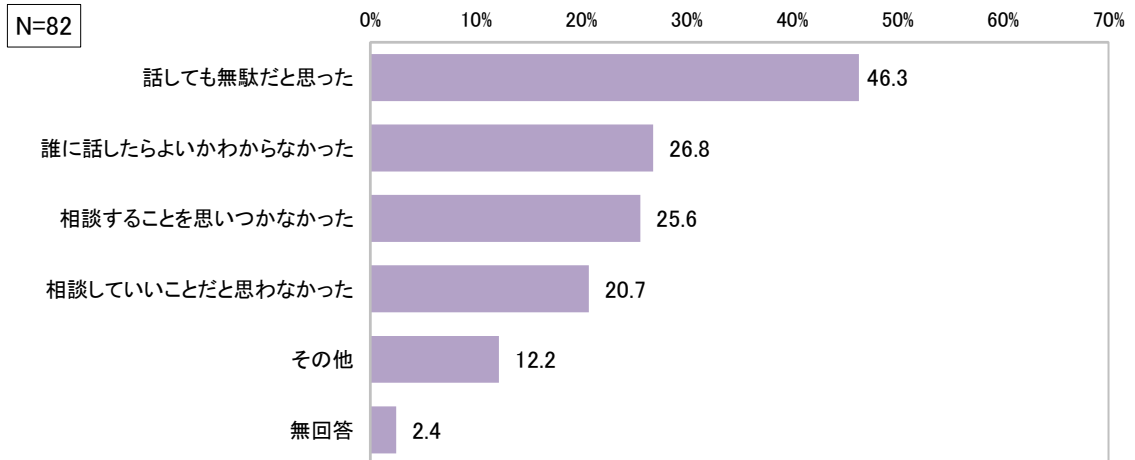
図表Ⅱ-6-3-⑤ DV等での傷つき体験の相談相手と改善状況



▶【問27-2で「3 助けを求めたり、話したりしなかった」を選んだ方だけお答えください】
問27-4 誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

- ✓ DV等での傷つき体験について、「助けを求めたり、話したりしなかった」と回答した82人に、助けを求めなかった理由をたずねた。
- ✓ 「話しても無駄だと思った」が46.3%と突出して多く、次いで「誰に話したらよいかわからなかった」（26.8%）、「相談することを思いつかなかった」（25.6%）、「相談していいことだと思わなかった」（20.7%）の順となっている。

図表Ⅱ-6-3-⑥ DV等での傷つき体験を相談しなかった理由【複数回答】

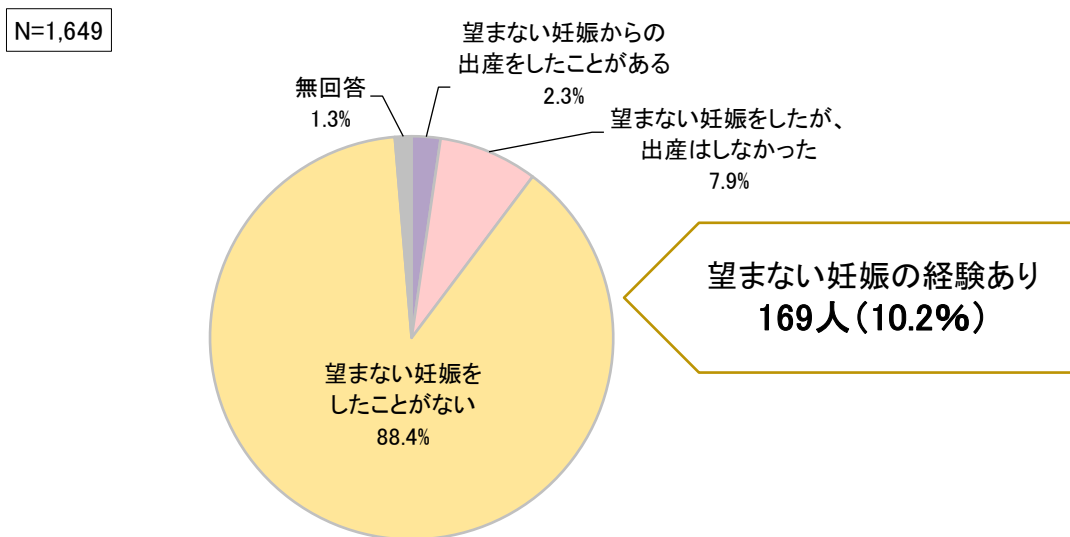


4 望まない妊娠の経験

問28 望まない妊娠についてお聞きします。(○は1つ)

- ✓ 約10人に1人(10.2%)が「望まない妊娠をしたことがある」と回答(「望まない妊娠からの出産をしたことがある」と「望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」の合計割合)。

図表Ⅱ-6-4-① 望まない妊娠の経験

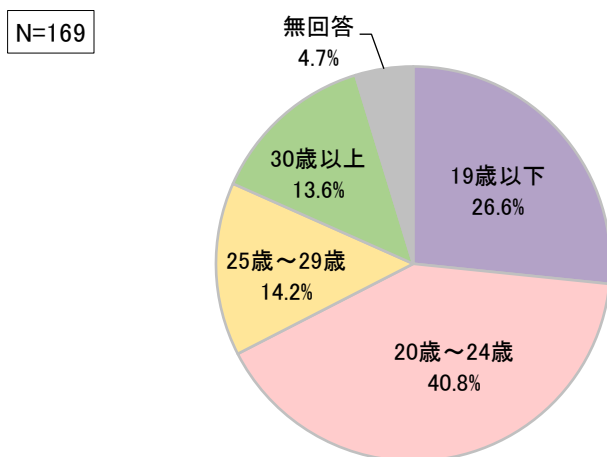


▶【問28で「1」「2」を選んだ方だけお答えください】

問28-1 望まない妊娠をしたのは、何歳の時でしたか。(○は1つ)

- ✓ 望まない妊娠をした年齢についてたずねたところ、24歳以下が67.4%となっており、26.6%は10代で望まない妊娠を経験している。

図表Ⅱ-6-4-② 望まない妊娠をした年齢



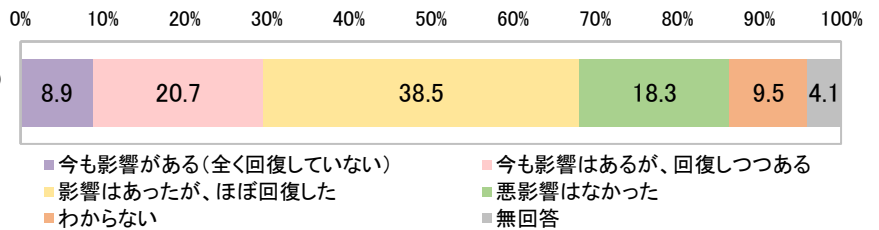
▶【問28で「1」「2」を選んだ方だけお答えください】

問28-2 そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響（生きづらさ）がありますか。（○は1つ）

問28-3 妊娠がわかった時、誰かに相談しましたか。（○は1つ）

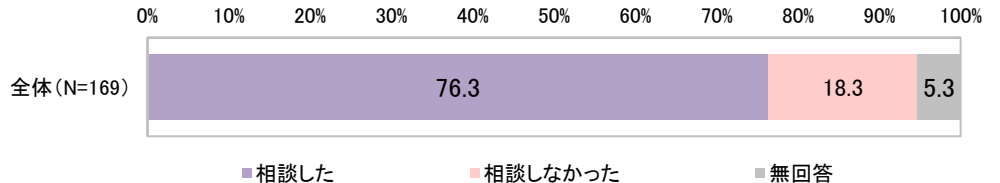
- ✓ 望まない妊娠をしたことがある人の約3割（29.6%）が「今も影響がある」と回答（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。約4割（38.5%）は「影響はあったが、ほぼ回復した」と回答。
- ✓ 望まない妊娠について、76.3%が「相談した」、18.3%が「相談しなかった」と回答。

図表Ⅱ-6-4-③ 望まない妊娠からの回復度



「今も影響がある（全く回復していない）」、「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合

図表Ⅱ-6-4-④ 望まない妊娠の相談行動



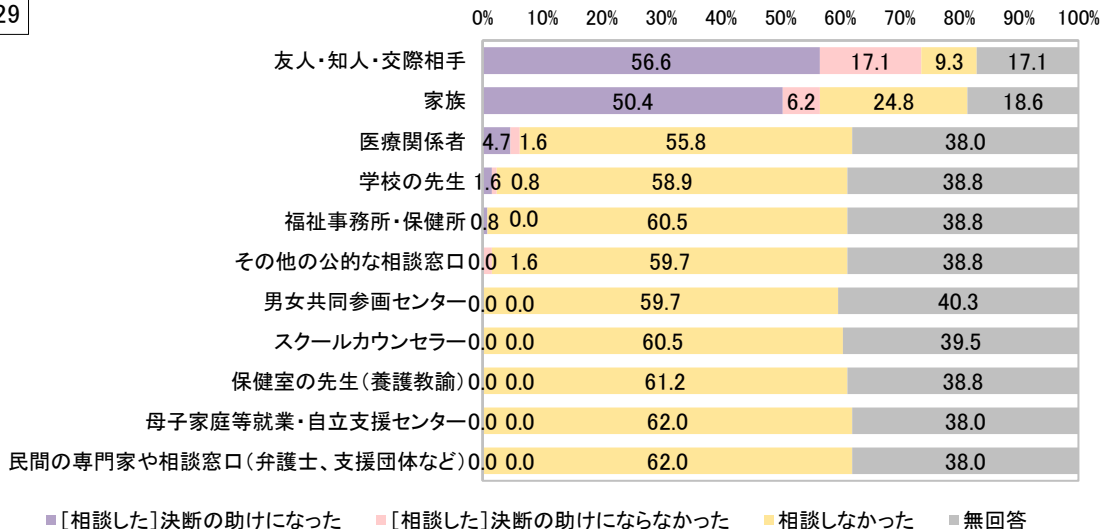
▶【問28-3で「1 相談した」を選んだ方だけお答えください】

問28-4 相談した相手は誰ですか。また、相談したことで、あなたの決断の助けになりましたか。（ア）～（シ）のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

- ✓ 望まない妊娠について、「相談したことがある」と回答した129人に、相談した相手と、その相手に相談したことで決断の助けになったかどうかたずねた。
- ✓ 「相談し、決断の助けになった」相手の上位は、「友人・知人・交際相手」（56.6%）、「家族」（50.4%）で、身近な人への相談が本人の助けになっている傾向がみられた。

図表Ⅱ-6-4-⑤ 望まない妊娠の相談相手と決断状況

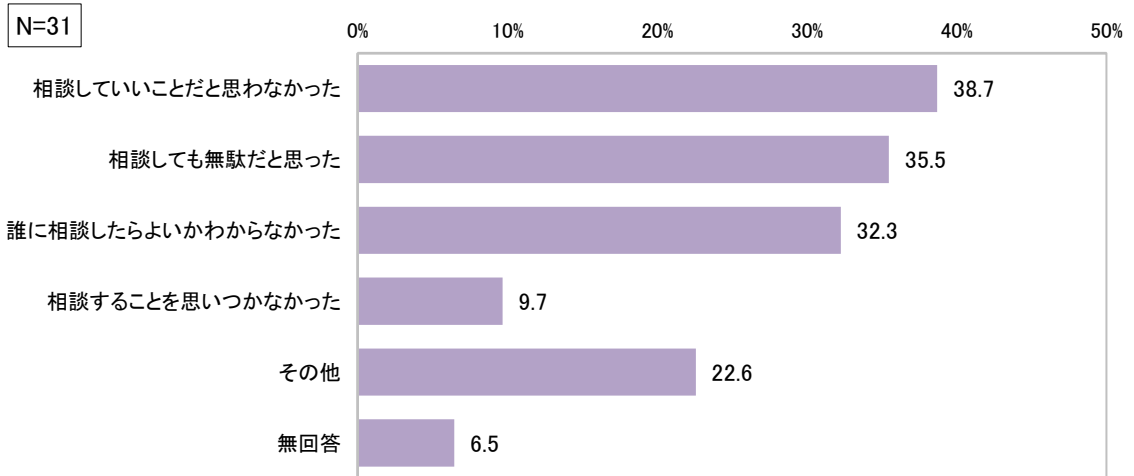
N=129



▶【問28-3で「2 相談しなかった」を選んだ方だけお答えください】
問28-5 誰にも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

- ✓ 望まない妊娠について、「相談しなかった」と回答した31人に、相談しなかった理由をたずねた。
- ✓ 「相談していいことだと思わなかった」（38.7%）が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」（35.5%）、「誰に相談したらよいかわからなかった」（32.3%）の順となっている。

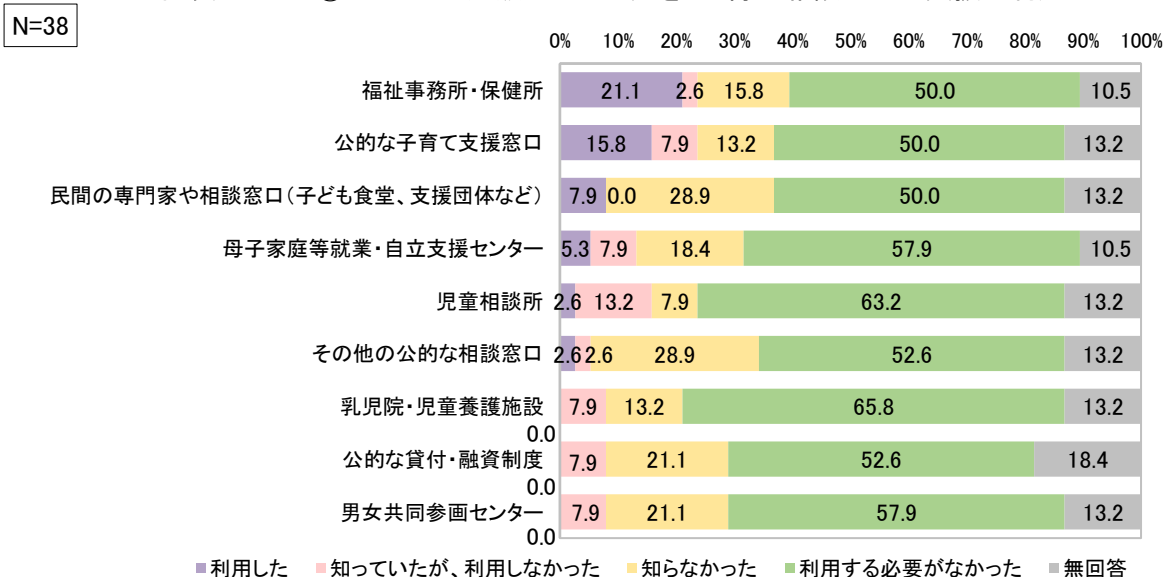
図表Ⅱ-6-4-⑥ 望まない妊娠について相談しなかった理由【複数回答】



▶【問28で「1 望まない妊娠からの出産をしたことがある」を選んだ方だけお答えください】
問28-6 出産後、次のような相談窓口や支援を利用したことがありますか。
(ア)～(コ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ1つ）

- ✓ 望まない妊娠からの出産をしたことがある38人に、相談窓口や支援の利用についてたずねた。
- ✓ 利用したものの上位は、「福祉事務所・保健所」（21.1%）、「公的な子育て支援窓口」（15.8%）。

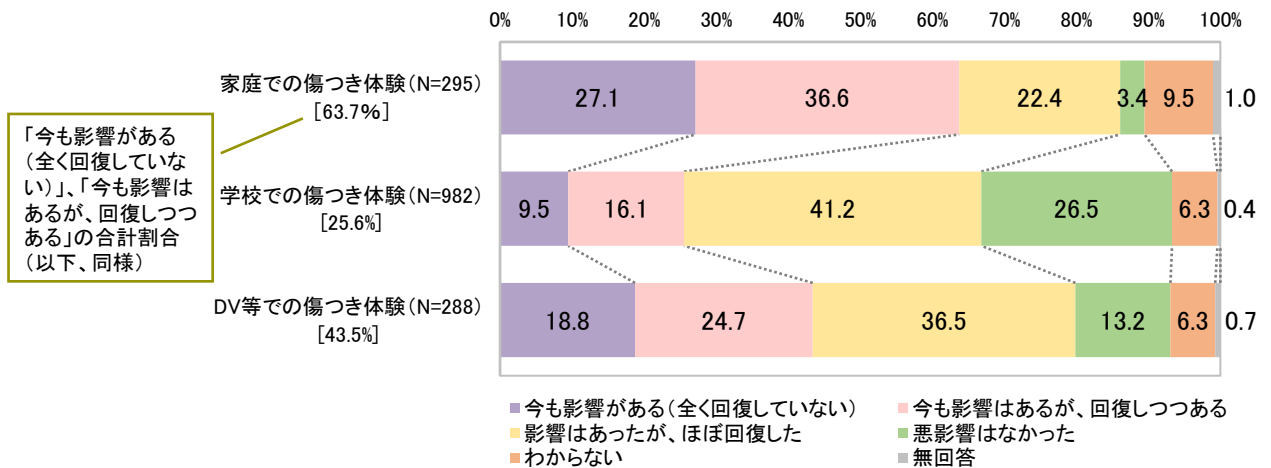
図表Ⅱ-6-4-⑦ 望まない妊娠からの出産をした際の相談窓口や支援の利用



5 過去の傷つき体験からの回復度の比較

- ✓ 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験、学校での傷つき体験、DV等での傷つき体験の3つについて、今に続く影響と回復度を比較した。
- ✓ [今も影響がある] の割合は家庭での傷つき体験で突出して高く（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）、全く回復していない人も他の傷つき体験より高い。

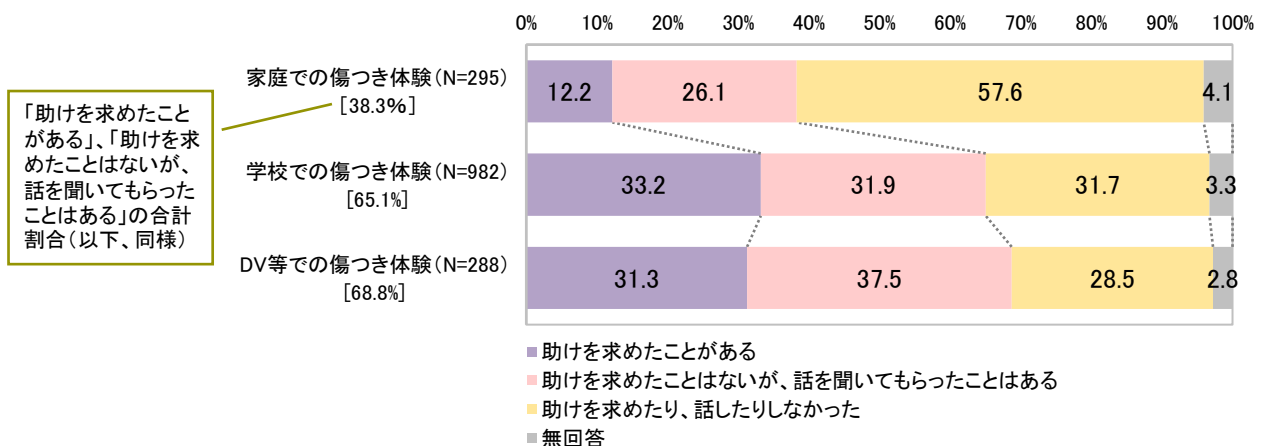
図表 II-6-5 過去の傷つき体験別回復度の比較



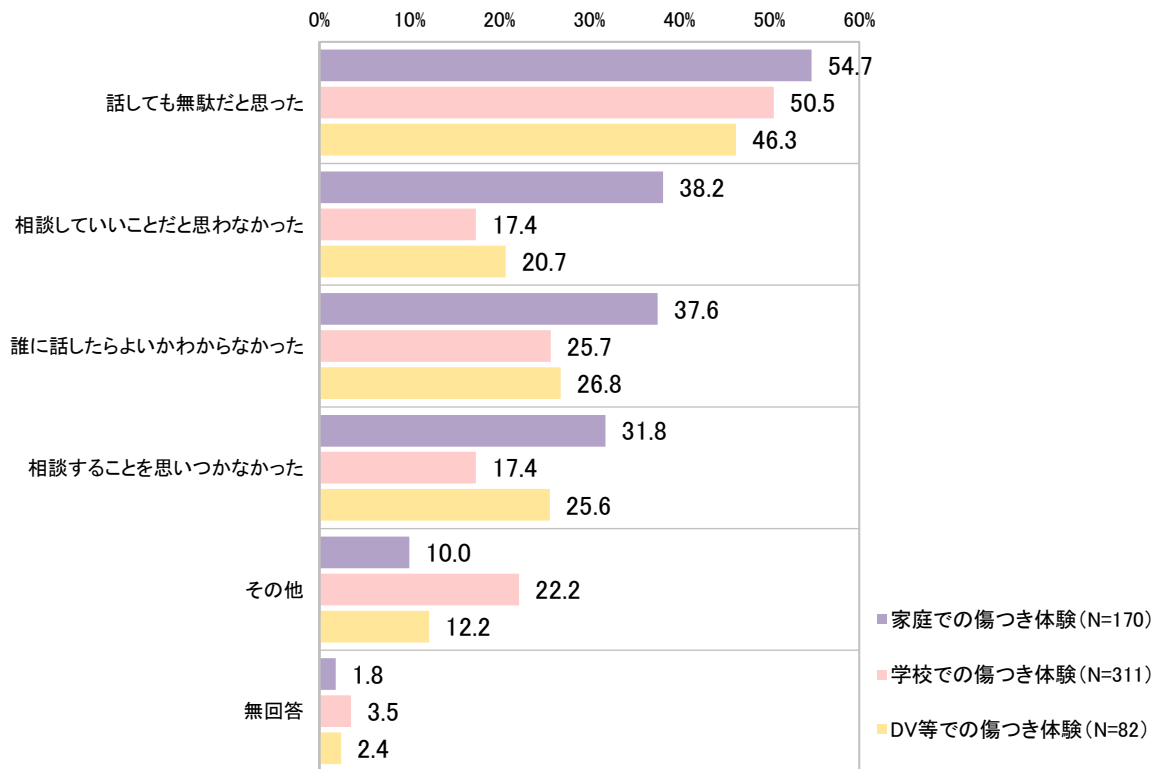
6 過去の傷つき体験の相談行動の比較

- ✓ 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験、学校での傷つき体験、DV等での傷つき体験の3つについて、相談行動を比較した。
- ✓ 「助けを求めたり、話したりしなかった」の割合は家庭での傷つき体験で突出して高く、その理由として「相談していいことだと思わなかった」の割合も他の傷つき体験より高い。
- ✓ 前述 (P30) のとおり、家庭での傷つき体験は相談しづらく、被害を認識しにくい状況が推察される。

図表 II-6-6-① 過去の傷つき体験別相談行動の比較



図表Ⅱ-6-6-② 過去の傷つき体験別相談しなかった理由の比較



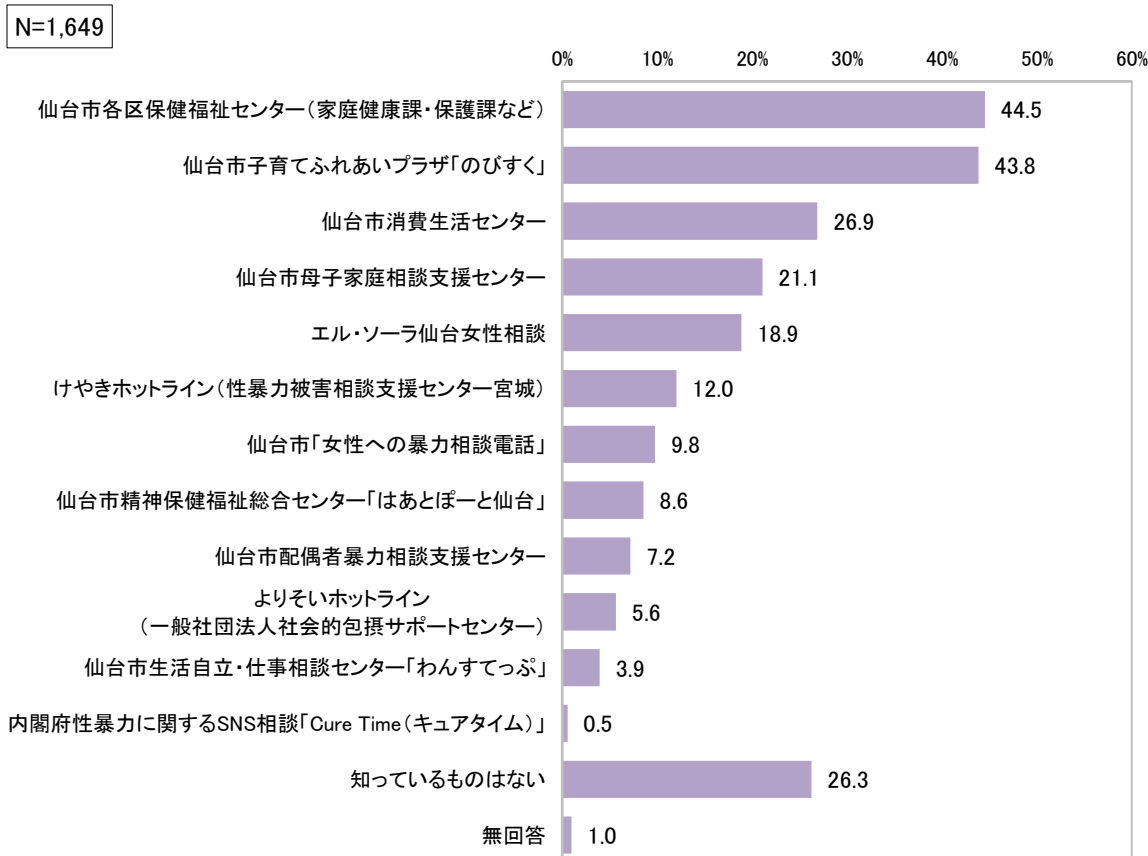
第7章 女性に対するサポートなどについて

1 相談窓口の認知度

問29 次の相談窓口で知っているものはありますか。（○はいくつでも）

- ✓ 知っている相談窓口として上位に挙げられたのは、「仙台市各区保健福祉センター」（44.5%）、「仙台市子育てふれあいプラザ『のびすく』」（43.8%）、「仙台市消費生活センター」（26.9%）。「知っているものはない」の割合は26.3%。
- ✓ 「令和元年度 仙台市 男女共同参画社会に関する市民意識調査」（仙台市・（公財）せんだい男女共同参画財団）では、各種相談窓口を「知っている」の割合は「エル・ソーラ仙台女性相談」で41.7%、「仙台市『女性への暴力相談電話』」で48.2%、「仙台市配偶者暴力相談支援センター」で46.1%となっている（「名称も内容も知っている」と「名称は知っているが内容は知らない」の合計割合／18歳～79歳の男女の結果）。質問の仕方や調査対象が違うため、単純な比較はできないが、若年女性に相談窓口の存在は十分に認知されていない。

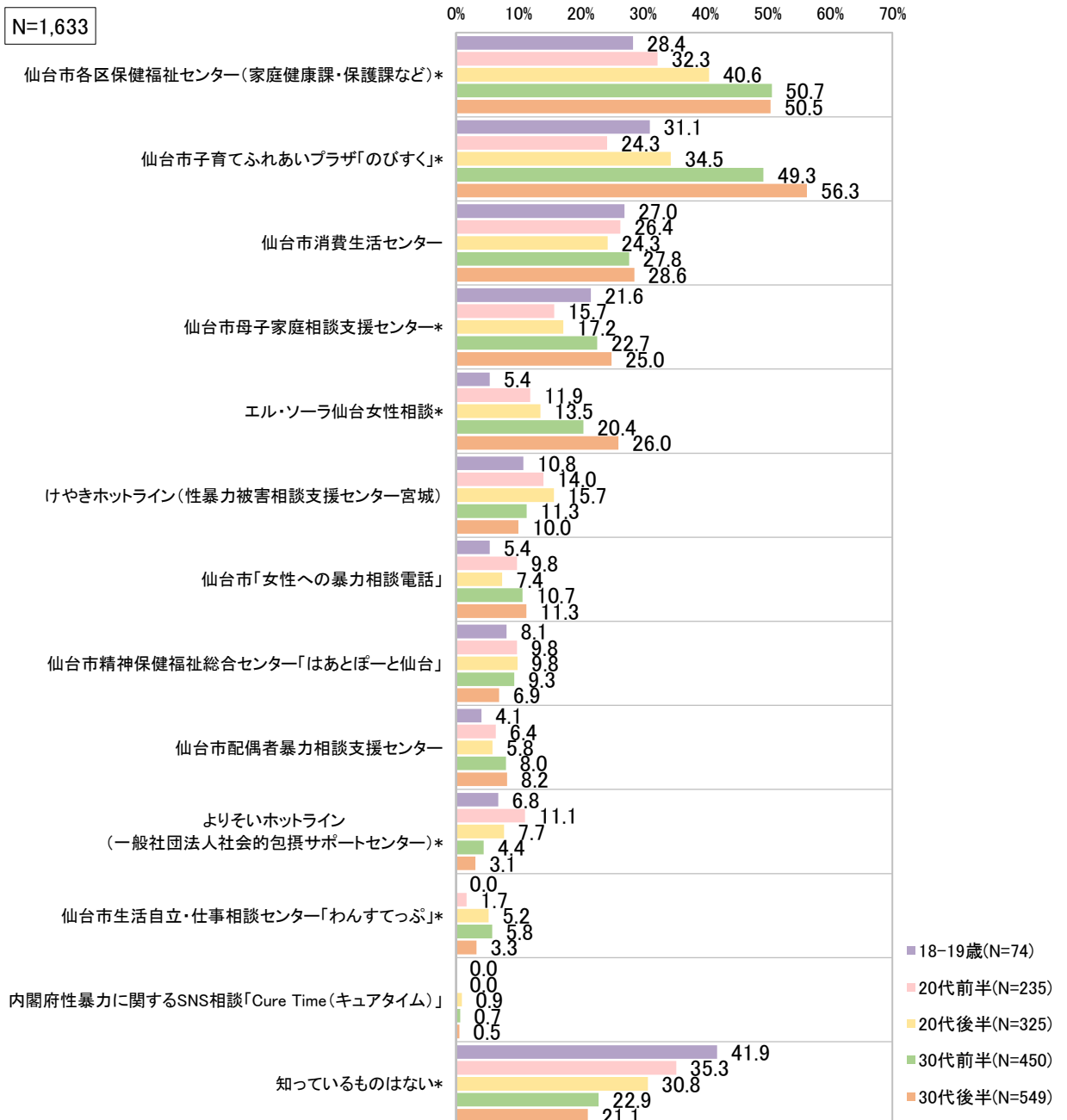
図表Ⅱ-7-1-① 相談窓口の認知度【複数回答】



【相談窓口の認知度／年代別】

- ✓ 各種相談窓口のうち「仙台市各区保健福祉センター」、「仙台市子育てふれあいプラザ『のびすく』」、「仙台市母子家庭相談支援センター」、「エル・ソーラ仙台女性相談」、「よりそいホットライン」、「仙台市生活自立・仕事相談センター『わんすてっぷ』」の6項目と、「知っているものはない」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 相談窓口の認知度は概ね年代が上がるにつれて高くなっており、「仙台市各区保健福祉センター」、「仙台市子育てふれあいプラザ『のびすく』」、「仙台市母子家庭相談支援センター」、「エル・ソーラ仙台女性相談」といった子育てや女性支援に関連する窓口において、その傾向が顕著である。
- ✓ 20代前半は「よりそいホットライン」の認知度が他の年代より高い。
- ✓ 若年層ほど「知っているものはない」と回答する割合が高い。

図表Ⅱ-7-1-② 相談窓口の認知度一年代別【複数回答】

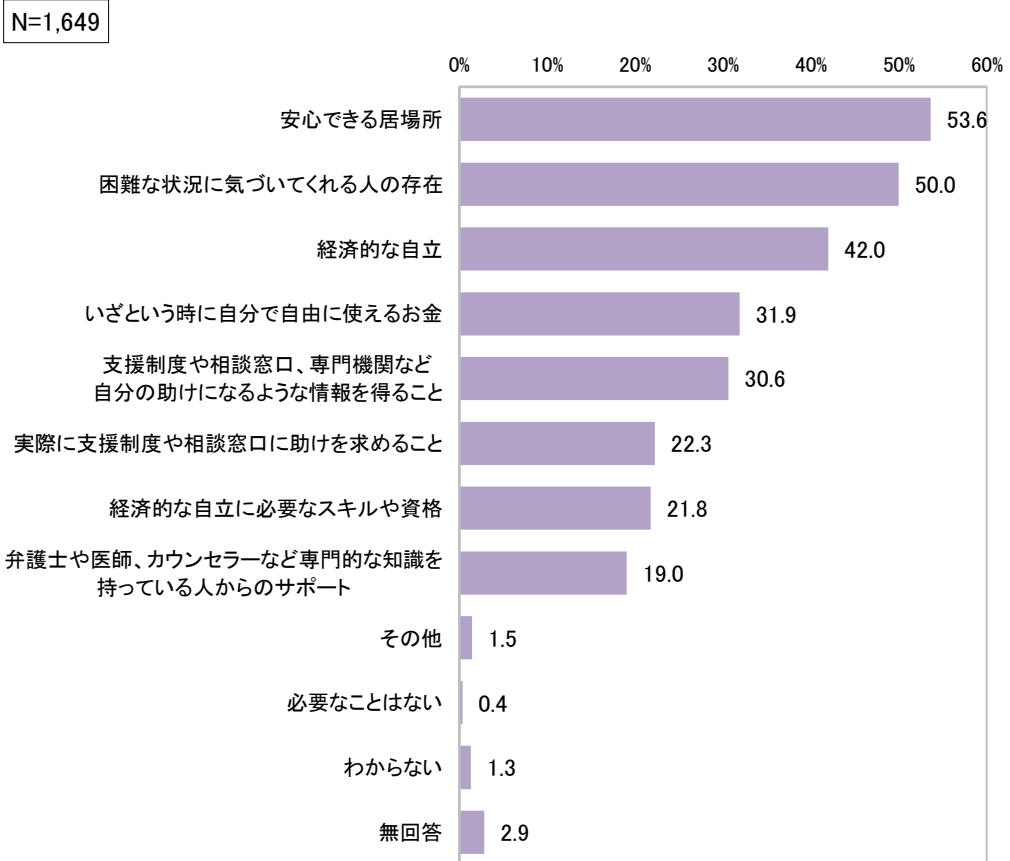


2 困難な状況から回復するために必要なこと

問30 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

- ✓ 女性が困難な状況から回復するために必要なことの上位は「安心できる居場所」(53.6%)、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」(50.0%)、「経済的な自立」(42.0%)。
- ✓ 「居場所」や「人」といった日常の環境や人間関係が回復のために必要と考えている人が多い。

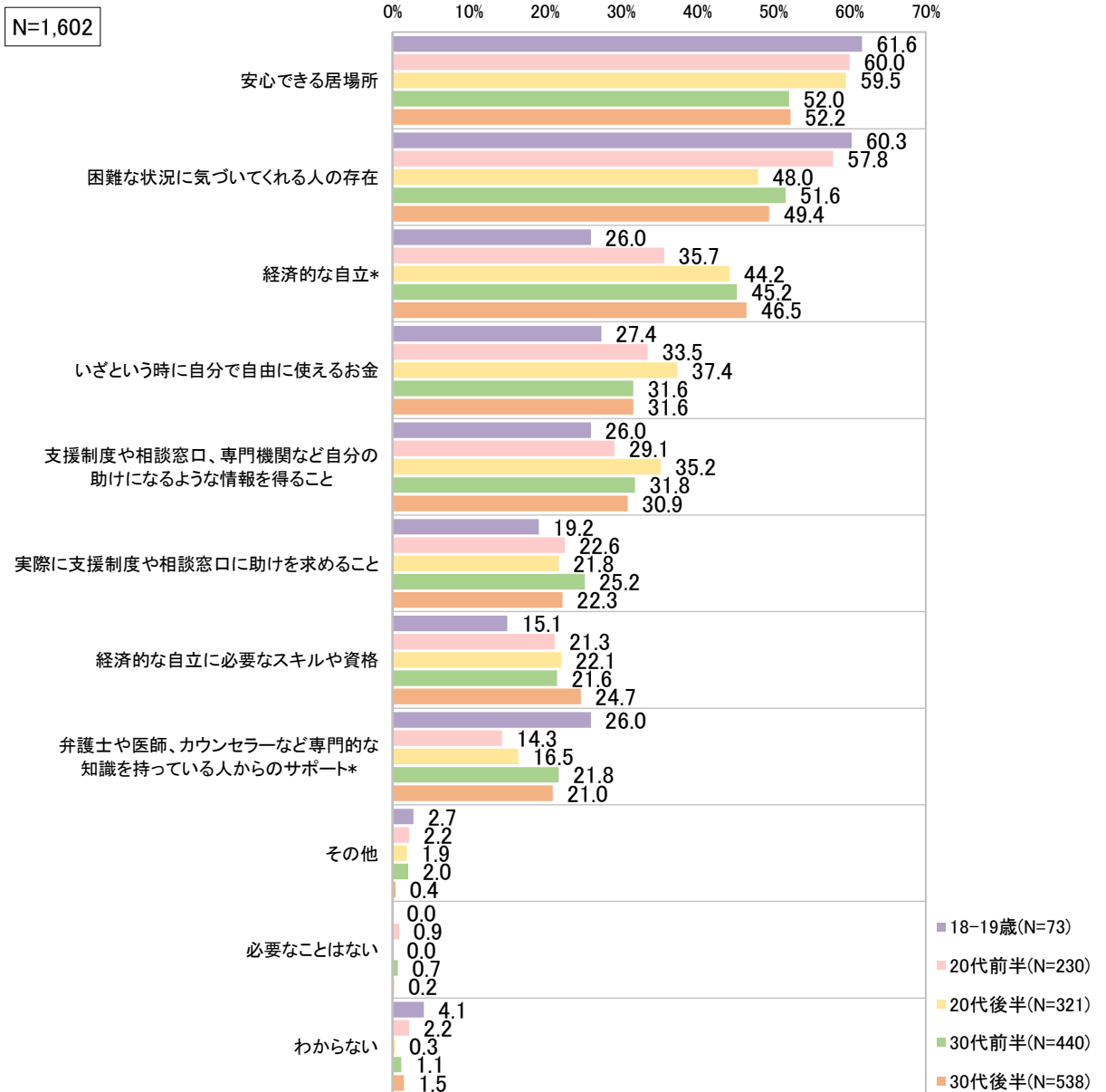
図表Ⅱ-7-2-① 女性が困難な状況から回復するために必要なこと【複数回答(3つまで)】



【女性が困難な状況から回復するために必要なこと／年代別】

- ✓ 女性が困難な状況から回復するために必要なことについて、「経済的な自立」、「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 年代が上がるほど、「経済的な自立」と回答する割合が高い。
- ✓ 18-19歳は「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」と回答する割合が他の年代より高い。

図表Ⅱ-7-2-② 女性が困難な状況から回復するために必要なこと一年代別【複数回答(3つまで)】



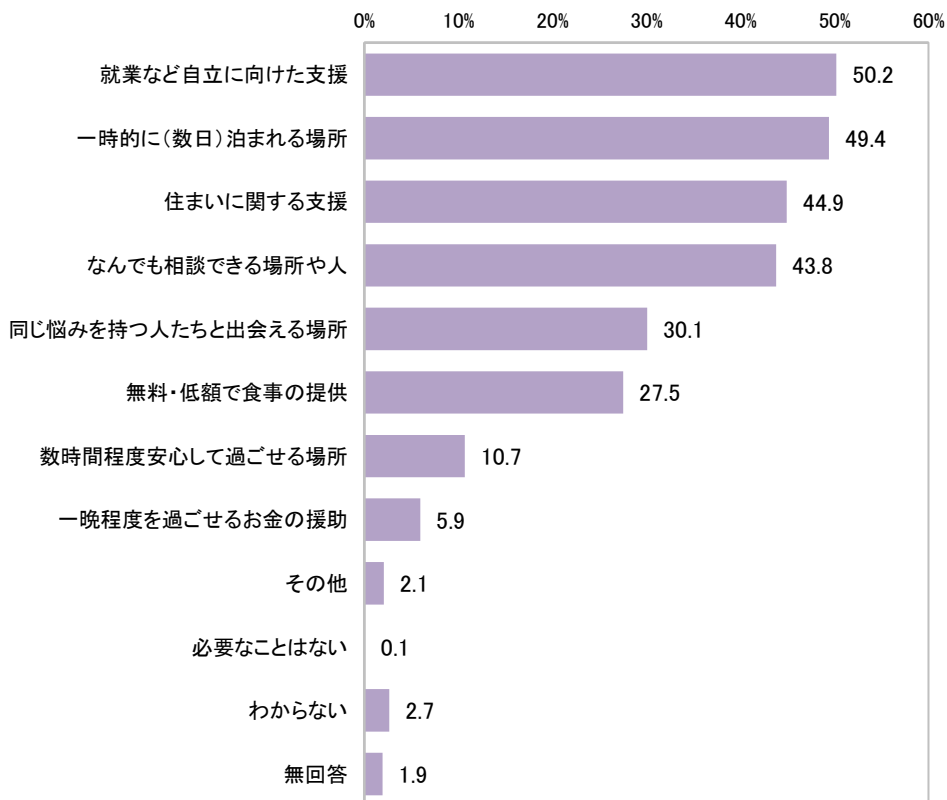
3 家に居場所がない女性たちに必要なサポート

問31 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあるといいと思いますか。（特に必要だと思うものを3つまで○）

- ✓ 家に居場所がない女性たちに必要なサポートの上位は「就業など自立に向けた支援」（50.2%）、「一時的に（数日）泊まれる場所」（49.4%）、「住まいに関する支援」（44.9%）、「なんでも相談できる場所や人」（43.8%）。

図表Ⅱ-7-3-① 家に居場所がない女性たちに必要なサポート【複数回答(3つまで)】

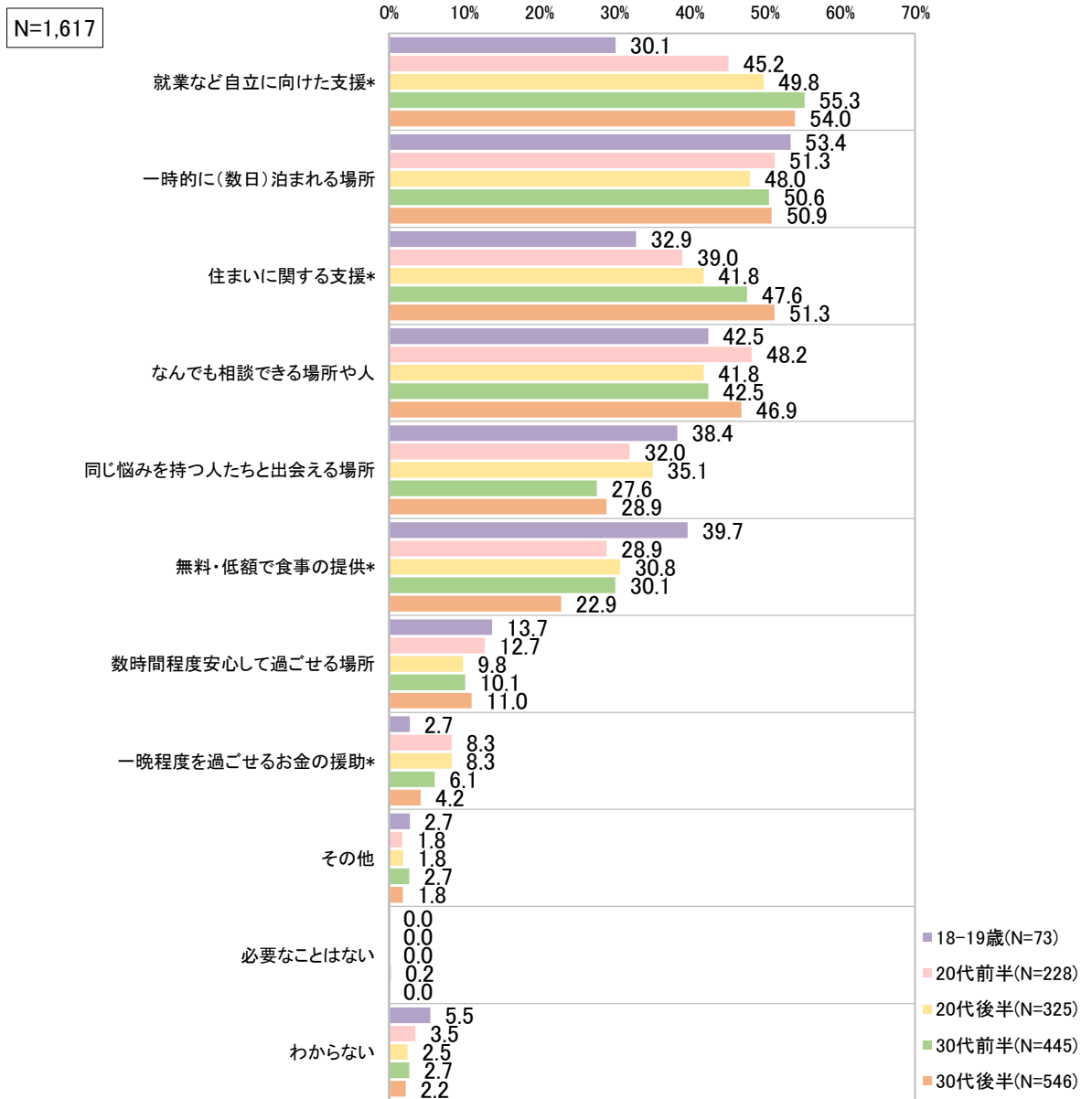
N=1,649



【家に居場所がない女性たちに必要なサポート／年代別】

- ✓ 家に居場所がない女性たちに必要なサポートについて、「就業など自立に向けた支援」、「住まいに関する支援」、「無料・低額で食事の提供」、「一晩程度を過ごせるお金の援助」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 年代が上がるほど、「就業など自立に向けた支援」、「住まいに関する支援」と回答する割合が高い。
- ✓ 18-19歳は「無料・低額で食事の提供」と回答する割合が他の年代より高い。

図表Ⅱ-7-3-② 家に居場所がない女性たちに必要なサポート—年代別【複数回答(3つまで)】

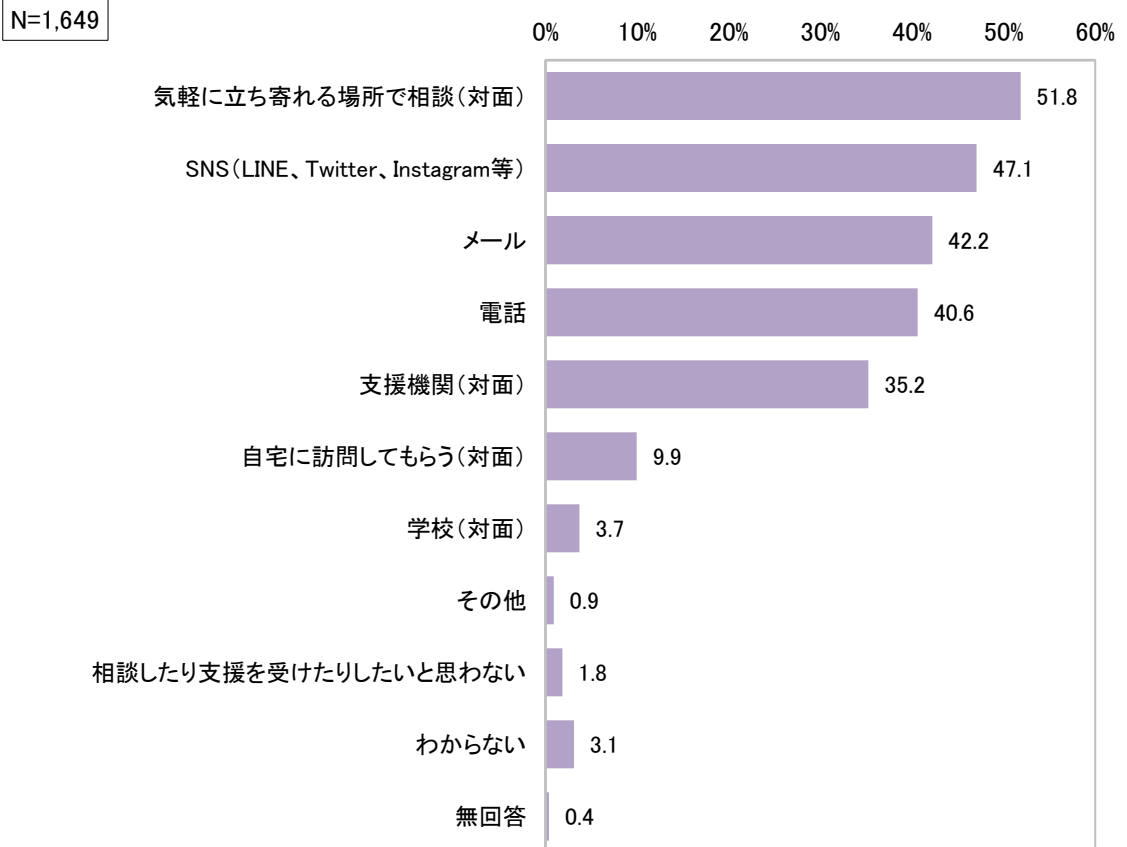


4 希望する相談の形

問32 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。
(〇はいくつでも)

- ✓ 希望する相談の形の上位は、「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」(51.8%)、「SNS」(47.1%)、「メール」(42.2%)、「電話」(40.6%)。
- ✓ 支援機関に相談に行くよりも、普段立ち寄る場所や、SNS・メール・電話で話を聞いてもらいたいと考えている人が多い。

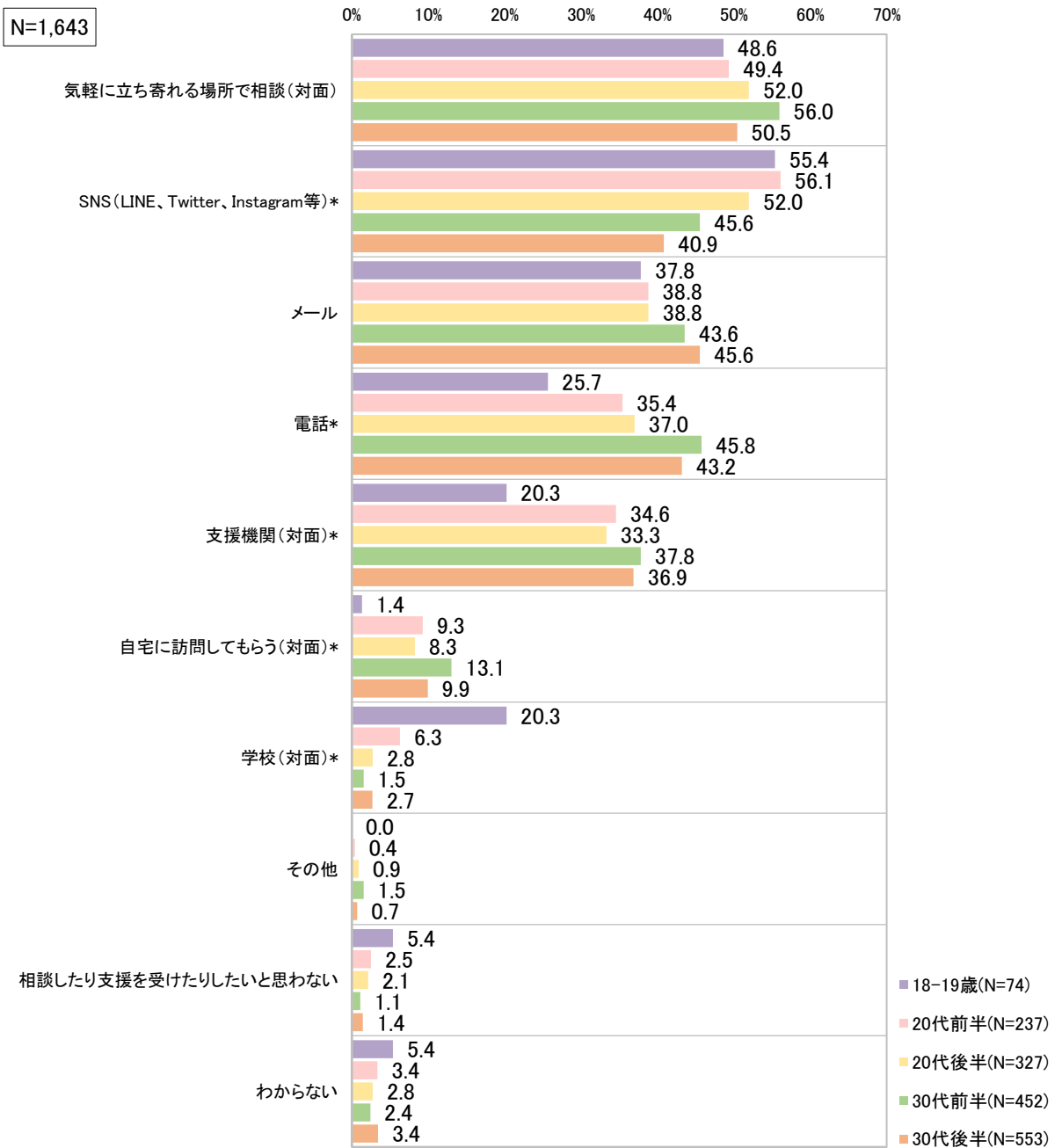
図表Ⅱ-7-4-① 希望する相談の形【複数回答】



【希望する相談の形／年代別】

- ✓ 希望する相談の形について、「SNS」、「電話」、「支援機関（対面）」、「自宅に訪問してもらう（対面）」、「学校（対面）」で年代との有意な関連が認められた。
- ✓ 若年層ほど「SNS」と回答する割合が高く、年代が上がるほど「電話」、「支援機関（対面）」と回答する割合が高い。
- ✓ 18-19歳は「学校（対面）」と回答する割合が他の年代より突出して高い。

図表Ⅱ-7-4-② 希望する相談の形—年代別【複数回答】



第III部 アンケート詳細分析

第II部で示したとおり、仙台市内の若年女性には、困りごとに直面していたり、心の健康状態が悪かったり、過去の傷つき体験の悪影響を受けていたり、様々な困難を抱えている人が少なくない。第III部では、現在困難を抱えている人の状況や背景を詳しく分析する。

第1章 現在、困難を抱えている人について

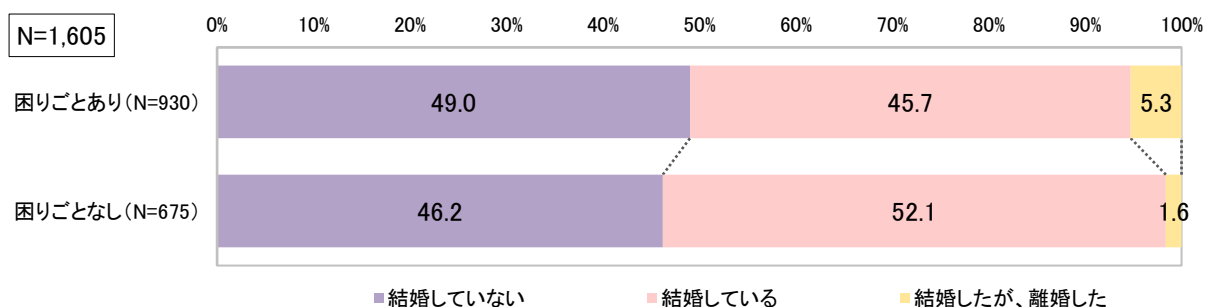
本章では、「現在、困難を抱えている人」を、問8の設定で何らかの困りごとがあると回答した人と定義。[現在、困りごとがある]グループと、「あてはまるものはない」と回答した[現在、困りごとはない]グループに分けて比較し、困難を抱えている人の現在および過去の状況を分析する。

1 現在の状況

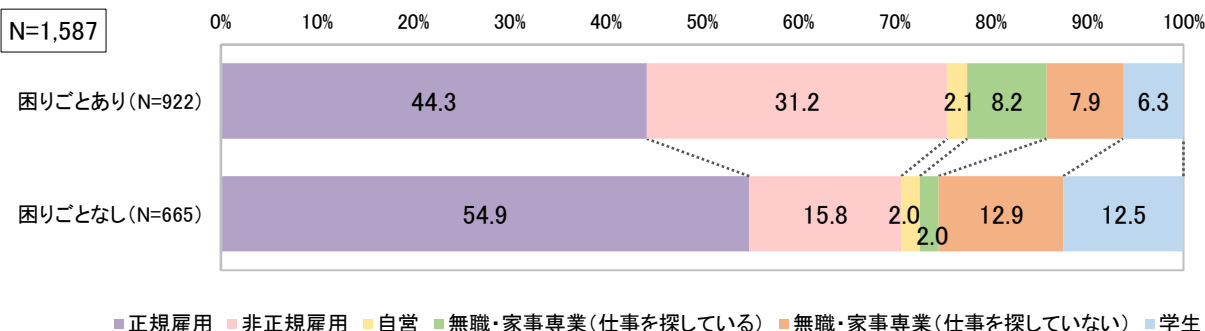
(1) 属性

- ✓ 現在困りごとがある人は、「結婚していない」の割合が49.0%で、困りごとがない人（46.2%）に比べてやや高い。また、「結婚したが、離婚した」の割合が5.3%で、困りごとがない人（1.6%）の3倍超の値になっている。あわせると54.3%（困りごとがない人では47.8%）で、シングル女性が、より困りごとがある傾向がある。
- ✓ 現在困りごとがある人は、現在の働き方として「非正規雇用」の割合が31.2%で、困りごとがない人（15.8%）の約2倍の値になっている。また、「無職・家事専業（仕事を探している）」の割合が8.2%で、困りごとがない人（2.0%）の4倍超の値になっている。
- ✓ 現在困りごとがある人の短大卒以上の割合は47.5%。困りごとがない人（61.6%）より低い。

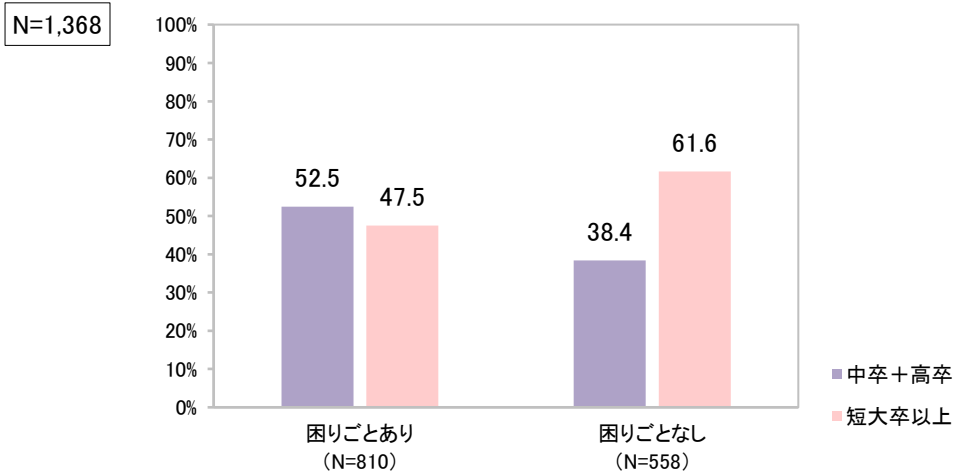
図表Ⅲ-1-1-(1)-① 現在の困りごとの有無と結婚状況



図表Ⅲ-1-1-(1)-② 現在の困りごとの有無と現在の働き方



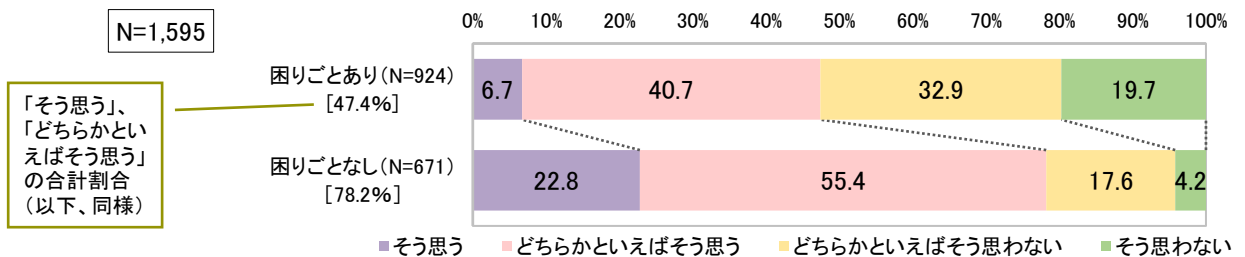
図表Ⅲ-1-1-(1)-③ 現在の困りごとの有無と最終学歴(既卒のみ)



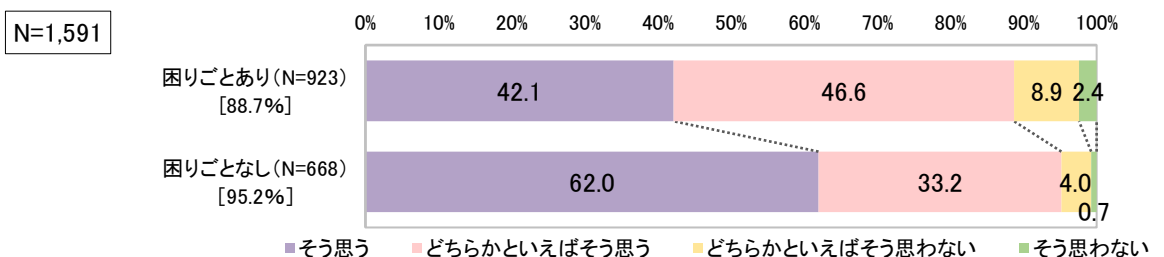
(2) 自己肯定感・生きづらさ

- ✓ 困りごとがある人は、現在の自分への満足度が低い傾向がある。「だいたいにおいて、自分に満足している」の項目について [そう思う] と回答した人は、困りごとがある人は47.4%で、困りごとがない人 (78.2%) より30.8ポイント低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 困りごとがある人は、受援力が低い傾向がある。「困った時は人に助けを求めてもいい」の項目について [そう思う] と回答した人は、困りごとがある人は88.7%で、困りごとがない人 (95.2%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 困りごとがある人は、自己決定意識が低い傾向がある。「自分のことは自分が決めていいと思う」の項目について [そう思う] と回答した人は、困りごとがある人は93.4%で、困りごとがない人 (97.8%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 困りごとがある人は、生きづらさを感じている割合が高い。「なんとなく、生きづらさを感じる」の項目について [そう思う] と回答した人は、困りごとがある人は69.0%で、困りごとがない人 (29.3%) の2倍強の値となっている (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。

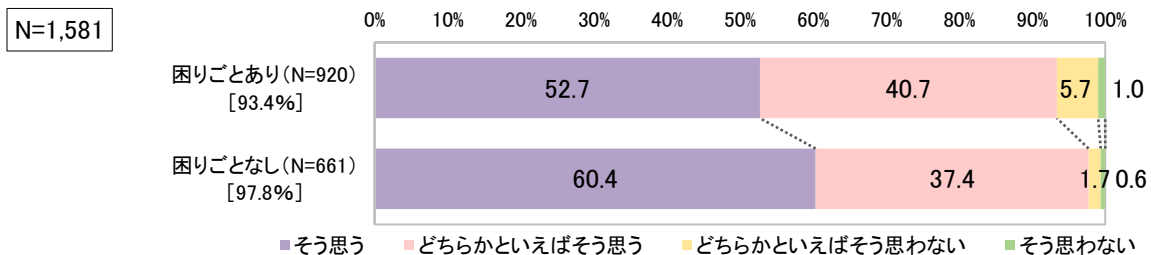
図表Ⅲ-1-1-(2)-① 現在の困りごとの有無と自己肯定感/だいたいにおいて、自分に満足している



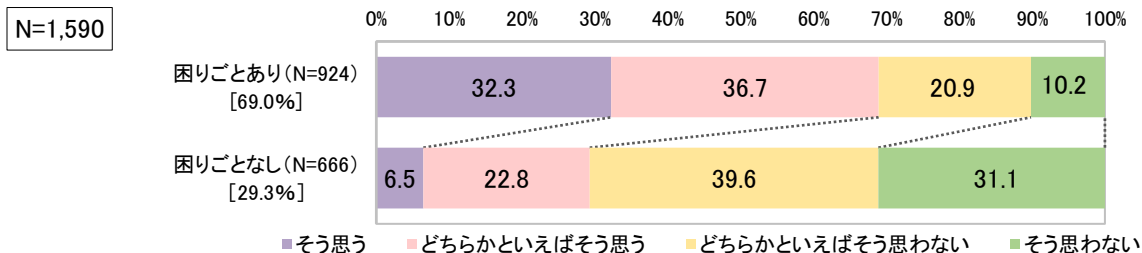
図表Ⅲ-1-1-(2)-② 現在の困りごとの有無と受援力/困った時は人に助けを求めてもいい



図表Ⅲ-1-1-(2)-③ 現在の困りごとの有無と自己決定意識／自分のことは自分が決めていいと思う



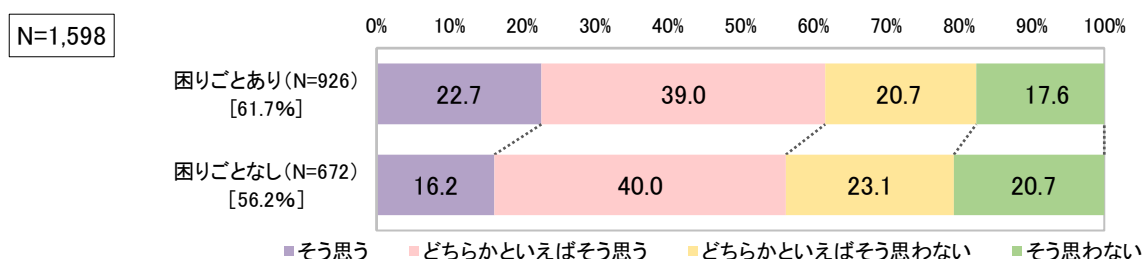
図表Ⅲ-1-1-(2)-④ 現在の困りごとの有無と生きづらさ／なんとなく、生きづらさを感じる



(3) ジェンダー観

✓ 「交際相手や結婚相手は、自分以上の収入があるべきだ」の項目について [そう思う] と回答した人は、現在困りごとがある人で61.7%で、困りごとがない人（56.2%）より高い傾向がある（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。非正規雇用や求職中の割合が高いことから、経済的な苦しさが影響している可能性がある。

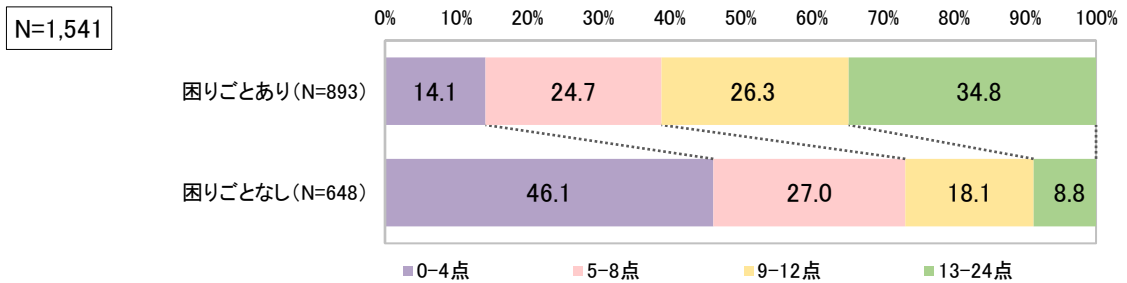
図表Ⅲ-1-1-(3) 現在の困りごとの有無とジェンダー観
／交際相手や結婚相手は、自分以上の収入があるべきだ



(4) 心の健康状態（メンタルヘルス）

- ✓ 現在困りごとがある人は、困りごとがない人に比べ、心の健康状態（メンタルヘルス）が悪い傾向がある。
- ✓ メンタルヘルスを測定する尺度であるK6得点について比較すると、困りごとがある人は、精神的不調の度合いが「中程度」（9～12点）の割合が26.3%で、困りごとがない人（18.1%）より高い。「重度」（13点以上）の割合は34.8%で、困りごとがない人（8.8%）の約4倍の値となっている。

図表Ⅲ-1-1-(4) 現在の困りごとの有無とK6得点の分布

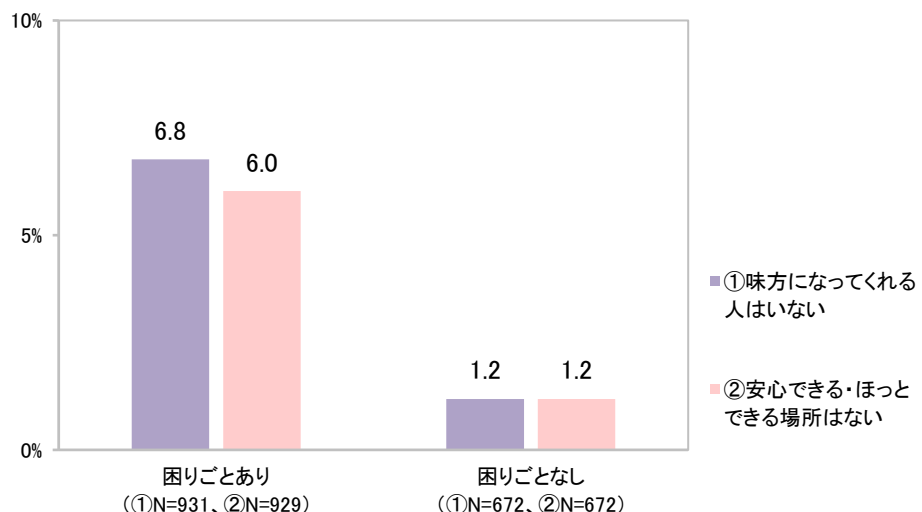


(5) 人間関係

- ✓ 現在困りごとがある人は、味方になってくれる人や安心できる場所・ほっとできる場所がなく、孤立・孤独のリスクが高くなっている。
- ✓ 現在の人間関係について、「大変な時や重大な決断をする時に、味方になってくれる人はいるか」、「安心できる場所、ほっとできる場所はあるか」をそれぞれたずねたところ、現在困りごとがある人は「味方になってくれる人はいない」と回答した割合が6.8%、「安心できる・ほっとできる場所はない」と回答した割合が6.0%。
- ✓ 困りごとがない人と比較すると、困りごとがある人の「味方になってくれる人はいない」の割合は6倍弱、「安心できる・ほっとできる場所はない」の割合は5倍の値になっている。

図表Ⅲ-1-1-(5) 現在の困りごとの有無と味方・安心できる場所

- ①味方になってくれる人はいない(N=1,603)
- ②安心できる・ほっとできる場所はない(N=1,601)

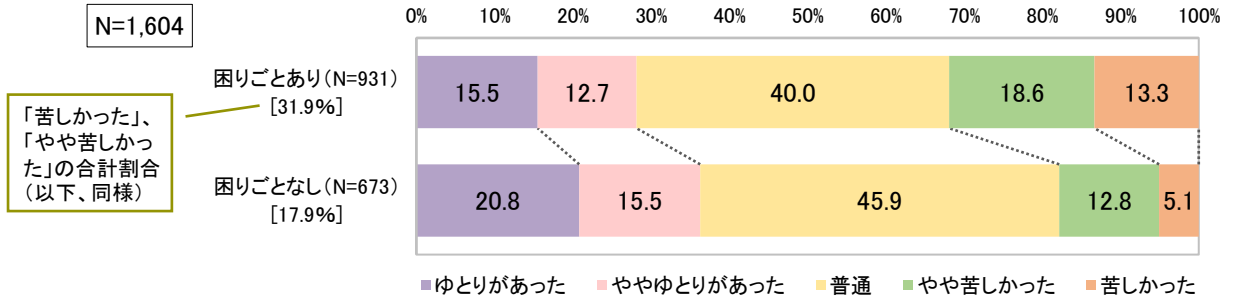


2 過去の状況

(1) 15歳当時の暮らし向き

- ✓ 現在困りごとがある人は、15歳当時の暮らし向きが苦しかった傾向がある。15歳当時の暮らし向きについて、「苦しかった」と回答した人の割合は、現在困りごとがある人は31.9%で、困りごとがない人（17.9%）の2倍弱の値となっている（「苦しかった」と「やや苦しかった」の合計割合）。

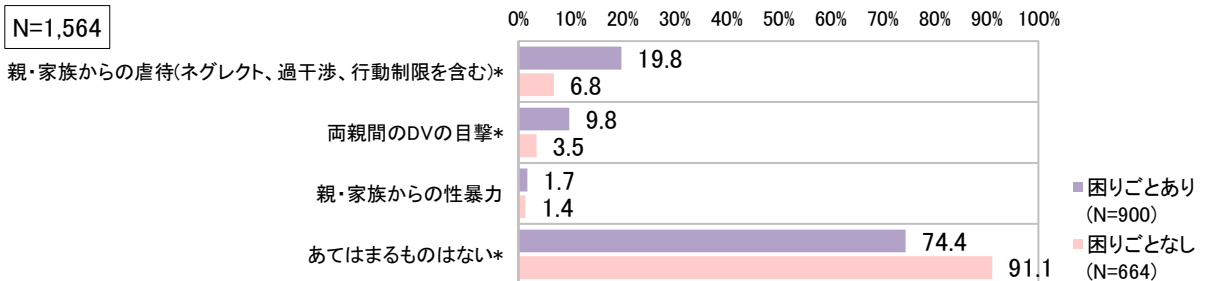
図表Ⅲ-1-2-(1) 現在の困りごとの有無と15歳当時の暮らし向き



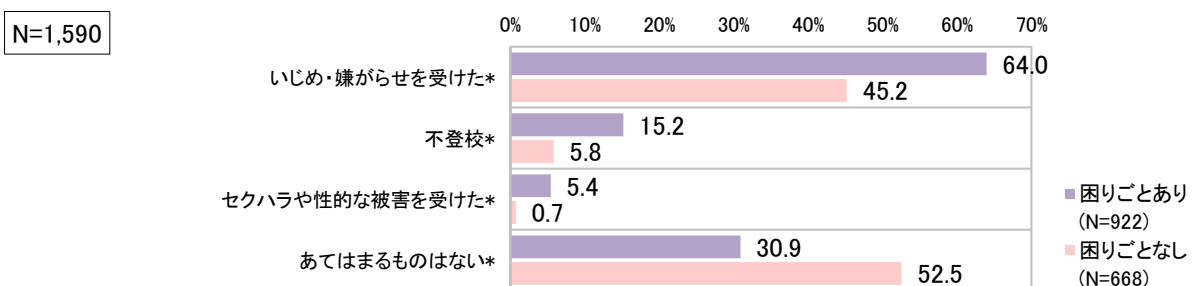
(2) 家庭、学校、DVや性暴力等、望まない妊娠の傷つき体験とその影響

- ✓ 現在困りごとがある人は、困りごとがない人に比べて、子ども時代を過ごした家庭での「親・家族からの虐待」や「両親間のDVの目撃」、学校での「いじめ・嫌がらせ」、「不登校」、「セクハラや性的な被害」、また、「DV」、「デートDV」、「性暴力」、「望まない妊娠」などの傷つき体験がある割合が高い。
- ✓ 学校での傷つき体験からの回復度、DVや性暴力被害からの回復度、望まない妊娠からの回復度をみると、現在困りごとがある人は「今も影響がある」の割合が、困りごとがない人より高い（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。

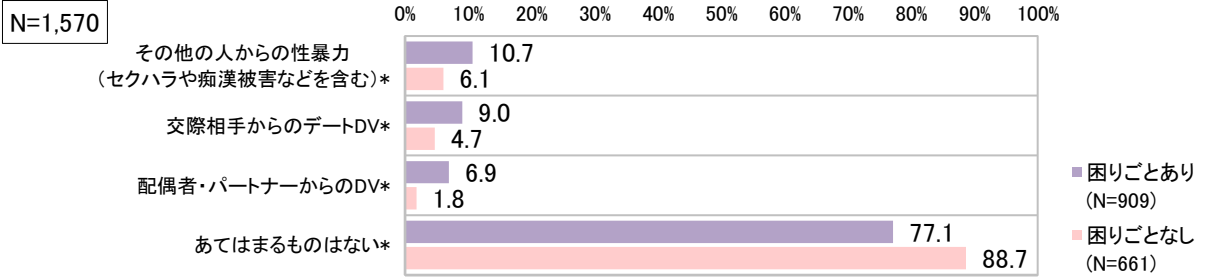
図表Ⅲ-1-2-(2)-① 現在の困りごとの有無と家庭での傷つき体験【複数回答】



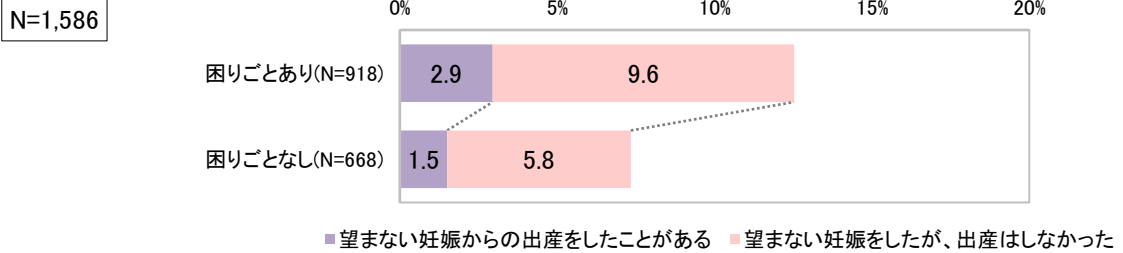
図表Ⅲ-1-2-(2)-② 現在の困りごとの有無と学校での傷つき体験【複数回答】



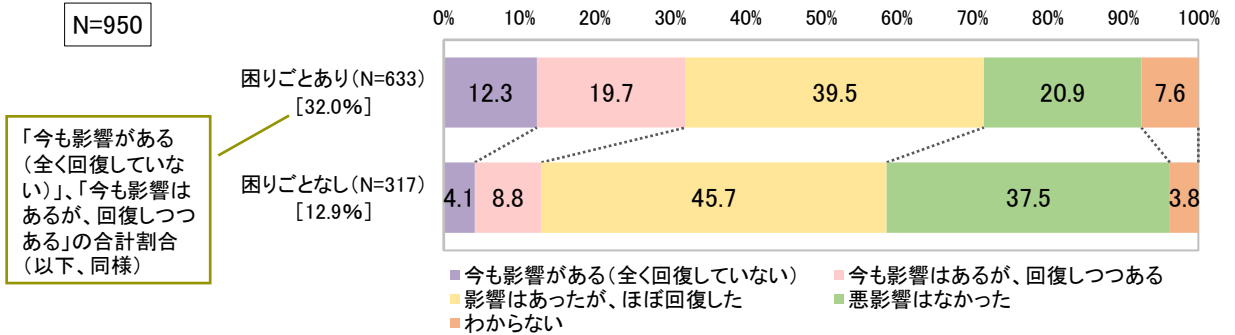
図表Ⅲ-1-2-(2)-③ 現在の困りごとの有無とDV等での傷つき体験【複数回答】



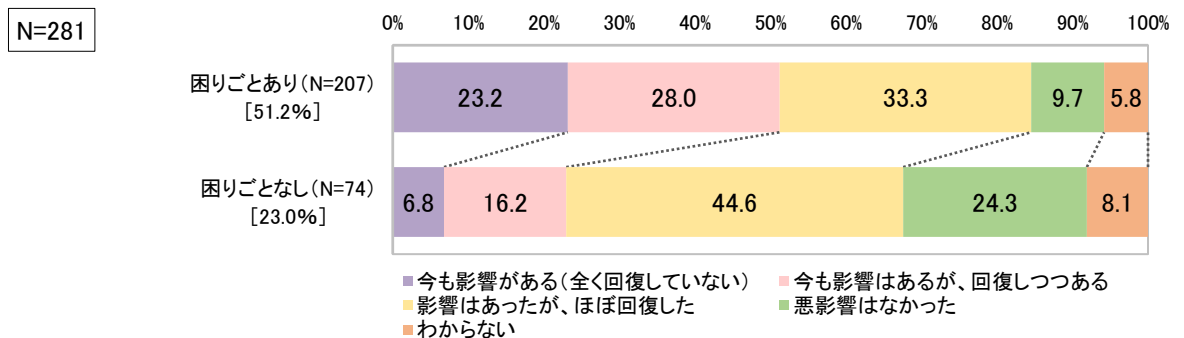
図表Ⅲ-1-2-(2)-④ 現在の困りごとの有無と望まない妊娠の経験



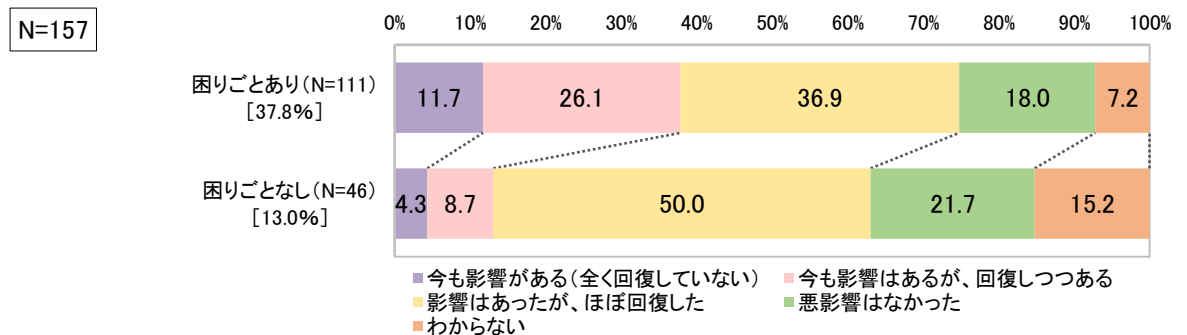
図表Ⅲ-1-2-(2)-⑤ 現在の困りごとの有無と学校での傷つき体験からの回復度



図表Ⅲ-1-2-(2)-⑥ 現在の困りごとの有無とDV等での傷つき体験からの回復度



図表Ⅲ-1-2-(2)-⑦ 現在の困りごとの有無と望まない妊娠からの回復度



▶ 第Ⅲ部第1章のまとめ



本章では、現在困りごとがある人と困りごとがない人で、どのような違いがあるかを分析した。現在困りごとがある人は、困りごとがない人に比べて非正規雇用や求職中の無職・家事専業である割合が高く、学歴が短大卒以上の割合が低い傾向がみられた。自己肯定感や受援力が低い一方、メンタルヘルスの問題を抱えている割合、味方や安心できる場所がない人の割合は高い。過去の状況をみると、15歳当時の暮らし向きが苦しく、子ども時代を過ごした家庭や学校での傷つき体験、DV・性暴力被害、望まない妊娠を体験した人も多く、今でも悪影響を受けている傾向がみられた。

ここでは詳述しないが、「現在、困難を抱えている人」の別の要素として経済的貧困に着目し、貧困層（等価世帯年収が貧困線124万円未満）とそれ以外の非貧困層についても比較した結果、概ね同様の傾向がみられた。

「15歳当時の暮らし向きの苦しさ」や「過去の傷つき体験の影響」が現在の困難にそのままつながるわけではないが、困難を抱えるリスクが高い層であることは浮かび上がった。第Ⅲ部第2章、第Ⅲ部第3章で詳しく分析する。

第2章 困難の背景にある15歳当時の暮らし向き

第III部第1章で示したとおり、現在、困難を抱えている人は、15歳当時の暮らし向きが苦しかった割合が高いことが分かった。本章では、15歳当時の暮らし向きについて「苦しかった」と回答したグループ（「苦しかった」と「やや苦しかった」の合計）と、それ以外のグループ（「ゆとりがあった」と「ややゆとりがあった」と「普通」の合計）に分けて違いを比較し、15歳当時の暮らし向きが及ぼす影響を分析する。

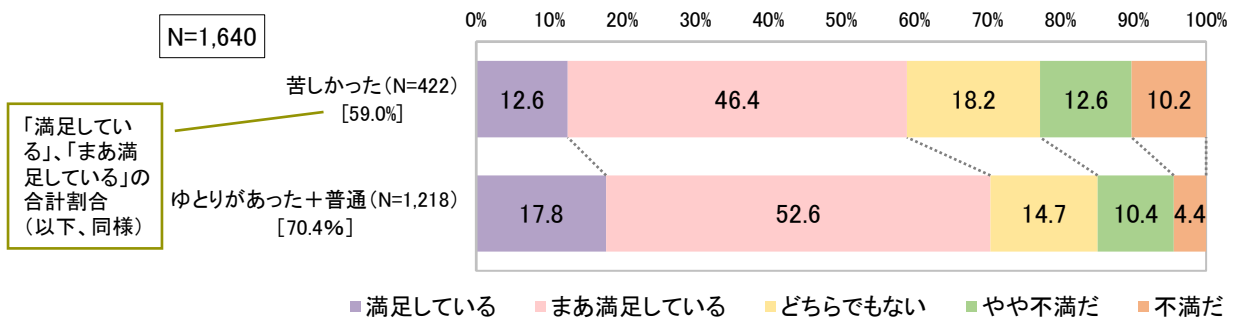
1 現在の困難への影響について

15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在も様々な困難を抱える傾向にある。

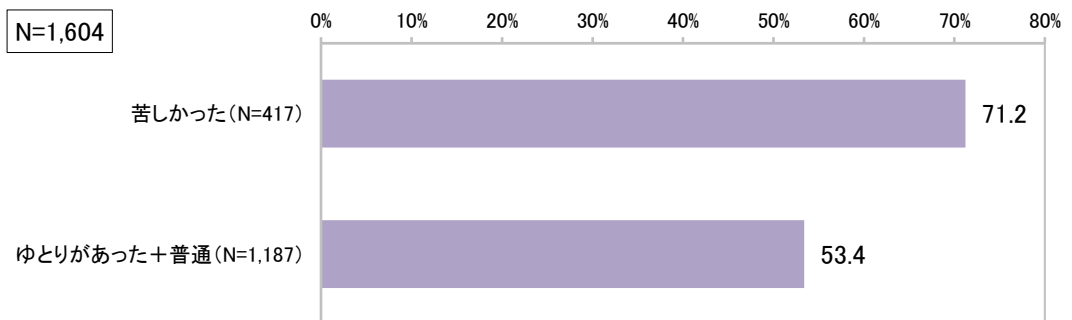
(1) 生活満足度・現在の困りごとへの影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在の生活への満足度が低い傾向がある。15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在の生活に「不満だ」と回答する割合が10.2%で、それ以外の人（4.4%）の2倍強の値となっており、「満足」の割合も59.0%と、それ以外の人（70.4%）より低い（「満足している」と「まあ満足している」の合計）。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人の約7割（71.2%）が何らかの困りごとがあると回答（それ以外の人では53.4%）。「家計が苦しい」の割合は46.3%、「メンタルヘルスの問題を抱えている」の割合は15.6%で、それ以外の人のもそれぞれ約2倍の値となっている。このほか「家事・育児・介護の負担が大きい」、「転職先を探しているが、見つからない」などで有意な関連が認められ、経済的な苦しさやメンタルヘルスなど様々な困りごとを抱えている傾向がある。

図表Ⅲ-2-1-(1)-① 15歳当時の暮らし向きと現在の生活に対する満足度

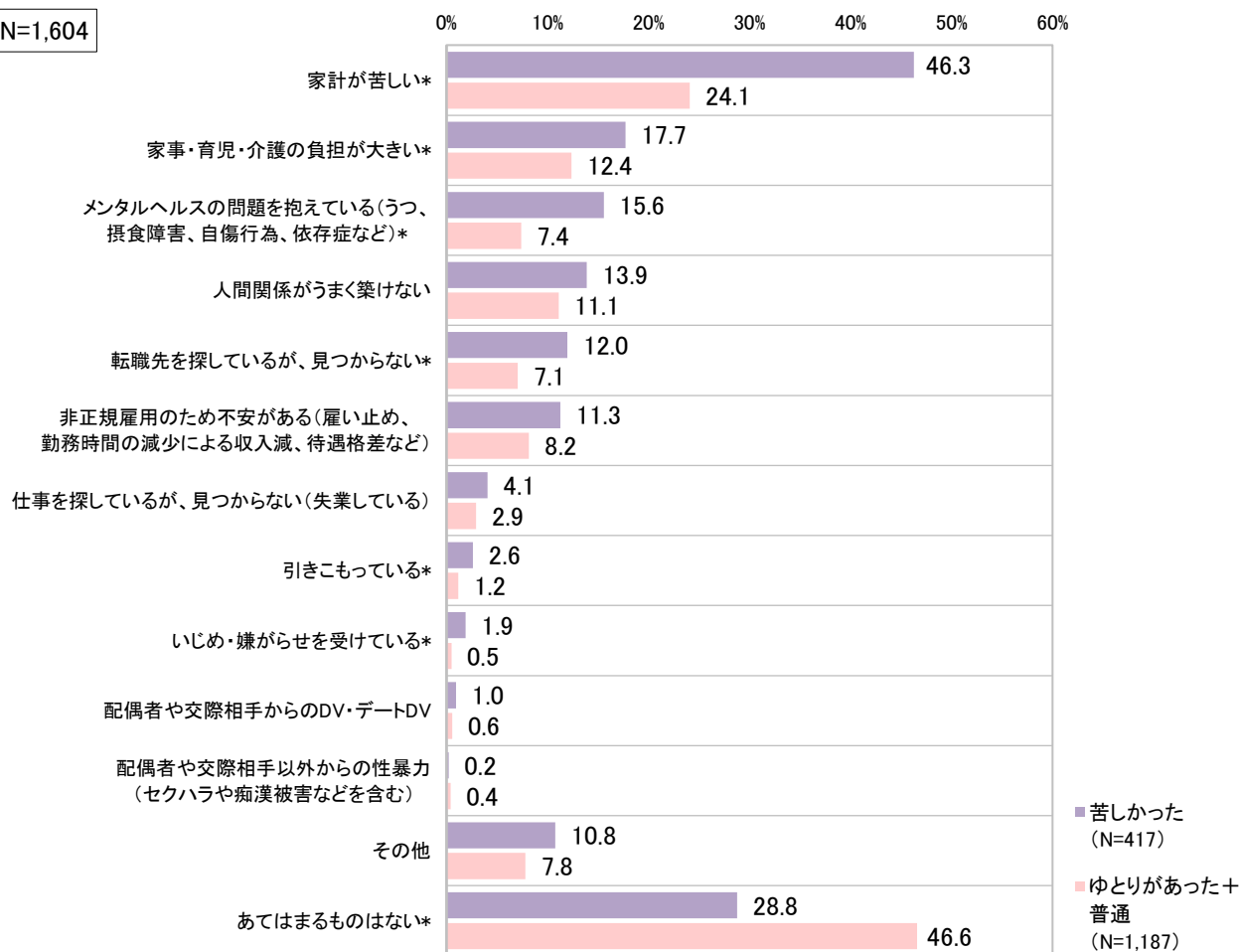


図表Ⅲ-2-1-(1)-② 15歳当時の暮らし向きと現在の困りごとがある人の割合



図表Ⅲ-2-1-(1)-③ 15歳当時の暮らし向きと現在の困りごと【複数回答】

N=1,604

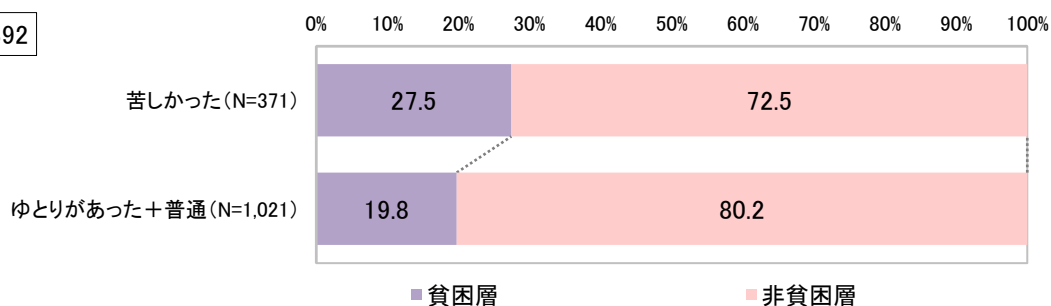


(2) 経済状況への影響

✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在貧困層（等価世帯年収が貧困線124万円未満）である割合が27.5%で、それ以外の人（19.8%）より高い。

図表Ⅲ-2-1-(2) 15歳当時の暮らし向きと現在の経済状況

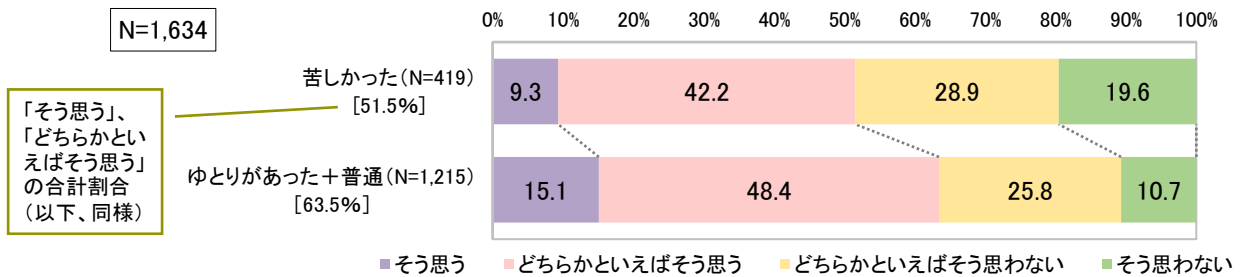
N=1,392



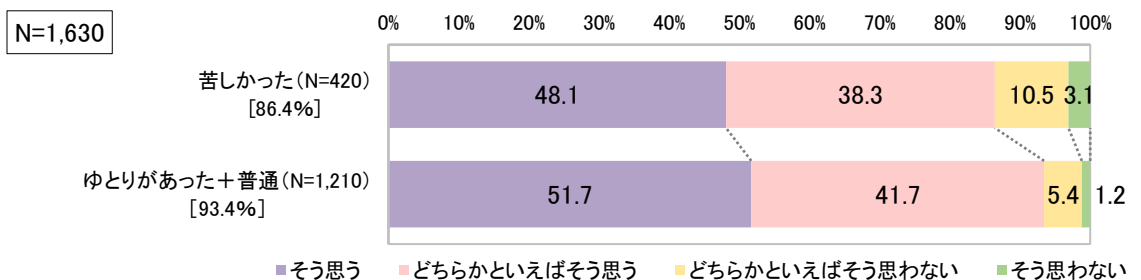
(3) 自己肯定感・生きづらさへの影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在の自分への満足度が低い傾向がある。「だいたいにおいて、自分に満足している」の項目について [そう思う] と回答した人は、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は51.5%で、それ以外の人 (63.5%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、受援力が低い傾向がある。「困った時は人に助けを求めてもいい」の項目について [そう思う] と回答した人は、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は86.4%で、それ以外の人 (93.4%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、生きづらさを感じている割合が高い。「なんとなく、生きづらさを感じる」の項目について [そう思う] と回答した人は、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人で59.6%で、それ以外の人 (49.2%) より高い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。

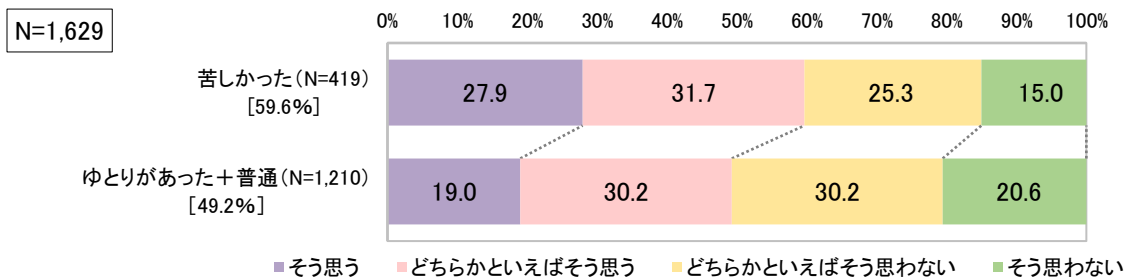
図表Ⅲ-2-1-(3)-① 15歳当時の暮らし向きと自己肯定感／だいたいにおいて、自分に満足している



図表Ⅲ-2-1-(3)-② 15歳当時の暮らし向きと受援力／困った時は人に助けを求めてもいい



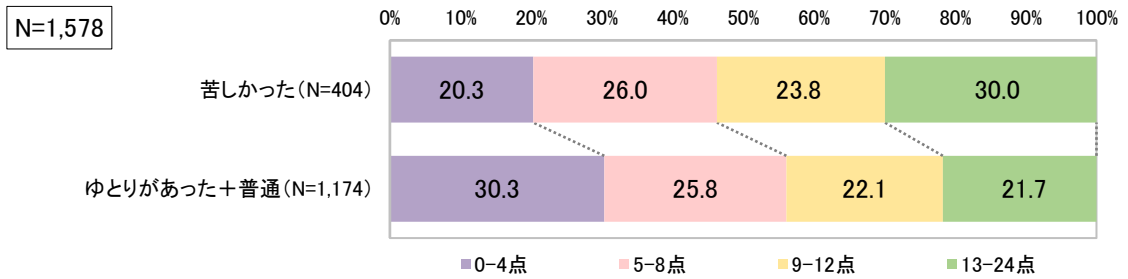
図表Ⅲ-2-1-(3)-③ 15歳当時の暮らし向きと生きづらさ／なんとなく、生きづらさを感じる



(4) 心の健康状態（メンタルヘルス）への影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、現在の心の健康状態（メンタルヘルス）が悪い傾向がある。
- ✓ メンタルヘルスを測定する尺度であるK6得点について比較すると、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、精神的不調の度合いが「中程度」（9～12点）の割合が23.8%、「重度」（13点以上）の割合が30.0%と、いずれもそれ以外の人より高い（それ以外の方は「中程度」が22.1%、「重度」が21.7%）。

図表Ⅲ-2-1-(4) 15歳当時の暮らし向きとK6得点の分布

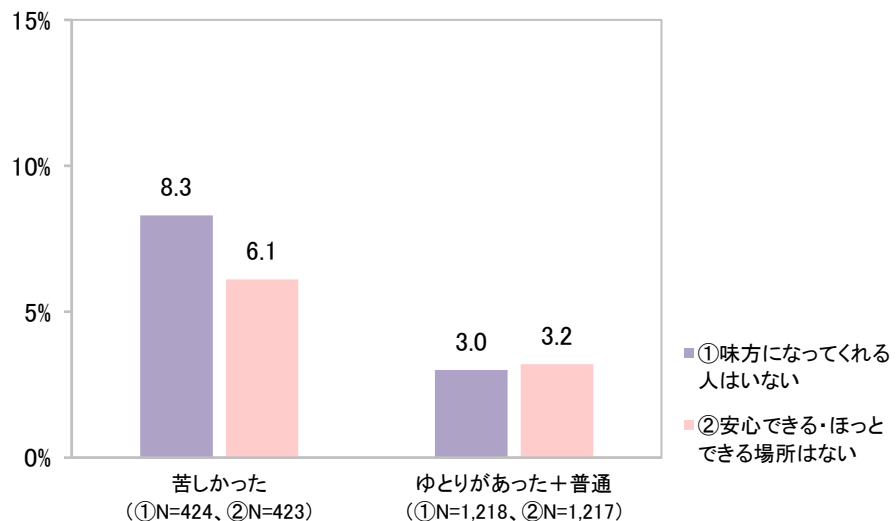


(5) 人間関係への影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、味方になってくれる人や安心できる場所・ほっとできる場所がなく、孤立・孤独のリスクが高くなっている。
- ✓ 現在の人間関係について、「大変な時や重大な決断をする時に、味方になってくれる人はいるか」、「安心できる場所、ほっとできる場所はあるか」をそれぞれたずねたところ、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は「味方になってくれる人はいない」と回答した割合が8.3%、「安心できる・ほっとできる場所はない」と回答した割合が6.1%。
- ✓ それ以外の人と比較すると、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人の「味方になってくれる人はいない」の割合は3倍弱、「安心できる・ほっとできる場所はない」の割合は約2倍の値となっている。

図表Ⅲ-2-1-(5) 15歳当時の暮らし向きと味方・安心できる場所

- ①味方になってくれる人はいない (N=1,642)
- ②安心できる・ほっとできる場所はない (N=1,640)



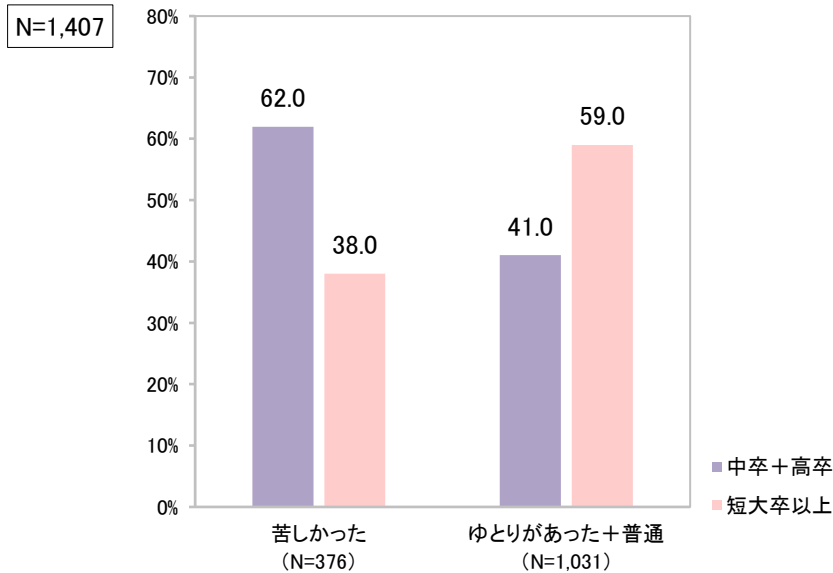
2 ライフコースでのつまずきについて

15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、ライフコースで様々なつまずきを経験している。

(1) 学歴

- ✓ 最終学歴（既卒のみ）をみると、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は中卒・高卒者の割合が約6割（62.0%）で、短大卒以上が約4割（38.0%）。それ以外の人は中卒・高卒者が約4割（41.0%）で、短大卒以上が約6割（59.0%）。15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、短大卒以上の割合が低い傾向がある。

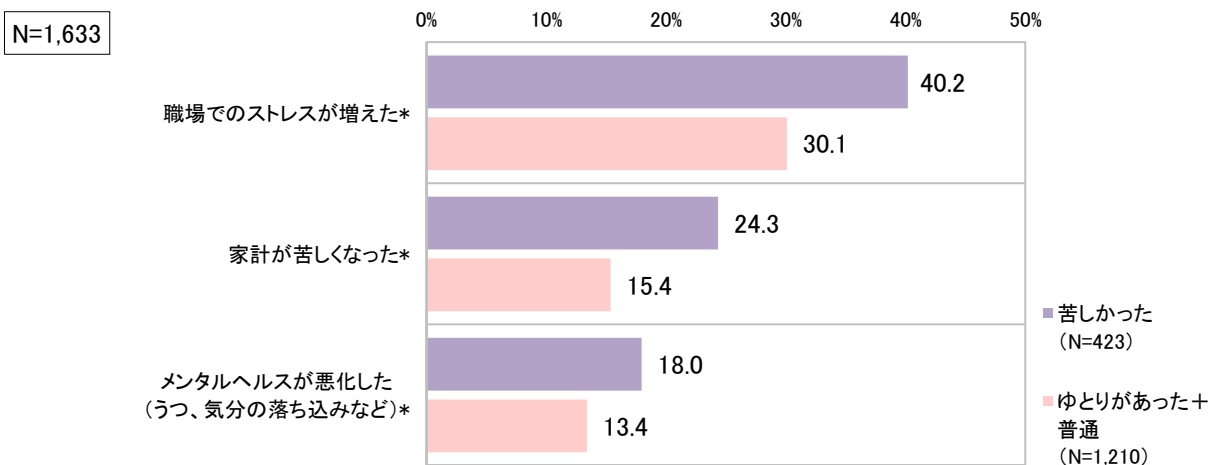
図表Ⅲ-2-2-(1) 15歳当時の暮らし向きと最終学歴(既卒のみ)



(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、それ以外の人に比べ、新型コロナウイルス感染症の影響として「職場でのストレスが増えた」、「家計が苦しくなった」、「メンタルヘルスが悪化した」と回答する割合が高く、コロナ禍によるストレスや経済的な影響を受けている傾向がみられた。

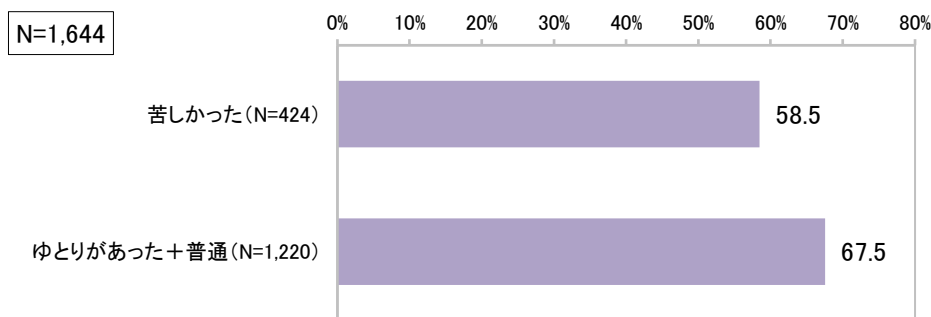
図表Ⅲ-2-2-(2) 15歳当時の暮らし向きと新型コロナウイルス感染症の影響【複数回答】



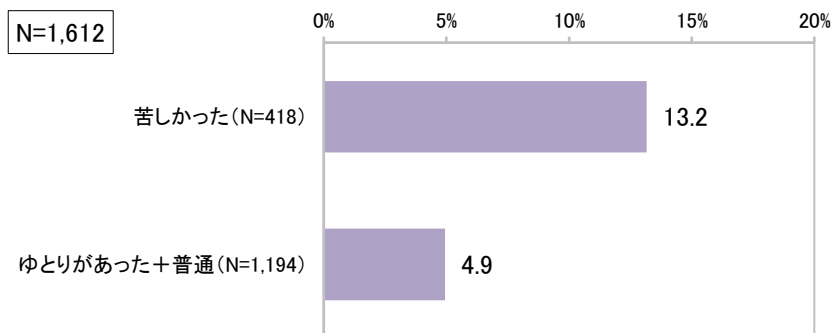
(3) 東日本大震災の影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、今も震災による何らかの悪影響を感じている割合が高く、経済的な影響を感じている割合が高い。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、東日本大震災による「悪影響はない」と回答する割合が58.5%で、それ以外の人（67.5%）より低い。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、東日本大震災の影響で「家計が苦しくなった」と回答する割合（13.2%）がそれ以外の人（4.9%）の3倍弱の値となっている。
- ✓ 調査対象者には東日本大震災当時、15歳未満（7歳～14歳）の人が含まれるが、15歳当時の暮らし向きの苦しさや東日本大震災の悪影響には関連がみられた。

図表Ⅲ-2-2-(3)-① 15歳当時の暮らし向きと東日本大震災が暮らしや心身に与えた影響
:「悪影響はない」と回答した人の割合



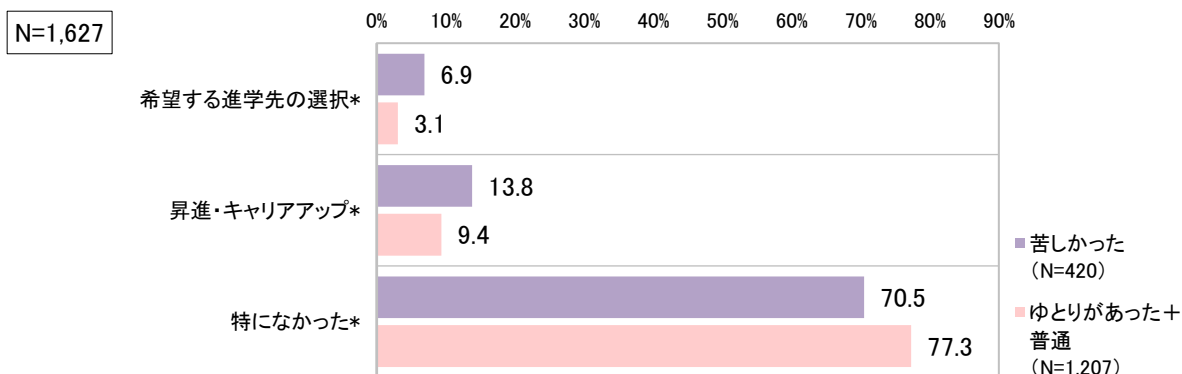
図表Ⅲ-2-2-(3)-② 15歳当時の暮らし向きと東日本大震災の影響
:「家計が苦しくなった」と回答した人の割合



(4) 女の子・女性特有の制約

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、女の子・女性特有の制約による影響を受けている割合が高い。15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、女の子・女性だからという理由でできなかったことについて「特になかった」と回答する割合が70.5%で、それ以外の人（77.3%）より低い。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、「希望する進学先の選択」、「昇進・キャリアアップ」といった場面で影響を受けている割合が高く、経済的な格差とジェンダー格差があいまって進学や仕事など女性の人生設計に影響を及ぼしている可能性がある。

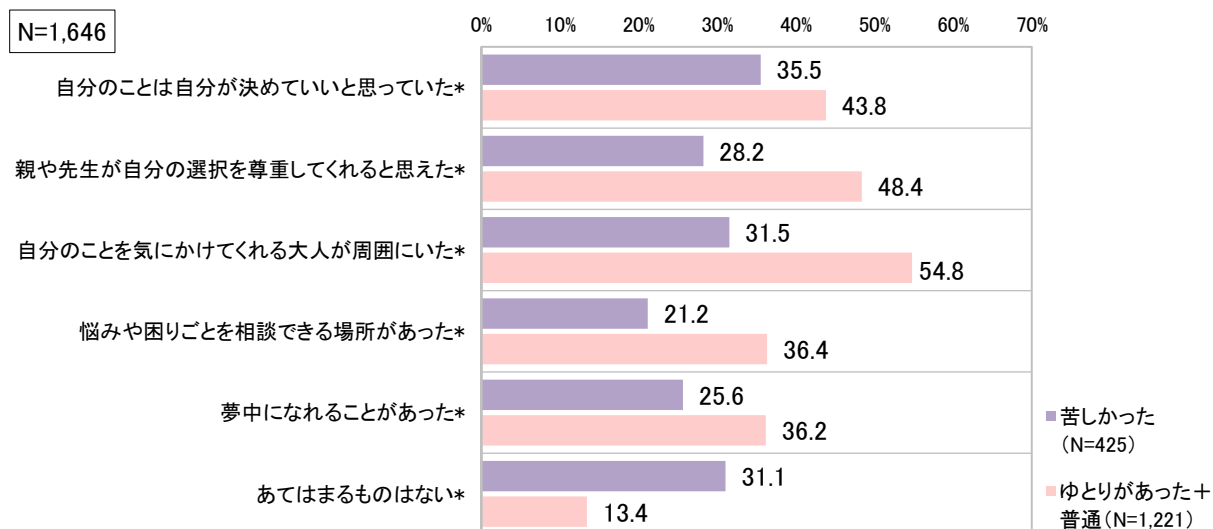
図表Ⅲ-2-2-(4) 15歳当時の暮らし向きと女の子・女性だからという理由でできなかったこと【複数回答】



(5) 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、15歳当時に周囲の大人から大切にされている実感やいざという時の相談先がなく、自己決定意識も低かった傾向がある。
- ✓ 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況について、5つの項目であてはまるものがあるかどうかたずねたところ、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、「あてはまるものはない」（31.1%）と回答する割合がそれ以外の人（13.4%）の2倍強の値となっている。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、5つの項目全てにおいてそれ以外の人よりあてはまる割合が低く、特に「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」（23.3ポイント差）、「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」（20.2ポイント差）、「悩みや困りごとを相談できる場所があった」（15.2ポイント差）で大きな差がみられた。

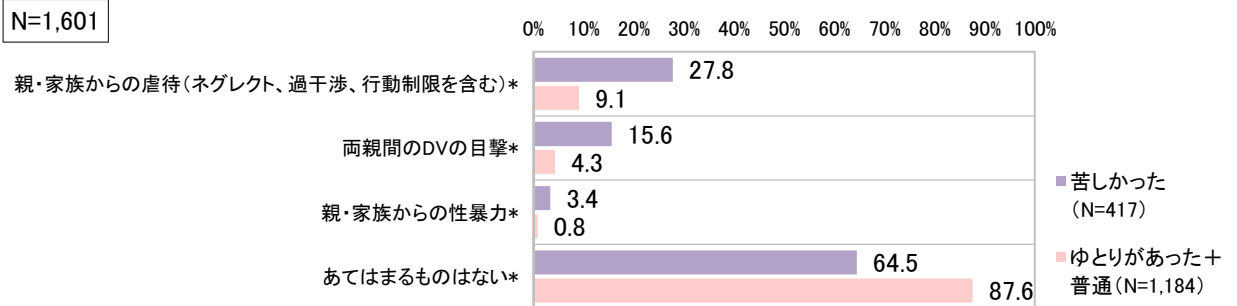
図表Ⅲ-2-2-(5) 15歳当時の暮らし向きと15歳当時の状況【複数回答】



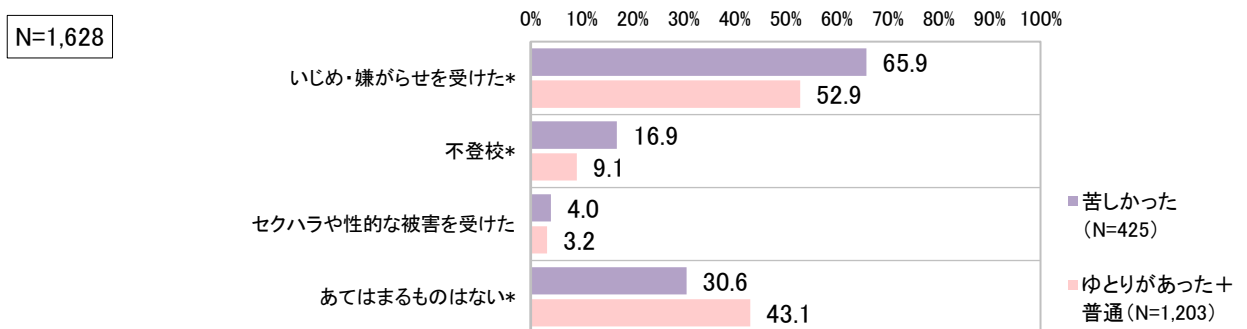
(6) 家庭、学校、DVや性暴力等、望まない妊娠の傷つき体験とその影響

- ✓ 15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験として「親・家族からの虐待」を挙げた割合がそれ以外の人約3倍、「両親間のDVの目撃」を挙げた割合が4倍弱の値となっている。学校での「いじめ・嫌がらせ」や「不登校」、「配偶者・パートナーからのDV」、「望まない妊娠」などの傷つき体験がある割合も、それ以外の人より高い。
- ✓ 子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験からの回復度、学校での傷つき体験からの回復度をみると、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は「今も影響がある」の割合がそれ以外の人より高い（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）。

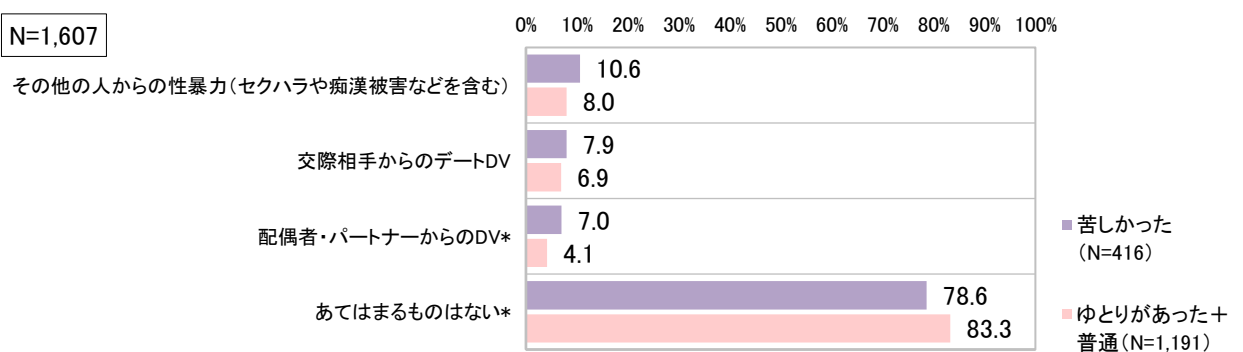
図表Ⅲ-2-2-(6)-① 15歳当時の暮らし向きと家庭での傷つき体験【複数回答】



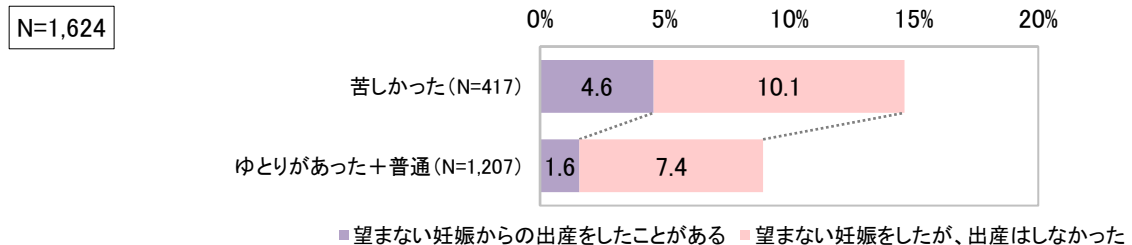
図表Ⅲ-2-2-(6)-② 15歳当時の暮らし向きと学校での傷つき体験【複数回答】



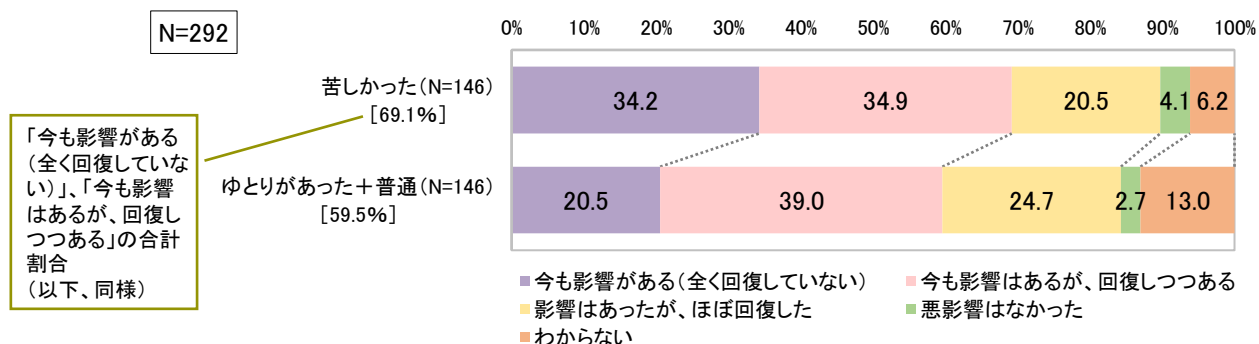
図表Ⅲ-2-2-(6)-③ 15歳当時の暮らし向きとDV等での傷つき体験【複数回答】



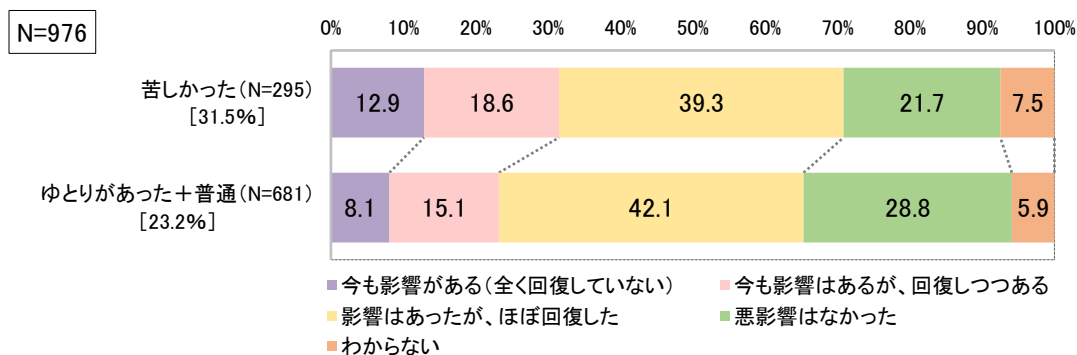
図表Ⅲ-2-2-(6)-④ 15歳当時の暮らし向きと望まない妊娠の経験



図表Ⅲ-2-2-(6)-⑤ 15歳当時の暮らし向きと家庭での傷つき体験からの回復度



図表Ⅲ-2-2-(6)-⑥ 15歳当時の暮らし向きと学校での傷つき体験からの回復度



▶ 第Ⅲ部第2章のまとめ



本章では、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人とそれ以外の人で、現在の困難やライフコースでのつまずきにどのような違いがあるかを分析した。15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、それ以外の人に比べて現在困りごとを抱えている割合が高く、生活満足度や自己肯定感が低かった。経済的な苦しさや生きづらさ、メンタルヘルスの問題を抱えている割合、味方や安心できる場所がない人の割合も高く、現在の生活の中で様々な困難を抱えている状況が明らかになった。ライフコースの観点からみると、15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、15歳ときに周囲の大人から大切にされている実感が少ない人が多く、学歴が短大卒以上の割合が低い傾向や進学・キャリアアップにジェンダーによる制約を受けている傾向がみられた。子ども時代を過ごした家庭での虐待や学校でのいじめ、DV、望まない妊娠などの傷つき体験をした人も多く、東日本大震災やコロナ禍での悪影響など、ライフコースで様々なつまずきを経験していることが分かった。15歳当時の暮らし向きが苦しかったとしても、その後の人生を生きやすくするためには、どのような関わりや支援が必要なのか。第Ⅲ部第4章であらためて考察する。

第3章 過去の傷つき体験から未回復の人の傾向

第III部第1章で示したとおり、過去の傷つき体験と現在の困難は関連することが分かった。本章では、問25「子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験」、問26「学校での傷つき体験」、問27「DV等での傷つき体験」、問28「望まない妊娠の経験」の過去の傷つき体験をたずねる設問で、いずれか1つでも傷つき体験がある人のうち、そのうち1つでも「今も影響がある（全く回復していない）」と回答した人を「過去の傷つき体験から未回復の人」と定義。「今も影響がある（全く回復していない）」という回答が1つもない人を「過去の傷つき体験から回復した人」として2つのグループを比較し、「過去の傷つき体験から未回復の人」の傾向について分析する。

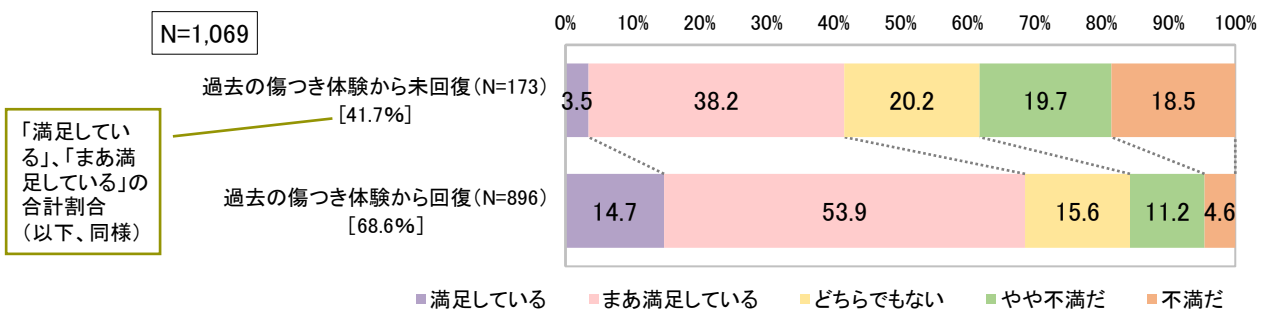
1 現在の困難への影響について

過去の傷つき体験から未回復の人は、現在も様々な困難を抱える傾向にある。

(1) 生活満足度・現在の困りごとへの影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べて現在の生活への満足度がかなり低い傾向がある。過去の傷つき体験から未回復の人は、現在の生活に「不満だ」と回答する割合が18.5%で、回復した人（4.6%）の約4倍の値となっており、「満足」の割合も41.7%と、回復した人（68.6%）より26.9ポイント低い（「満足している」と「まあ満足している」の合計割合）。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人の9割弱（86.5%）が何らかの困りごとがあると回答（それ以外の人では61.4%）。「家計が苦しい」の割合は60.8%で回復した人（28.2%）の2倍強、「メンタルヘルスの問題を抱えている」の割合は36.3%で回復した人（8.5%）の4倍強、「人間関係がうまく築けない」は32.2%で回復した人（11.4%）の約3倍の値となっている。このほか「非正規雇用のため不安がある」、「仕事を探しているが、見つからない」などで有意な関連が認められ、経済的な苦しさやメンタルヘルス、人間関係、仕事の問題など様々な困りごとを抱えている傾向がある。

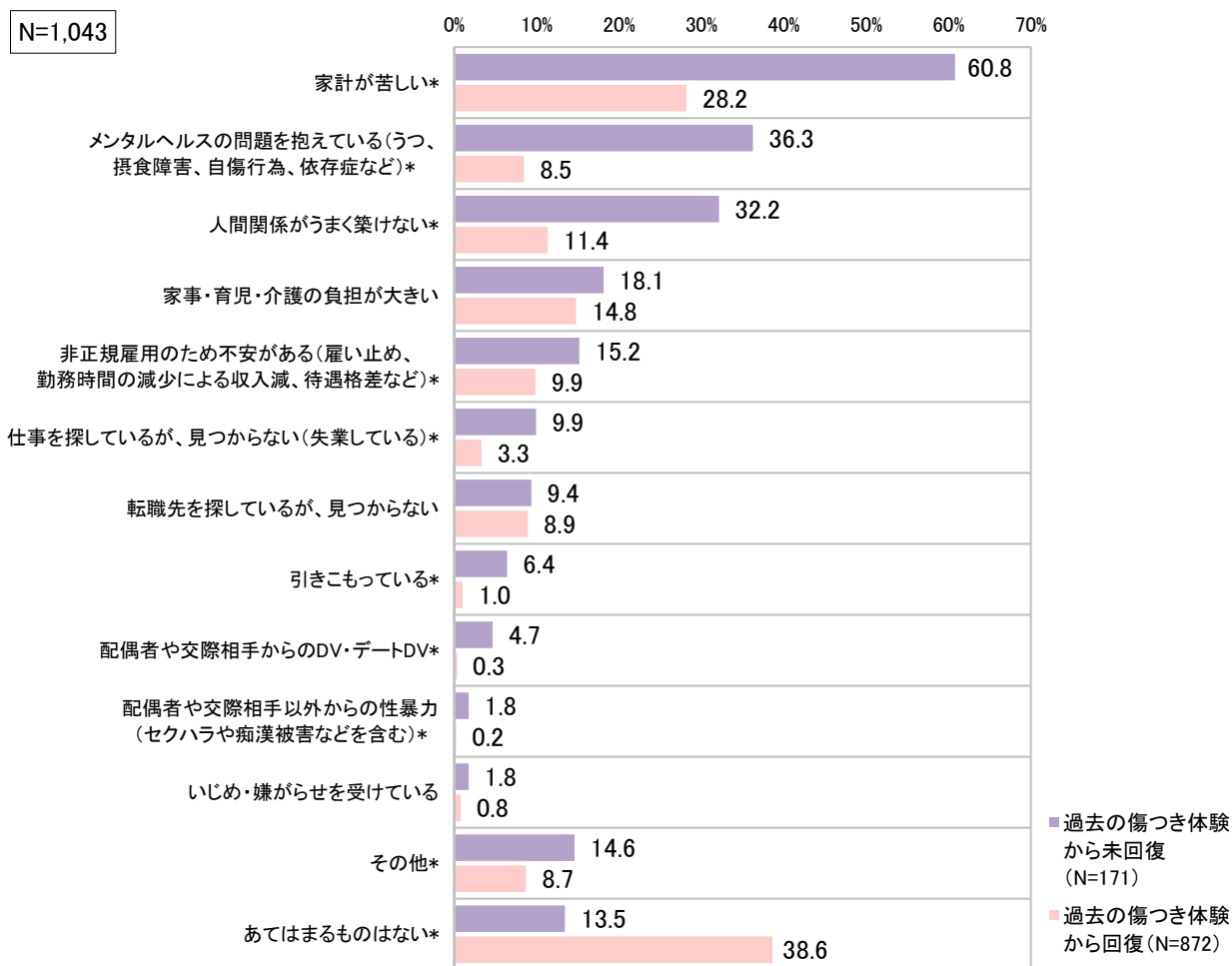
図表Ⅲ-3-1-(1)-① 過去の傷つき体験からの回復と現在の生活に対する満足度



図表Ⅲ-3-1-(1)-② 過去の傷つき体験からの回復と現在の困りごとがある人の割合



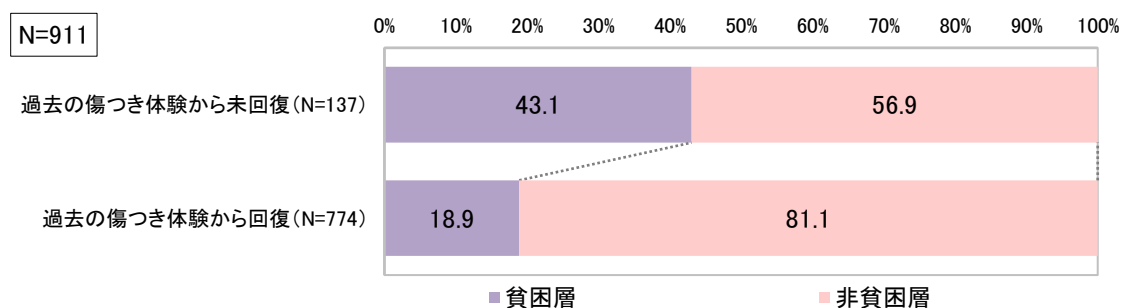
図表Ⅲ-3-1-(1)-③ 過去の傷つき体験からの回復と現在の困りごと【複数回答】



(2) 経済状況への影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、現在貧困層（等価世帯年収が貧困線124万円未満）である割合が43.1%で、回復した人（18.9%）の2倍強の値となっている。

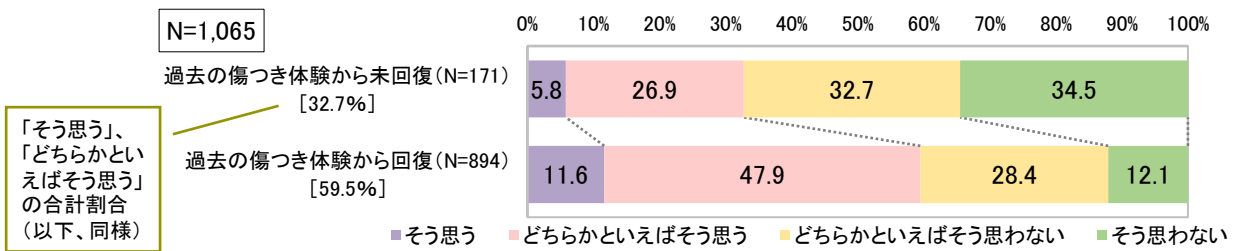
図表Ⅲ-3-1-(2) 過去の傷つき体験からの回復と現在の経済状況



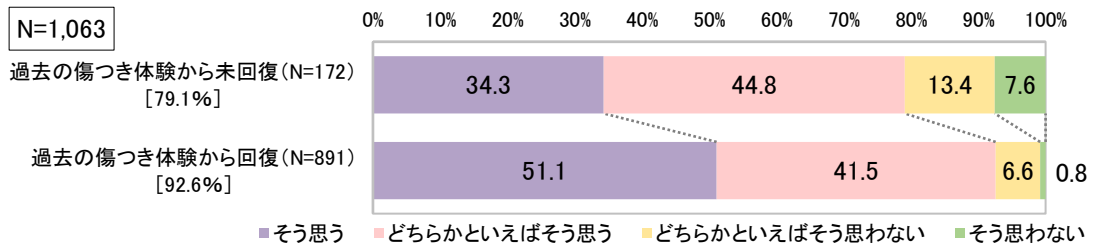
(3) 自己肯定感・生きづらさへの影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、現在の自分への満足度が低い傾向がある。「だいたいにおいて、自分に満足している」の項目について [そう思う] と回答した人は、未回復の人は32.7%で、回復した人 (59.5%) より26.8ポイント低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。「そう思わない」 (34.5%) の割合は、回復した人 (12.1%) の約3倍の値となっている。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、受援力が低い傾向がある。「困った時は人に助けを求めてもいい」の項目について [そう思う] と回答した人は、未回復の人は79.1%で、回復した人 (92.6%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、自己決定意識が低い傾向がある。「自分のことは自分が決めていいと思う」の項目について [そう思う] と回答した人は、未回復の人は90.0%で、回復した人 (95.7%) より低い (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べて生きづらさを感じている割合が高い。「なんとなく、生きづらさを感じる」の項目について [そう思う] と回答した人は、未回復の人は85.4%で、回復した人 (55.4%) より30ポイント高く、大きな差がみられた (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合)。

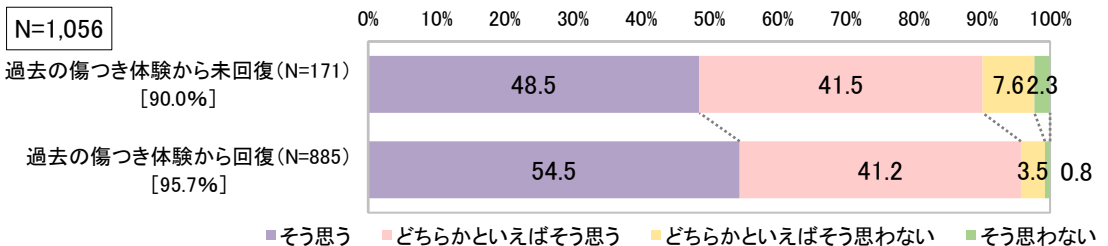
図表Ⅲ-3-1-(3)-① 過去の傷つき体験からの回復と自己肯定感／だいたいにおいて、自分に満足している



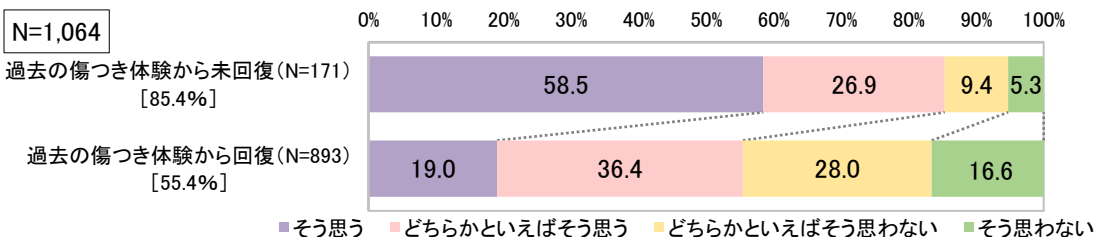
図表Ⅲ-3-1-(3)-② 過去の傷つき体験からの回復と受援力／困った時は人に助けを求めてもいい



図表Ⅲ-3-1-(3)-③ 過去の傷つき体験からの回復と自己決定意識／自分のことは自分が決めていいと思う



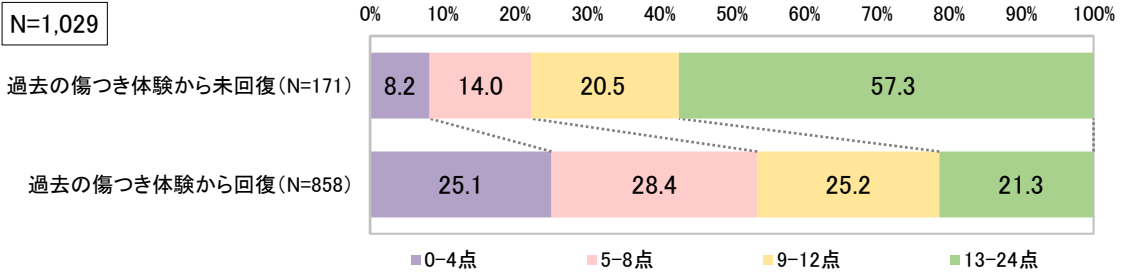
図表Ⅲ-3-1-(3)-④ 過去の傷つき体験からの回復と生きづらさ／なんとなく、生きづらさを感じる



(4) 心の健康状態（メンタルヘルス）への影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、深刻な精神的不調を抱えている可能性が高い。
- ✓ メンタルヘルスを測定する尺度であるK6得点について比較すると、過去の傷つき体験から未回復の人は、精神的不調の度合いが「重度」（13点以上）の割合が57.3%で、回復した人（21.3%）の3倍弱の値となっている。

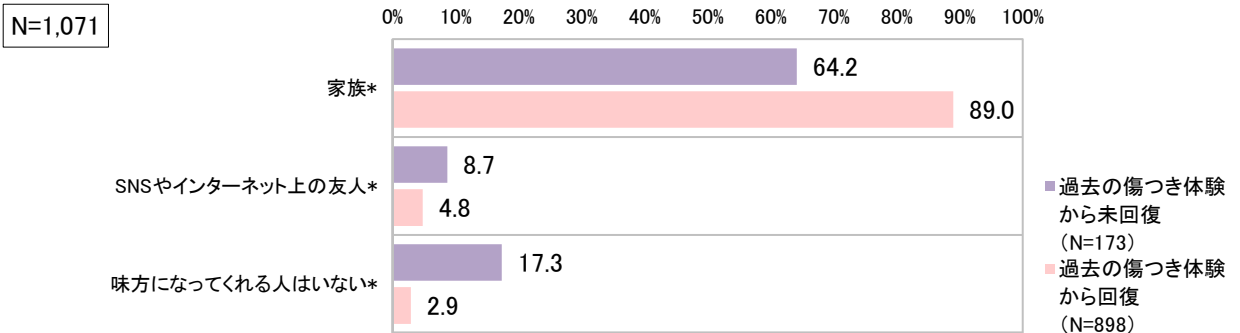
図表Ⅲ-3-1-(4) 過去の傷つき体験からの回復とK6得点の分布



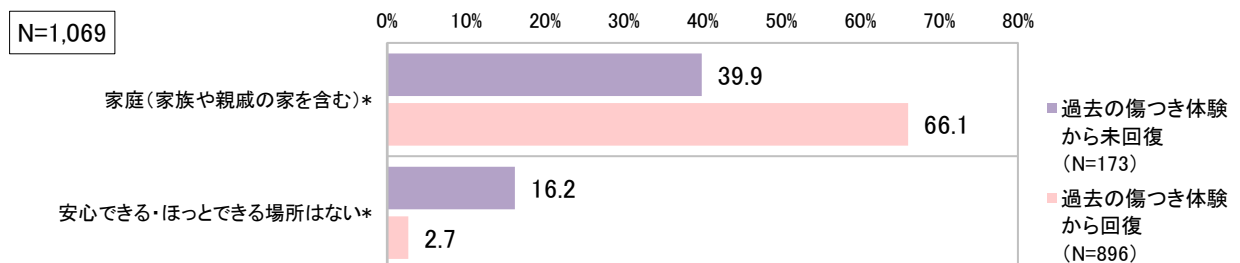
(5) 人間関係への影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、味方になってくれる人や安心できる場所・ほっとできる場所がなく、孤立・孤独のリスクが高くなっている。
- ✓ 味方になってくれる人として「家族」を挙げた割合は、過去の傷つき体験から未回復の人は64.2%で、回復した人（89.0%）より24.8ポイント低い。「SNSやインターネット上の友人」と回答する割合は、未回復の人（8.7%）が回復した人（4.8%）の2倍弱の値となっている。
- ✓ 安心できる・ほっとできる場所として「家庭」を挙げた割合は、過去の傷つき体験から未回復の人は39.9%で、回復した人（66.1%）より26.2ポイント低い。
- ✓ 過去の傷つき体験から回復した人と比較すると、未回復の人の「味方になってくれる人はいない」（17.3%）、「安心できる・ほっとできる場所はない」（16.2%）の割合はそれぞれ6倍の値となっている。

図表Ⅲ-3-1-(5)-① 過去の傷つき体験からの回復と味方になってくれる人【複数回答】



図表Ⅲ-3-1-(5)-② 過去の傷つき体験からの回復と安心できる・ほっとできる場所【複数回答】



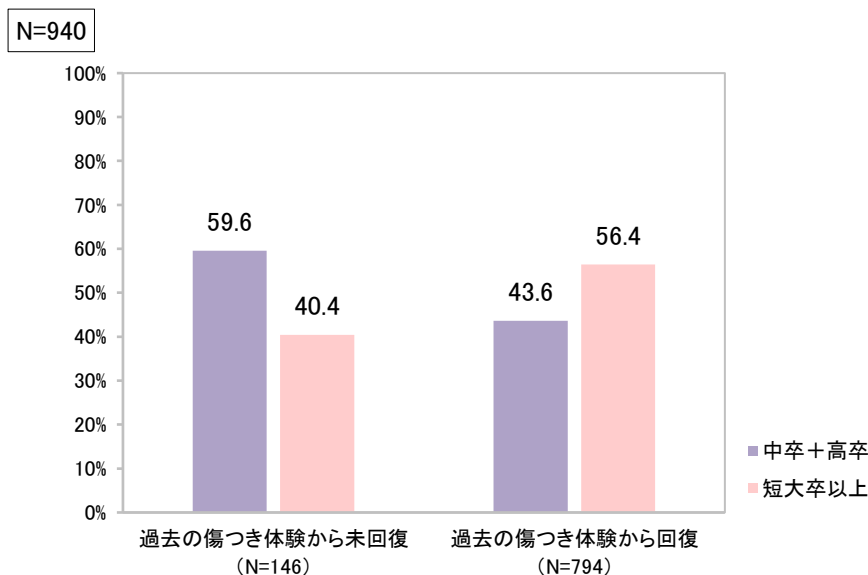
2 ライフコースでのつまずきについて

過去の傷つき体験から未回復の人は、ライフコースで様々なつまずきを経験している。

(1) 学歴

- ✓ 最終学歴（既卒のみ）をみると、過去の傷つき体験から未回復の人は中卒・高卒者の割合が約6割（59.6%）で、短大卒以上が約4割（40.4%）。回復した人は中卒・高卒者が4割強（43.6%）で、短大卒以上が6割弱（56.4%）。過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、短大卒以上の割合が低い傾向がある。

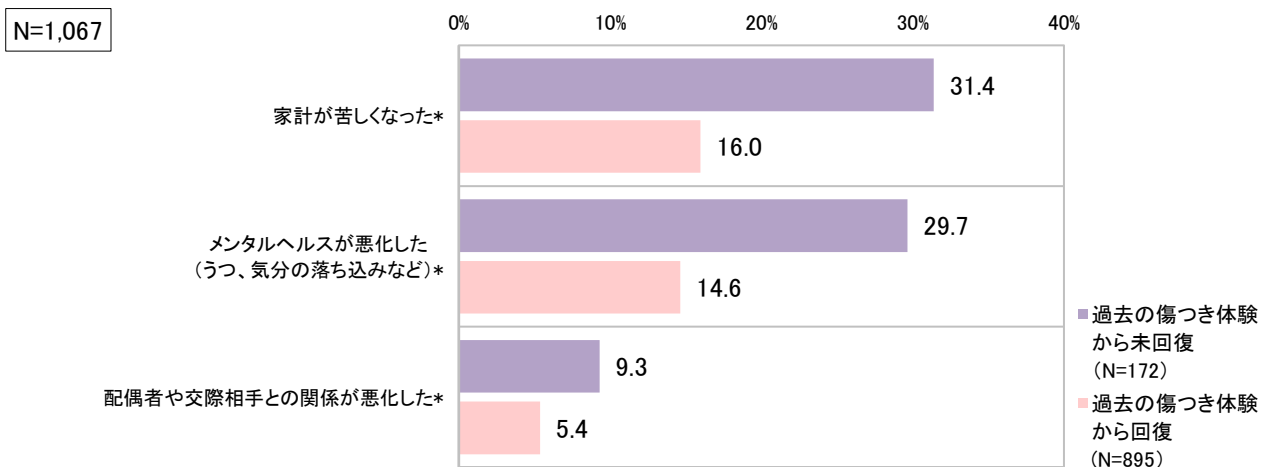
図表Ⅲ-3-2-(1) 過去の傷つき体験からの回復と最終学歴（既卒のみ）



(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、新型コロナウイルス感染症の影響として「家計が苦しくなった」、「メンタルヘルスが悪化した」と回答する割合が回復した人のそれぞれ約2倍、「配偶者や交際相手との関係が悪化した」と回答する割合が2倍弱の値となっており、コロナ禍で経済的・心理的な影響などを受けている傾向がみられた。

図表Ⅲ-3-2-(2) 過去の傷つき体験からの回復と新型コロナウイルスの感染症の影響【複数回答】



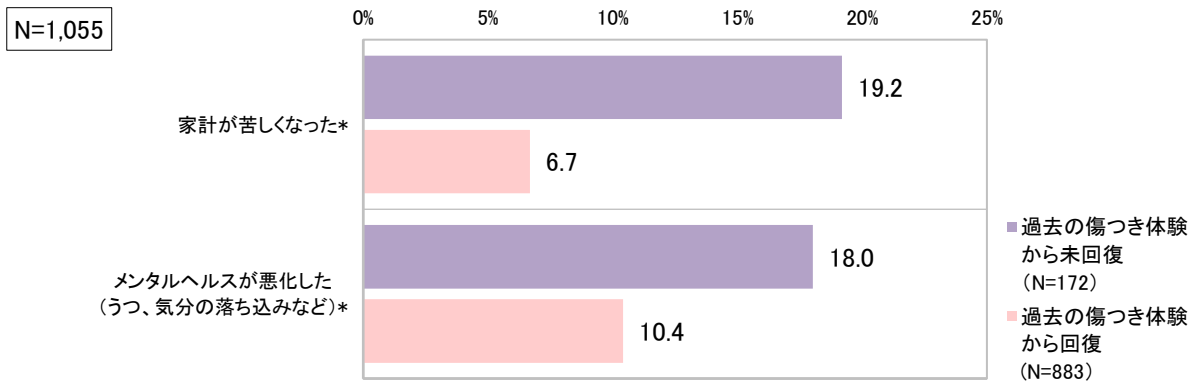
(3) 東日本大震災の影響

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、今も震災による何らかの悪影響を感じている割合が高く、経済的・心理的な影響を感じている割合が高い。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、東日本大震災による「悪影響はない」と回答する割合が48.6%で、回復した人（65.1%）より16.5ポイント低い。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、東日本大震災の影響で「家計が苦しくなった」と回答する割合が回復した人の約3倍、「メンタルヘルスが悪化した」と回答する割合が2倍弱の値となっている。

図表Ⅲ-3-2-(3)-① 過去の傷つき体験からの回復と東日本大震災が暮らしや心身に与えた影響：「悪影響はない」と回答した人の割合



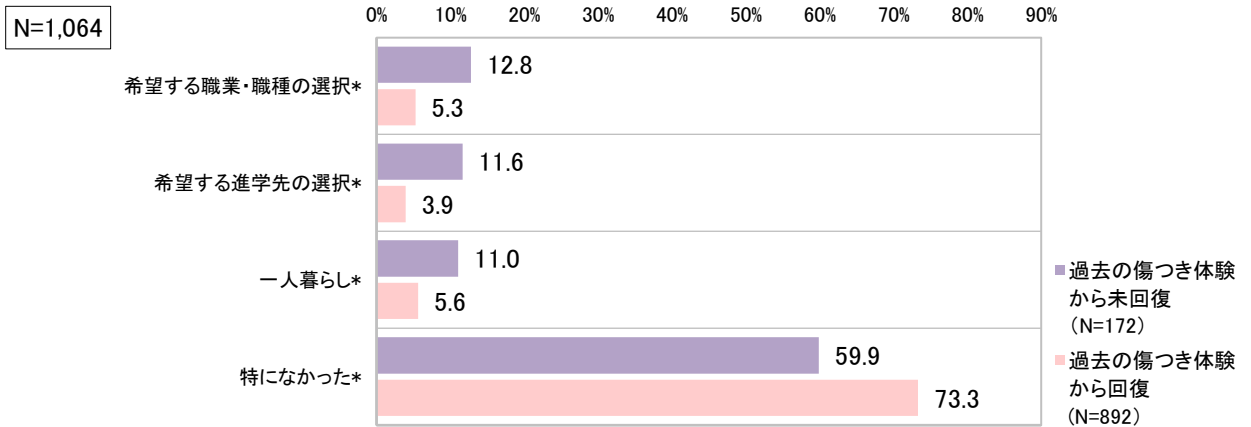
図表Ⅲ-3-2-(3)-② 過去の傷つき体験からの回復と東日本大震災の影響【複数回答】



(4) 女の子・女性特有の制約

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、女の子・女性特有の制約による影響を受けている割合が高い。過去の傷つき体験から未回復の人は、女の子・女性だからという理由でできなかったことについて「特になかった」と回答する割合が59.9%で、回復した人（73.3%）より低い。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、女の子・女性だからという理由でできなかったこととして、「希望する職業・職種の選択」と回答する割合が回復した人の2倍強、「希望する進学先の選択」と回答する割合が回復した人の2倍強、「希望する進学先の選択」と回答する割合が約3倍、「一人暮らし」と回答する割合が約2倍の値となっている。

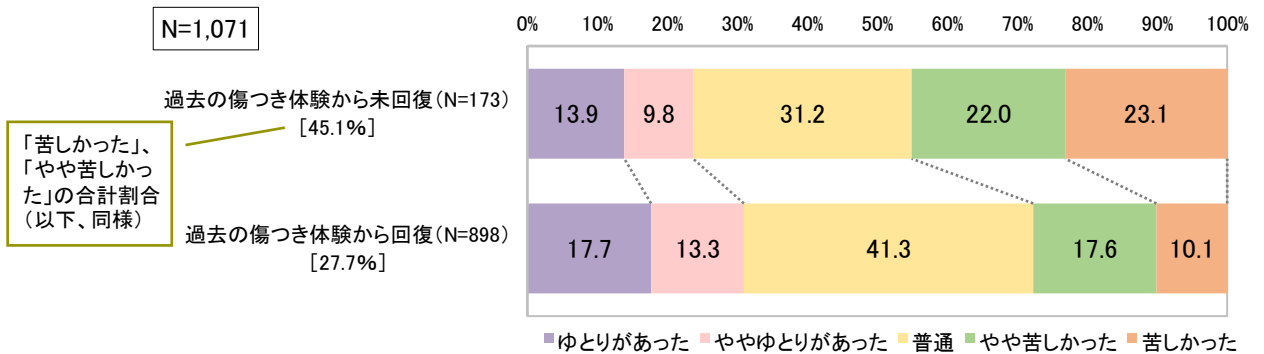
図表Ⅲ-3-2-(4) 過去の傷つき体験からの回復と女の子・女性だからという理由でできなかったこと【複数回答】



(5) 15歳当時の暮らし向き

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べ、15歳当時の暮らし向きが苦しかった傾向がある。15歳当時の暮らし向きについて、「苦しかった」と回答した人の割合は45.1%で、回復した人（27.7%）より高い（「苦しかった」と「やや苦しかった」の合計割合）。

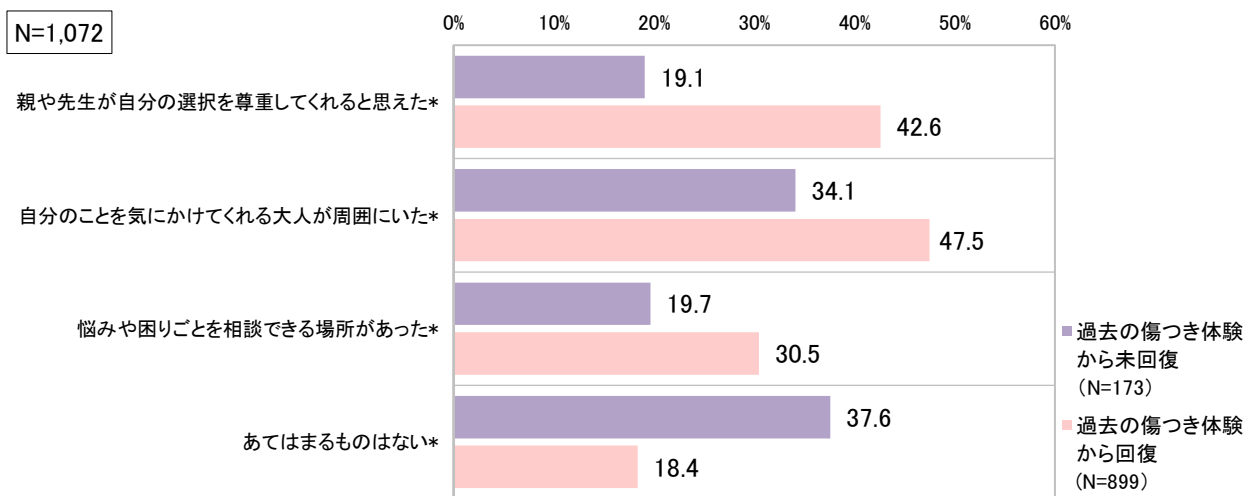
図表Ⅲ-3-2-(5) 過去の傷つき体験からの回復と15歳当時の暮らし向き



(6) 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況

- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、15歳当時に周囲の大人から大切にされている実感やいざという時の相談先がなかった傾向がある。
- ✓ 15歳当時の周囲の大人との関わりについて、「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」と回答する割合は、過去の傷つき体験から未回復の人（19.1%）は回復した人（42.6%）より23.5ポイント低い。
- ✓ 「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」、「悩みや困りごとを相談できる場所があった」についても、過去の傷つき体験から未回復の人は回復した人より10ポイント以上低い。
- ✓ 過去の傷つき体験から未回復の人は、問24のすべての項目に「あてはまるものはない」（37.6%）と回答する割合が回復した人（18.4%）の約2倍の値となっている。

図表Ⅲ-3-2-(6) 過去の傷つき体験からの回復と15歳当時の状況【複数回答】



▶ 第Ⅲ部第3章のまとめ

本章では、過去の傷つき体験から未回復の人と回復した人で、現在の困難やライフコースでのつまずきにどのような違いがあるかを分析した。過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人に比べて現在困りごとを抱えている割合が高く、生活満足度や自己肯定感が低かった。経済的な苦しさや生きづらさ、深刻なメンタルヘルスの問題を抱えている割合、味方や安心できる場所がない人の割合も高く、現在の生活の中で様々な困難を抱えている状況が明らかになった。ライフコースの観点からみると、過去の傷つき体験から未回復の人は、15歳当時に周囲の大人から大切にされている実感が少ない人が多く、学歴が短大卒以上の割合が低い傾向や進学先・職業・職種を選択にジェンダーによる制約を受けている傾向がみられた。また、東日本大震災やコロナ禍での悪影響など、ライフコースで様々なつまずきを経験していることが分かった。

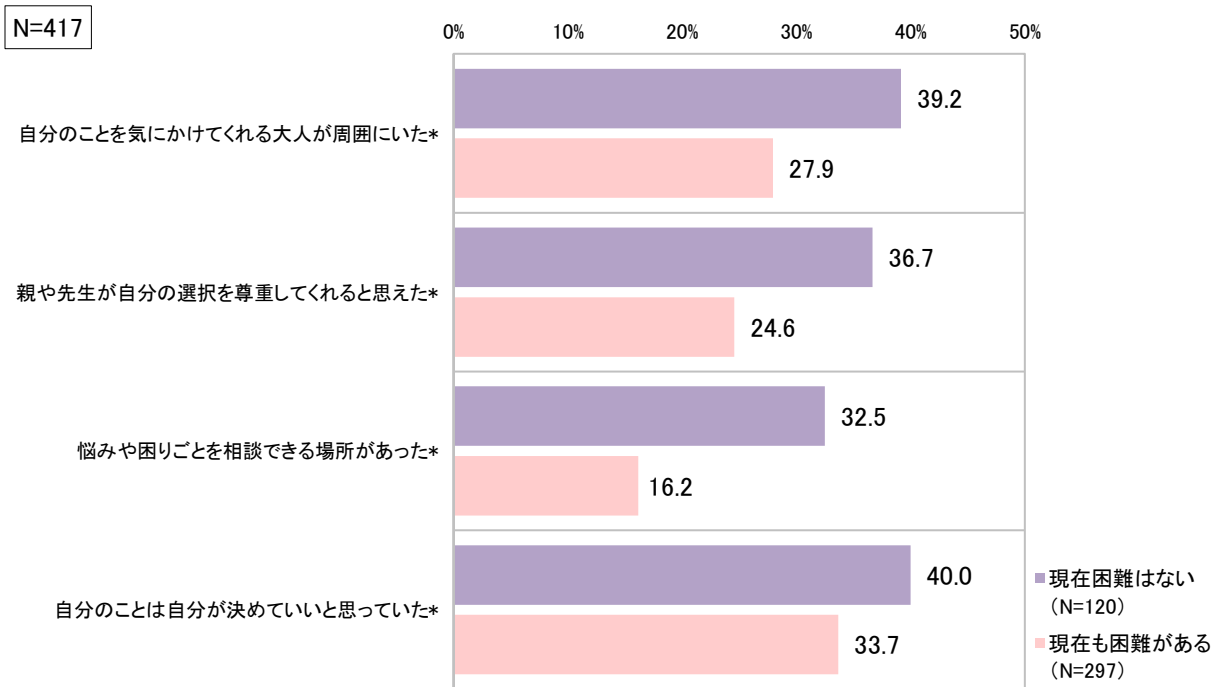
第4章 15歳当時の暮らし向きと現在の困難の関係

第III部第2章で示したとおり、15歳当時の暮らし向きと現在の困難は関連することが分かった。一方、15歳当時の暮らし向きが苦しくても、現在は困難を抱えていない人もいる。本章では15歳当時の暮らし向きについて「苦しかった」と回答した人（「苦しかった」と「やや苦しかった」の合計）のうち、問8の現在の困りごとをたずねる設問で、「あてはまるものはない」と回答した人を「15歳当時の暮らし向きは苦しかったが、現在は困難を抱えていない人」と定義。何らかの困りごとがあると回答した人を「15歳当時の暮らし向きが苦しく、現在も困難を抱えている人」とし、違いを分析する。

1 15歳当時の周囲の大人との関わりや自身の状況

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、現在も困難がある人に比べ、15歳当時に周囲の大人からの適切な関わりがあったと考えられる。また、自己決定意識が高かった傾向にある。
- ✓ 現在は困難を抱えていない人は、15歳当時に「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」と回答する割合が39.2%、「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」と回答する割合が36.7%で、現在も困難がある人よりそれぞれ10ポイント以上高い。
- ✓ 現在は困難を抱えていない人は、15歳当時に「悩みや困りごとを相談できる場所があった」と回答する割合が32.5%で、現在も困難がある人（16.2%）の約2倍の値になっている。

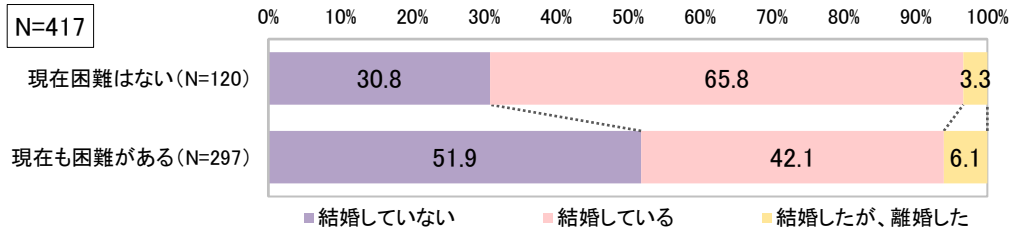
図表Ⅲ-4-1 現在の困難の有無と15歳当時の状況【複数回答】
(注:15歳当時の暮らし向きが「苦しかった」人に限定して分析)



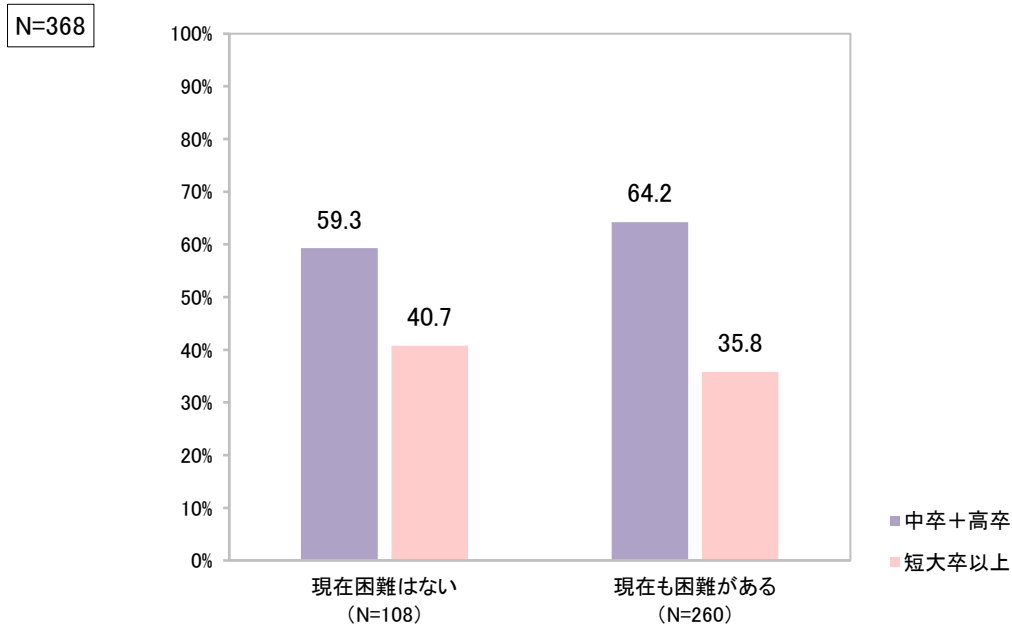
2 属性

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、結婚している割合が高い。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、短大卒以上の割合が高い。

図表Ⅲ-4-2-① 現在の困難の有無と結婚状況
(注: 15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析)



図表Ⅲ-4-2-② 現在の困難の有無と最終学歴(既卒のみ)
(注: 15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析)

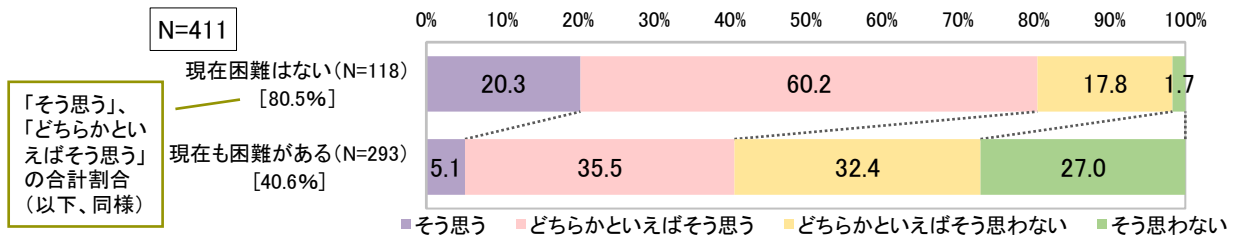


3 自己肯定感・人間関係

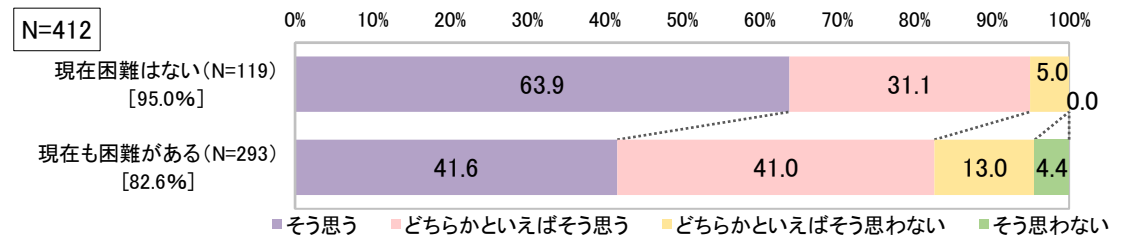
(1) 自己肯定感・生きづらさ

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、自己肯定感が高く、生きづらさを感じていない傾向がある。
- ✓ 現在は困難を抱えていない人は「困った時は人に助けを求めてもいい」という受援力が高い傾向がある。15歳当時の周囲の大人からの適切な関わりとの関係が推察される。また、受援力の高さが現在の困難の有無に影響している可能性が考えられる。
- ✓ 「だいたいにおいて、自分に満足している」の項目について [そう思う] と回答した人は、現在は困難を抱えていない人で80.5%で、現在も困難がある人（40.6%）の約2倍の値になっている（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。
- ✓ 「なんとなく、生きづらさを感じる」の項目について [そう思う] と回答した人は、現在は困難を抱えていない人で30.5%で、現在も困難がある人（71.3%）の半数以下の割合になっている（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計割合）。

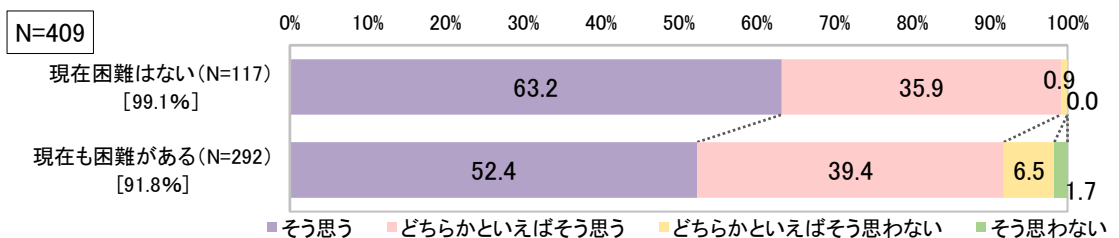
図表Ⅲ-4-3-(1)-① 現在の困難の有無と自己肯定感／だいたいにおいて、自分に満足している
 (注: 15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析、②~④も同様)



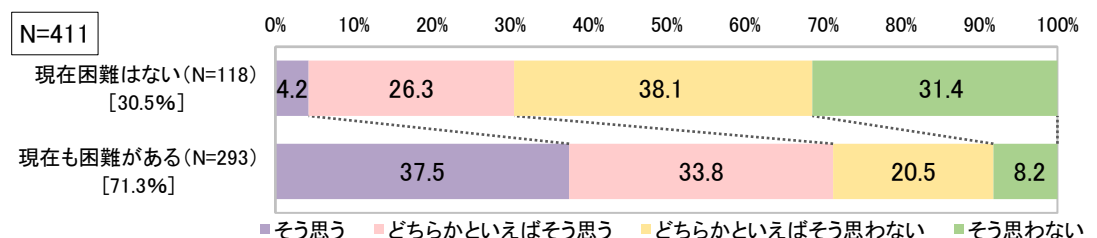
図表Ⅲ-4-3-(1)-② 現在の困難の有無と受援力／困った時は人に助けを求めてもいい



図表Ⅲ-4-3-(1)-③ 現在の困難の有無と自己決定意識／自分のことは自分が決めていいと思う



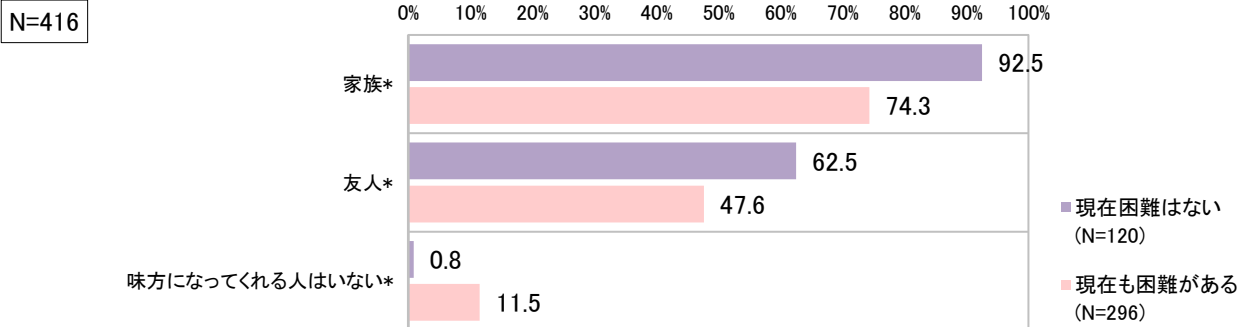
図表Ⅲ-4-3-(1)-④ 現在の困難の有無と生きづらさ／なんとなく、生きづらさを感じる



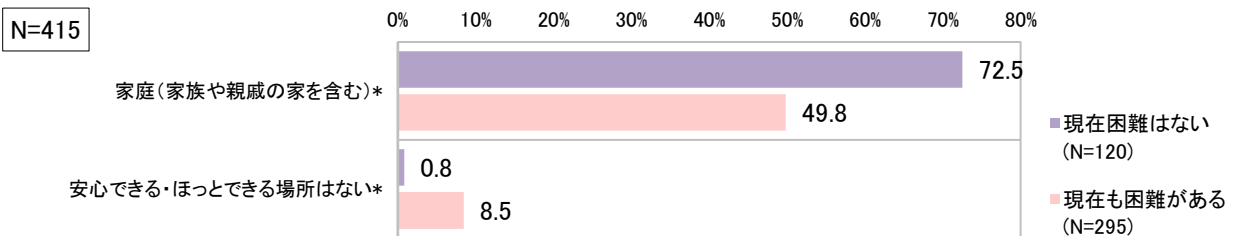
(2) 味方になってくれる人・安心できる場所

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、味方になってくれる人がおり、安心できる・ほっとできる場所がある傾向がある。
- ✓ 味方になってくれる人として「家族」、「友人」を挙げる割合は、現在は困難を抱えていない人と困難がある人の間にそれぞれ18.2ポイント、14.9ポイントの差がある。また、安心できる・ほっとできる場所として「家庭」を挙げる割合も22.7ポイントの差がある。困難を抱えていない人は、身近な人とのつながりや家庭が自身のよりどころとして機能している。

図表Ⅲ-4-3-(2)-① 現在の困難の有無と味方になってくれる人【複数回答】
(注:15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析、②も同様)



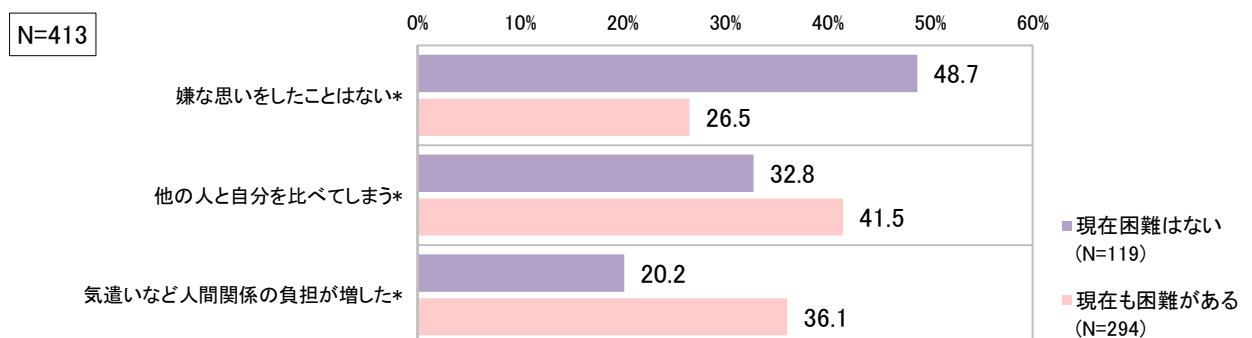
図表Ⅲ-4-3-(2)-② 現在の困難の有無と安心できる・ほっとできる場所【複数回答】



(3) SNSでの嫌な体験

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人と、現在も困難がある人で、SNSでの嫌な思いとして「他の人と自分を比べてしまう」、「気遣いなど人間関係の負担が増した」と回答した割合の差が大きい。現在も困難がある人にとって、オンラインの人間関係の影響力が大きい。

図表Ⅲ-4-3-(3) 現在の困難の有無とSNSでの嫌な思い【複数回答】
(注:15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析)



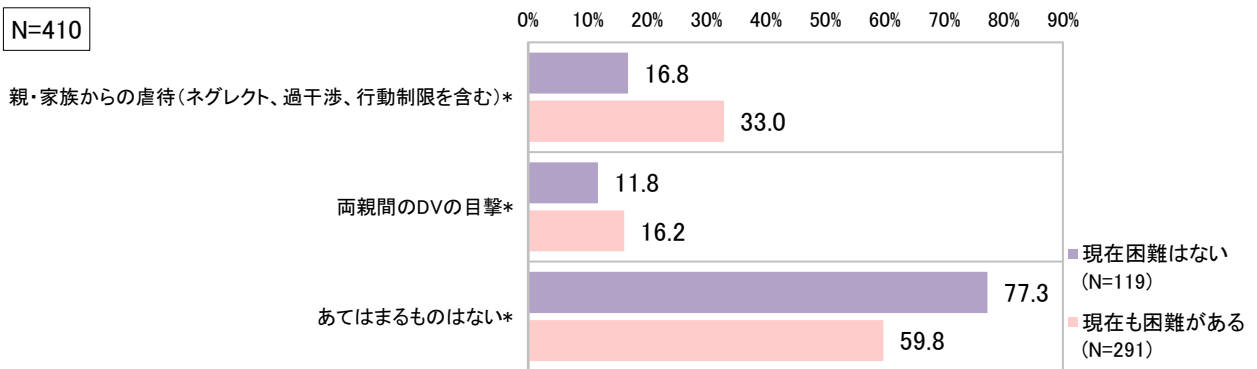
4 過去の傷つき体験との関係

(1) 過去の傷つき体験

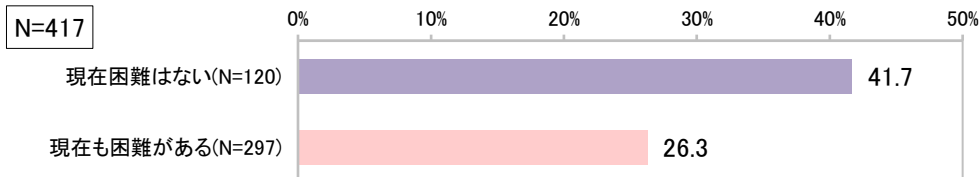
- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、子ども時代を過ごした家庭や学校で傷つき体験をしていない傾向がある。
- ✓ 特に、「親・家族からの虐待」で現在も困難がある人との差が大きい。親・家族が信頼できる相手であり、家庭が安心できる場であったかどうかに関連していると示唆される。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、DV・性暴力被害を体験していない傾向がある。

図表Ⅲ-4-4-(1)-① 現在の困難の有無と家庭での傷つき体験【複数回答】

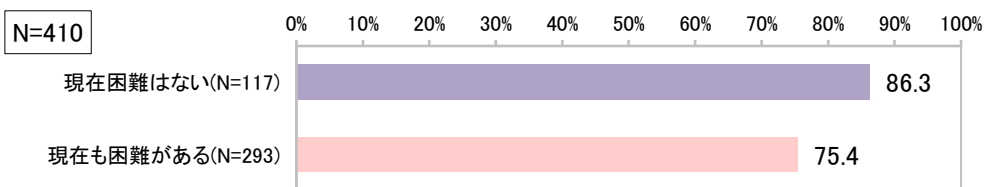
(注:15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析、②~④も同様)



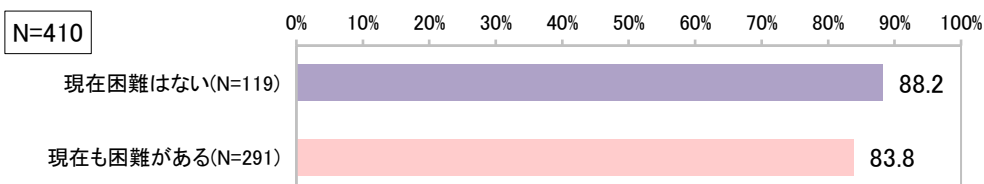
図表Ⅲ-4-4-(1)-② 現在の困難の有無と学校での傷つき体験
:「あてはまるものはない」と回答した人の割合



図表Ⅲ-4-4-(1)-③ 現在の困難の有無とDV・性暴力被害
:「あてはまるものはない」と回答した人の割合



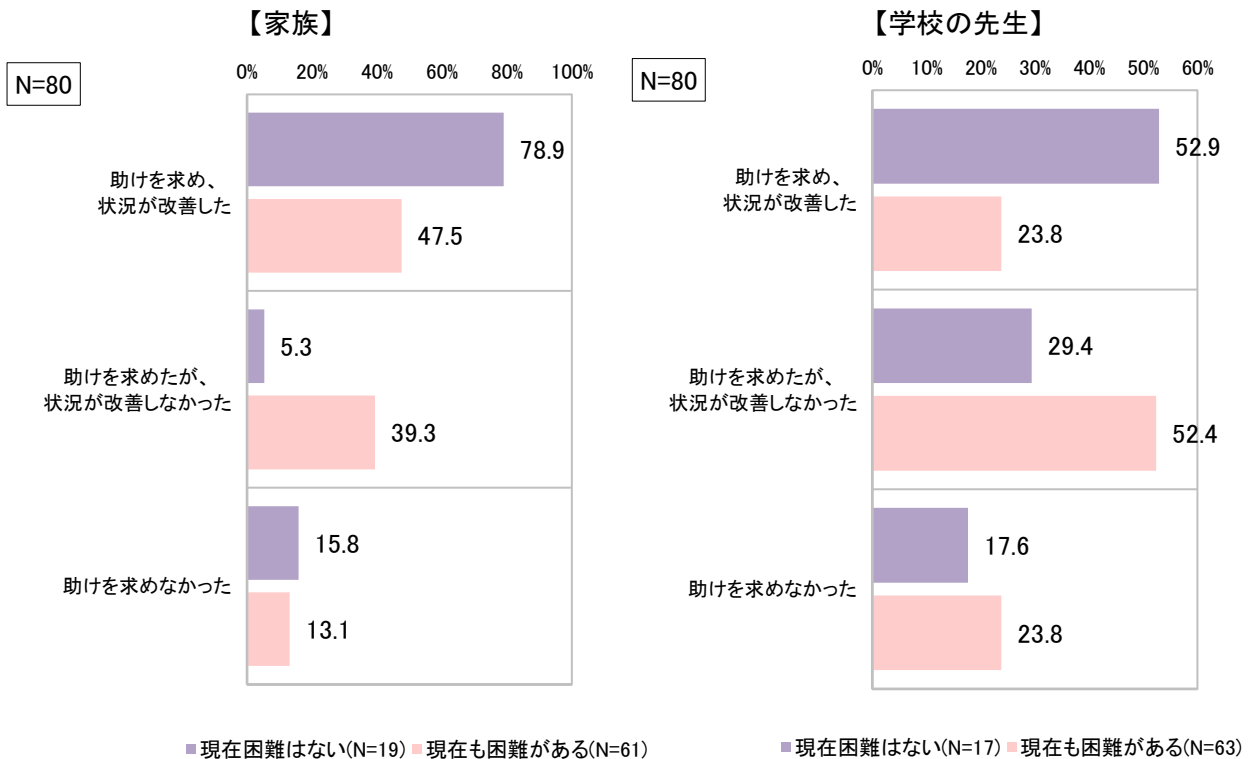
図表Ⅲ-4-4-(1)-④ 現在の困難の有無と望まない妊娠の経験
:「望まない妊娠をしたことがない」と回答した人の割合



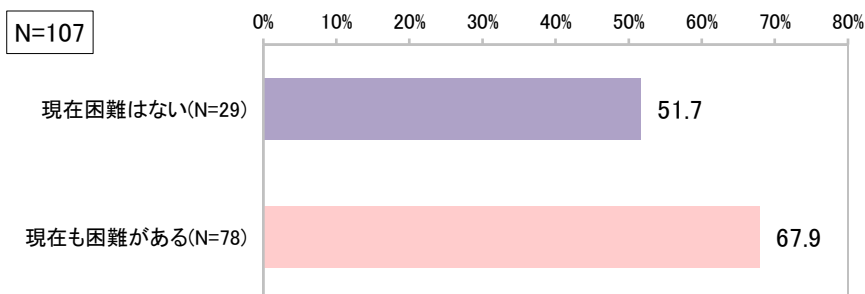
(2) 学校での傷つき体験と相談行動

- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、学校での傷つき体験があっても、相談した結果「状況が改善した」と感じられるような「家族」や「学校の先生」がいた。
- ✓ 15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、学校での傷つき体験について、誰かに「話しても無駄」とは思わない程度の他者への信頼感があったことが推察される。

図表Ⅲ-4-4-(2)-① 現在の困難の有無と学校での傷つき体験の相談行動
(注:15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析、②も同様)



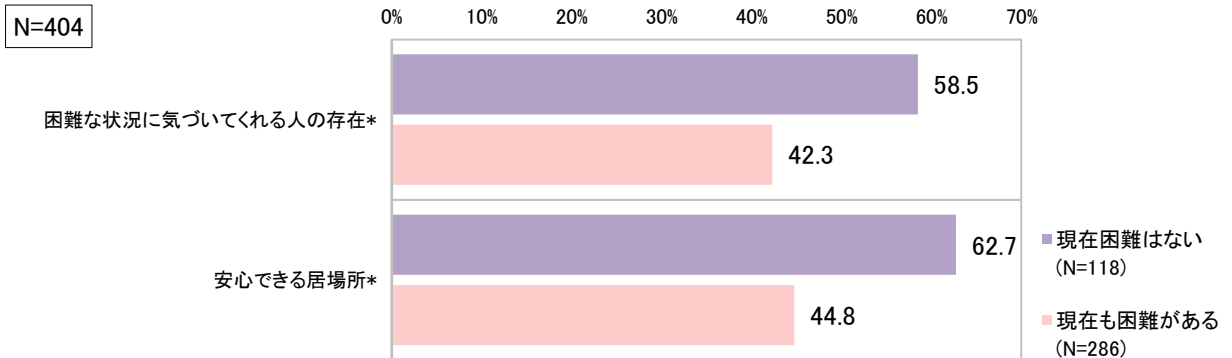
図表Ⅲ-4-4-(2)-② 現在の困難の有無と学校での傷つき体験を相談しなかった理由
:「話しても無駄だと思った」と回答した人の割合



5 回復に必要なもの

- ✓ 女性が困難な状況から回復するために必要なものをたずねる設問への回答をみると、15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人は、困難がある人に比べ、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」、「安心できる居場所」と回答する割合が高い。他者への信頼感がここでも読み取れるほか、自身が困難な状態にとどまっていなかった要因としてそれらが役立ったと考えている可能性がある。

図表Ⅲ-4-5 現在の困難の有無と回復に必要なもの【複数回答(3つまで)】
(注:15歳当時の暮らし向きが[苦しかった]人に限定して分析)



▶ 第Ⅲ部第4章のまとめ

本章では、15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人と、現在も困難がある人の違いに焦点を当て、困難を抱えるリスクが高い状況にあっても、困難に陥らず踏みとどまる力、すなわち抵抗力・耐久力を養う要因を分析した。現在困難を抱えていない人は、現在も困難がある人に比べ、15歳当時に「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」と回答する割合が高いなど、周囲の大人からの適切な関わりがあったと考えられる。子ども時代を過ごした家庭が、親や家族からの虐待がなく安心できる場所であり、傷つき体験があっても家族や学校の先生に助けを求めて状況が改善した経験をしている割合が高い。他者への信頼感や自己肯定感、自己決定意識は、周囲の大人とのそうした関わりを通して構築されたと考えられる。そのことはまた、困難な状況に陥った際には他者に助けを求めるといった受援力の醸成につながり、踏みとどまる力になっていることも示唆された。

第Ⅳ部 アンケート自由記述の分析

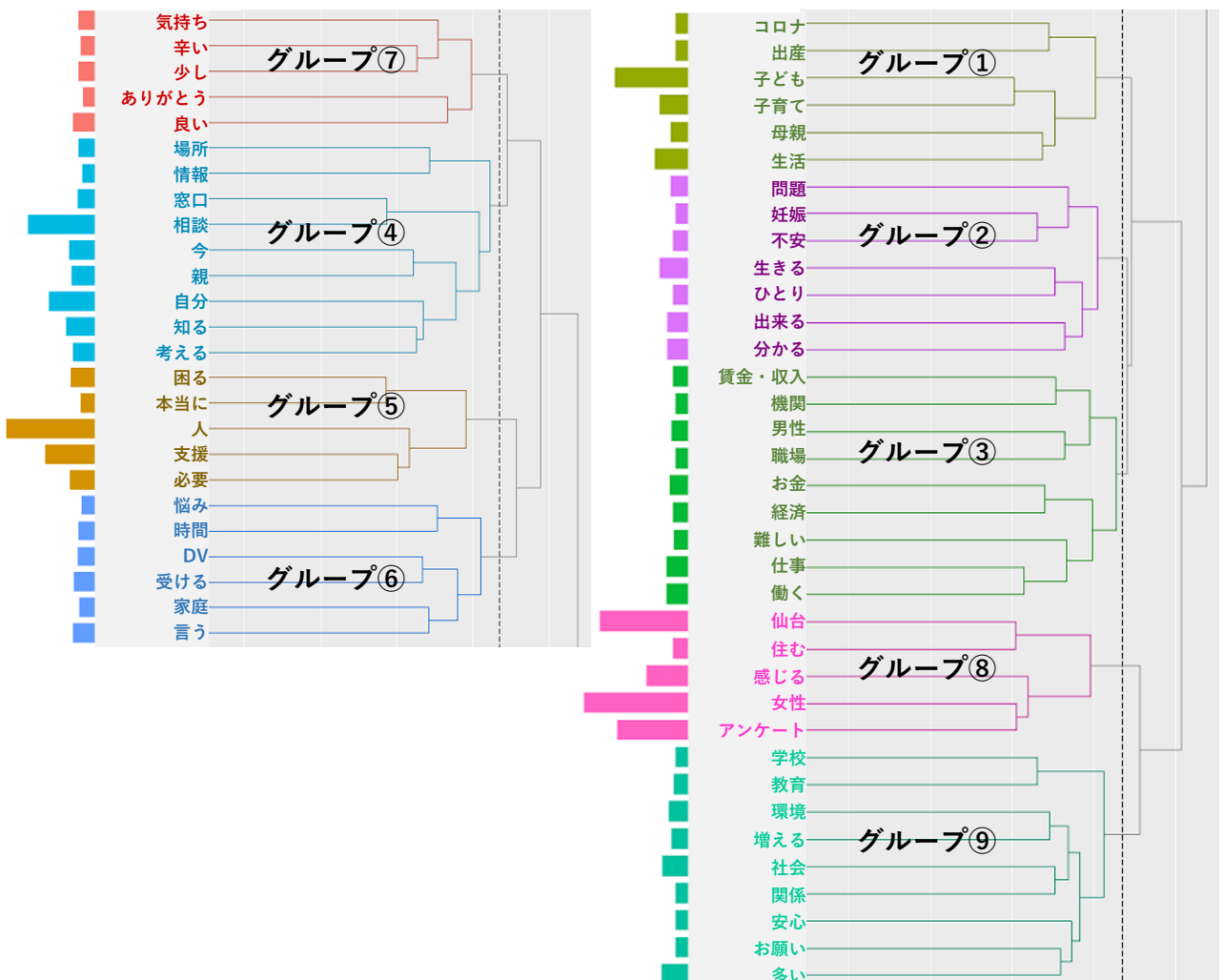
アンケートに回答した1,649人のうち、問33の自由記述欄には312人（18.9%）が暮らしの悩みや過去の傷つき体験、相談に関すること、仙台市や社会への要望など様々な声を寄せた。下記のとおり分類・分析し、記述を抜粋・加工して紹介する。

頻出語の階層的クラスター分析

自由記述の内容が多岐にわたるため、多くの人が共通して使う頻出語を抽出し、出現パターンが似ている語の組み合わせを見ることが出来る階層的クラスター分析を行って、9グループに分類した。各語の左のグラフは出現回数を表している。頻出語の抽出、階層的クラスター分析には、計量テキスト分析用ソフトウェア・KH Coder を使用した。

《分析時の修正》

- 最も多く使われていた「思う」は、あらゆるグループと関連するため除外した。
- 「つらい」を「辛い」、「子供」「子」を「子ども」とするなど、記述の一部を置き換えた。
- 同じような文脈で使われていた「賃金」「収入」「給料」は、「賃金・収入」にまとめた。



グループ① 「コロナ」「出産」「子ども」「子育て」「母親」「生活」

自由記述で最も多かったのが、子育てに関する悩みや、子育て・母親支援に対する要望だった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が子育てなどに影響しているとの声もあった。自身と母親との関係にまつわる悩みの記述もあった。

(1) 子育てに関する悩み

子育てに関する悩みとして、時間の確保や保育所入所の難しさ、遊び場の少なさ、経済的な不安などの記述がある。

- 子育てをしていると、一人の時間も、誰かと話すこともない。
- 子どもの預け先を決めるまでの手間が大変。
- 職場復帰したくても保育所へ入りづらい。
- 電車で段差があり、ベビーカーの上げ下げが大変。
- 遊べる場所、子どもが楽しめるイベントが少ない。
- 子どもに障害があり、将来が不安。
- 経済的に先行きが見えず、二人目の子どもを持つことをためらう。

(2) 子育て・母親支援に対する要望

子育ての相談や母親同士の交流の場、休息や一時的な避難ができる場、預け先の拡充など場所の支援を望む声と、保育所入所の仕組みの改善や経済的支援などの必要性を訴える記述がある。

- 子育てや子どもの成長について相談できる場所。
- 子育て中の人と交流できる場所。
- 子育てに行き詰まった時に、子どもと一緒に休める施設。
- 夫婦関係に悩んで家から逃げ出したい時に、子連れで一時的に避難できる場所。
- 病気や障害のある子どもの受け入れ先の拡充。
- 虐待を受けた子どもの居場所の拡充。
- 4月入所に限らない保育所の仕組み。
- 出産費用が足りない。
- 将来子どもがほしいので、女性や子ども支援の充実。
- 離婚や別居に向けた経済的サポート。
- 母子・父子家庭の養育費の支援。

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、出産後の孤立や外出制限といった子育てへの影響のほか、人と会えないことなどによる孤独感を訴える記述がある。

- コロナ禍での出産で、母親学級がなく他の妊産婦と知り合えなかった。
- 出産後にコロナ禍になり、外出しづらかった。
- 妊娠中にコロナ禍になり、シフトを減らした。
- 医療機関で働いており、行動制限があって友人と会えない。
- 孤独感が増し、自殺願望が出る時があった。

(4) 自身と母親との関係にまつわる悩み

母親との関係にまつわる悩みとして、介護や過干渉などの記述がある。

- 高校生の頃から母親を介護。自分の時間がない。
- 精神疾患のある母親がいるが、障害年金や手当の対象外で生活が苦しい。
- 母親の過干渉により人づきあいができない。
- 母親に管理され続け、私自身の自己肯定感が低い。

グループ②「問題」「妊娠」「不安」「生きる」「ひとり」「出来る」「分かる」

妊娠・不妊に関することや、ひとり親、ひとり暮らしに関する悩みの記述があった。

(1) 妊娠・不妊について

望まない妊娠の体験、不妊治療の悩みなどの記述がある。

- 10代で望まない妊娠。親は厳しく、産婦人科に相談しても相手をしてくれなかった。
- 幼少期の虐待から自暴自棄になり、10代で望まない妊娠。現在、精神疾患を患っている。
- 経済的・身体的理由で妊娠がかなわない人もいる。
- 仕事しながらの不妊治療だが、費用がかかるうえ、欠勤で収入は減る。
- 仕事と不妊治療の両立が難しい。不妊治療休暇も取得しづらい。
- 不妊治療や卵子凍結の費用が高く、治療をためらう。

(2) ひとり親に関する悩み

経済的な不安、周囲の理解不足などの記述がある。

- ひとり親でお金の心配がなくなる。
- 多様な家庭があることを、学校や地域は理解してほしい。
- ひとり親の給付金が少ない。
- 子どもが成人したら給付金も養育費ももらえない。

(3) ひとり暮らしに関する悩み

経済的な不安、将来の心配などの記述がある。

- ひとり暮らしへの支援が少ない。
- 経済面の不安がありダブルワークをしている。
- 独身ひとり暮らしで、副業なしでは生きていけない。
- 独身で、経済・健康面で老後の不安が大きい。

グループ③ 「賃金・収入」「機関」「男性」「職場」「お金」「経済」「難しい」 「仕事」「働く」

低賃金や非正規雇用に関する悩み、男性との待遇格差に関する記述、ハラスメントに関する悩みなどが多くみられた。グループ①②と連動し、仕事と子育ての両立に関する悩みや、家事育児負担が女性に偏っている現状を訴える声も目立った。

(1) 低賃金・非正規雇用の悩み

低賃金・非正規雇用の悩みとして、生活の苦しさや不安定な雇用などの記述がある。

- ・ 給与が低く、自由に使えるお金がほとんどない。
- ・ 正社員でもひとり暮らしはかなり厳しい。
- ・ 非正規でボーナスがない。
- ・ 非正規で、次年度の更新のことが常に心配。
- ・ これから出産・子育てをしたいが、非正規なのでためらう。

(2) 男性との待遇格差や女性の健康に関する職場環境

男性との賃金・昇進格差、女性の健康に対する職場の配慮不足などの記述がある。

- ・ 男女での賃金格差や昇進の差がある。
- ・ 仕事をしていると、男性が有利に見える。
- ・ 過度な労働で身体への負担が大きく、ライフプランを考えるのが難しい。
- ・ 職場に生理休暇をよしとしない雰囲気がある。
- ・ PMS（月経前症候群）などに対する職場の理解が足りない。

(3) ハラスメントに関する悩み

セクシュアルハラスメント被害への対応の要望、カスタマーハラスメント（顧客や取引先などからのハラスメント）被害などの記述がある。

- ・ ハラスメントが一向になくならない。
- ・ セクハラに関する社外の相談窓口がほしい。
- ・ セクハラや勤怠に対する職場のルールを改善してほしい。
- ・ 女性スタッフのみの職場で、カスタマーハラスメントが増えた。

(4) 仕事と子育ての両立、家事育児負担に関する悩み

仕事と子育ての両立に関する悩みとして、仕事の制限、子どもとの時間や預け場所の不足などの記述がある。女性にかかる家事育児負担の大きさを訴える記述もある。

- ・ 仕事と育児の両立が大変。
- ・ 子どもがいると、仕事が制限される。
- ・ 職場復帰して子どもとの時間がとれないが、短時間勤務が可能な仕事もない。
- ・ 求職活動をしていると、保育所に入れず一時預かりも利用できないという女性たちの声をよく聞く。
- ・ 働いていても結局は、家事も育児も女性がやらざるをえない。
- ・ 男性に家事・育児の大変さを知ってほしい。

グループ④ 「場所」「情報」「窓口」「相談」「今」「親」「自分」「知る」 「考える」

自身の相談体験に関する記述や、相談先の情報・相談のあり方への要望などが寄せられた。親に関する記述などもあった。

(1) 自身の相談体験

相談先での嫌な体験などの記述がある。一方で、相談してよかったという記述もある。

- 電話相談で軽くあしらわれた。
- 窓口で門前払いをされ、絶望した。
- 職場のトラブルを相談した時、年配の男性から相手方の男性の立場でアドバイスをされ、相談することをあきらめさせられた。
- 相談しても前に進まないことが多く、相談機関を転々として疲れた。
- 「のびすく」に相談をして、気持ちが軽くなったことがある。

(2) 相談先の情報・相談のあり方への要望

相談先の情報について、相談先を知らなかった、過去に情報が見つからなかったなどの記述がある。相談のあり方への要望として、身近な場所での相談先の広報、気軽に相談できる場、相談窓口間の連携などを求める記述がある。

- (アンケート同封の相談先リーフレットで) いろんな相談窓口があることを初めて知った。
- 相談できる場所があると知り、少し気持ちが楽になった。
- ストーカーやDVの相談窓口を探したが、情報が見つけれなかったことがある。
- 相談先のチラシを駅やコンビニ、スーパーや病院などに設置してほしい。
- 気軽に相談できる場が増えてほしい。
- 一緒に悩んだり考えたりしてくれる人がいると、行動する力も出てくる。
- まずは匿名で何でも相談できるシステムがあるとよい。
- 各相談窓口の連携。
- 困難な状況を早期発見し、丁寧に聞き取り、適切な支援をする仕組み。

(3) 親について

将来の介護不安、親や親族との関係の悩みなどの記述がある。

- 女性が家事も育児も仕事も、そして親の世話もして大変なだけ。
- 親の介護のことを考えると不安。
- 親に虐待されて育つと、連鎖を断ち切るのが難しい。
- 貧困と毒親の束縛で、閉塞感しかない。
- 祖父母が毒親のようだった。当時の恐怖心や不快感はなくなっていない。

グループ⑤ 「困る」「本当に」「人」「支援」「必要」

困難な状況にある女性が自ら支援を求める難しさに関する記述があった。女性たちへの具体的な支援に関する声も寄せられた。

(1) 自ら支援を求める難しさ

困難な状況にある女性が自ら支援を求める難しさとして、余裕のなさ、自身の状況把握の難しさなどの記述がある。

- 本当に困っている人は、情報を得る余裕も気力もない。
- 問題が生じている時ほどSOSは難しい。
- 自分のことを相談するのは大変。
- 自分の状況や気持ちを客観視できていないと、助けを求めることはできないと思う。
- 働きながら家事、育児をすることが当たり前と思われてるからこそ、小さな悩みも相談できない人は多いと思う。

(2) 具体的な支援について

女性たちへの支援として、頼れる場所の拡充、周囲の人の関わり、情報を分かりやすく届ける仕組み、積極的な関わりなどの記述がある。

- 本当に困っている人のために、頼れる場所、人などをたくさん作ってほしい。
- 身近な人が状況をキャッチし、必要な機関につなげる。
- 助けを求めるのは勇気がいるので、職場やコミュニティでSOSに気づく人が重要。
- ネット検索で、有用なページがすぐにヒットしてほしい。
- 支援すべき人を取りこぼさないような分かりやすい仕組みづくり。
- 助けを求められない人を探し出すことが必要。
- 本当に支援が必要な人のために、相談窓口はどこまで個人に関わり、家庭に介入できるのか疑問。

グループ⑥ 「悩み」「時間」「DV」「受ける」「家庭」「言う」

自身のDV被害に関する記述が複数あった。DVや虐待など家庭の話は人に言いづらいという声も寄せられた。

(1) 自身のDV被害

自身のDV被害に関するものや、虐待を受けた子どもの支援、SNS相談などを求める記述がある。

- 当時住んでいた地域でDVから逃げるために女性相談所に助けを求めたが、時間外だと追い返された。
- 親から被害を受けている子どもが支援を受けられる場所がほしかった。
- DVを受けていたころ電話が使えなかったので、SNSやチャットなどで相談できるといい。

(2) DVや家庭の問題の訴えづらさ

DVや家庭の問題の訴えづらさとして、被害に気づきにくい、相談すべきではないと言われた、相談したが相手にされなかった、などの記述がある。

- 子どもの頃は他の世界を知らないもので、それが当たり前だと思っていた。
- 現状が正常か異常かを判断するのがまず難しい。
- 「家庭のことを外に相談すべきではない」と洗脳され、相談できるまでに長い時間がかかった。
- 警察に連絡したが、「家族間のことだから」で終わってしまった。
- 言いたくない、虐待されていると認めたくない、自分は大丈夫と思っている人がたくさんいそう。
- 被害者側が逃げるのではなく、加害者を隔離したり、カウンセリングを受けさせたりできるとよい。

グループ⑦ 「気持ち」「辛い」「少し」「ありがとう」「良い」

辛い気持ちや体験に関する記述があった。アンケートへの謝意も寄せられた。

(1) 現在や過去の辛い気持ちや体験

辛い気持ちを引き起こすものとして、ライフステージの変化による戸惑い、過去の傷つき体験などの記述がある。

- 女性はライフステージが変わるごとに環境や立場、役割が激変するが、立ちどまる時間がなく辛くなる。
- アンケートに回答しながら当時を思い出し、とても辛く、苦しくなった。
- 辛い過去が今も心に影を落としていることを再認識した。
- こういうアンケートは辛さを吐き出しやすい。

(2) アンケートへの謝意

- 女性のことに耳を傾けてくれてありがとう。
- インターネットで回答できてありがたかった。
- 相談先リーフレットが参考になった。

グループ⑧ 「仙台」「住む」「感じる」「女性」「アンケート」

アンケートへの意見や、結果を知りたいという声が寄せられた。

アンケートへの意見として、困難な状況にある人が回答する難しさ、結果のフィードバックの要望、女性たちの支援への期待などの記述がある。

- DVや虐待の被害者にアンケートが届くのか疑問。
- シングルマザーらはアンケートに時間を割く余裕はないと思う。
- アンケートの結果をフィードバックしてほしい。
- 対象を39歳以下にした理由が知りたい。
- アンケートが仙台の女性たちの未来に役立つことを願う。
- 女性のことを考え直す動きをしていることが分かり、仙台市への信頼や安心感が増した。

グループ⑨ 「学校」「教育」「環境」「増える」「社会」「関係」「安心」 「お願い」「多い」

学校や教育に関する体験や要望の記述があった。仙台市や社会への意見も多く寄せられた。

(1) 学校や教育について

不登校体験や学校への不信感に関するもの、性教育や経済教育の要望の記述がある。

- ・ 小学校はいじめなどもあり不登校に。中学校の先生に助けられた。
- ・ 学校はあまり頼りにできないと思っている。
- ・ 学校教育は限界で、人手が必要。
- ・ 性教育や経済教育が十分ではない。
- ・ 小学校からの性教育が大事。正しい知識がないと自分の身も守れない。
- ・ 幼少期の教育と家庭環境が大切。

(2) 仙台市への意見

子育てや教育環境の整備、いじめや不登校への対応、女性支援などを求める記述がある。

- ・ 子どもを産みやすい、育てやすい市に。
- ・ 子育て中の女性が働きやすい仙台に。
- ・ 教育・福祉・医療の現場の声に耳を傾けてほしい。
- ・ 仙台はいじめや不登校が多いので、指導や対応を見直すべき。
- ・ いじめ問題などのニュースを聞くと、頼りにならないと思う。
- ・ 電車に女性専用車両を作ってほしい。
- ・ 女性市長なので、女性の困難を理解してほしい。
- ・ アンケートをもとに改善される女性支援で救われる人がいると思う。
- ・ 仙台で暮らすすべての女性が生きやすい市になるといい。

(3) 社会への意見

女性が活躍できる社会、自分らしい幸せを実現できる社会、安心して助けを求められる社会などを望む記述がある。

- ・ まだまだ女性が活躍できる社会になっていない。
- ・ 女性の社会的地位の向上が必要。
- ・ 女性の社会進出を可能にする制度の確立を願う。
- ・ 女性が結婚・出産にとらわれず、自分らしい幸せの形を表現できる社会になってほしい。
- ・ いじめやセクハラ、DV、望まない妊娠や貧困などいつ誰が当事者になってもおかしくない。相談窓口の周知、若い人がアクセスしやすい環境づくりを。
- ・ 一人ひとりが助けを求める力を身につけ、安心して助けを求めることができる社会となること、モデルとなる大人が増えることが必要。

第V部 当事者ヒアリング結果

「仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート」の結果を補完するものとして、困難な状況におかれた若年女性当事者9名にヒアリング調査を実施した。第V部では、当事者ヒアリングの内容と考察を掲載する。

第1章 ヒアリング対象者の概要

	困難な体験	支援団体につながった年齢と経緯
A	父親がアルコール依存症。幼少期から両親が離婚する中学生の時まで父親から身体的虐待を受け、精神疾患（複雑性PTSD、解離性障害）を発症。小6～中学は不登校。	20代前半。ネットで「死にたい」「相談」と検索。つながった東京のNPOから仙台の支援団体を紹介された。
B	幼少期から母親による心理的虐待を受ける。父親の借金で経済的に困窮。職場でパワハラ・セクハラを受け、自律神経失調症を発症。性依存により望まない妊娠をしそうになった経験あり。	30代前半。職場の同僚の紹介で労働組合の会合に参加し、そこで配られたパンフレットを見て、自分から支援団体に連絡。現在支援を受けている団体を紹介された。
C	幼少期から義父による身体的・心理的虐待を受ける。両親は不仲。	20代後半。ネットで相談先を探し、支援団体につながる。そこでシェルターを紹介してもらい入所。
D	父親にはギャンブル依存や借金があり経済的に困窮、両親は不仲。幼少期から両親による身体的・心理的虐待を受ける。中学は不登校。	20代後半。精神保健福祉士の友人から支援団体を紹介された。
E	中学生の時からきょうだいによる身体的・精神的・性的暴力を継続的に受け、現在も日常生活に支障をきたしている。	20代前半。友人から支援団体を紹介された。
F	父親はアルコール依存症で母親は発達障害があり、両親は不仲。本人も発達障害があり、職場の人間関係に悩む。親の精神的ケアを担っている。性依存の経験あり。	20代前半。自分から様々な相談機関に電話した。
G	幼少期に両親が離婚し、母子家庭となる。本人に持病、きょうだいに発達障害がある。20代前半に交際相手からのデートDVを受け、2度の中期中絶を経験。	20代前半。中期中絶のため入院した際、女性の医師からソーシャルワーカーへの相談を勧められる。そこから役所を介して支援団体へとつながった。
H	父親の酒癖が悪く、幼少期から心理的虐待を受ける。母親の宗教問題もあり、経済的に困窮。職場でパワハラに遭い、仕事を辞めると父親による暴力が悪化。母親とは不仲（過干渉）。	30代後半。女性のための相談会に参加した際に、支援団体を紹介された。
I	母親は虐待・性暴力サバイバー。幼少期から父親による性虐待や面前DVによる心理的虐待を受ける。知人などから性的暴力を受ける。本人には発達障害がある。	中学生の時に発達障害の支援団体とつながる。20代前半で、本人を心配した母親が、過去に自身が支援を受けた団体に連絡し、支援につないだ。

第2章 対象者の困難な状況

1 家族関係

(1) 家族からの暴力

対象者の多くが子ども時代を過ごした家庭の中で、実父や実母、義父、きょうだいなど、家族からの身体的暴力、面前DVを含む心理的暴力、性暴力、経済的暴力といった虐待行為を受けており、家が安心できる場所ではなかった。虐待経験により精神科に通院していた、または現在も通院中の人も多い。常に死にたいと思っていた（希死念慮）、自傷行為、自殺未遂の経験などもみられた。

子ども時代を過ごした家庭での経験が、その後の人生に大きな影響を及ぼしていることがうかがえる。学校や職場で人間関係がうまく築けないケースもみられた。

【対象者の発言より】

「やめてほしいと言って相手がやめてくれた経験を家庭ですてこなかったから、断れない」
「クラスにはなじめなかった。誰かと仲良くなりそうになると、自分なんか幸せになってはいけない、のびのびした姿を見せると親の機嫌が悪くなる、と自分でブレーキをかけていた」

(2) 親との不仲・過保護・過干渉

親、特に母親との関係が良好ではなかったケースが目立った。弟のことはかわいがるのに、娘である自分のことは「気持ち悪い」と言うなど、異性きょうだいとの比較により傷つけられる例もあった。

「お前には何もできない」と常に否定されて育ち、自分で選び、決める経験をしてきていないため、自己肯定感や自己決定意識が低く、他者に支配されることが常態化している状況が見受けられた。

【対象者の発言より】

「母親はいつも自分が正しくて、それ以外は全て否定する感じ。母親に意見を言っても否定されるので、自己主張しなくなっていった」

「子どもの頃からやりたくないことをやらされてきたから、『自分で考える』ということが難しい。自分の考えや意見が全然浮かばなくて困っている」

(3) 精神的に不安定な親のケア（ヤングケアラー）・親自身の困難

親が精神疾患を抱えており、対象者が親の精神的なケアや家事を担うなど、ヤングケアラーであったケースが3件あった。いずれも親に対する否定的な感情は聞かれなかった。また、親自身も幼少期からの虐待やDV等の傷つき体験があり、困難な状況から抜け出せていない。幼少期からの困難な体験が、子どもとの関係も含めたその後の人生に及ぼす影響の大きさが垣間みえた。

【対象者の発言より】

「早く家を出たいと思っていたが、一方で自分がいなくなったら親はどうになってしまうのだろうという気持ちもあった」

「自分は『ケア』という意識より、親が苦しんでいる、親を助けてほしいという意識の方が強かった。ヤングケアラーは自分を被害者だと思っていない。親にも幸せになってほしい」

(4) ジェンダー（女の子・女性）に起因する困難な体験

ジェンダーに起因する問題は、1(2)で言及した親子問題にも影響を及ぼす。危ないから外出させない、帰宅時間や一緒に外出する相手を問う、「あなたには無理」と言って一人暮らしをさせないなどの過保護や過干渉は、本人を心配しているように見えて結果的に本人の可能性を狭め、本人の自己肯定感を奪っていくことが、本ヒアリングからも明らかとなった。

また、(3)のヤングケアラーも女性が家族のケア役割を担う主体というジェンダーの刷り込みの影響が大きいと言える。

【対象者の発言より】

「親から結婚しろと言われる。母親には『女性は結婚・出産して一人前』という考えがあり、母親自身もそのような人生を送ってきたから、子どもにも押し付けているのだと思う」

「彼氏がいたときは『いずれは結婚して、出産して…』ということに縛られていた。別れた時は、自分にはそういう幸せがなくなるんだ…と思ってしまった。今でも一般的な女性の幸せへの憧れを捨てきれない部分がある。パートナーは欲しいから、マッチングアプリをやめられない」

2 対人関係

(1) 交際相手からのDV・妊娠・中絶

交際相手からDV（身体的暴力・暴言）を受けており、妊娠した後に暴力が激しくなった結果、中期中絶をした例もあった。

(2) 男性依存・性依存

親子問題や、それに伴う自己肯定感の低さが原因となり、男性依存や性依存の状態に陥るケースがみられた。親から大切にされない経験が重なったため、自分自身を大切に思うことができず、自分の存在意義を他者（男性）から求められることで確認しているように見受けられる。また、家が安全な場所ではない場合、そこから逃れるための行動としてさらにエスカレートしていく様子もうかがえた。

【対象者の発言より】

「自分に自信がなくて、他者からの評価で自分を保っているところがある。ありのままの自分を受け入れることが難しい。男性は（性的な）目的があって自分に優しい態度をとってくることは分かっているが、やめられない」

「家に帰ろうとすると過呼吸になってしまうので、家に帰らなくて済む用事をつくるために男性と一緒にいるようになり、性依存の状態になっていった。ストレス源である家から離れて一人暮らしをした結果、無理に用事をつくる必要がなくなったので、男性と会わなくてもよくなり、自分を大切にできるようになった」

(3) 発達障害による人間関係構築の難しさ

家庭での虐待経験等が原因となり、学校や職場でもうまく人間関係が築けないケースについて1(1)で言及したが、それに加えて発達障害が原因となって人間関係を築くことが難しい人もいる。子どもの頃から人間関係がうまくいかず生きづらさを感じていたが、大人になってから発達障害であることが判明した人もいた。

3 労働の場における問題

(1) 職場におけるセクハラ・パワハラ

1(1)・(2)でみてきたように、家庭における困難な体験により、自分の意思を伝えることが難しい状態になっていると、職場で理不尽な扱いを受けたり、パワハラやセクハラを受けたりしても、拒絶の意思を表明できないことがある。

また、非正規雇用で働いていると、そもそも労働者としての立場が弱く、声をあげることができなかつたり、声をあげることができても対応してもらえなかつたりした体験もみられた。

(2) 経済的な困窮

対象者の多くは、現在も子ども時代を過ごした家庭においても経済的な困窮がみられる。原因は、両親の離婚により母子家庭となった、家計を担っていた父親のリストラやギャンブル依存、母親の宗教問題など様々である。対象者が大人になった後も、奨学金の返済が重くのしかかっている、非正規雇用のため自立できるほどの収入を得られないなど、困窮状態から脱することができていない。

1(1)・(3)で示したとおり、虐待やDVなどの被害経験に起因する心身の不調は長期化する。体調面の心配からフルタイム勤務が難しく、非正規雇用で短時間勤務となつたり、継続して働くことができなかったりすることが多い。また、非正規雇用から正規雇用へのハードルは依然として高く、結果として経済的な困窮から抜け出すことが難しい状況がみられる。

4 被害の認識・相談行動

(1) 被害を認識できない

困難な体験をした年齢が低いほど、自分が被害を受けていることを認識することは難しい。多くの対象者は成長に伴い、学校の友人から「普通ではない」と伝えられたり、大学の授業を通して虐待であったことに気づいたりする経験をしている。また、成人してからデートDVを受けていた例でも、「どの範囲からDVなのか自分では分かりにくい」という声が聞かれた。

(2) 相談できない・しない

虐待を行う大人の多くは「家庭のことを外で話してはいけない」という刷り込みも同時に行っているため、虐待を受けている子どもは誰にも話せずに被害が積み重なってしまう。

さらに、親が真摯に話を聞いてくれなかったことで、学校の先生や周りの大人などへの信頼感が低く、相談しても仕方がないと諦めてしまうこともある。

第3章 当事者が求める支援とその効果

1 家族以外の第三者による積極的な関わり

対象者の中には、保育所や学校の先生、スクールソーシャルワーカーなどに被害について話をした人もいたが、いずれも被害を十分に理解してもらえず、解決のための支援に至らなかった。親からの刷り込みもあり、家庭内のことや被害を本人が第三者に話すこと、相談することはハードルが高い。対象者からは、周りの第三者が異変に気づき、支援の手を差し伸べてほしいとの希望が多数あがった。

【対象者の発言より】

「家庭の問題がその家族にしか解決できないとしたら、その家は地獄のまま。外から入ってもらった方がいい。できるだけ子どものうちに状況を変えるきっかけがほしかった」

「相手から来てほしい。前のめりの支援」

「自分の状況について聞かれたら答えるが、自分から話したい（相談したい）とはなかなか思えない。相談された相手も反応に困ると思う」

2 学校で虐待についての知識を得る機会

学校の中で、虐待等についての知識を得る機会をカリキュラムとして組み込んでほしいとの意見もあった。また、学校だけではなく、社会的なムーブメントを醸成し、当事者が気づく環境をつくる必要があるとの声もあった。

【対象者の発言より】

「虐待、性・からだのこと、生活保護など、本当に生活に必要な情報を学校で教えるべき。子どもが分かりやすい指標を文章で作ってあげると、子ども自身の気づきにつながる。学校の先生ではなく、専門家に委託してほしい」

3 相談できる場所の拡充・情報を届ける仕組み

相談できる場所や手段の拡充を求める声もあった。無料の電話相談はつながらないことが多いので増やしてほしい、電話よりもLINEの方が抵抗感なく相談できる、虐待を受けて育った大人向けの自助グループがあるといい、気軽に立ち寄れる場所で相談したいなどの意見が聞かれた。

【対象者の発言より】

「相談場所は交通の便が良い駅周辺で、人目に付きすぎず、あからさまに『ここは相談です！』という感じではないところがいい」

「みんなが行くような商業施設などに、若い女性や困っている女性が目にできる情報・パンフレットがあるといい」

4 女性に向けた公的支援の拡充

シングル女性への就労支援についての希望もあった。子どもがおらず、生活保護等の福祉制度の対象にもならない、非正規雇用で働くシングル女性に向けた支援の充実を求める声があった。

【対象者の発言より】

「適職を探す支援、生活保護以上の収入が得られる仕事の紹介、正規雇用で長く働くための支援などがほしい。女性は非正規雇用が多く、生活が安定しないから夜の仕事に行ってしまうのでは…。自立して暮らせるようにしてほしい」

「これまで非正規雇用で働いてきたが、事務職のスキルと呼べるほどのスキルを獲得できていない。年齢的にも若くないので、正社員は難しいと思う」

5 支援者同士の連携

支援者は特定の分野に専門性を有することが多いが、困難な状況にある女性は、様々な困難が複合的に絡まりあっているケースが少なくない。一人の女性を切れ目なく支援するために、支援者同士の連携が欠かせない。

【対象者の発言より】

「支援者同士がつながっていたら、状況は変わっていたと思う。一人の人の問題は多岐にわたるので、得意な支援を勧めるだけでなく、他の選択肢があることも教えてほしかった」

6 発達障害がある人への支援

発達障害がある人は、他者とのコミュニケーションがうまく取れず、人間関係のトラブルを抱えやすい傾向がある。ヒアリング対象者のうち発達障害がある人からは、職場などで、健常者との間に立ってサポートを行う人を配置してほしいとの意見があがった。学校や地域においても、発達障害に限らずコミュニケーションが困難な人たちに、どのような配慮が必要かを考えることが重要である。

【対象者の発言より】

「職場でいじめを受けてきた。『だめだ、なぜできない』など、漠然と言われてもどうしたらいいか分からないし、精神的なダメージが大きい。『〇分前に来てみようか』など、数字や具体的な行動で言われれば理解できるし、対処のしようがある」

7 支援につながることによる効果

今回のヒアリング対象者は全員が支援機関とつながっている。それにより自分の受けていることが虐待やDVなどであると自覚できたと述べている。

【対象者の発言より】

「自分が受けた行為が虐待であるという認識がなかった。支援者からそれは虐待だと言われて、ありえないことだったと気づけた」

「自分の親は他の親とは違うとなんとなく分かっていたが、相談することで鮮明になった」

「両親からの暴力はあったが、すぐに自分が保護されるような案件ではなかったので、たいしたことではないと思っていた。でも、そうではなかったと気づいた」

「支配されることが自分にしみついでいて、そこから抜け出せていないことに気づかせてもらった。現在、自己主張をすることや、YES/NOをはっきりさせることをトレーニング中」

「被害に遭ったのは自分のせいだと話したら、あなたは悪くないと言われてもらえて救われた」

また、支援につながることで外に目を向けることができ、将来への希望が持てたり、孤立感が解消できた様子もうかがえた。

【対象者の発言より】

「将来の道筋や希望を与えてもらった。自分のつらい体験をプラスに活かしていける道もあると知った」

「メンタルがだいぶ落ち着いた。今は死にたいと思うことはない」

「一人じゃないという希望が持てた。話を聞いてくれる、一緒に考えてくれる、助けてくれる存在ができた」

「同じ悩みを持つ人同士の集まりに参加して、自分との向き合い方に新しい気づきがあった」

第Ⅵ部 まとめ・支援に求められるもの

第1章 調査結果のまとめ

アンケート調査、当事者ヒアリングで見えてきた仙台市における若年女性の困難の特徴や背景を以下のとおりまとめる。

1 「今」の生きづらさとジェンダー規範

生きづらさを感じているかを問う設問では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」との回答が51.4%であり、半数を超えている。

また、現在の困りごとを問う設問では、56.5%が現在何らかの困りごとがあると回答している。この中で「メンタルヘルスの問題を抱えている」との回答は9.3%だったが、K6を用いた心の健康状態（メンタルヘルス）をはかる設問では、精神的不調の度合いが「中程度」（9～12点）が21.8%、「重度」（13点以上）が22.8%となっている。前者を自己認識、後者を客観指標と考えると、客観的には深刻な状況にも関わらず、自覚のないまま問題を放置している可能性があると考えられる。なお、K6の指標となる設問文を分かりやすく加筆したことが回答に影響を及ぼした可能性が否めないが、それを差し引いても他調査と比較してメンタルヘルスの状態が悪い可能性がある。

（第Ⅱ部第2章-2、第Ⅱ部第3章-1、第Ⅱ部第3章-2）

ジェンダー観を問う設問では、家事や育児は女性の仕事といった性別役割分担意識に肯定的な考えを持つ人は3割に満たないが、交際相手や結婚相手に自分以上の経済力を求める割合は約6割にのぼっている。経済面での性別役割分担意識を肯定する割合は、現在困りごとがある人が困りごとのない人に比べて高くなっており、非正規雇用や賃金格差、ワンオペ育児など女性がおかれている現実の厳しさの反映という見方もできる。（第Ⅱ部第3章-1、第Ⅲ部第1章-1(3)）

2 ライフコースに影響を与えるジェンダーの制約や様々な出来事

ジェンダーの制約や、ライフステージが変わる時期に大きな出来事を経験することが、長期的なライフプラン・キャリアプランなどライフコースに与える影響が明らかになった。

女の子・女性だからという理由でできなかったことを問う設問では、年代が上がるにつれて何らかの制限・制約があったとの回答割合が高くなった。とりわけ、全回答の中で一番多かった「昇進・キャリアアップ」については30代が他の年代より高く、社会に出てから男女の格差を感じる場面が多くなると推察される。（第Ⅱ部第5章-1）

東日本大震災により何らかの影響を受けた人の割合は、現在30代（震災当時19歳～28歳）が他の年代と比べて高く、震災当時、進学・就職・結婚などライフステージが変わる時期であったことが影響していると考えられる。新型コロナウイルス感染症の影響では「希望する進学先や就職先を選べなかった」と答える割合が20代前半で高く、企業の採用控えが就職活動中の女性たちに与えた影響の大きさが垣間みえる。20代後半～30代前半では、「結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた」との回答が他の年代より特に多い。30代は「家事・育児・介護の負担が増えた」が突出しており、家庭内におけるケア役割が強化されたと考えられる。（第Ⅱ部第4章-1、第Ⅱ部第4章-2）

3 過去の困難な体験、特に家庭での傷つき体験が及ぼす影響

今回のアンケート調査では、子ども時代を過ごした家庭での傷つき体験、学校での傷つき体験、DV等での傷つき体験、望まない妊娠の経験の4つの傷つき体験についてたずねた。過去の傷つき体験から未回復の人は、回復した人と比べて現在困りごとを抱えている割合が高く、生活満足度や自己肯定感が低い。経済的な苦しさや生きづらさ、深刻なメンタルヘルスの問題を抱えている割合、味方や安心できる場所がない人の割合も高く、現在の生活の中で様々な困難を抱えている状況が明らかになった。

ライフコースの観点からみると、過去の傷つき体験から未回復の人は、15歳当時に周囲の大人から大切にされている実感が少ない人が多く、学歴が短大卒以上の割合が低い傾向や、進学先・職業・職種の選択にジェンダーによる制約を受けている傾向がみられた。また、東日本大震災やコロナ禍での悪影響など、ライフコースで様々なつまずきを経験していることが分かった。（第Ⅲ部第3章）

とりわけ、家庭での傷つき体験が他の傷つき体験と比較して、その後の人生に大きく影響を及ぼしていることが明らかとなった。傷つき体験別の回復度を比較すると、「今も影響がある」（「今も影響がある（全く回復していない）」と「今も影響はあるが、回復しつつある」の合計割合）は、家庭での傷つき体験で突出して高く（6割超）、全く回復していない人も約3割と他の傷つき体験より高い。つまり、家庭での傷つき体験は、その後の人生に大きく影響を及ぼし、回復に相応の時間がかかることを示唆している。当事者ヒアリングでも、家族からの虐待や親との不仲など、幼少期からの傷つき体験が、その後の自己肯定感の醸成やメンタルヘルス、人間関係の構築に影響を及ぼしていることがうかがえた。（第Ⅱ部第6章-5、第Ⅴ部）

傷つき体験についての相談行動を比較すると、「助けを求めたり、話したりしなかった」割合は家庭での傷つき体験が最も高く、6割弱にのぼる。相談しなかった理由として、「相談していいことだと思わなかった」が他の傷つき体験より顕著に高く、家庭での傷つき体験は外部に相談しにくいことが推察される。当事者ヒアリングからも、「家庭のことを外で話してはいけない」と刷り込まれ、相談行動までつながらなかった話が聞かれた。（第Ⅱ部第6章-6、第Ⅴ部）

安心できる場所を問う設問では、家庭が安心できる場所ではないと感じている人が、18-19歳で4割強、20代前半で5割弱となっており、家族間の関係性が良好でないなど、家庭内に問題を抱えている人が少なくないことがうかがえる。当事者ヒアリングでも、ほとんどの人は安心できる場所として一人暮らしをしている自宅やシェアハウスなどを挙げており、背景には家族からの虐待や親との不仲など、家庭で安心して過ごせない現実が垣間みえた。（第Ⅱ部第3章-4、第Ⅴ部）

4 子ども期の貧困や環境が及ぼす影響と困難に陥らないために必要な支援

本調査では、子ども期の貧困が若年女性の生きづらさにどのような影響を及ぼすのかを調べるため、「15歳当時の暮らし向き」に注目した。「15歳当時」とするのは、回答者が答えやすい（15歳より早い時期だと暮らし向きを思い出しにくい）、親の経済状況による格差を把握しやすい（40代・50代で賃金格差が拡大するため）、義務教育の終了時で人生の最初の分岐点となる時期だからという3つの理由からである。

分析の結果、15歳当時の暮らし向きの苦しさが、現在の様々な困難やライフコースでのつまずきと関連していることが明らかとなった。

15歳当時の暮らし向きが苦しかった人は、それ以外の人に比べて現在困りごとを抱えている割合が高く、生活満足度や自己肯定感が低いなど、3で述べた過去の傷つき体験からの未回復の人と概ね共通の傾向がみられた。15歳当時の状況やライフコースにおける様々なつまずき経験も同様であった。（第Ⅲ部第2章）

とはいえ、子ども期の暮らし向きが、必ずしもその後の人生を決定するわけではない。暮らし向きが苦しくとも、困難な状況にとどまらない方法やその後の人生を生きやすくする手立てを考える必要がある。

その検討の基礎とするため、15歳当時の暮らし向きは苦しかったが現在は困難を抱えていない人と、現在も困難がある人の違いに焦点を当て、困難を抱えるリスクが高い状況にあっても困難に陥らない要因を分析した。

現在困難を抱えていない人は、現在も困難がある人に比べ、15歳当時に「自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた」、「親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた」、「悩みや困りごとを相談できる場所があった」と回答した割合が高く、周囲の大人からの適切な関わりがあったと考えられる。また、子ども時代を過ごした家庭で、親や家族からの虐待がなかった割合が高く、傷つき体験があっても家族や学校の先生に助けを求めて状況が改善した経験をしている割合も高い。他者への信頼感や自己肯定感、自己決定意識は、周囲の大人とのそうした関わりを通して構築されたと考えられる。そのことはまた、困難な状況に陥った際には他者に助けを求めるという受援力の醸成につながり、踏みとどまる力になっていることも示唆された。他者への信頼感や自己肯定感、自己決定意識を構築し、受援力を醸成するためには周囲の大人からの適切な関わりが欠かせない。とりわけ親からの虐待などがある場合は、親以外の大人からの関わりが求められる。（第III部第4章）

第2章 困難を抱えた若年女性への支援に求められるもの

本調査では、仙台市内の若年女性が抱える問題やその背景、困難に陥らないために必要な手立ての一端を明らかにすることができた。若年女性に対する支援を進めるためには、幅広い分野における取り組みが求められるとともに、官民が連携・協力し合うことが欠かせない。関係局・関係機関とも本調査結果を共有し、今後の具体的な取り組みについて検討を進めていくことが必要である。以下、困難を抱えた若年女性への支援に求められるものを挙げる。

1 困難な状況にあることに本人が気づく／生きる力を育む

困難を抱えている若年女性のなかには、自分自身が困難な状況にあることを認識していない人がいることが明らかとなった。また、家庭での困難は相談しづらく、一人で抱え込んでしまうケースが少なくない。まずは困難に気づくこと、そして自分自身を守るための「生きる力」を育むための取り組みを成長段階に応じて展開する必要がある。

【例】

- 虐待、性・からだのこと、性的同意などについて知る機会の提供
- 各種支援制度に関する知識、家計管理などの金融教育をはじめとした、ライフスキルを身につける機会の提供
- 自己肯定感・受援力・他者への信頼感を育む取り組み

2 周囲が困難を見つける目を持つ

本人が困難を認識していないことや、親や加害者からの口止め、相談した先での嫌な思い、自分よりも大変な人がいるとの思い込みなど、様々な理由から困難を抱える当事者が自ら助けを求めることはハードルが高い。だからこそ、当事者が助けを求めた際は取りこぼさずに支援につないでいくことはもちろんのこと、周囲が困難を見つける目を持ち、アプローチできる環境づくりが重要である。

また、若年女性が困難な状況に陥る背景には、生まれ育った家庭での影響や、大規模災害などの非常時にしわ寄せを受けやすい社会構造、支援の届きにくさなど、様々な要因が複雑に絡み合っている。それらは本人の自己責任として片づけられる問題ではない。こうした困難の背景について、広く社会全体で認知し、困難からの回復を支援していかなければならない。

【例】

- 困難に気づく、声をかける、支援につなぐことができる人（センサーが働く大人）を増やす
- 若年女性と接する身近な大人が正しい情報や知識を持つ
- 若年女性が抱える困難の実態を、多くの市民に周知する

3 アウトリーチによる支援

困難な状況にある当事者へのヒアリングでは、「前のめりの支援」を求める声が多く聞かれた。虐待等の家庭での傷つき体験を本人が第三者に話すこと、相談することはハードルが高く、被害が顕在化しにくい。2で述べたとおり、周囲の大人が困難を見つける目を持つこととあわせて、既存の支援窓口等においてもアウトリーチ型の支援を通して積極的な関わりの場をつくることで、顕在化していない困難な状況にある人を見つけ出し、支援することが可能となる。

【例】

- 相談を「待つ」のではなく、積極的にアプローチする

4 相談のインフラ化／多様な居場所づくり

困難な状況にある人ほど、居場所や安心できる場所がないことが明らかとなった。気軽に立ち寄れて自分の困りごとや傷つき体験の話ができ、情報も得られる、保健室のような居場所を街中にいくつもつくることは、相談機関の利用に抵抗がある人や、家庭が安心できる場所ではない人に対して、有効な手段と考える。

また、困難な状況にある人は、問題が重なり合っていることが多いため、一つの機関や支援者だけで全ての解決につなげることは難しい。さらに、最初に発見した人が最後まで支援の責任を負うことは、支援行動に対するハードルを上げることになりかねない。支援者一人ひとりをサポートできる体制を整えること、支援者同士が連携し、一緒に問題解決につなげる仕組みをつくる必要がある。

【例】

- カジュアルに頼れる多様な居場所をつくる
- 若年女性が立ち寄る場所に支援情報を展開する
- 支援機関同士の連携

5 経済的エンパワーメント／つまずきがあっても自立・自走できる支援

既出のとおり、子ども期の貧困は現在の様々な困難と関連している。当事者ヒアリングでも経済的困窮が多く語られた。経済的困窮は女性の暮らしや心身に長期的にも様々な影響を与える。また、第VI部第1章-1で述べたとおり、非正規雇用の多さや男女間賃金格差など、女性が自立できるだけの賃金を得ることが難しい現実が、「男性＝経済力があるべき」という性別役割分業の強化にもつながる。しかも、現在は男性側の雇用や収入も安定している時代ではない。性別にかかわらず、一人ひとりが経済的に自立でき、自分の人生を主体的に歩むための経済的エンパワーメントが重要である。それに向けて雇用環境の整備を社会全体で行っていくことも求められる。

【例】

- 誰もが学ぶことのできる経済的支援の拡充
- 安定した収入を得るための就業支援等の拡充
- 経済的エンパワーメントの重要性を盛り込んだキャリア教育

第Ⅶ部 有識者からのコメント

本調査の設計・分析にあたっては、2名の外部有識者から助言を得たところである。第Ⅶ部では、この2名の有識者からのコメントを紹介する。

若年女性の困難についての4つのポイント 調査結果をより深く考えるために

神林 博史

東北学院大学 教養学部 教授（2023年4月～同 人間科学部 教授）

この報告書をお読みになった方は、どのような感想を持たれたのでしょうか。内容に驚かれた方もおられるかもしれません。しかし、この報告書で明らかになった若年女性の困難は、残念ながら決して目新しいものではありません。

若年女性が直面する困難については、これまで数多くの研究が行われてきました。今回の調査結果は、そうした先行研究が明らかにしてきた事実を再確認するものになっています。仙台市の状況が若年女性にとって特別に悪いわけではなく、現在の日本社会が抱える問題がそのまま調査結果に表れているのです。

この報告書は、個々の質問への回答結果を詳しく紹介することを主な目的としています。このため、もしかすると若年女性の困難が生み出される問題の全体像が見えにくくなっているかもしれません。ここでは、今回の調査結果をより深く考えるための4つのポイントをご紹介します。

(1) 困難は不利な人たちに偏る

私たちは人生で様々な困難に直面します。しかし、誰もが同じように困難を経験するわけではありません。多くの困難を経験する人もいれば、それほど経験しない人もいます。困難によって深刻なダメージを受ける人もいれば、軽微なダメージで済む人もいます。ダメージからの回復に長い時間が必要な人もいれば、短期間で回復する人もいます。

こうした違いを生み出す主要な原因の1つが、社会的・経済的な有利／不利です。社会的・経済的な立場が不利な人たち、たとえば学歴・職業的地位・収入が相対的に不利である、周囲に頼れる人がいないなどの特徴を持つ人たちは、そうでない人たちに比べて困難を経験しやすく、ダメージを受けやすく、回復に時間がかかる傾向があります。このことは、今回の調査結果の様々な面から浮かび上がっています。

(2) 子どもの貧困の影響と自己責任論

この報告書の第Ⅲ部第2章・第Ⅲ部第4章では、15歳時の暮らし向き之苦しさが様々な困難と関係することが示されました。このことは、いわゆる「子どもの貧困」の問題と密接に関連しています。15歳時の暮らし向きが「苦しかった」と回答した人の当時の家庭は、貧困状態かそれに近い状態にあった可能性が高いと考えられます。貧困状態で育った子どもが様々な困難を抱えることはすでによく知られていますが、今回の調査結果は、子どもの貧困の影響の広さと深さを示すものと言えます。

子どもは、親を選んで生まれてくることはできません。それゆえ、子どもの貧困は子どもの自己責任ではありません。そして、子どもの貧困がその後の人生における様々な不利や困難と結びつく以上、若年女性が抱える様々な問題もまた、安易に自己責任と断じることはできないのです。

(3) 応急処置と予防措置

現在困難を抱えている若年女性を助けるためには、彼女たちのニーズに応じた応急処置的な対応が必要です。しかし、それだけでは根本的な解決にはなりません。若年女性が困難に陥らないようにする予防措置も必要です。若年女性の困難は現在の日本社会に存在する様々な問題が複雑に絡み合った結果として生じています。たとえば、様々な性別役割規範による制限、仕事や賃金の男女間格差、正規雇用と非正規雇用の格差、社会保障制度の不完全さなどがそうです。こうした問題をきちんと解決しない限り、困難に陥る若年女性は今後も生み出され続けるでしょう。

(4) 若年女性以外の人たちの困難にも配慮を

この調査の対象は、若年女性に限定されていました。しかし、今の日本社会で困難に直面しているのは若年女性だけではなくありません。若年女性の延長線上にある中高年女性・高齢女性も、様々な困難を抱えている人が少なくありません。また、若年男性・中高年男性・高齢男性も困難から無縁ではありません。もちろん、若年女性とそれ以外のグループでは、直面する困難の性質は全く同じではないでしょう。しかし、子どもの貧困や(3)で指摘した様々な問題は、若年女性以外の人びとにも悪影響をもたらします。

若年女性の困難を解決するために様々な支援を行うことは大切です。しかし、それは同時に、若年女性以外のグループの困難にも対応できる包括性と柔軟性を持つことが望まれます。

神林 博史

東北学院大学 教養学部 教授 (2023年4月～同 人間科学部 教授)

東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。専門は社会学(社会階層、社会意識、健康の社会的決定要因)。社会調査データの分析を通じて、教育・職業・収入・ジェンダーなどの不平等が人びとの意識や行動に与える影響を研究している。主な著作に、『少子高齢化社会の階層構造3 人生後期の階層構造』(共著, 東京大学出版会, 2021年)、『健康格差の社会学: 社会的決定因と帰結』(共著, ミネルヴァ書房, 2022年)などがある。

若年女性の困難に対する取り組み 鍵は、経済・社会に根強く残るジェンダー不平等の解消

大崎 麻子

特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事
関西学院大学 総合政策学部 客員教授

この報告書の目的は、困難を抱える若年女性に対する施策を拡充するためのエビデンスを提供することです。調査対象の女性たちは、人生の基盤を形成する時期に、東日本大震災と新型コロナウイルス感染拡大を経験しました。本調査は、女性たちの「今の状況」だけにフォーカスするのではなく、「15歳時の暮らし向き」と「大規模な自然災害と感染症の影響」に注目しています。それにより、ライフステージの各段階でどのような女性支援策が必要なのか、そもそも、若年女性を困難に陥りにくくし、回復しやすくするためには、どのような施策が必要なのかを考えるための道筋を示す内容になっています。私は、特に、後者についてコメントさせていただきます。結論から言いますと、女性に特化したアプローチに加えて、あらゆる政策及び政策策定・実施過程にジェンダー視点を主流化することが重要であるというポイントです。

(1) 女性の経済的エンパワーメントの重要性

今回の調査では、15歳時の暮らし向き、つまり、「15歳時の家庭の経済状況」をはじめ、女性がライフステージを通じて直面するあらゆる困難が「経済問題」に起因、もしくは関連していることが浮き彫りになりました。したがって、女性が生涯を通じて安定的な経済基盤を獲得できるようにすることが、若年女性の困難の軽減・解消に向けた最も重要な施策の一つだと言えるでしょう。第VI部第2章「困難を抱えた若年女性への支援に求められるもの」は、「経済的困窮への対応と予防」の取り組みの例として、「就業支援」「教育支援」を挙げています。両方とも、女性を対象とする重要な施策ですが、こうした施策が確実に、かつ、持続的に効果を上げるためには、並行して、経済・社会に根強く残るジェンダー不平等を解消していかなければなりません。特に、「受け皿」となる職場への働きかけが重要です。女性が採用・職務分掌・評価・賃金・昇進等において、直接的にも間接的にも差別されない職場、女性にとっても男性にとっても働きがいがあり、家庭責任（家事育児等のケアワーク）を両立できるような働きやすい職場を増やすための具体的な施策が求められているのです。

現在、国も、「女性の経済的自立」という柱のもとで、ジェンダー不平等の解消に向けた施策を急ピッチで進めています。この1年間だけでも、

- 女性活躍推進法の改正や、有価証券報告書に関する省令改正を通じた、男女間賃金格差（正規社員・非正規社員・全労働者の3つの区分での男女の差異の可視化）の情報開示の義務化
- 育児・介護休業法の改正を通じた、男性育休取得推進の強化策や取得率の情報開示の義務化
- 配偶者特別控除や第3号被保険者など、所得税の優遇や社会保険料の免除により、短時間・低報酬の就労が合理的選択となるような制度の見直し

など、日本が戦後に構築してきた、性別役割分業を前提とする雇用制度・慣行の是正を促す法律を整備し、税と社会保障制度に切り込む姿勢を明確にしました。その背景には、コロナの女性への影響調査で明らかになった、経済・社会に構造化されたジェンダー不平等が女性にもたらす負の影響の大きさや、想定以上に急速に進む少子化・人口減少と、若年世代で、妊娠・出産・子育て等のライフイベントでも仕事を辞めずに継続して「両立」したい女性、パートナーに「両立」を期待する男性がこの数年で急増しているという実態があります。構造変革が、女性が困難に陥らないようにするためにも、国及び地域の経済・社会の持続可能性を高めるためにも必要不可欠であるという認識が急速に広まっているのです。

「ジェンダーギャップの解消」を掲げ、官・民・地域社会が協力して取り組む自治体も出てきました。兵庫県豊岡市です。

官民連携の要は、商工会議所と協力して運営する「ワークイノベーション推進会議」です。

- 経営者、管理職、人事担当者など、対象別の実践セミナーシリーズ
- 無意識の偏見が作用しない評価制度の構築や男性育休取得推進などの事例共有
- 女性従業員のためのリーダーシップ・トレーニングを含むキャリア形成支援
- 男性のための「家事・育児・介護等への参画」を前提とするキャリアプランニング講座
- 「働きやすさと働きがい」に関する従業員意識調査

など、個々の企業が単独で行うのが難しい事業を行政がサポートしています。2018年に16事業所で始まりましたが、2022年には85事業所が参加しています。

また、市役所内には、総務、防災、社会福祉、環境経済、地域振興、子ども教育等、あらゆる部署の管理職によって構成される「ジェンダーギャップ解消戦略庁内推進委員会」を設置し、男女別データやジェンダー分析を施策の策定や効果測定に活かすための取り組みを行っています。総務課の発案により、ワークイノベーション推進会議への参加を公共調達の加算項目にするなど、相乗効果を上げています。自治体によるジェンダー主流化実践の先行事例だと言えるでしょう。

(2) 仙台市に期待すること：ジェンダー主流化の実践

第VI部第2章「困難を抱えた若年女性への支援に求められるもの」の冒頭では、「若年女性に対する支援を進めるためには、幅広い取り組みが求められるとともに、官民が連携・協力し合うことが欠かせない。関係局・関係機関とも本調査結果を共有し、今後の具体的な取り組みについて検討を進めていくことが必要である」と述べています。若年女性の困難は、若年女性に対する働きかけだけで解決できるものではありません。困難の背景にある、社会経済構造に根強く残るジェンダーギャップをいかに解消していくか。それが鍵であり、行政機関の手腕が問われるところです。先行事例を参考にしながら、男女別データ/ジェンダー統計の活用、部署を超えた実施体制の構築、民間企業や地域社会との連携など、本質的な取り組みを展開されていくことを期待します。

本年4月施行の「こども基本法」は、子どもに関連するすべての施策について、策定・実施・評価の各段階において「こども又はこどもを養育する者その他の関係者の意見を聞くこと」を国と自治体に義務付けました。「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」（令和3年12月閣議決定）には、男女共同参画の視点（ジェンダーの視点）を乳幼児期から大人に至るまでのすべての段階に取り入れることも明記されています。本報告書は、15歳時の暮らし向きがその後の人生に影響を及ぼすこと、つまりきからの回復には周囲の大人からの適切な介入が重要であることを指摘しました。声を上げられない子どもたちが抱える困難や問題を丁寧にくいと、施策に反映していくためには、子ども・若者・家庭のサポートに携わる団体との連携はもちろんのこと、本報告書のようなジェンダー視点に基づく現状分析及び提言が不可欠です。本報告書は、若年女性・女の子に特化していますが、若年男性・男の子、セクシュアル・マイノリティの子どもが直面する困難や支援のあり方についても、ジェンダー視点からの調査・分析が行われることも期待します。

大崎 麻子
特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事
関西学院大学 総合政策学部 客員教授

米国コロンビア大学国際公共政策大学院修了。国連開発計画（UNDP）にてジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進を担当し、世界各地で、雇用・起業、政治参加の促進、紛争・災害復興等を手掛けた。現在は、グローバルとローカル、公共政策と民間企業を繋ぐ専門家として、国際機関、政府・自治体、NPO、企業等で幅広く活動。内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、外務省国際女性会議WAW! アドバイザー、兵庫県豊岡市ジェンダーアドバイザー等を務める。

第Ⅷ部 資料編

支援者ヒアリングの内容

アンケート調査に先立ち、若年女性の直接支援に関わる団体、あるいは個人を対象にヒアリング調査を実施し、若年女性をめぐる問題に関する示唆を得るとともに、設問項目の設定など調査票作成の参考にした。ヒアリングでは、現場で見える若年女性の困難な状況（背景・特徴・よく使う言葉など）、困難な状況の引き出し方、困難な状況に陥る人とそうならない人の違い、望ましい支援のあり方などをたずねた。

調査対象：仙台市内で活動する、若年女性支援者・支援団体 9件

協力者・協力団体（50音順）		主な活動内容
伊藤 ミカ 氏	一般社団法人社会的包摂サポートセンター仙台拠点	よりそいホットライン等で若年女性支援
大沼 洋子 氏	独立型社会福祉士事務所ウェルビーイングあさひ／あそびのうつわをひろげる会 代表	不登校・発達・いじめ・虐待等の相談援助
小川 真美 氏	女性のためのとまり木・リカバリートレーニングセンター「しおり」施設長（他、利用者2名）	生きづらさを抱える女性の回復支援
齋藤 純子 氏	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場 代表理事／仙台市榴岡児童館館長	子どもの健やかな成長や親・家族を含めた子育て支援
中川 明子 氏	特定非営利活動法人ほっぷすてっぷ	親の支援を受けられない子ども・若者の自立支援
名古 美和 氏	青葉女子学園 首席専門官（他、法務教官2名）	東北地方の女子を収容し矯正教育等を行う女子少年院
東田 美香 氏	特定非営利活動法人キミノトナリ 代表理事	思いがけない妊娠をした女性の支援
門間 尚子 氏	特定非営利活動法人mia forza 代表理事	困難な状況にある女性や子どもの支援
八幡 悦子 氏	特定非営利活動法人ハーティ仙台 代表理事	DV・デートDV・性暴力被害女性の支援

ヒアリング内容

✓ 支援対象者の若年女性にはどのような困難があるか

- ・ 家族関係に関するもの
（親やきょうだいからの暴力（性的暴力を含む）、ネグレクト、搾取、無関心、過干渉、支配、高圧的態度／毒親／共依存／ヤングケアラー／父親と母親の関係が悪い／親自身の孤立）
- ・ 学校、友人関係に関するもの
（いじめ／周囲が自分に無関心／孤立／同性の友人の少なさ／不登校／中退）
- ・ メンタルヘルスの問題や発達障害がある

- ・優しくしてくれる異性との付き合いによるもの
（出会い系SNS／外泊／パパ活／水商売／性産業／非行／望まない妊娠）
- ・仕事がない、ブラック企業
- ・人間関係の構築やコミュニケーションが困難
- ・居場所がない
- ・自身が抱えている困難を困難と認識できない
（その状況が普通になっている／かわいそうな自分になりたくない／認めたくない／知らない人に言えない）
- ・人に頼れない、助けてとさえいえない
（話を聞いてもらえたり、助けてもらえたりした経験が少ない／語彙が少ない）
- ・情報、知識、選択肢の不足。その結果、制度を使えない、書類の読み方や書き方、郵便の出し方が分からない
- ・自己肯定感が低い、自分がどうしたいか分からない、決められない
- ・自分を持つことや、人と違うことへの恐れ
- ・学校卒業後または少年院出院後の情報提供や支援の難しさ
- ・生活保護へのスティグマ
- ・10代、20代前半の女子たちが抱える「言語化できない、得体のしれない何か」が気になる。震災後に出会った10代の子に多いと感じるが、正体がかめめない。震災も影響している可能性があるのではないかと。子ども自身は震災を経験していなくても、経験した親に育てられている。コロナの影響も心配。

✓ 彼女たちが自身の困難を表現する時の言葉／支援者が困難を引き出す時に使う言葉

「うちが怖い／つらい」「うちにいたくない／いるのがつらい」「お父さんは私に無関心」「親とうまくいかなくて毎日悲しくなる」「ほめられることも怒られることもない」「親が強い」「親に逆らえない」「父／彼氏が怖い」「暴力（父／母／兄などから）」「付き合っている彼氏と別れたら一生ひとりかもしれない」「友だちには言いにくい」「学校に行くのがつらい」「上司が怖い」「朝職場で『おはよう』と言うのがすごくつらい」「死にたい」「消えたい」「つまんない」「ついていない」「自分やばい」「自信ない」「生きづらい」「居場所がない」「リスク」「オーバードーズ」「使いたい（薬を）」「どう生きたらいいの？」「自分の気持ちが分からない」「困りごと」「相談無料」「話を聞いてほしい」「気持ちが落ち込むことはありますか」

✓ 彼女たちからどのように困難な状況を引き出しているか

- ・話してくれるまで待つ、深く付き合う。
- ・好きなもの（食べ物、音楽、漫画、ドラマ）や食事内容、生活時間などを尋ね、それに対するフィードバックをすることで、関係性を築くきっかけにしている。その会話の中から困難な状況もうかがえる。
- ・具体例を出して質問する。
- ・「どんなささいなことでもぜひ聴かせてほしい」「できる／できないではなく、起こっていることを教えてほしい」という呼びかけをする。
- ・安心安全な場（ここにいていい、受け入れられているという受容感）で人間関係の築き方やコミュニケーションの取り方を練習してもらおう。
- ・「あなたが大切」「いつも気にかけているよ」と言葉にして伝える。

✓ **同じような状況下にあっても、困難な状況に陥ってしまう人と、そうでない人にはどのような違いがあると思うか**

◆ 寄り添う大人の存在

- ・親と離れることができ、違う価値観をもった大人に相談したり何かに打ち込んだりできる環境。傾聴し、選択肢をある程度提示できる大人の存在。
- ・近所にキーパーソンとなる第三者がいるか。心配事を聞いたり、励ましたり、気にかけてりしてくれる人など。
- ・親身になって支援してくれる人、自分を認め、きちんとした情報をくれる人に20歳前後で出会えるか。

◆ 信頼できる友だちの存在

- ・うわべだけのつながりではなく、その人の前で泣いたり、泣かれたり、感情をシェアできたりするような友だちや相手がいるか。愛してくれる人、かわいがってくれる人、好きになってくれる人。

◆ その他

- ・自分がやる（母子家庭での子育て、離婚後の生活など）と腹をくくれるか。「お前には無理」「頑張る必要はない」などの言葉で力が削がれていると難しい。

✓ **困難を抱えた若年女性にどのような支援があるとよいか**

◆ 若者の居場所

- ・24時間開いていて食事と寝る場所があって、雑談ができる少し年上のお姉さんがいる。その後ろには専門家がいる。学校の保健室のようなイメージ。本人は自身の困難に気づいていないため、入口は広くする必要がある。
- ・「日替わり一日ママ」のようないろんな人が女の子の話を聞く「居場所bar」を作りたい。みんな語りたいたいと思っている。友だちには話せないようなことを安心して話せる場。

◆ その他

- ・家庭や会社以外の体験のボックス
- ・病院の看護師や会計窓口からの相談支援情報の提供
- ・困りごとを相談してよいということを子どもの時から伝える
- ・学校以外の相談先
- ・電話相談員の増員
- ・どこに相談すればよいか分からない人向けのプラットフォーム機能
- ・今日明日の生活費がない人の相談に応じる仕組み
- ・オープンダイアログ方式で、支援者や関わりのある人たちからなる「〇〇さんサポート隊」を目に見える形でつくる
- ・支援イベント、居場所づくりなどへの資金援助
- ・保護、自立支援における24時間体制でのサポート

アンケート単純集計結果

問1: あなたの年齢はおいくつですか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
18歳～19歳	74	4.5
20歳～24歳	238	14.4
25歳～29歳	328	19.9
30歳～34歳	452	27.4
35歳～39歳	557	33.8
無回答	0	100.0

問2: 現在、あなたと一緒に住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1人	326	19.8
2人	366	22.2
3人	429	26.0
4人	360	21.8
5人	117	7.1
6人	36	2.2
7人	11	0.7
8人	2	0.1
無回答	2	0.1

問2-1:【問2で「2人」以上と回答の方】

あなたが現在、一緒に住んでいる方はどなたですか。（複数回答）

	回答数	%
全体	1,321	100.0
1 父	319	24.1
2 母	384	29.1
3 きょうだい	195	14.8
4 祖父	26	2.0
5 祖母	54	4.1
6 配偶者	802	60.7
7 配偶者の父	21	1.6
8 配偶者の母	24	1.8
9 子ども	641	48.5
10 その他	80	6.1
無回答	8	0.6

問3: あなたは現在、結婚(事実婚を含む)をしていますか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 結婚していない	781	47.4
2 結婚している	805	48.8
3 結婚したが、離婚した	60	3.6
4 結婚したが、死別した	0	0.0
無回答	3	0.2

問4: あなたの現在の働き方をお答えください。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 正社員(常時雇用されている一般従業者)	787	47.7
2 臨時雇用・パート・アルバイト	254	15.4
3 派遣社員	61	3.7
4 契約社員・嘱託	85	5.2
5 会社経営者・役員	6	0.4
6 自営業主・自由業者(フリーランス)	28	1.7
7 家族従業者(農家や商店などで家業を手伝っている)	5	0.3
8 内職	2	0.1
9 無職・家事専業(仕事を探している)	89	5.4
10 無職・家事専業(仕事を探していない)	168	10.2
11 学生	143	8.7
12 その他	18	1.1
無回答	3	0.2

問4-1(1):【問4で「1.正社員(常時雇用されている一般従業者)」～「8.内職」と回答の方】
業種(お勤め先の事業内容)

	回答数	%
全体	1,228	100.0
1 農林漁業・鉱業	2	0.2
2 建設業	59	4.8
3 製造業	59	4.8
4 電気・ガス・水道業	15	1.2
5 情報通信業	71	5.8
6 運輸・郵便業	19	1.5
7 卸売・小売業	138	11.2
8 金融・保険業	74	6.0
9 サービス業(飲食・宿泊・娯楽など)	197	16.0
10 教育・医療・福祉・公務	511	41.6
11 その他	50	4.1
無回答	33	2.7

問4-1(2):【問4で「1.正社員(常時雇用されている一般従業者)」～「8.内職」と回答の方】
あなたの仕事の内容

	回答数	%
全体	1,228	100.0
1 専門職(教員、医師、看護師、システムエンジニアなど)	389	31.7
2 管理職(課長相当以上の役職)	10	0.8
3 事務職(一般事務、経理事務、営業事務など)	396	32.2
4 販売・営業・サービス系の仕事	283	23.0
5 技能・作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、運転手など)	50	4.1
6 農林漁業の仕事	0	0.0
7 その他	35	2.9
無回答	65	5.3

問5(1):最後に通った(通っている)学校

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 中学校	6	0.4
2 高校	291	17.6
3 専門学校(高卒)	399	24.2
4 高専	11	0.7
5 短大	125	7.6
6 大学	764	46.3
7 大学院	39	2.4
8 その他	10	0.6
無回答	4	0.2

問5(2):卒業・中退・在学中の別

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 卒業した	1,343	81.4
2 中退した	76	4.6
3 在学中	141	8.6
無回答	89	5.4

問6:仙台市内には、合計で約何年間お住まいですか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1～4年	292	17.7
5～9年	277	16.8
10～14年	218	13.2
15～19年	182	11.0
20～24年	214	13.0
25～29年	160	9.7
30～35年	174	10.6
35年以上	123	7.5
無回答	9	0.5

問7:あなたは現在の生活に満足していますか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 満足している	270	16.4
2 まあ満足している	838	50.8
3 どちらでもない	257	15.6
4 やや不満だ	181	11.0
5 不満だ	97	5.9
無回答	6	0.4

問8:あなたは現在、次のようなことで困っていますか。(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 家計が苦しい	479	29.0
2 家事・育児・介護の負担が大きい	221	13.4
3 仕事を探しているが、見つからない(失業している)	53	3.2
4 転職先を探しているが、見つからない	134	8.1
5 非正規雇用のため不安がある(雇い止め、勤務時間の減少による収入減、待遇格差など)	144	8.7
6 配偶者や交際相手からのDV・デートDV	11	0.7
7 配偶者や交際相手以外からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)	6	0.4
8 いじめ・嫌がらせを受けている	14	0.8
9 引きこもっている	25	1.5
10 人間関係がうまく築けない	190	11.5
11 メンタルヘルスの問題を抱えている(うつ、摂食障害、自傷行為、依存症など)	153	9.3
12 その他	138	8.4
13 あてはまるものはない	675	40.9
無回答	42	2.5

問9:あなたのお宅(世帯)で、家計を主に支えている方をお答えください。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 あなた	413	25.0
2 配偶者	641	38.9
3 親	333	20.2
4 家族と分担	223	13.5
5 その他	31	1.9
無回答	8	0.5

問10:昨年1年間、あなたのお宅(世帯)では、全体でどれくらいの収入(税込)がありましたか。生活費を共にしている方々の分も合わせ、すべての収入(年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送りなどを含む)についてお答えください。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 世帯の収入はなかった	15	0.9
2 100万円未満	36	2.2
3 100～200万円未満	98	5.9
4 200～300万円未満	148	9.0
5 300～400万円未満	204	12.4
6 400～500万円未満	171	10.4
7 500～600万円未満	176	10.7
8 600～700万円未満	127	7.7
9 700～800万円未満	144	8.7
10 800～900万円未満	89	5.4
11 900～1000万円未満	70	4.2
12 1000～1500万円未満	94	5.7
13 1500～2000万円未満	16	1.0
14 2000万円以上	7	0.4
15 わからない	242	14.7
無回答	12	0.7

問11: 昨年1年間にあなた自身がお仕事で得た収入(税込)はどれに近いですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めてお答えください。

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	仕事で得た収入はなかった	296	18.0
2	50万円未満	128	7.8
3	50～100万円未満	146	8.9
4	100～150万円未満	149	9.0
5	150～200万円未満	154	9.3
6	200～300万円未満	277	16.8
7	300～500万円未満	352	21.3
8	500～800万円未満	69	4.2
9	800～1000万円未満	4	0.2
10	1000万円以上	6	0.4
11	わからない	59	3.6
	無回答	9	0.5

問12: 次のようなことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。それぞれについて、お答えください。

			全体	1	2	3	4	
				そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
ア	だいたいにおいて、自分に満足している	回答数 %	1,649 100.0	222 13.5	765 46.4	438 26.6	212 12.9	12 0.7
イ	困った時は人に助けを求めてもいい	回答数 %	1,649 100.0	830 50.3	667 40.4	109 6.6	27 1.6	16 1.0
ウ	自分のことは自分が決めていいと思う	回答数 %	1,649 100.0	905 54.9	639 38.8	64 3.9	13 0.8	28 1.7
エ	なんとなく、生きづらさを感じる	回答数 %	1,649 100.0	347 21.0	502 30.4	471 28.6	312 18.9	17 1.0
オ	交際相手や結婚相手は、自分以上の収入があるべきだ	回答数 %	1,649 100.0	330 20.0	645 39.1	356 21.6	309 18.7	9 0.5
カ	家事や育児は女性である私の仕事だと思う	回答数 %	1,649 100.0	42 2.5	389 23.6	484 29.4	717 43.5	17 1.0

問13: 過去1か月の間、次のようなことがどれくらいの頻度でありましたか。それぞれについて、お答えください。

			全体	1	2	3	4	5	
				いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない	無回答
ア	神経過敏に感じた (ちょっとしたことで気になる)	回答数 %	1,649 100.0	210 12.7	292 17.7	573 34.7	311 18.9	250 15.2	13 0.8
イ	絶望的だと感じた	回答数 %	1,649 100.0	89 5.4	115 7.0	329 20.0	349 21.2	754 45.7	13 0.8
ウ	そわそわしたり、落ち着きがなくなった	回答数 %	1,649 100.0	78 4.7	149 9.0	423 25.7	410 24.9	570 34.6	19 1.2
エ	気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた	回答数 %	1,649 100.0	114 6.9	199 12.1	488 29.6	398 24.1	435 26.4	15 0.9
オ	何をしても骨折りが(面倒くさい)と感じた	回答数 %	1,649 100.0	179 10.9	270 16.4	481 29.2	443 26.9	269 16.3	7 0.4
カ	自分は価値のない人間だと感じた	回答数 %	1,649 100.0	122 7.4	170 10.3	278 16.9	354 21.5	715 43.4	10 0.6

☆問13: K6の得点分布

		回答数	%
全体		1,649	100.0
	0～4点	438	26.6
	5～8点	408	24.7
	9～12点	359	21.8
	13～24点	376	22.8
	無回答	68	4.1

問14: あなたが大変な時や重大な決断をする時に、味方になってくれる人はいますか。
(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	家族	1,439	87.3
2	友人	948	57.5
3	交際相手	231	14.0
4	学校の先生	32	1.9
5	職場やアルバイト先の人	277	16.8
6	支援機関の人	21	1.3
7	SNSやインターネット上の友人	73	4.4
8	その他	25	1.5
9	味方になってくれる人はいない	71	4.3
無回答		4	0.2

問15: あなたが安心できる場所、ほっとできる場所がありますか。(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	自分の部屋	898	54.5
2	家庭(家族や親戚の家を含む)	1,083	65.7
3	学校(卒業した学校を含む)	36	2.2
4	職場やアルバイト先(過去の職場を含む)	135	8.2
5	地域(現在住んでいる場所やそこにある施設など)	60	3.6
6	インターネット空間	130	7.9
7	その他	76	4.6
8	安心できる・ほっとできる場所はない	65	3.9
無回答		6	0.4

問16: 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、次のようなことはありましたか。
(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	家計が苦しくなった	289	17.5
2	配偶者や交際相手との関係が悪化した	86	5.2
3	孤立感・孤独感が増した	363	22.0
4	メンタルヘルスが悪化した(うつ、気分の落ち込みなど)	238	14.4
5	職場でのストレスが増えた	534	32.4
6	家事・育児・介護の負担が増えた	227	13.8
7	希望する進学先や就職先を選べなかった	35	2.1
8	解雇・雇い止めにあった	25	1.5
9	シフトや労働時間の減少により、収入が減った	160	9.7
10	感染を恐れて、自ら仕事を辞めた	19	1.2
11	結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた	144	8.7
12	その他	132	8.0
13	特になかった	453	27.5
無回答		13	0.8

問17: 東日本大震災の発災当時(2011年3月11日)、どこに住んでいましたか。

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	仙台市内	919	55.7
2	宮城県内(仙台市以外)	241	14.6
3	岩手県内	75	4.5
4	福島県内	50	3.0
5	1~4以外の地域	363	22.0
無回答		1	0.1

問18: 東日本大震災の影響により、次のようなことはありましたか。(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 家族や友人など身近な人が亡くなった	167	10.1
2 自宅に住めなくなった	88	5.3
3 転居・転校	47	2.9
4 家計が苦しくなった	114	6.9
5 配偶者や交際相手との関係が悪化した	34	2.1
6 孤立感・孤独感が増した	91	5.5
7 メンタルヘルスが悪化した(うつ、気分の落ち込みなど)	155	9.4
8 家事・育児・介護の負担が増えた	32	1.9
9 仕事を失った	32	1.9
10 進学をあきらめた・希望する進学先を選べなかった	14	0.8
11 希望する就職先を選べなかった	29	1.8
12 結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた	39	2.4
13 避難生活でセクシュアルハラスメントや性的な被害を受けた	1	0.1
14 その他	63	3.8
15 特になかった	1,055	64.0
無回答	34	2.1

問19: 今のあなたの暮らしや心身は、東日本大震災による悪影響を受けていると思いますか。

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 大きく受けている	61	3.7
2 少し受けている	281	17.0
3 悪影響はない	1,075	65.2
4 わからない	230	13.9
無回答	2	0.1

問20: 女の子・女性だからという理由でできなかったことはありますか。(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 希望する進学先の選択	66	4.0
2 希望する専攻分野の選択	30	1.8
3 希望する部活の選択	16	1.0
4 生徒会長・部活の部長などリーダー的な立場	11	0.7
5 留学	17	1.0
6 希望するアルバイトの選択	37	2.2
7 希望する職業・職種の選択	87	5.3
8 昇進・キャリアアップ	171	10.4
9 一人暮らし	81	4.9
10 その他	48	2.9
11 特になかった	1,232	74.7
無回答	19	1.2

問21: SNS(LINE、Twitter、Instagram、TikTokなど)を利用して、嫌な思いをしたことはありますか。(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 悪口やデマを書かれた	153	9.3
2 既読無視やブロックをされた	213	12.9
3 写真や個人情報を勝手に載せられた	133	8.1
4 体形批判や容姿に対する攻撃を受けた	44	2.7
5 他の人と自分を比べてしまう	627	38.0
6 気遣いなど人間関係の負担が増した	455	27.6
7 ストーカー行為をされた	60	3.6
8 セクシュアルハラスメントを受けた	37	2.2
9 その他	40	2.4
10 嫌な思いをしたことはない	617	37.4
11 SNSを一度も利用したことがない	43	2.6
無回答	12	0.7

問22:あなたが15歳(中学3年生)の時の家族構成(生活費を共にする家族で、同居・別居を問わない)をお答えください。(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	父	1,504	91.2
2	母	1,602	97.1
3	きょうだい	1,429	86.7
4	祖父	405	24.6
5	祖母	571	34.6
6	親戚	51	3.1
7	その他	26	1.6
	無回答	4	0.2

問23:経済的に、あなたが15歳(中学3年生)の時の家庭の暮らしはどれにあてはまりますか。

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	ゆとりがあった	293	17.8
2	ややゆとりがあった	226	13.7
3	普通	702	42.6
4	やや苦しかった	263	15.9
5	苦しかった	162	9.8
	無回答	3	0.2

問24:あなたが15歳(中学3年生)の時のことで、あてはまるものはありますか。(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	自分のことは自分が決めていいと思っていた	686	41.6
2	親や先生が自分の選択を尊重してくれると思えた	712	43.2
3	自分のことを気にかけてくれる大人が周囲にいた	804	48.8
4	悩みや困りごとを相談できる場所があった	535	32.4
5	夢中になれることがあった	552	33.5
6	あてはまるものはない	297	18.0
	無回答	1	0.1

問25:あなたが子ども時代(概ね17歳まで)を過ごした家庭で、次のような体験をしたことがありますか。(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	親・家族からの虐待(ネグレクト、過干渉、行動制限を含む)	224	13.6
2	親・家族からの性暴力	24	1.5
3	両親間のDVの目撃	116	7.0
4	あてはまるものはない	1308	79.3
	無回答	46	2.8

問25-1:【問25で「1.親・家族からの虐待(ネグレクト、過干渉、行動制限を含む)」～「3.両親間のDVの目撃」と回答の方】

そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響(生きづらさ)がありますか。

		回答数	%
全体		295	100.0
1	今も影響がある(全く回復していない)	80	27.1
2	今も影響はあるが、回復しつつある	108	36.6
3	影響はあったが、ほぼ回復した	66	22.4
4	悪影響はなかった	10	3.4
5	わからない	28	9.5
	無回答	3	1.0

問25-2:【問25で「1.親・家族からの虐待(ネグレクト、過干渉、行動制限を含む)」～「3.両親間のDVの目撃」と回答の方】

その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。

	回答数	%
全体	295	100.0
1 助けを求めたことがある	36	12.2
2 助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある	77	26.1
3 助けを求めたり、話したりしなかった	170	57.6
無回答	12	4.1

問25-3:【問25-2で「1.助けを求めたことがある」と回答の方】

助けを求めた相手は誰ですか。また、助けを求めたことで状況は改善しましたか。それぞれについて、お答えください。

			全体	1	2	3	
				助けを求めた		助けを求めなかった	無回答
				状況が改善した	状況が改善しなかった		
ア	家族	回答数 %	36 100.0	6 16.7	18 50.0	10 27.8	2 5.6
イ	友人・知人・交際相手	回答数 %	36 100.0	5 13.9	15 41.7	12 33.3	4 11.1
ウ	学校の先生	回答数 %	36 100.0	2 5.6	9 25.0	20 55.6	5 13.9
エ	保健室の先生(養護教諭)	回答数 %	36 100.0	0 0.0	3 8.3	27 75.0	6 16.7
オ	スクールカウンセラー	回答数 %	36 100.0	1 2.8	7 19.4	23 63.9	5 13.9
カ	児童相談所	回答数 %	36 100.0	0 0.0	1 2.8	29 80.6	6 16.7
キ	その他の公的な相談窓口	回答数 %	36 100.0	1 2.8	1 2.8	27 75.0	7 19.4
ク	警察	回答数 %	36 100.0	0 0.0	6 16.7	26 72.2	4 11.1
ケ	医療関係者	回答数 %	36 100.0	3 8.3	3 8.3	23 63.9	7 19.4
コ	民間の専門家や相談窓口(弁護士、支援団体など)	回答数 %	36 100.0	1 2.8	1 2.8	28 77.8	6 16.7
サ	その他	回答数 %	36 100.0	1 2.8	1 2.8		34 94.4

問25-4:【問25-2で「3.助けを求めたり、話したりしなかった」と回答の方】

誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。(複数回答)

	回答数	%
全体	170	100.0
1 誰に話したらよいかわからなかった	64	37.6
2 話しても無駄だと思った	93	54.7
3 相談していいことだと思わなかった	65	38.2
4 相談することを思いつかなかった	54	31.8
5 その他	17	10.0
無回答	3	1.8

問26: 学校で、次のような体験をしたことがありますか。(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 いじめ・嫌がらせを受けた	918	55.7
2 不登校	181	11.0
3 セクシュアルハラスメントや性的な被害を受けた	56	3.4
4 あてはまるものはない	649	39.4
無回答	18	1.1

問26-1:【問26で「1.いじめ・嫌がらせを受けた」～「3.セクシュアルハラスメントや性的な被害を受けた」と回答の方】

そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響(生きづらさ)がありますか。

	回答数	%
全体	982	100.0
1 今も影響がある(全く回復していない)	93	9.5
2 今も影響はあるが、回復しつつある	158	16.1
3 影響はあったが、ほぼ回復した	405	41.2
4 悪影響はなかった	260	26.5
5 わからない	62	6.3
無回答	4	0.4

問26-2:【問26で「1.いじめ・嫌がらせを受けた」～「3.セクシュアルハラスメントや性的な被害を受けた」と回答の方】

その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。

	回答数	%
全体	982	100.0
1 助けを求めたことがある	326	33.2
2 助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある	313	31.9
3 助けを求めたり、話したりしなかった	311	31.7
無回答	32	3.3

問26-3:【問26-2で「1.助けを求めたことがある」と回答の方】

助けを求めた相手は誰ですか。また、助けを求めたことで状況は改善しましたか。それぞれについて、お答えください。

		回答数	%	1		2		3		無回答	その他の具体的に記述がないもの
				助けを求めた 状況が改善した	助けを求めた 状況が改善しなかった	助けを求めた 状況が改善した	助けを求めた 状況が改善しなかった	助けを求めた 状況が改善した	助けを求めた 状況が改善しなかった		
ア	家族	326	100.0	184	79	35	28				
		%		56.4	24.2	10.7	8.6				
イ	友人・知人・交際相手	326	100.0	82	63	119	62				
		%		25.2	19.3	36.5	19.0				
ウ	学校の先生	326	100.0	114	97	78	37				
		%		35.0	29.8	23.9	11.3				
エ	保健室の先生(養護教諭)	326	100.0	30	38	183	75				
		%		9.2	11.7	56.1	23.0				
オ	スクールカウンセラー	326	100.0	17	30	196	83				
		%		5.2	9.2	60.1	25.5				
カ	公的な相談窓口	326	100.0	6	6	229	85				
		%		1.8	1.8	70.2	26.1				
キ	警察	326	100.0	3	2	234	87				
		%		0.9	0.6	71.8	26.7				
ク	医療関係者	326	100.0	7	11	220	88				
		%		2.1	3.4	67.5	27.0				
ケ	民間の専門家や相談窓口(弁護士、支援団体など)	326	100.0	2	2	233	89				
		%		0.6	0.6	71.5	27.3				
コ	フリースクール	326	100.0	7	3	226	90				
		%		2.1	0.9	69.3	27.6				
サ	その他	326	100.0	2	0		323			1	
		%		0.6	0.0		99.1			0.3	

問26-4:【問26-2で「3.助けを求めたり、話したりしなかった」と回答の方】

誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。(複数回答)

	回答数	%
全体	311	100.0
1 誰に話したらよいかわからなかった	80	25.7
2 話しても無駄だと思った	157	50.5
3 相談していいことだと思わなかった	54	17.4
4 相談することを思いつかなかった	54	17.4
5 その他	69	22.2
無回答	11	3.5

問27: 配偶者や交際相手、それ以外の人との間で、次のような体験をしたことがありますか。
(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	配偶者・パートナーからのDV	78	4.7
2	交際相手からのデートDV	115	7.0
3	その他の人からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)	139	8.4
4	あてはまるものはない	1,321	80.1
	無回答	40	2.4

問27-1: 【問27で「1.配偶者・パートナーからのDV」～「3.その他の人からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)」と回答の方】
そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響(生きづらさ)がありますか。

		回答数	%
全体		288	100.0
1	今も影響がある(全く回復していない)	54	18.8
2	今も影響はあるが、回復しつつある	71	24.7
3	影響はあったが、ほぼ回復した	105	36.5
4	悪影響はなかった	38	13.2
5	わからない	18	6.3
	無回答	2	0.7

問27-2: 【問27で「1.配偶者・パートナーからのDV」～「3.その他の人からの性暴力(セクシュアルハラスメントや痴漢被害などを含む)」と回答の方】
その状況を変えるために、誰かに助けを求めたことはありますか。

		回答数	%
全体		288	100.0
1	助けを求めたことがある	90	31.3
2	助けを求めたことはないが、話を聞いてもらったことはある	108	37.5
3	助けを求めたり、話したりしなかった	82	28.5
	無回答	8	2.8

問27-3: 【問27-2で「1.助けを求めたことがある」と回答の方】
助けを求めた相手は誰ですか。また、助けを求めたことで状況は改善しましたか。
それぞれについて、お答えください。

			全体	1		2		3		無回答
				回答数	状況が改善した	状況が改善しなかった	助けを求めなかった	無回答		
ア	家族	回答数 %	90 100.0	27 30.0	24 26.7	24 26.7	15 16.7			
イ	友人・知人・交際相手	回答数 %	90 100.0	40 44.4	18 20.0	19 21.1	13 14.4			
ウ	学校の先生	回答数 %	90 100.0	4 4.4	2 2.2	55 61.1	29 32.2			
エ	保健室の先生(養護教諭)	回答数 %	90 100.0	4 4.4	1 1.1	55 61.1	30 33.3			
オ	スクールカウンセラー	回答数 %	90 100.0	0 0.0	2 2.2	56 62.2	32 35.6			
カ	男女共同参画センター・ 配偶者暴力相談支援センター	回答数 %	90 100.0	2 2.2	4 4.4	55 61.1	29 32.2			
キ	その他の公的な相談窓口	回答数 %	90 100.0	4 4.4	6 6.7	51 56.7	29 32.2			
ク	警察	回答数 %	90 100.0	20 22.2	7 7.8	40 44.4	23 25.6			
ケ	医療関係者	回答数 %	90 100.0	4 4.4	3 3.3	54 60.0	29 32.2			
コ	民間の専門家や相談窓口 (弁護士、支援団体など)	回答数 %	90 100.0	6 6.7	5 5.6	52 57.8	27 30.0			
サ	その他	回答数 %	90 100.0	5 5.6	3 3.3		82 91.1			

問27-4:【問27-2で「3.助けを求めたり、話したりしなかった」と回答の方】
誰にも助けを求めたり、話したりしなかったのはなぜですか。(複数回答)

		回答数	%
全体		82	100.0
1	誰に話したらよいかわからなかった	22	26.8
2	話しても無駄だと思った	38	46.3
3	相談していいことだと思わなかった	17	20.7
4	相談することを思いつかなかった	21	25.6
5	その他	10	12.2
	無回答	2	2.4

問28: 望まない妊娠についてお聞きします。

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	望まない妊娠からの出産をしたことがある	38	2.3
2	望まない妊娠をしたが、出産はしなかった	131	7.9
3	望まない妊娠をしたことがない	1,458	88.4
	無回答	22	1.3

問28-1:【問28で「1.望まない妊娠からの出産をしたことがある」～「2.望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と回答の方】
望まない妊娠をしたのは、何歳の時でしたか。

		回答数	%
全体		169	100.0
1	19歳以下	45	26.6
2	20歳～24歳	69	40.8
3	25歳～29歳	24	14.2
4	30歳以上	23	13.6
	無回答	8	4.7

問28-2:【問28で「1.望まない妊娠からの出産をしたことがある」～「2.望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と回答の方】
そのことにより、今のあなたの心身や暮らしに悪影響(生きづらさ)がありますか。

		回答数	%
全体		169	100.0
1	今も影響がある(全く回復していない)	15	8.9
2	今も影響はあるが、回復しつつある	35	20.7
3	影響はあったが、ほぼ回復した	65	38.5
4	悪影響はなかった	31	18.3
5	わからない	16	9.5
	無回答	7	4.1

問28-3:【問28で「1.望まない妊娠からの出産をしたことがある」～「2.望まない妊娠をしたが、出産はしなかった」と回答の方】
妊娠がわかった時、誰かに相談しましたか。

		回答数	%
全体		169	100.0
1	相談した	129	76.3
2	相談しなかった	31	18.3
	無回答	9	5.3

問28-4:【問28-3で「1.相談した」と回答の方】

相談した相手は誰ですか。また、相談したことで、あなたの決断の助けになりましたか。それぞれについて、お答えください。

			全体	1	2	3	無回答
				相談した		相談しなかった	
				決断の助けになった	決断の助けにならなかった		
ア	家族	回答数 %	129 100.0	65 50.4	8 6.2	32 24.8	24 18.6
イ	友人・知人・交際相手	回答数 %	129 100.0	73 56.6	22 17.1	12 9.3	22 17.1
ウ	学校の先生	回答数 %	129 100.0	2 1.6	1 0.8	76 58.9	50 38.8
エ	保健室の先生(養護教諭)	回答数 %	129 100.0	0 0.0	0 0.0	79 61.2	50 38.8
オ	スクールカウンセラー	回答数 %	129 100.0	0 0.0	0 0.0	78 60.5	51 39.5
カ	男女共同参画センター	回答数 %	129 100.0	0 0.0	0 0.0	77 59.7	52 40.3
キ	母子家庭等就業・自立支援センター	回答数 %	129 100.0	0 0.0	0 0.0	80 62.0	49 38.0
ク	福祉事務所・保健所	回答数 %	129 100.0	1 0.8	0 0.0	78 60.5	50 38.8
ケ	その他の公的な相談窓口	回答数 %	129 100.0	0 0.0	2 1.6	77 59.7	50 38.8
コ	医療関係者	回答数 %	129 100.0	6 4.7	2 1.6	72 55.8	49 38.0
サ	民間の専門家や相談窓口 (弁護士、支援団体など)	回答数 %	129 100.0	0 0.0	0 0.0	80 62.0	49 38.0
シ	その他	回答数 %	129 100.0	1 0.8	0 0.0		128 99.2

問28-5:【問28-3で「2.相談しなかった」と回答の方】

誰にも相談しなかったのはなぜですか。(複数回答)

		回答数	%
全体		31	100.0
1	誰に相談したらよいかわからなかった	10	32.3
2	相談しても無駄だと思った	11	35.5
3	相談していいことだと思わなかった	12	38.7
4	相談することを思いつかなかった	3	9.7
5	その他	7	22.6
	無回答	2	6.5

問28-6:【問28で「1.望まない妊娠からの出産をしたことがある」と回答の方】
 出産後、次のような相談窓口や支援を利用したことがありますか。
 それぞれについて、お答えください。

			全体	1	2	3	4	無回答
				利用した	知っていたが、利用しなかった	知らなかった	利用する必要がなかった	
ア	福祉事務所・保健所	回答数 %	38 100.0	8 21.1	1 2.6	6 15.8	19 50.0	4 10.5
イ	乳児院・児童養護施設	回答数 %	38 100.0	0 0.0	3 7.9	5 13.2	25 65.8	5 13.2
ウ	児童相談所	回答数 %	38 100.0	1 2.6	5 13.2	3 7.9	24 63.2	5 13.2
エ	公的な子育て支援窓口	回答数 %	38 100.0	6 15.8	3 7.9	5 13.2	19 50.0	5 13.2
オ	公的な貸付・融資制度	回答数 %	38 100.0	0 0.0	3 7.9	8 21.1	20 52.6	7 18.4
カ	男女共同参画センター	回答数 %	38 100.0	0 0.0	3 7.9	8 21.1	22 57.9	5 13.2
キ	母子家庭等就業・自立支援センター	回答数 %	38 100.0	2 5.3	3 7.9	7 18.4	22 57.9	4 10.5
ク	その他の公的な相談窓口	回答数 %	38 100.0	1 2.6	1 2.6	11 28.9	20 52.6	5 13.2
ケ	民間の専門家や相談窓口 (子ども食堂、支援団体など)	回答数 %	38 100.0	3 7.9	0 0.0	11 28.9	19 50.0	5 13.2
コ	その他	回答数 %	38 100.0	0 0.0				38 100.0

問29: 次の相談窓口で知っているものはありますか。(複数回答)

		回答数	%
全体		1,649	100.0
1	仙台市各区保健福祉センター (家庭健康課・保護課など)	734	44.5
2	エル・ソーラ仙台女性相談	311	18.9
3	仙台市母子家庭相談支援センター	348	21.1
4	仙台市配偶者暴力相談支援センター	118	7.2
5	仙台市「女性への暴力相談電話」	161	9.8
6	仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく」	723	43.8
7	けやきホットライン (性暴力被害相談支援センター宮城)	198	12.0
8	仙台市精神保健福祉総合センター 「はあとぽーと仙台」	141	8.6
9	仙台市消費生活センター	443	26.9
10	仙台市生活自立・仕事相談センター 「わんすてっぷ」	65	3.9
11	よりそいホットライン (一般社団法人社会的包摂サポートセンター)	93	5.6
12	内閣府性暴力に関するSNS相談 「Cure Time(キュアタイム)」	9	0.5
13	知っているものはない	433	26.3
	無回答	16	1.0

問30: 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。
(3つまで)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 困難な状況に気づいてくれる人の存在	824	50.0
2 安心できる居場所	884	53.6
3 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること	505	30.6
4 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること	367	22.3
5 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート	314	19.0
6 経済的な自立	692	42.0
7 経済的な自立に必要なスキルや資格	359	21.8
8 いざという時に自分で自由に使えるお金	526	31.9
9 その他	24	1.5
10 必要なことはない	6	0.4
11 わからない	22	1.3
無回答	47	2.9

問31: DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあるといいと思いますか。(3つまで)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 数時間程度安心して過ごせる場所	176	10.7
2 一時的に(数日)泊まれる場所	815	49.4
3 無料・低額で食事の提供	454	27.5
4 なんでも相談できる場所や人	722	43.8
5 同じ悩みを持つ人たちと出会える場所	496	30.1
6 一晩程度を過ごせるお金の援助	98	5.9
7 住まいに関する支援	741	44.9
8 就業など自立に向けた支援	828	50.2
9 その他	34	2.1
10 必要なことはない	1	0.1
11 わからない	44	2.7
無回答	32	1.9

問32: もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。
(複数回答)

	回答数	%
全体	1,649	100.0
1 電話	670	40.6
2 メール	696	42.2
3 SNS(LINE、Twitter、Instagram等)	776	47.1
4 学校(対面)	61	3.7
5 支援機関(対面)	581	35.2
6 自宅に訪問してもらう(対面)	164	9.9
7 気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)	855	51.8
8 その他	15	0.9
9 相談したり支援を受けたりしたいと思わない	30	1.8
10 わからない	51	3.1
無回答	6	0.4

仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート

18歳
～
39歳

最大設問数 **33** 問 **11** ページ / 所要時間 **10** ～ **20** 分

以下のどちらか 1 つの方法でご回答ください。回答は 1 回限りです。

回答方法 1 郵 送

アンケート用紙にご記入の上、同封の返信用封筒に入れて、ご投函ください。切手は不要です。

回答方法 2 インターネット

①スマートフォン、パソコン、タブレットから右の二次元コードを読み取るか、以下の URL を入力して WEB フォームにアクセスしてください。

URL <https://survey2022.fmq.jp/Q/auto/ja/sendai2/women/>



②別紙「インターネット回答のご案内」に記載している ID とパスワードを入力し、回答を開始してください。

*インターネットで回答した方は、アンケート用紙を郵送する必要はありません。

回答期限 2022 年 10 月 7 日 (金)

回答にあたってのお願い

- ご回答は必ず、封筒の宛名のご本人様をお願いします。
- あなた自身の考えやできごとについてお答えください。
- 質問の答えとして、あてはまる番号に○をつけてください（インターネットで回答する場合は、あてはまる番号を選択してください）。
- 答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選んでください。
- 答えが「その他」の場合は、() 内に具体的な内容をお書きください。

個人情報保護について

- このアンケートにお名前を記入する必要はありません。回答は平均やパーセントの形で集計して処理するため、個人が特定されることはありません。
- インターネット回答用の ID とパスワードで個人が特定されることはありません。
- みなさんの個人情報やプライバシーは守られますので、安心してご回答ください。

〈問い合わせ〉 仙台市 市民局 市民活躍推進部 男女共同参画課

電話：022-214-6143（受付時間：平日 9:00～17:00） メール：sim004180@city.sendai.jp

調査主体／仙台市、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

はじめに、あなたのことについて、うかがいます。

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(数字をお書きください)

歳 ※2022年4月2日時点の年齢をお書きください。

問2 現在、あなたと一緒に住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。
(数字をお書きください)

あなたを含めて

人 ※一人暮らしの方は「1」と記入し、問3へお進みください。

【問2で「2人以上」と回答した方だけお答えください】

問2-1

あなたが現在、一緒に住んでいる方はどなたですか。(〇はいくつでも)

- 1 父 2 母 3 きょうだい 4 祖父 5 祖母
6 配偶者 7 配偶者の父 8 配偶者の母 9 子ども
10 その他 (具体的に記入してください)

《再び、全員がお答えください》

問3 あなたは現在、結婚(事実婚を含む)をしていますか。(〇は1つ)

- 1 結婚していない 2 結婚している 3 結婚したが、離婚した 4 結婚したが、死別した

問4 あなたの現在の働き方をお答えください。(〇は1つ)

- 1 正社員(常時雇用されている一般従業者) 2 臨時雇用・パート・アルバイト 3 派遣社員
4 契約社員・嘱託 5 会社経営者・役員 6 自営業主・自由業者(フリーランス)
7 家族従業者(農家や商店などで家業を手伝っている) 8 内職
9 無職・家事専業(仕事を探している)
10 無職・家事専業(仕事を探していない)
11 学生
12 その他 ()

→次ページの問5へ

【問4で「1」～「8」を選んだ方だけお答えください】

問4-1

お勤め先の(1)業種(事業内容)と、(2)あなたの仕事の内容をお答えください。
(〇はそれぞれ1つ)

問4-1(1) 業種(お勤め先の事業内容)

- 1 農林漁業・鉱業 2 建設業
3 製造業 4 電気・ガス・水道業
5 情報通信業 6 運輸・郵便業
7 卸売・小売業 8 金融・保険業
9 サービス業(飲食・宿泊・娯楽など)
10 教育・医療・福祉・公務
11 その他 ()

問4-1(2) あなたの仕事の内容

- 1 専門職(教員、医師、看護師、システムエンジニアなど)
2 管理職(課長相当以上の役職)
3 事務職(一般事務、経理事務、営業事務など)
4 販売・営業・サービス系の仕事
5 技能・作業系の仕事(工場労働者、建設作業員、運転手など)
6 農林漁業の仕事
7 その他 ()

問 11 昨年 1 年間にあなた自身がお仕事で得た収入（税込）はどれに近いですか。各種手当、賞与・ボーナスなども含めてお答えください。（○は 1 つ）
 ※臨時収入、年金、給付金、家賃収入、配当金、仕送り、奨学金などは含みません。
 ※世帯収入ではなく、あなた自身の年収をお答えください。
 ※一人暮らしの方で、仕事で得た収入のみで生活している場合は、問 10 と同じ額をお答えください。

- 1 仕事で得た収入はなかった 2 50 万円未満 3 50～100 万円未満
 4 100～150 万円未満 5 150～200 万円未満 6 200～300 万円未満
 7 300～500 万円未満 8 500～800 万円未満 9 800～1000 万円未満
 10 1000 万円以上 11 わからない

ここからは、あなたの心の状態や人間関係について、うかがいます。

問 12 次のようなことについて、あなた自身にどれくらいあてはまりますか。
 (ア)～(カ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ 1 つ）

	そう思う	そいど うえち 思ばら うか と	そいど うえち 思ばら わな いと	そう 思わ ない
(ア)だいたいにおいて、自分に満足している	1	2	3	4
(イ)困った時は人に助けを求めてもいい	1	2	3	4
(ウ)自分のことは自分が決めていいと思う	1	2	3	4
(エ)なんとなく、生きづらさを感じる	1	2	3	4
(オ)交際相手や結婚相手は、自分以上の収入があるべきだ	1	2	3	4
(カ)家事や育児は女性である私の仕事だと思う	1	2	3	4

問 13 過去 1 か月の間、次のようなことがどれくらいの頻度でありましたか。
 (ア)～(カ)のそれぞれについて、お答えください。（○はそれぞれ 1 つ）

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
(ア)神経過敏に感じた（ちょっとしたことでも気になる）	1	2	3	4	5
(イ)絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
(ウ)そわそわしたり、落ち着きがなく感じた	1	2	3	4	5
(エ)気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
(オ)何をするのも骨折りだ（面倒くさい）と感じた	1	2	3	4	5
(カ)自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問 14 あなたが大変な時や重大な決断をする時に、味方になってくれる人はいますか。
(○はいくつでも)

- 1 家族 2 友人 3 交際相手 4 学校の先生
5 職場やアルバイト先の人 6 支援機関の人 7 SNSやインターネット上の友人
8 その他 () 9 味方になってくれる人はいない

問 15 あなたが安心できる場所、ほっとできる場所がありますか。(○はいくつでも)

- 1 自分の部屋 2 家庭(家族や親戚の家を含む)
3 学校(卒業した学校を含む) 4 職場やアルバイト先(過去の職場を含む)
5 地域(現在住んでいる場所やそこにある施設など) 6 インターネット空間
7 その他 () 8 安心できる・ほっとできる場所はない

ここからは、これまでの出来事や体験などについて、うかがいます。

問 16 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、次のようなことはありましたか。
(○はいくつでも)

- 1 家計が苦しくなった 2 配偶者や交際相手との関係が悪化した
3 孤立感・孤独感が増した 4 メンタルヘルスが悪化した(うつ、気分の落ち込みなど)
5 職場でのストレスが増えた 6 家事・育児・介護の負担が増えた
7 希望する進学先や就職先を選べなかった 8 解雇・雇い止めにあった
9 シフトや労働時間の減少により、収入が減った 10 感染を恐れて、自ら仕事を辞めた
11 結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた
12 その他 ()
13 特になかった

問 17 東日本大震災の発災当時(2011年3月11日)、どこに住んでいましたか。(○は1つ)

- 1 仙台市内 2 宮城県内(仙台市以外) 3 岩手県内
4 福島県内 5 1~4以外の地域

問 18 東日本大震災の影響により、次のようなことはありましたか。(○はいくつでも)

- 1 家族や友人など身近な人が亡くなった 2 自宅に住めなくなった
3 転居・転校 4 家計が苦しくなった 5 配偶者や交際相手との関係が悪化した
6 孤立感・孤独感が増した 7 メンタルヘルスが悪化した(うつ、気分の落ち込みなど)
8 家事・育児・介護の負担が増えた 9 仕事を失った
10 進学をあきらめた・希望する進学先を選べなかった 11 希望する就職先を選べなかった
12 結婚や出産などのライフプランの変更を迫られた
13 避難生活でセクシュアルハラスメントや性的な被害を受けた
14 その他 ()
15 特になかった

【問 28-3 で「2 相談しなかった」を選んだ方だけお答えください】

問 28-5 誰にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

- 1 誰に相談したらよいかわからなかった
- 2 相談しても無駄だと思った
- 3 相談していいことだと思わなかった
- 4 相談することを思いつかなかった
- 5 その他 ()

【問 28 で「1 望まない妊娠からの出産をしたことがある」を選んだ方だけお答えください】

問 28-6 出産後、次のような相談窓口や支援を利用したことがありますか。
(ア)～(コ)のそれぞれについて、お答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	利用した	利用しなかったが、知っていた	知らなかった	利用する必要がなかった
(ア) 福祉事務所・保健所	1	2	3	4
(イ) 乳児院・児童養護施設	1	2	3	4
(ウ) 児童相談所	1	2	3	4
(エ) 公的な子育て支援窓口	1	2	3	4
(オ) 公的な貸付・融資制度	1	2	3	4
(カ) 男女共同参画センター	1	2	3	4
(キ) 母子家庭等就業・自立支援センター	1	2	3	4
(ク) その他の公的な相談窓口	1	2	3	4
(ケ) 民間の専門家や相談窓口 (子ども食堂、支援団体など)	1	2	3	4
(コ) その他 ()	1			

最後に、女性に対するサポートなどについて、あなたの考えをうかがいます。

《再び、全員がお答えください》

問 29 次の相談窓口で知っているものはありますか。(〇はいくつでも)

- 1 仙台市各区保健福祉センター (家庭健康課・保護課など)
- 2 エル・ソーラ仙台女性相談
- 3 仙台市母子家庭相談支援センター
- 4 仙台市配偶者暴力相談支援センター
- 5 仙台市「女性への暴力相談電話」
- 6 仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく」
- 7 けやきホットライン (性暴力被害相談支援センター宮城)
- 8 仙台市精神保健福祉総合センター「はあとぼーと仙台」
- 9 仙台市消費生活センター
- 10 仙台市生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」
- 11 よりそいホットライン (一般社団法人社会的包摂サポートセンター)
- 12 内閣府性暴力に関する SNS 相談「Cure Time (キュアタイム)」
- 13 知っているものはない

問 30 女性が困難な状況から回復するためには、どんなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1 困難な状況に気づいてくれる人の存在 | 2 安心できる居場所 |
| 3 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること | |
| 4 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること | |
| 5 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート | |
| 6 経済的な自立 | 7 経済的な自立に必要なスキルや資格 |
| 8 いざという時に自分で自由に使えるお金 | 9 その他 () |
| 10 必要なことはない | 11 わからない |

問 31 DV や虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちに、どんなサポートがあると
いいと思いますか。(特に必要だと思うものを3つまで○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 数時間程度安心して過ごせる場所 | 2 一時的に(数日)泊まれる場所 |
| 3 無料・低額で食事の提供 | 4 なんでも相談できる場所や人 |
| 5 同じ悩みを持つ人たちと出会える場所 | 6 一晩程度を過ごせるお金の援助 |
| 7 住まいに関する支援 | 8 就業など自立に向けた支援 |
| 9 その他 () | |
| 10 必要なことはない | 11 わからない |

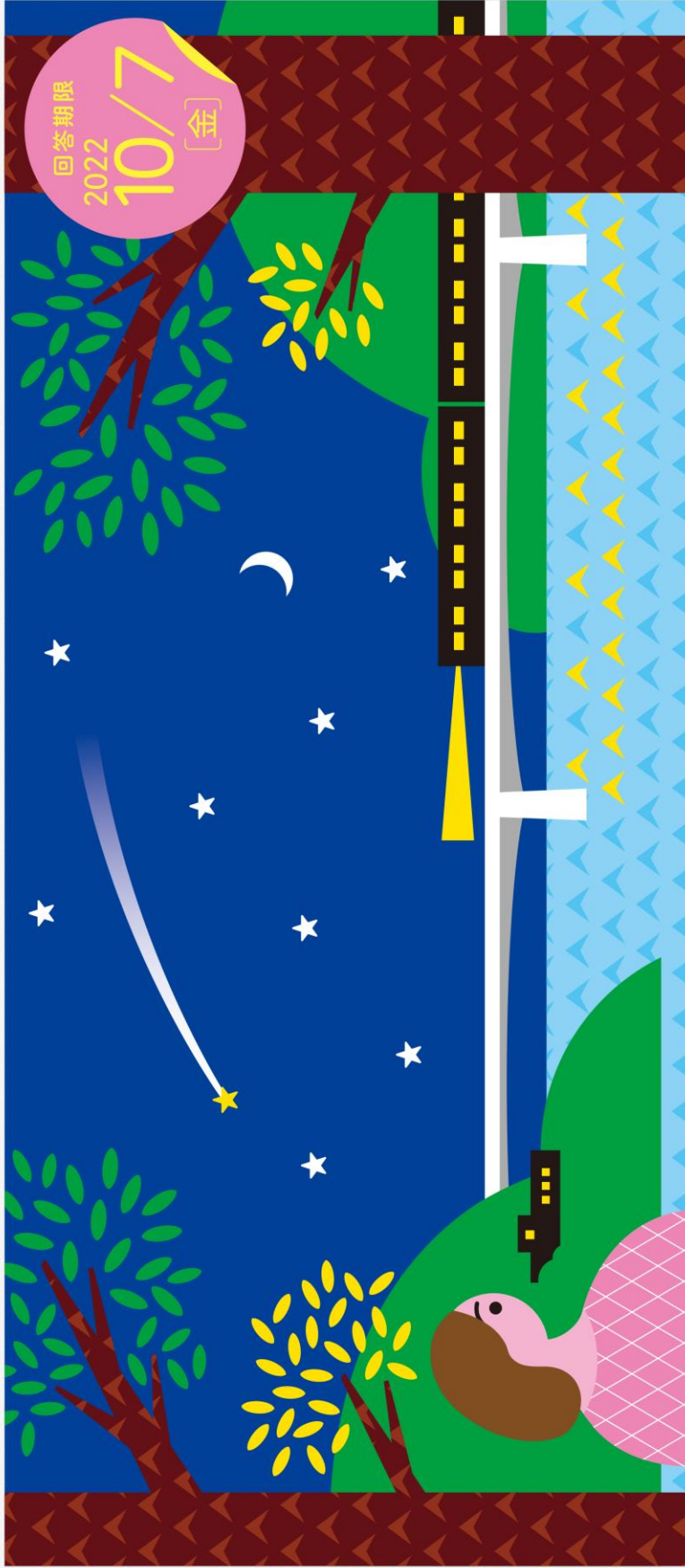
問 32 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。
(○はいくつでも)

- | | | |
|------------------------|------------|----------------------------------|
| 1 電話 | 2 メール | 3 SNS (LINE、Twitter、Instagram 等) |
| 4 学校(対面) | 5 支援機関(対面) | 6 自宅に訪問してもらう(対面) |
| 7 気軽に立ち寄れる場所で相談(対面) | 8 その他 () | |
| 9 相談したり支援を受けたりしたいと思わない | 10 わからない | |

問 33 このアンケートに関連して、ご意見や感想などがあれば自由にお書きください。

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

ご記入後のアンケート用紙は同封の返信用封筒に入れ、10月7日(金)までにご投函ください。
(切手は不要です。アンケート用紙や封筒には、お名前やご住所を記入しないでください。)



つらいことも、乗り越えた経験も、きっと誰かを支える力に

仙台市女性の暮らして 気持ちのアンケート

18歳
39歳



or

〈郵送〉または〈インターネット〉から、ご回答いただけます。
みなさんの声をお聞かせください。

私は、仙台が誰か安心して暮らす
ことのできるまちであってほしい。
困難な状況にいる方、金づらまを抱え
る方、一人ひとりに寄り添った支援が
いま必要です。ぜひ、あなただけのお声
をお聞かせください。ご力をお願い
いたします。



仙台市長 高野和子

仙台市女性の暮らしと 気持ちのアンケート

18歳
～
39歳

回答期限
2022
10/7
[金]



仙台市にお住まいの18歳から39歳の女性（2022年4月2日時点）を対象に、暮らしの状況や困りごと、新型コロナウイルス感染症の影響や必要なサポートなどについてお聞きします。みなさんの声を参考に、仙台市として、困りごとを抱える若い女性の方への支援について考えます。

アンケートについてQ&A

Q なぜ私に送られてきたのですか？

A 仙台市の住民基本台帳から、5,000人を無作為（ランダム）に選び、お送りしています。

Q 他の人が代わりに答えてもよいですか？

A ご回答は必ず、封筒の宛名のご本人様をお願いします。

Q 回答から個人が特定されませんか？

A 特定できません。アンケートは無記名で、みなさんの名前や住所に関する情報は含まれていません。また、インターネット回答用のIDとパスワードで個人が特定されることはありません。回答は平均やパーセントの形で集計して公表します。

アンケート回答方法

郵送、インターネットのどちらかの方法でご回答ください。回答は1回限りです。

郵送の場合

step 1

アンケートを
記入する



step 2

同封の返信用
封筒に入れる



step 3

ポストに投函
※切手は不要

インターネットの
場合

step 1



左の二次元コードを
読み取るか
下記URLを入力



step 2



専用フォームに別紙のIDと
パスワードを入力し、回答

URL ⇨ <https://survey2022.fmq.jp/Q/auto/ja/sendai2/women/>

回答にあたってのお願い

- あなた自身の考えやできごとについてお答えください。
- 質問の答えとして、あてはまる番号を選んでください。
- 答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選んでください。
- 答えが「その他」の場合は、（ ）内に具体的な内容をお書きください。
- アンケートへのご協力は任意です。

回答していて苦しくなったり、誰かに話したくなったりした時は、同封している「女子のための『もやもや』した時の相談先」リーフレットの相談窓口にご相談ください。

問い合わせ

仙台市 市民局 市民活躍推進部 男女共同参画課

☎ 022-214-6143（受付時間：平日9:00～17:00） ✉ sim004180@city.sendai.jp



インターネット回答のご案内



「仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート」は、スマートフォン、パソコン、タブレットから、インターネットでの回答もできます。

回答期限 2022年10月7日(金)

- ✓ ご回答は必ず、封筒の宛名のご本人様にお願いします。
- ✓ ID・パスワードは第三者に伝えないなど、取り扱いには十分にご注意ください。

回答方法

1 専用フォームにアクセスしてください。

URL

二次元コード



2 下記のIDとパスワードを入力し、回答を開始してください。

ID	
パスワード	

*この用紙を封筒に封入・密封後、ご住所・お名前のラベルを順不同で貼付しているため、どなたにどのID・パスワードが送付されたかはわからない仕組みになっています。みなさんの個人情報やプライバシーは守られますので、安心してご回答ください。

回答はお一人につき、1回限りです。
インターネットで回答した方は、アンケート用紙を郵送する必要はありません。

女子のための「もやもや」した時の相談先

若年女性の悩みに応じる様々な相談窓口情報を掲載したリーフレットをアンケート調査票に同封した（画像は同封時のもの）。2023年3月には、相談窓口情報をウェブでも閲覧できるよう、ポータルサイトを開設した。

◆ポータルサイトはこちら <https://www.sendai-l.jp/moyary/>



あなたの「もやもや」は、どんなこと？

こころの悩 「なんだか落ち込む」 1 2 「生きるのが辛い」 3 20 「無性にイライラ」 3 20	からだのこと 「妊娠したかも…」 4 21 「生理のこと」 5 16 21 「性感染症のこと」 5 16 21 「自分の体に違和感がある」 3 7	お金・住まいの不安 「生活が苦しい」 8 「自分や周囲の借金を払っている」 9 「借金があったかも」 10 「家を売りたいけど行くところが無い」 25
学校のこと 「友達や部活のこと」 3 11 12 「これっていじめ？」 13 14 15 「学校に行きたくない」 20	どこに相談すれば迷った? 31 エル・ソラ仙台 女性相談(アエル29階) このリーフレットの上開きページにて 022-268-8302 仙台市宮城野区アエル29-100 (平日・休日も受付)	家庭のこと 「子育てがうまくいかない」 11 12 20 「21 22 23」 「DVをうけているかも」 3 14 21 「24 25 26」
仕事のこと 「セクハラやパワハラで辛い」 13 31 「収入が足りないかも」 5 12 16 「自分の向いている仕事を探したい」 4 15 16	人間関係 「恋人やパートナーのこと」 3 24 31 「SNSで知り合った人と…」 「居場所がない」 14 16 「人づきあいが苦手」	性暴力にあったり あなたは何も悪くありません。これからのこと、一緒に考えようがあります。一人で抱えなくていい。

困ったときはここへ

1 仙台市精神保健福祉総合センターはあとばーと仙台 はあとライン 022-265-2229 / ナイトライン 022-217-2279 2 仙台いのちの電話 022-718-4343 3 よりそいホットライン 0120-279-226 4 NPO法人キミノナリ 電話・メール・LINE相談 5 村口さよ女性クリニック メール相談 6 仙台市女性医療相談 受付専用電話 090-7075-2525 (宮城県女医会) 7 性と人権ネットワークESTO 電話・メール相談 facebook ※対象: 性的マイノリティの方 8 仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてつぷ 022-395-8865 9 みやぎ青葉の会 相談受付電話 022-711-6225 10 仙台市消費生活センター 022-268-7867 11 仙台市子供相談支援センター ヤングテレホン相談 0120-783-017 ※対象: 小学校高学年からおむね20歳の本人や保護者の方 子育て何でも電話相談 022-216-1152 ※対象: 保護者や小学校教員の子どもがいる保護者の方 12 仙台市いじめ等相談支援室 S-KET 0120-303-836 13 子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ キャブネット・みやぎ 022-265-8866 14 もやもやルーム チャット相談 ※対象: 10代、20代の女性 15 あなたのいばしょ チャット相談 16 宮城労働局 雇用環境・均等室 022-299-8844 ※対象: 雇用関係にある労働者	17 宮城労働局 仙台新卒応援ハローワーク 022-726-8055 ※対象: 学生・就労第3年以内の方 18 仙台市母子家庭相談支援センター 022-212-4322 ※対象: 母子家庭の母、専業主婦を専業主婦として子育て中の女性 19 せんだい若者サポートステーション 022-385-5284 ※対象: 15歳~49歳までの仕事をしていない方 20 仙台市子育てふれあいプラザのびすく 21 仙台市各区保健福祉センター 青葉区 宮城野区 若林区 太白区 泉区 22 仙台市児童相談所 相談専用電話 022-718-2580 23 仙台市「女性への暴力相談電話」 022-268-5145 24 NPO法人ハーティ仙台 電話・メール相談 25 NPO法人はっぶすてつぷ 080-3328-3515 ※対象: おむね15歳~25歳以下、親の支援を受けられない方 26 女性のためのとまり木・リカバリートレーニングセンター [しおり] 電話・FAX 022-211-1825 27 Cure time チャット相談 28 DV相談+ (プラス) 電話・メール・チャット相談 29 宮城県警察「性犯罪被害相談電話」 電話相談#8103 30 NPO法人チャイルドラインみやぎ 022-279-7210 ※対象: おむね15歳未満の方 31 エル・ソラ仙台 女性相談 問合せ・面接予約022-268-8302 電話相談022-224-8702
---	---

※相談日時は各団体にお問い合わせください

本調査は、アンケート調査にご回答の皆さま、支援者ヒアリング・当事者ヒアリングにご協力いただいた皆さま、監修・助言をいただいた特定非営利活動法人Gender Action Platform 理事の大崎麻子様、東北学院大学の神林博史教授をはじめ、多くの方のご協力により行うことができました。心より感謝の意を表します。

仙台市 女性の暮らしと困難に関する実態調査
〈仙台市 女性の暮らしと気持ちのアンケート〉
18歳-39歳対象 報告書

発行日 2023年3月

編集・発行 仙台市 市民局 市民活躍推進部 男女共同参画課
〒980-8671
仙台市青葉区二日町1-23 二日町第四仮庁舎2階
(アーバンネット勾当台ビル)
電話：022-214-6143 メール：sim004180@city.sendai.jp

公益財団法人せんだい男女共同参画財団
〒980-6128
仙台市青葉区中央1-3-1 アエル29階
電話：022-212-1627 メール：sola3@sendai-l.jp